

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

熊の山遺跡
(中巻)

平成13年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

くまのやま
熊の山遺跡
(中巻)

平成13年3月

茨城県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

- 中 巻 -

第3章 調査の成果	9
2 4区の遺構と遺物	18
(1) 竪穴住居跡	18
② 奈良・平安時代	263
(2) 掘立柱建物跡	485
① 古墳時代	485
② 奈良・平安時代	498
(3) 鍛冶工房跡	507
(4) 柵列跡	510
(5) 溝	513
(6) 井戸跡	519
(7) 地下式墳	520
(8) 方形竪穴状遺構	526
(9) ピット群	537
(10) 土坑	538
① 陥し穴	538
② 火葬施設	539
③ 墓壇	541
④ 墓壇の可能性がある土坑	542
(11) 遺構外出土遺物	551
3 5区の遺構と遺物	557
(1) 竪穴住居跡	557
① 古墳時代	557
② 奈良・平安時代	569
(2) 掘立柱建物跡	575
① 奈良・平安時代	575
(3) 溝	577
(4) 土坑	578
(5) 遺構外出土遺物	579
4 8区の遺構と遺物	581
(1) 竪穴住居跡	581
① 古墳時代	581
② 奈良・平安時代	701

插图目次

— 中 卷 —

第300图	第1149号住居跡・出土遺物実測図 …	446	第333图	第55号掘立柱建物跡実測図(2) ………	491
第301图	第1149号住居跡出土遺物実測図 ………	447	第334图	第56号掘立柱建物跡実測図 ………	492
第302图	第1151号住居跡実測図 ……………	449	第335图	第57号掘立柱建物跡実測図 ………	494
第303图	第1151号住居跡出土遺物実測図 ………	450	第336图	第57号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……………	495
第304图	第1152号住居跡・出土遺物実測図 …	452	第337图	第130号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……………	497
第305图	第1153号住居跡・出土遺物実測図 …	453	第338图	第58号掘立柱建物跡実測図 ………	498
第306图	第1156号住居跡・出土遺物実測図 …	455	第339图	第58号掘立柱建物跡出土遺物実測図 ……………	499
第307图	第1157号住居跡・出土遺物実測図 …	456	第340图	第59号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……………	502
第308图	第1158号住居跡・出土遺物実測図 …	458	第341图	第60号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……………	504
第309图	第1158号住居跡出土遺物実測図 ………	459	第342图	第129号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……………	505
第310图	第1160号住居跡実測図 ……………	460	第343图	第1号鍛冶工房跡実測図 ……………	508
第311图	第1160号住居跡出土遺物実測図 ………	461	第344图	第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図 …	509
第312图	第1161号住居跡実測図 ……………	461	第345图	第3号柵列跡実測図 ……………	511
第313图	第1161号住居跡出土遺物実測図 ………	462	第346图	第4号柵列跡実測図 ……………	512
第314图	第1162号住居跡・出土遺物実測図 …	463	第347图	第5号柵列跡実測図 ……………	513
第315图	第1164号住居跡・出土遺物実測図 …	464	第348图	第12号溝土層断面図 ……………	514
第316图	第1167・1169号住居跡実測図 ………	465	第349图	第35A号溝土層断面図 ……………	515
第317图	第1168号住居跡実測図 ……………	466	第350图	第35A号溝出土遺物実測図 ………	516
第318图	第1168号住居跡出土遺物実測図 ………	467	第351图	第60号溝断面図 ……………	517
第319图	第1169号住居跡出土遺物実測図 ………	468	第352图	その他の溝断面図 ……………	517
第320图	第1170号住居跡・出土遺物実測図 …	469	第353图	第28号井戸跡実測図 ……………	519
第321图	第1171号住居跡実測図 ……………	471	第354图	第28号井戸跡出土遺物実測図 ………	520
第322图	第1172号住居跡・出土遺物実測図 …	473	第355图	第21号地下式壙実測図 ……………	521
第323图	第1173号住居跡実測図 ……………	474	第356图	第22号地下式壙実測図 ……………	522
第324图	第1173号住居跡出土遺物実測図 ………	475	第357图	第23号地下式壙実測図 ……………	523
第325图	第1176号住居跡・出土遺物実測図 …	476	第358图	第24号地下式壙実測図 ……………	524
第326图	第1461号住居跡実測図 ……………	477	第359图	第25号地下式壙実測図 ……………	525
第327图	第1461号住居跡出土遺物実測図 ………	478	第360图	第26号地下式壙実測図 ……………	525
第328图	第1462号住居跡実測図 ……………	479	第361图	第9号方形竪穴状遺構実測図 ………	527
第329图	第1464号住居跡・出土遺物実測図 …	480			
第330图	第53号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……………	486			
第331图	第54号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……………	488			
第332图	第55号掘立柱建物跡実測図(1) ………	490			

第362図	第10号方形竪穴状遺構実測図	528	第396図	第1459号住居跡出土遺物実測図	568
第363図	第11号方形竪穴状遺構実測図	529	第397図	第1459号住居跡実測図	569
第364図	第12号方形竪穴状遺構実測図	530	第398図	第1452・1457号住居跡実測図	570
第365図	第13号方形竪穴状遺構実測図	531	第399図	第1452号住居跡出土遺物実測図	571
第366図	第14号方形竪穴状遺構実測図	532	第400図	第1455号住居跡・出土遺物実測図	572
第367図	第15号方形竪穴状遺構実測図	533	第401図	第1460号住居跡・出土遺物実測図	574
第368図	第16号方形竪穴状遺構実測図	534	第402図	第128号掘立柱建物跡実測図	575
第369図	第17号方形竪穴状遺構実測図	535	第403図	第128号掘立柱建物跡出土遺物実測図	576
第370図	第18号方形竪穴状遺構実測図	535			
第371図	第19号方形竪穴状遺構実測図	536	第404図	第18号溝・出土遺物実測図	577
第372図	第6号ピット群出土遺物実測図	538	第405図	第91号溝実測図	578
			第406図	第1408号土坑実測図	578
第373図	第812号土坑実測図	539	第407図	第1409号土坑実測図	579
第374図	第917号土坑実測図	540	第408図	5区遺構外出土遺物実測図	579
第375図	第918号土坑実測図	540	第409図	5区遺構全体図	580
第376図	第919号土坑実測図	541	第410図	第504・508号住居跡実測図	581
第377図	第736号土坑実測図	541	第411図	第508号住居跡出土遺物実測図	582
第378図	墓壇の可能性のある土坑実測図(1)	542	第412図	第509号住居跡・出土遺物実測図	584
第379図	墓壇の可能性のある土坑実測図(2)	543	第413図	第509号住居跡出土遺物実測図	585
第380図	墓壇の可能性のある土坑・第794号土坑 出土遺物実測図	544	第414図	第919・1448号住居跡実測図, 第919号住居跡出土遺物実測図	586
第381図	第755・762・1416号土坑出土遺物実測 図	547	第415図	第926号住居跡実測図	588
第382図	4区遺構外出土遺物実測図(1)	551	第416図	第926号住居跡出土遺物実測図	589
第383図	4区遺構外出土遺物実測図(2)	552	第417図	第927号住居跡実測図	590
第384図	4区遺構外出土遺物実測図(3)	553	第418図	第927号住居跡出土遺物実測図	591
第385図	4区遺構外出土遺物実測図(4)	554	第419図	第933号住居跡・出土遺物実測図	593
第386図	第748号住居跡実測図	557	第420図	第939・943号住居跡実測図	595
第387図	第748号住居跡出土遺物実測図	558	第421図	第943号住居跡出土遺物実測図	596
第388図	第1451号住居跡実測図	559	第422図	第941・944号住居跡実測図	597
第389図	第1451号住居跡出土遺物実測図	560	第423図	第944号住居跡住居跡実測図	598
第390図	第1453・1458号住居跡実測図(1)	562	第424図	第945号住居跡実測図	599
第391図	第1453・1458号住居跡出土遺物実測 図(2)	563	第425図	第945号住居跡出土遺物実測図	600
第392図	第1453号住居跡出土遺物実測図(1)	563	第426図	第1200号住居跡実測図	601
第393図	第1453号住居跡出土遺物実測図(2)	564	第427図	第1200号住居跡出土遺物実測図(1)	602
第394図	第1454号住居跡実測図	565	第428図	第1200号住居跡出土遺物実測図(2)	603
第395図	第1458号住居跡出土遺物実測図	567	第429図	第1202号住居跡実測図	604
			第430図	第1202号住居跡出土遺物実測図	605
			第431図	第1207号住居跡・出土遺物実測図	606

第432图	第1211号住居跡実測図	609	第468图	第1423号住居跡出土遺物実測図	660
第433图	第1211号住居跡出土遺物実測図(1)	610	第469图	第1424号住居跡実測図	662
第434图	第1211号住居跡出土遺物実測図(2)	611	第470图	第1424号住居跡出土遺物実測図	663
第435图	第1211号住居跡出土遺物実測図(3)	612	第471图	第1426・1434号住居跡実測図(1)	664
第436图	第1216号住居跡・出土遺物実測図	614	第472图	第1426・1434号住居跡実測図(2)	665
第437图	第1216号住居跡出土遺物実測図	615	第473图	第1426号住居跡出土遺物実測図	667
第438图	第1219号住居跡実測図	616	第474图	第1427号住居跡実測図	669
第439图	第1219号住居跡出土遺物実測図(1)	617	第475图	第1427号住居跡出土遺物実測図	670
第440图	第1219号住居跡出土遺物実測図(2)	618	第476图	第1429号住居跡実測図	671
第441图	第1219号住居跡出土遺物実測図(3)	619	第477图	第1429号住居跡遺物出土状況図	672
第442图	第1224・1225・1230号住居跡実測図	621	第478图	第1429号住居跡出土遺物実測図(1)	673
第443图	第1224・1225・1230号住居跡実測図, 第1224号住居跡出土遺物実測図	622	第479图	第1429号住居跡出土遺物実測図(2)	674
第444图	第1224号住居跡出土遺物実測図	623	第480图	第1430号住居跡・出土遺物実測図	677
第445图	第1230号住居跡出土遺物実測図	625	第481图	第1430号住居跡出土遺物実測図	678
第446图	第1235号住居跡実測図	627	第482图	第1434号住居跡出土遺物実測図	680
第447图	第1235号住居跡出土遺物実測図	628	第483图	第1438号住居跡実測図	681
第448图	第1243号住居跡・出土遺物実測図	630	第484图	第1439号住居跡実測図	682
第449图	第1401号住居跡実測図	632	第485图	第1439号住居跡出土遺物実測図(1)	683
第450图	第1401号住居跡出土遺物実測図(1)	633	第486图	第1439号住居跡出土遺物実測図(2)	684
第451图	第1401号住居跡出土遺物実測図(2)	634	第487图	第1440号住居跡・出土遺物実測図	686
第452图	第1404号住居跡実測図	636	第488图	第1441号住居跡実測図	688
第453图	第1404号住居跡出土遺物実測図	637	第489图	第1441号住居跡出土遺物実測図	689
第454图	第1405号住居跡実測図	639	第490图	第1445A号住居跡実測図(1)	692
第455图	第1405号住居跡出土遺物実測図	640	第491图	第1445A号住居跡実測図(2)	693
第456图	第1409号住居跡・出土遺物実測図	642	第492图	第1445A号住居跡遺物出土状況・出土 遺物実測図	694
第457图	第1416号住居跡・出土遺物実測図	643	第493图	第1445A号住居跡出土遺物実測図(1)	695
第458图	第1417号住居跡実測図	645	第494图	第1445A号住居跡出土遺物実測図(2)	696
第459图	第1417号住居跡出土遺物実測図	646	第495图	第1445B号住居跡実測図	699
第460图	第1419号住居跡実測図	648	第496图	第1445B号住居跡出土遺物実測図	700
第461图	第1419号住居跡出土遺物実測図	649	第497图	第514号住居跡・出土遺物実測図	702
第462图	第1421号住居跡実測図	651	第498图	第520号住居跡実測図	703
第463图	第1421号住居跡出土遺物実測図(1)	652	第499图	第520号住居跡出土遺物実測図	704
第464图	第1421号住居跡出土遺物実測図(2)	653	第500图	第918号住居跡実測図	706
第465图	第1422号住居跡実測図	656	第501图	第918号住居跡出土遺物実測図	707
第466图	第1422号住居跡出土遺物実測図	657	第502图	第931号住居跡・出土遺物実測図	708
第467图	第1423号住居跡実測図	659			

第503图	第936号住居跡実測図	710	第541图	第1231号住居跡出土遺物実測図	761
第504图	第936号住居跡出土遺物実測図	711	第542图	第1232号住居跡実測図	762
第505图	第941号住居跡出土遺物実測図	713	第543图	第1232号住居跡出土遺物実測図	763
第506图	第1201号住居跡・出土遺物実測図	714	第544图	第1233号住居跡実測図(1)	766
第507图	第1203号住居跡・出土遺物実測図	716	第545图	第1233号住居跡実測図(2)	767
第508图	第1204・1205号住居跡実測図	718	第546图	第1233号住居跡出土遺物実測図(1)	768
第509图	第1204号住居跡出土遺物実測図	719	第547图	第1233号住居跡出土遺物実測図(2)	769
第510图	第1205号住居跡出土遺物実測図	720	第548图	第1233号住居跡出土遺物実測図(3)	770
第511图	第1208・1209号住居跡実測図	721	第549图	第1234号住居跡実測図	774
第512图	第1208号住居跡出土遺物実測図	722	第550图	第1234号住居跡出土遺物実測図	775
第513图	第1209号住居跡出土遺物実測図(1)	723	第551图	第1236号住居跡実測図(1)	778
第514图	第1209号住居跡出土遺物実測図(2)	724	第552图	第1236号住居跡実測図(2)	779
第515图	第1210号住居跡実測図	725	第553图	第1236号住居跡出土遺物実測図(1)	779
第516图	第1210号住居跡出土遺物実測図	726	第554图	第1236号住居跡出土遺物実測図(2)	780
第517图	第1212号住居跡・出土遺物実測図	727	第555图	第1237号住居跡・出土遺物実測図	783
第518图	第1213号住居跡・出土遺物実測図	729	第556图	第1238号住居跡・出土遺物実測図	785
第519图	第1214号住居跡実測図	731	第557图	第1238号住居跡出土遺物実測図	786
第520图	第1214号住居跡出土遺物実測図	732	第558图	第1239号住居跡実測図	788
第521图	第1215号住居跡・出土遺物実測図	733	第559图	第1239号住居跡出土遺物実測図(1)	789
第522图	第1217・1218号住居跡実測図	735	第560图	第1239号住居跡出土遺物実測図(2)	790
第523图	第1218号住居跡出土遺物実測図	736	第561图	第1241号住居跡実測図	793
第524图	第1220号住居跡実測図	737	第562图	第1241号住居跡出土遺物実測図(1)	794
第525图	第1220号住居跡出土遺物実測図(1)	738	第563图	第1241号住居跡出土遺物実測図(2)	795
第526图	第1220号住居跡出土遺物実測図(2)	739	第564图	第1241号住居跡出土遺物実測図(3)	796
第527图	第1221号住居跡実測図	741	第565图	第1242号住居跡実測図	798
第528图	第1221号住居跡出土遺物実測図	742	第566图	第1242号住居跡出土遺物実測図	799
第529图	第1222号住居跡実測図	744	第567图	第1408号住居跡実測図	801
第530图	第1222号住居跡出土遺物実測図	745	第568图	第1408号住居跡出土遺物実測図	802
第531图	第1223号住居跡実測図	747	第569图	第1410号住居跡実測図	804
第532图	第1223号住居跡出土遺物実測図	748	第570图	第1410号住居跡出土遺物実測図	805
第533图	第1225号住居跡出土遺物実測図	750	第571图	第1411号住居跡・出土遺物実測図	807
第534图	第1226号住居跡・出土遺物実測図	752	第572图	第1412号住居跡実測図	809
第535图	第1226号住居跡出土遺物実測図	753	第573图	第1412号住居跡出土遺物実測図	810
第536图	第1227号住居跡実測図	755	第574图	第1413号住居跡実測図	812
第537图	第1227号住居跡出土遺物実測図	756	第575图	第1413号住居跡出土遺物実測図	813
第538图	第1228号住居跡実測図	758	第576图	第1414号住居跡実測図	815
第539图	第1228号住居跡出土遺物実測図	759	第577图	第1414号住居跡出土遺物実測図	816
第540图	第1231号住居跡実測図	760	第578图	第1415号住居跡実測図	818

第579图	第1415号住居跡出土遺物実測図 ……	819	第588图	第1428号住居跡・出土遺物実測図 …	832
第580图	第1420号住居跡実測図 ……………	820	第589图	第1428号住居跡出土遺物実測図 ……	833
第581图	第1420号住居跡出土遺物実測図 ……	821	第590图	第1431号住居跡実測図 ……………	836
第582图	第1425A・B号住居跡実測図 ……	824	第591图	第1431号住居跡出土遺物実測図 ……	837
第583图	第1425A・B号住居跡遺物出土状況図 ……………	825	第592图	第1432号住居跡実測図 ……………	839
第584图	第1425A号住居跡出土遺物実測図(1) ……………	825	第593图	第1432号住居跡出土遺物実測図 ……	840
第585图	第1425A号住居跡出土遺物実測図(2) ……………	826	第594图	第1442号住居跡実測図 ……………	843
第586图	第1425B号住居跡出土遺物実測図 …	829	第595图	第1442号住居跡出土遺物実測図(1) …	844
第587图	第1428号住居跡実測図 ……………	831	第596图	第1442号住居跡出土遺物実測図(2) …	845
			第597图	第1443号住居跡・出土遺物実測図 …	848
			第598图	第1447号住居跡・出土遺物実測図 …	850

表 目 次

- 中 卷 -

表 3	4区住居跡一覽表 ……………	481	表 8	4区土坑一覽表 ……………	548
表 4	4区掘立柱建物跡一覽表 ……………	506	表 9	5区住居跡一覽表 ……………	579
表 5	4区溝一覽表 ……………	518	表10	5区溝一覽表 ……………	580
表 6	4区地下式墳一覽表 ……………	526	表11	5区土坑一覽表 ……………	580
表 7	4区方形竪穴状遺構一覽表 ……………	536			

第1149号住居跡（第300・301図）

位置 調査4区の北部，H10j8区。

重複関係 北西部で第1147号住居跡を掘り込んでいる。南東部を第1160号住居・第1415号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.20m，短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は40～78cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈部分を除き，壁際を巡っている。上幅12～18cm，下幅4～6cm，深さ2～8cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の東寄りを壁外に42cm掘り込んで，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，両袖部幅98cmである。火床面は，わずかに掘りくぼめられて，浅い皿状を呈しており，上面から灰が検出されている。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。袖部の内側及び火床面は，火熱を受けて，赤変している。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック微量
- 6 灰赤色 灰多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・砂粒微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

ピット 1か所。P1は，径23cmの円形，深さ11cmである。南壁東寄りの壁際に位置し，竈と対する位置にあることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

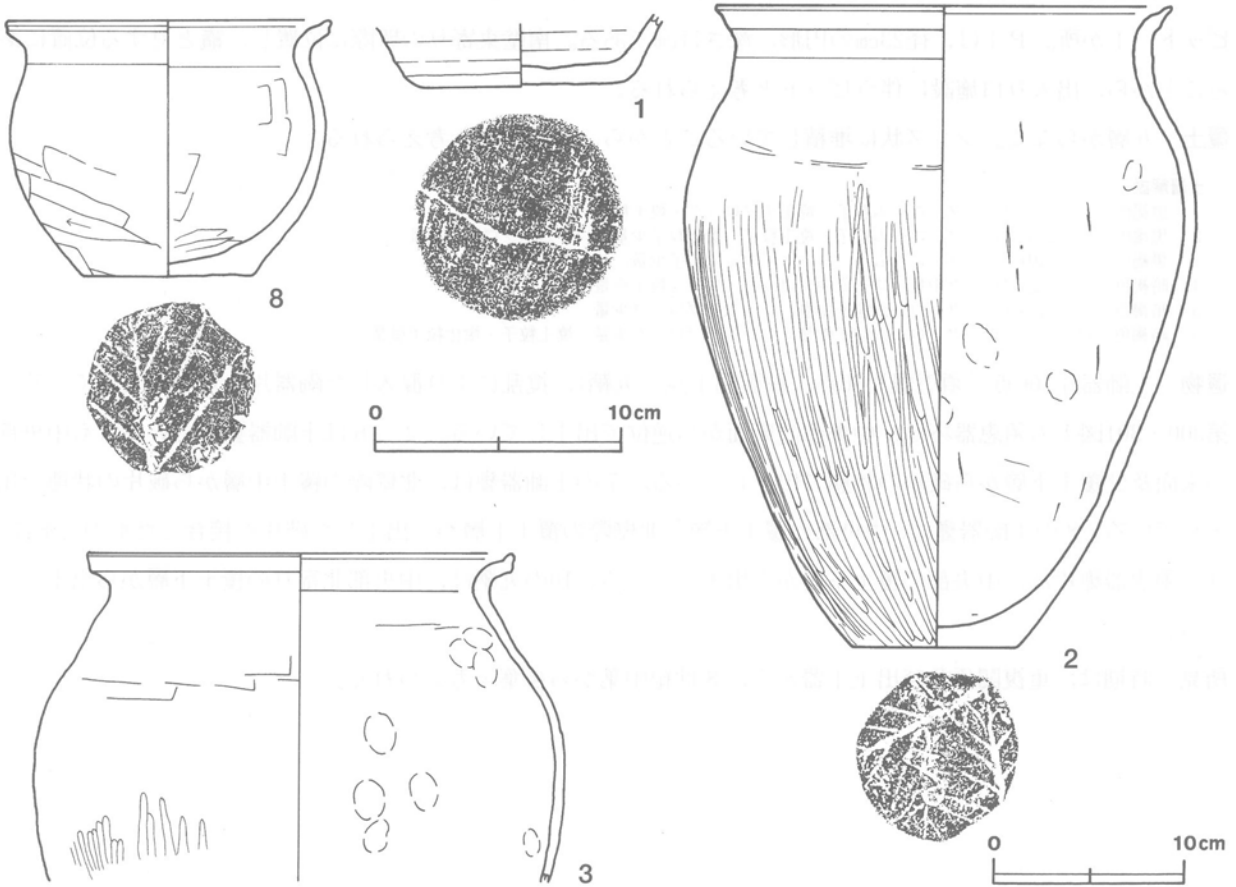
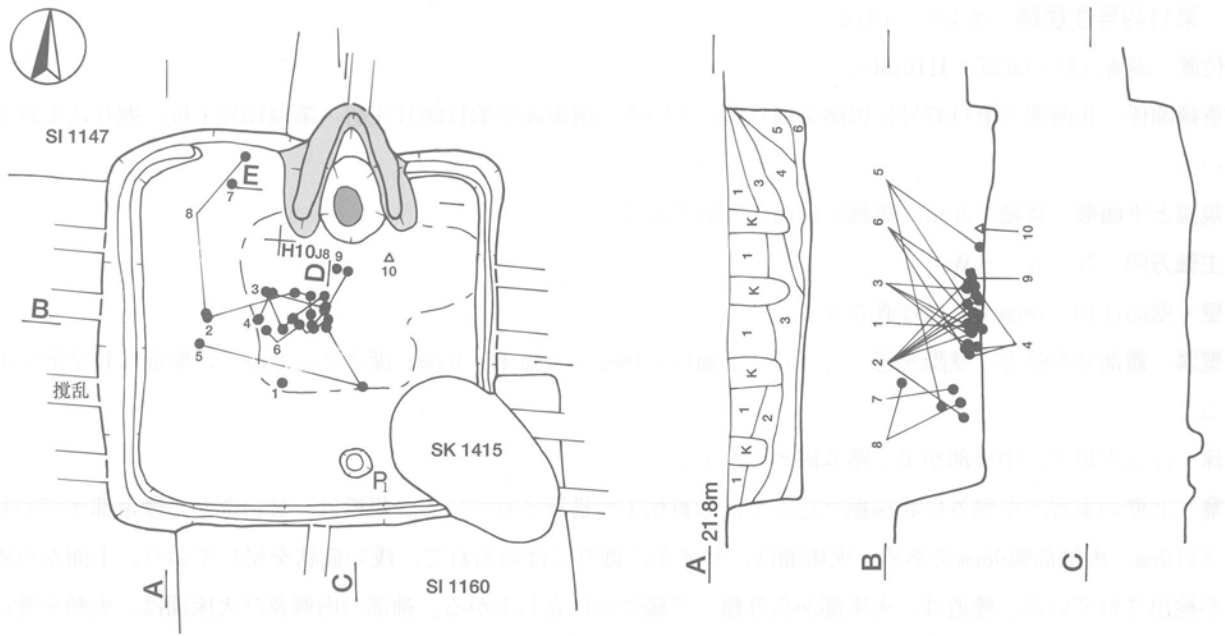
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

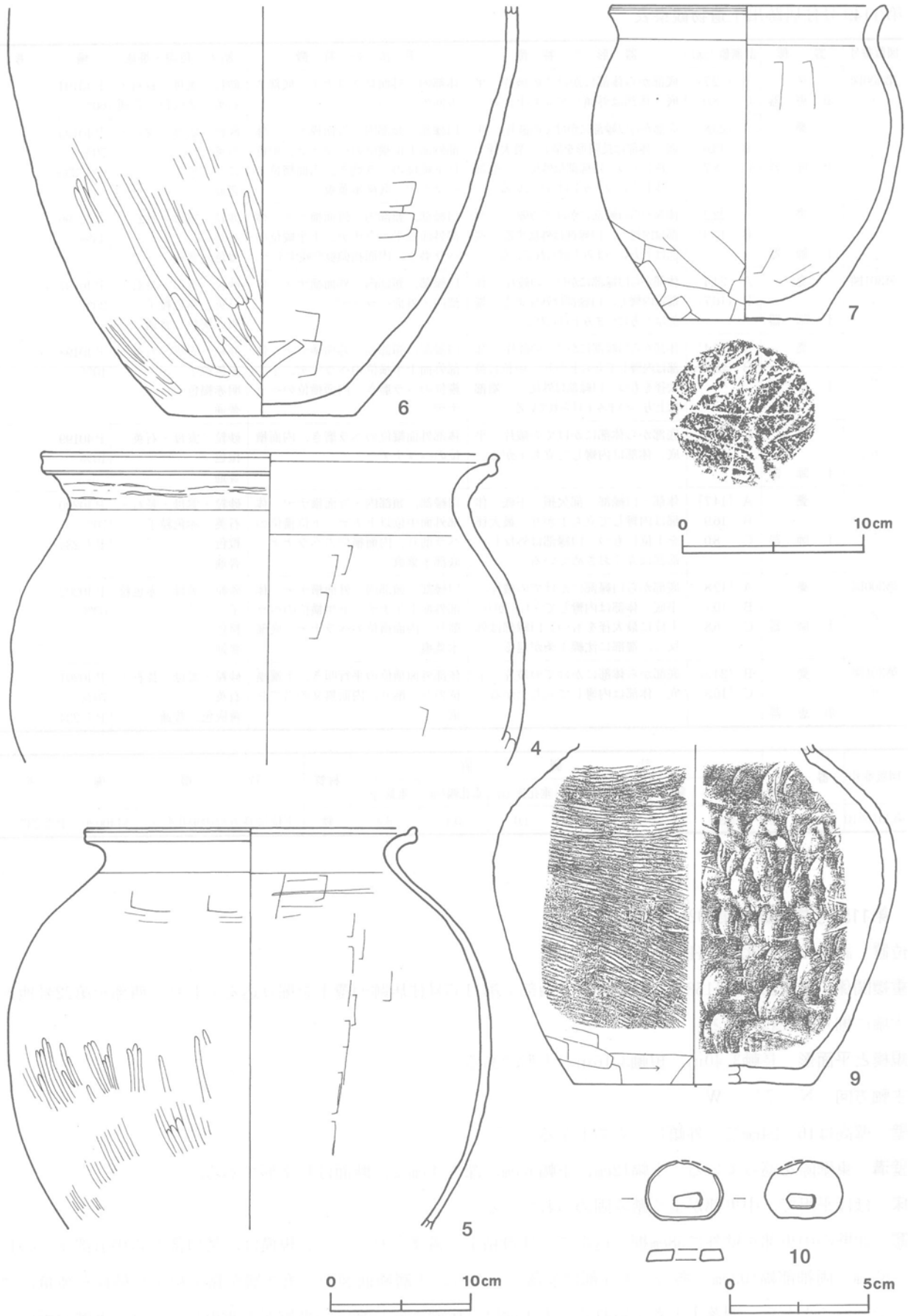
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片366点，須恵器片66点，鉄製品1点（丸軋），攪乱により混入した陶器片3点が出土している。第300・301図1の須恵器坏は，中央部の床面から逆位で出土している。2～6は土師器甕で，いずれも中央部の床面及び覆土下層から破片の状態で出土している。7の土師器甕は，北壁際の覆土中層から破片の状態で出土している。8の土師器甕は，中央部の覆土下層と北壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。9の須恵器甕片は，中央部の覆土下層から出土している。10の丸軋は，中央部北寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は，重複関係及び出土土器から，8世紀中葉から後葉と考えられる。



第300图 第1149号住居跡・出土遺物実測図



第301图 第1149号住居跡出土遺物実測図

第 1149 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第300図 1	坏 須恵器	B (2.7) C 8.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 40194 60%
2	甕 土師器	A [23.8] B 33.6 C 8.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は長胴形を呈し、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上位横位のヘラナデ、中位以下縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 40195 70% P L 235
3	甕 土師器	A 22.2 B (17.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ、下半縦位のヘラ磨き、内面指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色、普通	P 40196 35%
第301図 4	甕 土師器	A 24.4 B (16.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 40197 20%
5	甕 土師器	A [23.4] B (28.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半横位のヘラナデ、下半縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P 40198 10%
6	甕 土師器	B (22.0) C 10.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 40199 10%
7	甕 土師器	A [14.7] B 16.9 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、端部は丸くおさめている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ、下位横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P 40200 70% P L 234
第300図 8	甕 土師器	A [12.8] B 10.1 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、上位に最大径をもつ。口縁部は外反し、端部に沈線1条が巡る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ、下半横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	P 40202 60%
第301図 9	甕 須恵器	B (24.5) C [16.8]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き、下端横位のヘラ削り、内面無文の当て具痕。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 40201 70% P L 234

図版番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	垂孔長 (cm)	垂孔幅 (cm)			
第301図10	丸 鞆	2.8	2.1	0.4	1.0	0.4	6.2	鉄	下位に長方形の垂孔有り。M40026 P L 237

第1151号住居跡 (第302・303図)

位置 調査4区の北部、H10j0区。

重複関係 北東部で第1153号住居跡を、北西部で第1155号住居跡の覆土を掘り込んでおり、西部を第22号地下式墳に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.40m、短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N - 7° - W

壁 壁高は16~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁際を巡っている。上幅12cm、下幅6cm、深さ4cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に58cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ83cm、両袖部幅103cmである。天井部は崩落しており、土層断面図中、第2層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから、崩落土と考えられる。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、炭化粒子・砂粒微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子・砂粒中量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット 1か所。P1は、径24cmの円形、深さ23cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

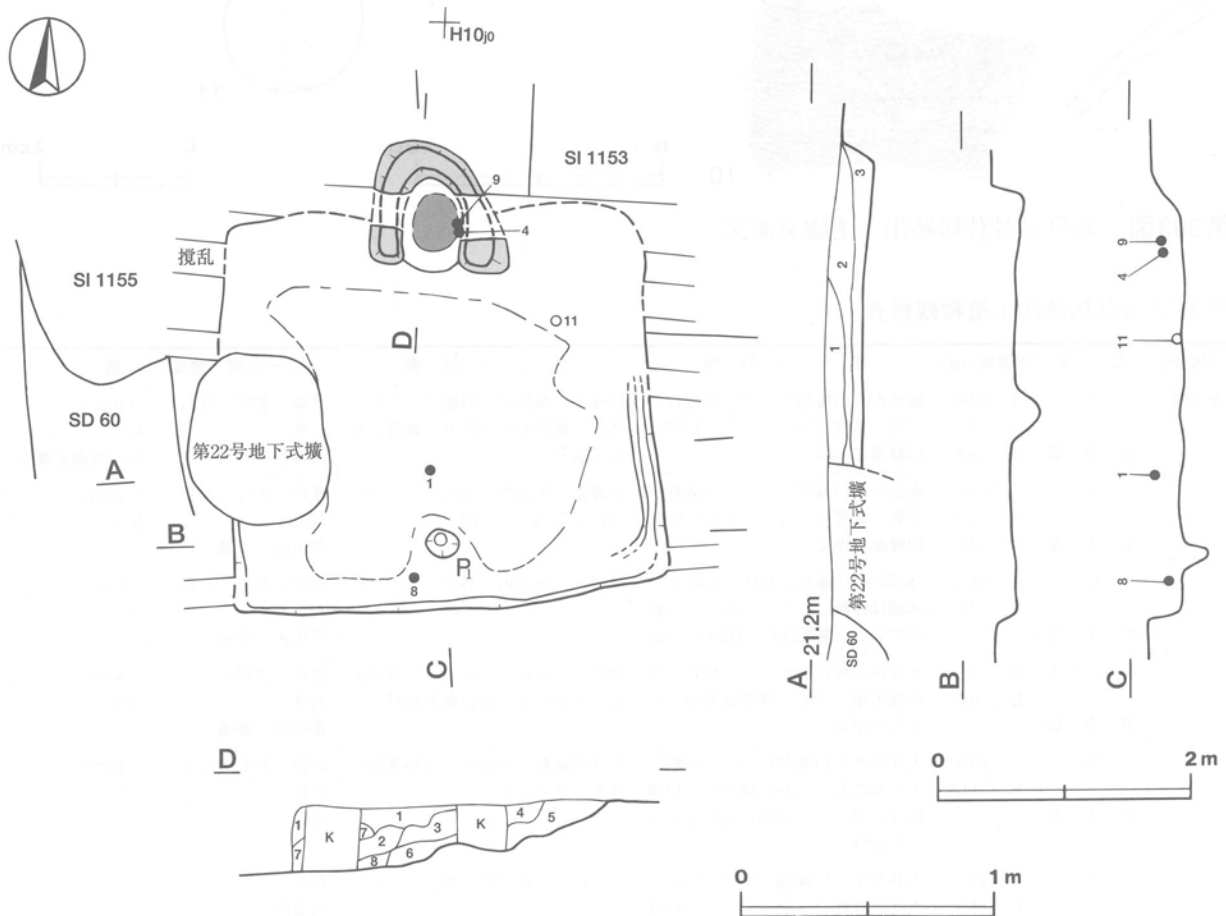
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

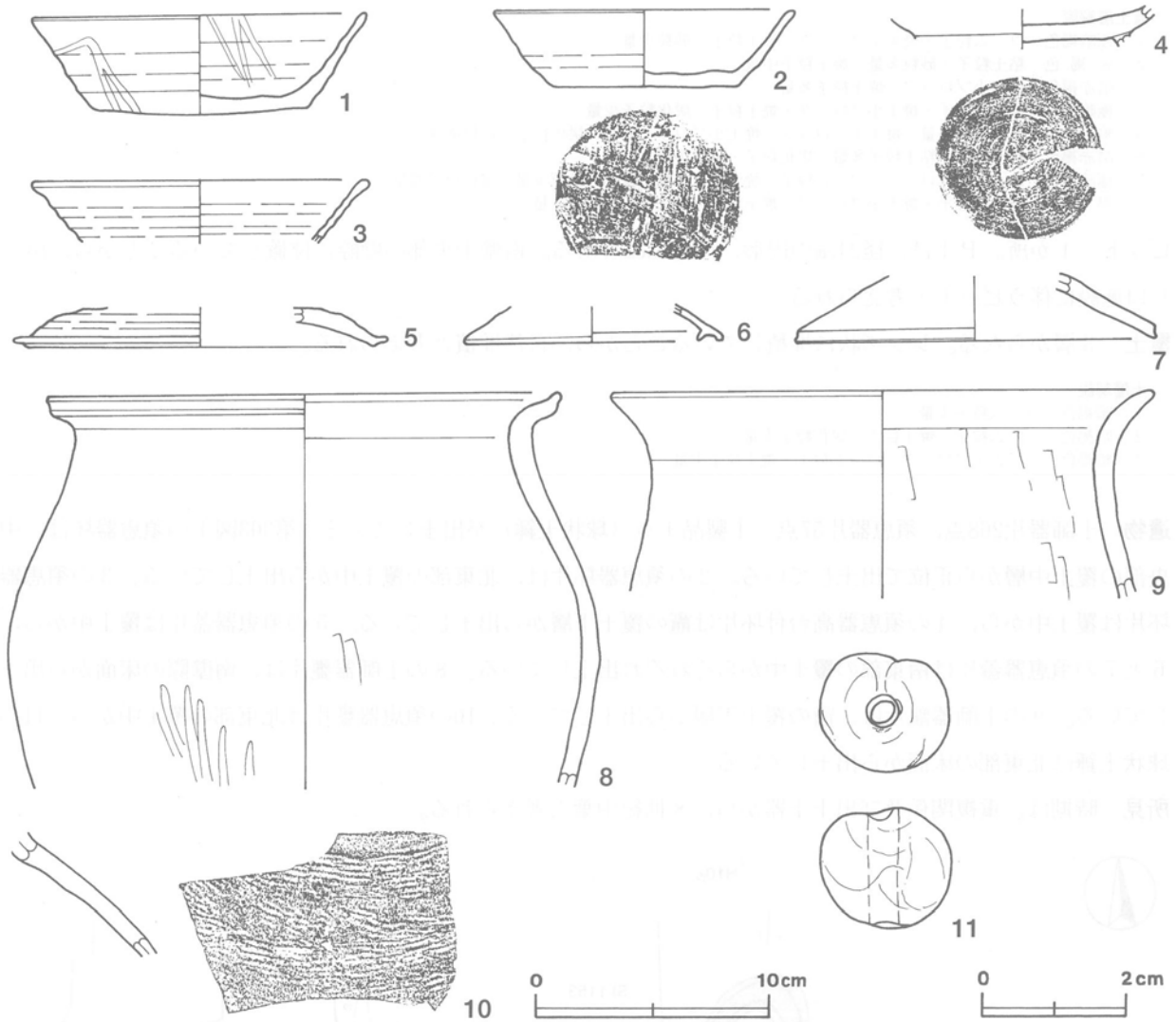
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片268点、須恵器片57点、土製品1点（球状土錘）が出土している。第303図1の須恵器坏は、中央部の覆土中層から正位で出土している。2の須恵器坏片は、北東部の覆土中から出土している。3の須恵器坏片は覆土中から、4の須恵器高台付坏片は竈の覆土下層から出土している。5の須恵器蓋片は覆土中から、6と7の須恵器蓋片は南東部の覆土中からそれぞれ出土している。8の土師器甕片は、南壁際の床面から出土している。9の土師器甕片は、竈の覆土下層から出土している。10の須恵器甕片は北東部の覆土中から、11の球状土錘は北東部の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、8世紀中葉と考えられる。



第302図 第1151号住居跡実測図



第303図 第1151号住居跡出土遺物実測図

第1151号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 1	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C 8.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P 40203 50%，P L235 内・外面火襷有り
2	坏 須恵器	A [12.4] B 3.2 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P 40204 40%
3	坏 須恵器	A [14.0] B (2.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。端部は丸くおさめている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P 40276 10%
4	高台付坏 須恵器	B (1.8) E (0.2)	底部から体部にかけての破片。高台部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色，普通	P 40205 40%
5	蓋 須恵器	A [15.8] B (1.6)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はなだらかに降下し，口縁部は屈曲する。内面に退化したかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P 40272 5%
6	蓋 須恵器	A [10.8] B (1.5)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はなだらかに降下し，口縁部に至る。内面にかえりが付く。	天井部，口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 灰黄色 良好	P 40273 5%

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 7	蓋 須恵器	A [15.0] B (2.7)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部はなだらかに降下し、口縁部に至る。	天井部、口縁部内・外面口ロナデ。	長石 灰白色 普通	P 40274 5%
8	甕 土師器	A [21.4] B (16.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は長胴形を呈し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ヘラナデ、下半縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 暗褐色 普通	P 40206 10%
9	甗 土師器	A [22.4] B (8.7)	体部から口縁部にかけての破片。 体部上半はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 40207 10%
10	甕 須恵器	B (5.8)	体部の破片。体部は内彎する。	体部外面横位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、灰黄色、普通	T P 40004 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第303図11	土玉	1.8	1.7	0.5	3.9	やや扁平な球体、ナデ。	長石・石英、にぶい橙色	DP40011 100% PL236

第1152号住居跡 (第304図)

位置 調査4区の北東部、H11i1区。

重複関係 西部で第1153号住居跡を、北西部で第1154号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.40m、短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は32~41cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に22cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ62cm、両袖部幅106cmである。天井部は崩落しており、土層断面図中、第1・2層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから、崩落土と考えられる。特に、第1層の下位から検出された第2層は、火熱を受けて赤変硬化しており、天井部の内側の部分と考えられる。火床面は、床面から10cmほど掘りくぼめられて浅い皿状を呈しており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 灰赤色 粘土粒子・砂粒多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、砂粒少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、砂粒中量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

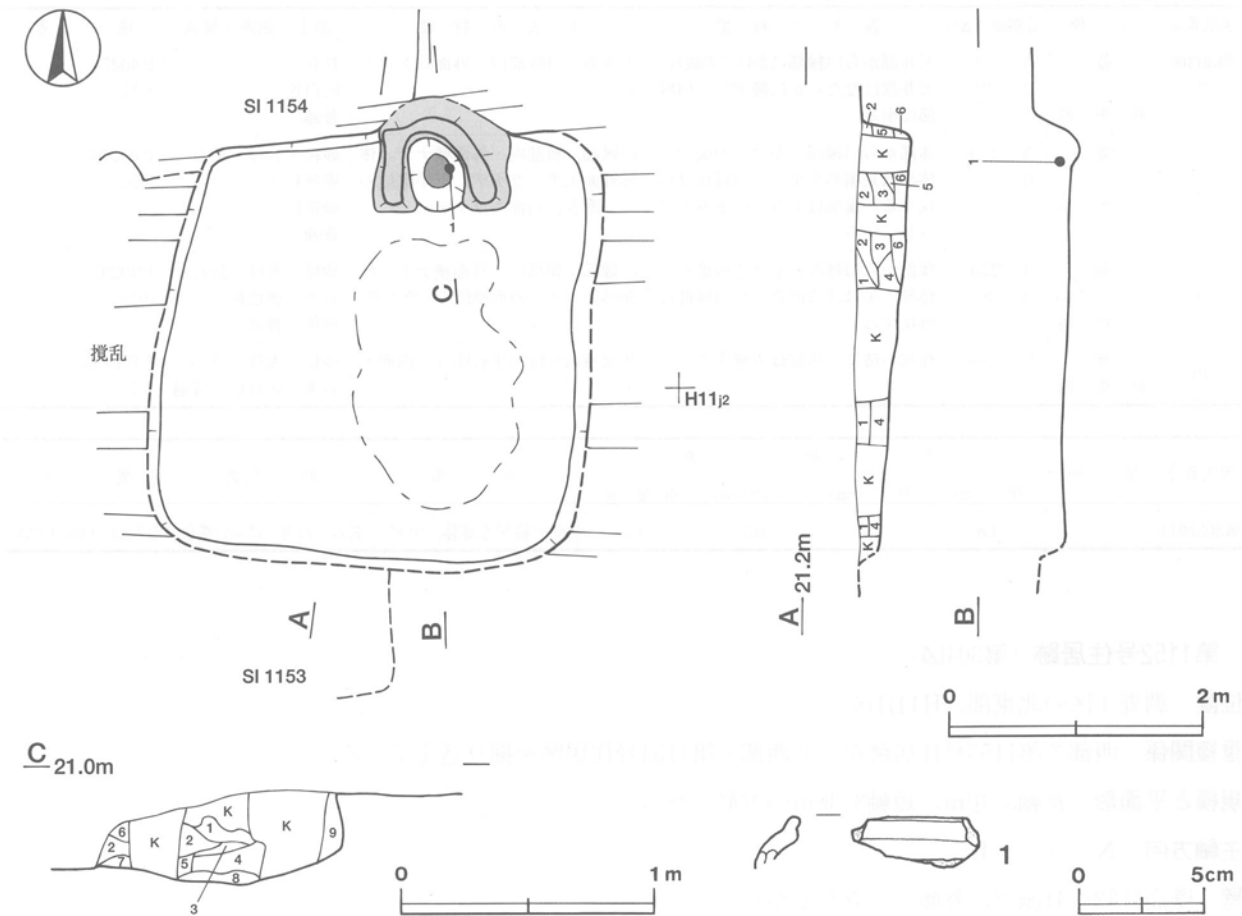
覆土6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・ | 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量 |

遺物 土師器片27点、須恵器片12点、攪乱により混入した陶器片1点が出土している。出土した土器は、いずれも細片である。第304図1の土師器甕の口縁部片は、竈の火床面から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、9世紀代と考えられる。



第304図 第1152号住居跡・出土遺物実測図

第1152号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第304図 1	甕 土師器	B (2.0)	口縁部の破片。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色、普通	P40208 5%

第1153号住居跡 (第305図)

位置 調査4区の北部, H10j0区。

重複関係 北部で第1154号住居跡を, 北西部で第1155号住居跡を掘り込んでいる。南西部を第1151号住居に, 東部を第1152号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.02m, 短軸4.25mの長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は12~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 遺存状態が悪く, 北壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。付近の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており, 竈材の一部と考えられる。火床面は, 長径方向を住居の主軸と同じくする長径22cm, 短径17cmの楕円形で, 火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 径36~42cmのほぼ円形で, 深さ31~70cmである。いずれも各

コーナー寄りに位置していることから、支柱穴と考えられる。P5は、径28cmの円形、深さ13cmで、南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

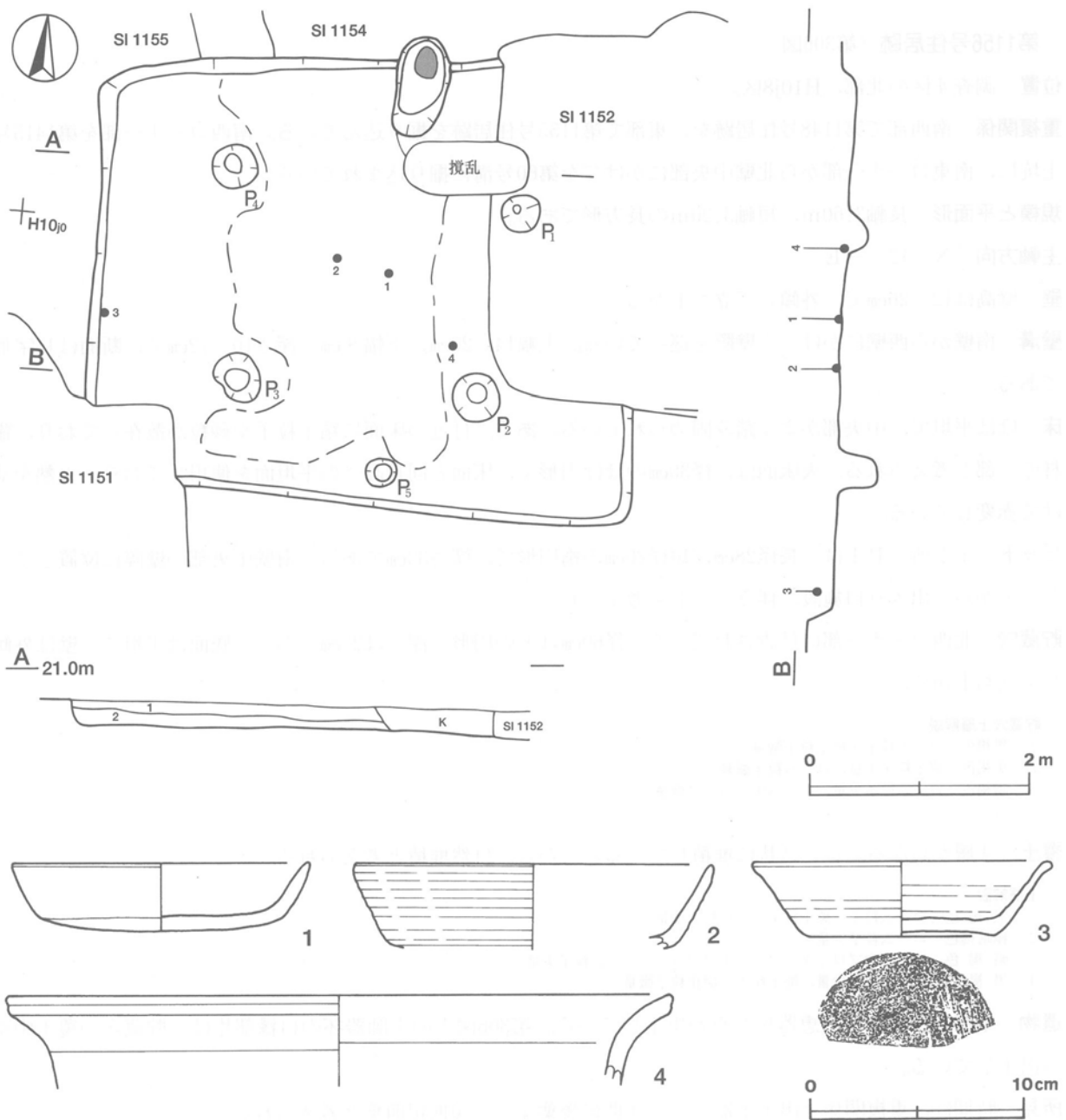
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片126点、須恵器片15点が出土している。第305図1の土師器坏は中央部の床面から逆位で、2の土師器坏片は中央部の床面から、3の須恵器坏は西壁際の覆土下層から横位で、4の土師器甕片は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から、8世紀前葉と考えられる。



第305図 第1153号住居跡・出土遺物実測図

第 1153 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第305図 1	坏 土 師 器	A [13.6] B 3.1 C [11.3]	底部から口縁部にかけての破片。 丸みをもった平底。体部は外傾し て立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面横ナデ。底 部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 明赤褐色、普通	P 40209 60% P L 235
2	坏 須 恵 器	A [16.4] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 焼成不明	P 40210 10% 二次焼成
3	坏 須 恵 器	A [13.6] B 3.4 C [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P 40211 45%
4	甕 土 師 器	A [30.4] B (4.1)	口縁部の破片。口縁部は外反する。 端部はわずかに上方につまみ上げ られている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英 明赤褐色、普通	P 40212 5%

第1156号住居跡（第306図）

位置 調査 4 区の北部，H10j8区。

重複関係 南西部で第1148号住居跡を，東部で第1155号住居跡を掘り込んでいる。南西コーナ一部を第1415号土坑に，南東コーナ一部から北壁中央部にかけてを第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-12° - E

壁 壁高は12~26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁から西壁にかけての壁際を巡っている。上幅14~20cm，下幅 8 cm，深さ10~12cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。ある。付近の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており，竈材の一部と考えられる。火床面は，径30cmのほぼ円形で，床面と同じ高さの平坦面を使用しており，火熱を受けて赤変している。

ピット 1か所。P 1は，長径28cm，短径20cmの楕円形で，深さ33cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナ一部に付設されている。径60cmほどの円形，深さは23cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

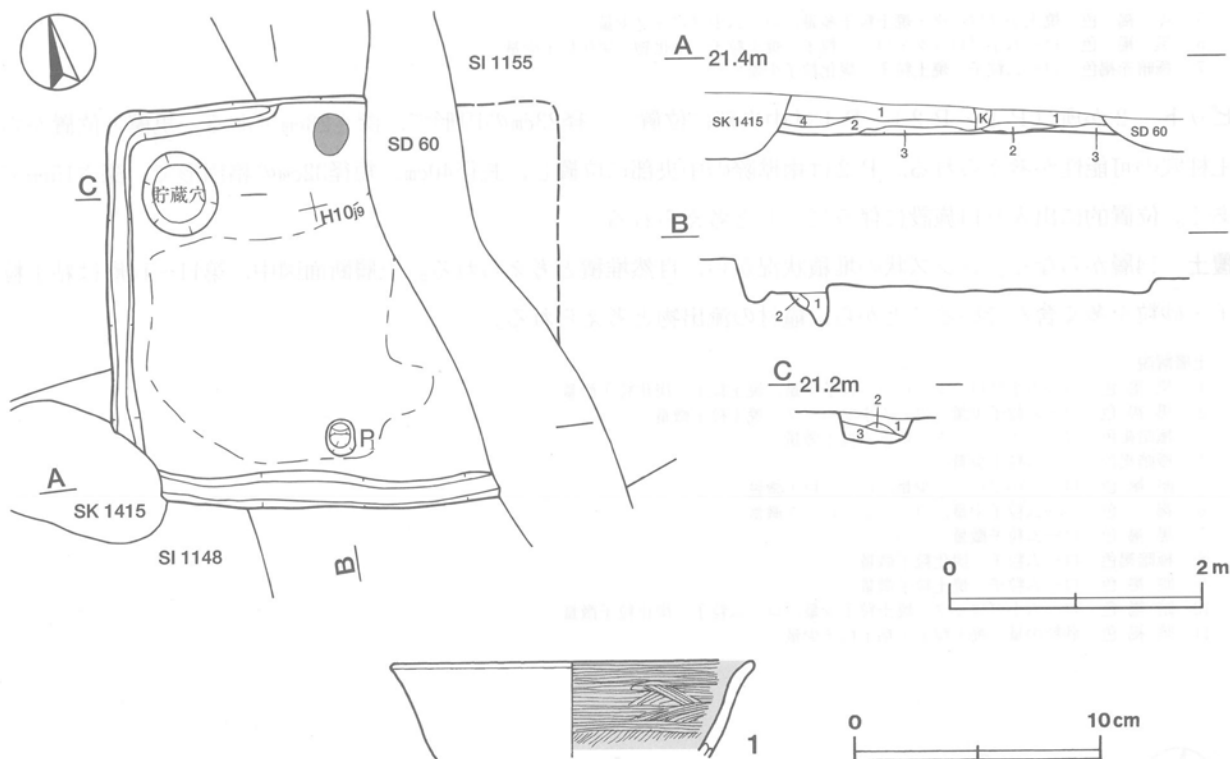
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片29点，須恵器片 2 点が出土している。第306図 1 の土師器坏の口縁部片は，貯蔵穴の覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係と出土土器から，9世紀後葉ないし10世紀前葉と考えられる。



第306図 第1156号住居跡・出土遺物実測図

第1156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第306図 1	坏 土師器	A [14.2] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎して立ち上がり、口縁 部はわずかに外反する。	口縁部内・外面クロナテ。体部 外面クロナテ、内面横位のヘラ 磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒 子 にぶい黄橙色、普通	P 40224 10%

第1157号住居跡 (第307図)

位置 調査4区の中央部, I10f1区。

重複関係 第1159号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は15~21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅12~16cm, 下幅3~6cm, 深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。攪乱のため、煙道部と両袖部の遺存状況が悪い。規模は、焚口部から煙道部まで90cm, 両袖部幅105cmと推定される。天井部は崩落しており、土層断面図中、第2層は粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから、崩落土層と考えられる。第5層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み、下面が赤変硬化していることから、下面が火床面と考えられる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

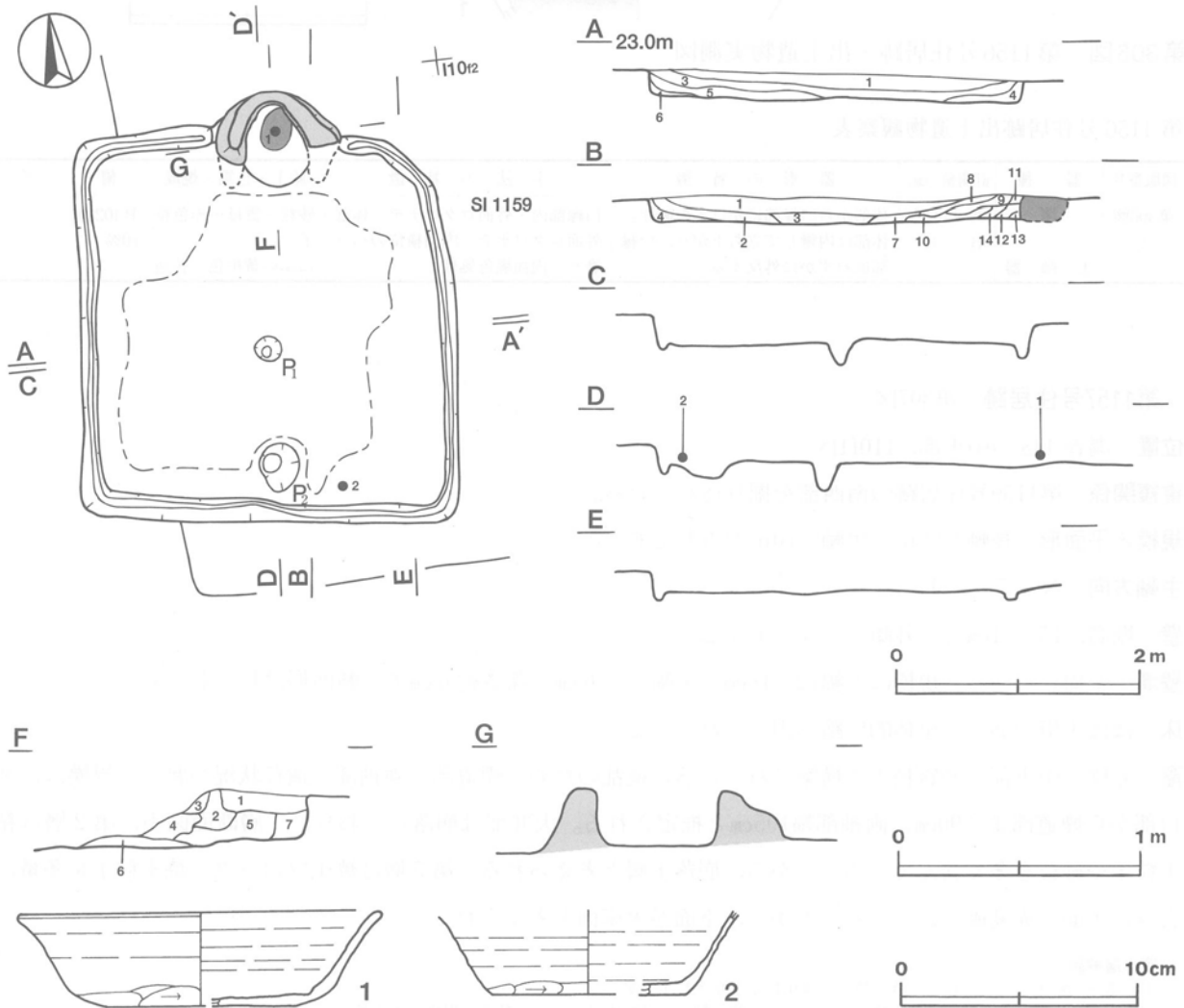
- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 7 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は中央部に位置し、径23cmの円形で、深さ23cmである。規模と位置から支柱穴の可能性が考えられる。P2は南壁際の中央部に位置し、長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さ15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 14層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。土層断面図中、第11~14層は粘土粒子・砂粒を多く含んでいることから、竈材の流出物と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 砂粒中量, 焼土粒子・粘土粒子少量



第307図 第1157号住居跡・出土遺物実測図

- 12 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 13 黒褐色 砂粒・粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・砂粒少量

遺物 土師器片154点, 須恵器片7点が出土している。第307図1の須恵器坏は, 竈内の覆土下層から出土している。2の須恵器坏は, 南東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第1157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第307図 1	坏 須恵器	A [14.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 40572 20%
		B 3.9				
		C [7.8]				
2	坏 須恵器	B (3.5)	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色, 普通	P 40573 15% P L235
		C [8.0]				

第1158号住居跡(第308・309図)

位置 調査4区の中央部, I10g2区。

重複関係 北東コーナー部を第819・820号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.10m, 短軸4.00mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は5~10cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部を除き巡っている。規模は上幅10~16cm, 下幅4~7cm, 深さ約5cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部から西部にかけて特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで78cm, 両袖部幅120cmである。袖部は北壁から15~35cmの高さに地山を掘り残し, 壁に粘土を貼り付けて造っている。天井部は崩落しており, 土層断面図中, 第1層が粘土粒子を多量に含んでいることから, 崩落土層と考えられる。第3・4層は焼土ブロック・焼土粒子を中量含み, 下面が赤変硬化していることから, 下面が火床面と考えられる。煙道は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・焼土中ブロック少量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・灰少量

ピット 5か所(P1~P5)。P1・P4は竈の両袖部際に位置し, P2・P3は南東・南西コーナーから中央部寄りに位置し, それぞれ径20~25cmの円形で, 深さ46~68cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し, 径30cmの円形で, 深さ30cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

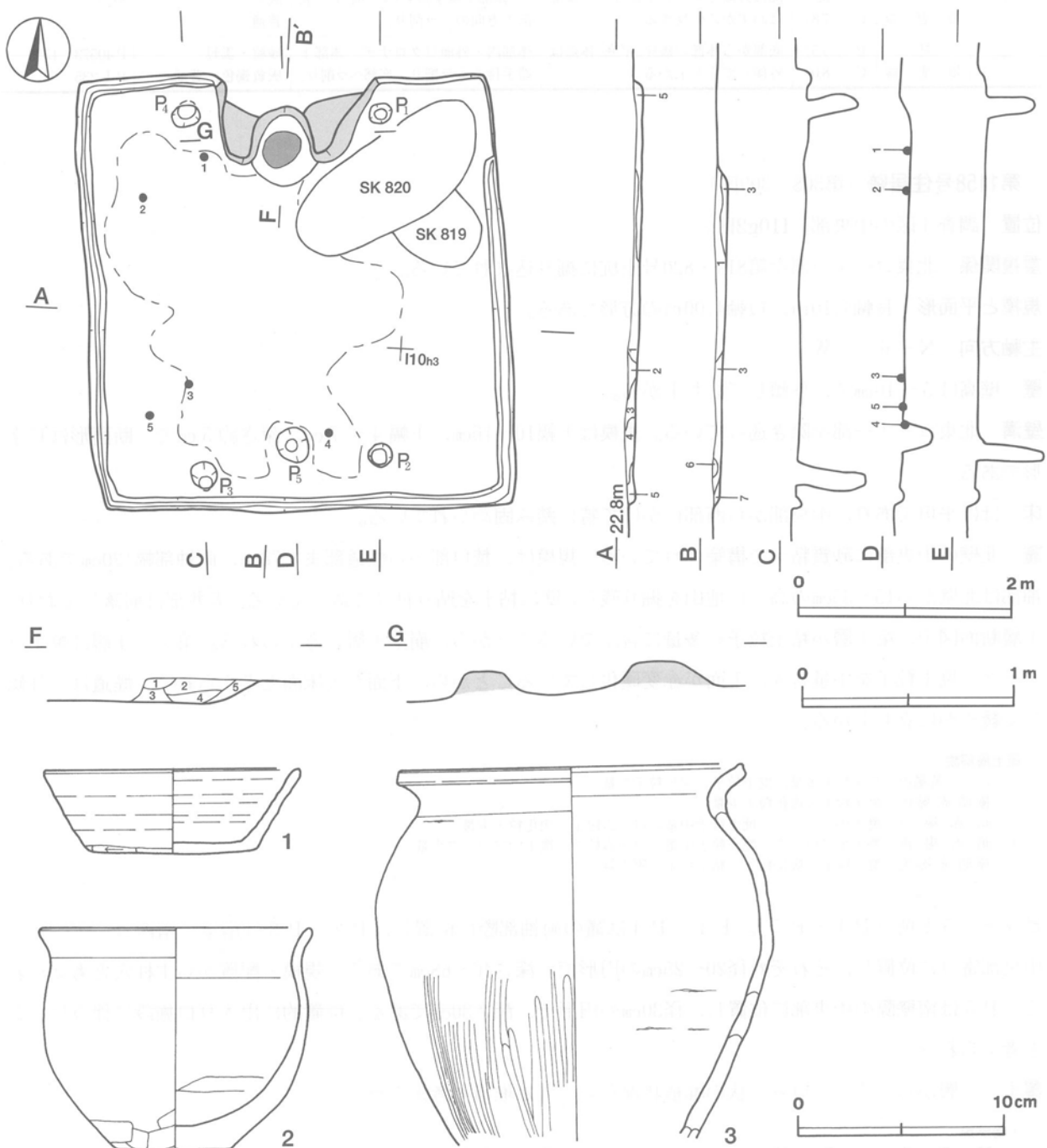
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

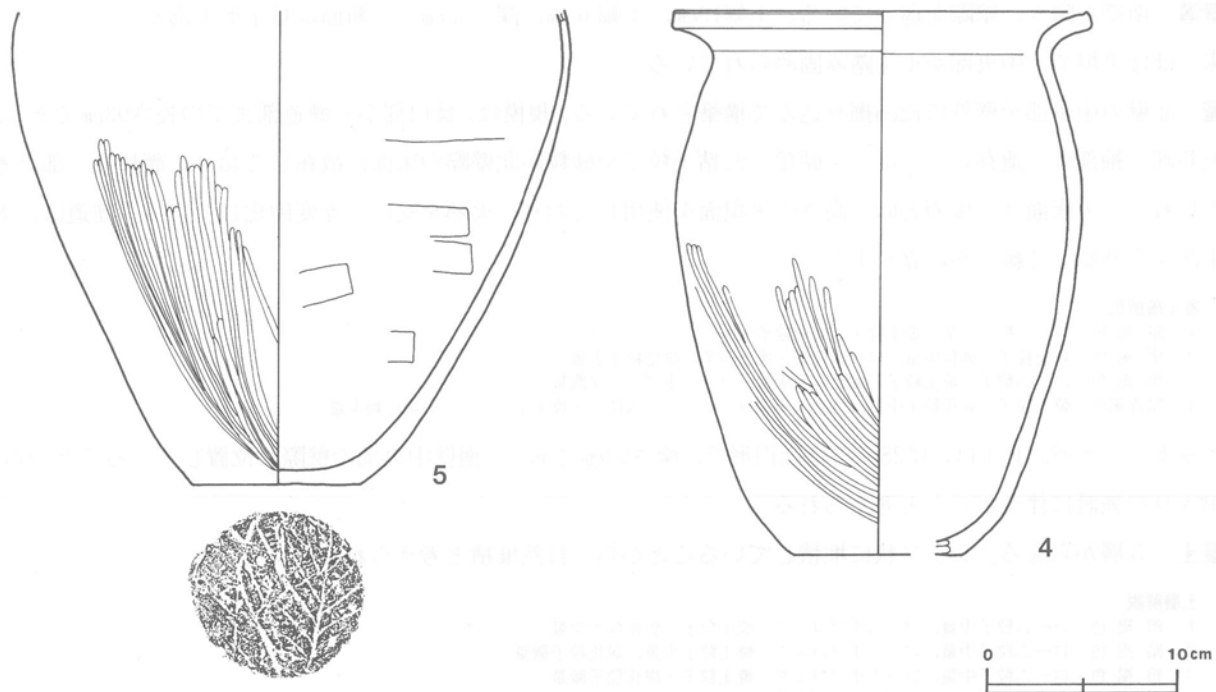
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック中量, ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片278点, 須恵器片11点が出土している。第308・309図1の須恵器坏は, 北西部の床面から逆位で出土している。2の土師器甕は, 北西部の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。3・5の土師器甕は, 南西部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。4の土師器甕は, 南部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第308図 第1158号住居跡・出土遺物実測図



第309図 第1158号住居跡出土遺物実測図

第1158号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	坏 須恵器	A 11.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 40578 99% P L 235
		B 4.0				
		C 7.8				
2	甕 土師器	A [10.6]	体部から口縁部にかけての破片。平底。小形。体部は球形を呈し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色、普通	P 40574 70% P L 235
		B 10.5				
		C 5.2				
3	甕 土師器	A 16.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は長胴形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。体部外面輪積み痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 40575 75% P L 236
		B (17.8)				
第309図 4	甕 土師器	A [21.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はわずかに上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、中位から下位ヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・橙色 普通	P 40576 30% P L 236
		B 28.4				
		C [8.6]				
5	甕 土師器	B (24.7) C 8.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・にぶい赤褐色、普通	P 40577 50% P L 235

第1160号住居跡 (第310・311図)

位置 調査4区の北部, H10j8区。

重複関係 北西部で第1149号住居跡を、北東部で第1156号住居跡を掘り込んでいる。全体を第1148号住居に、北東部を第1415号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.08m, 短軸2.98mの方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 東壁の立ち上がりは、第1148号住居に掘り込まれているために確認できなかった。それ以外の壁高は26~60cmで、ほぼ直立する。

壁溝 南壁を除き、壁際を巡っている。上幅10cm、下幅6cm、深さ4cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に72cm掘り込んで構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ93cmである。天井部・袖部は、遺存していない。硬化した粘土粒子や砂粒が北壁際の床面に散在しており、竈材の一部と考えられる。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量

ピット 1か所。P1は、径28cmのほぼ円形で、深さ23cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

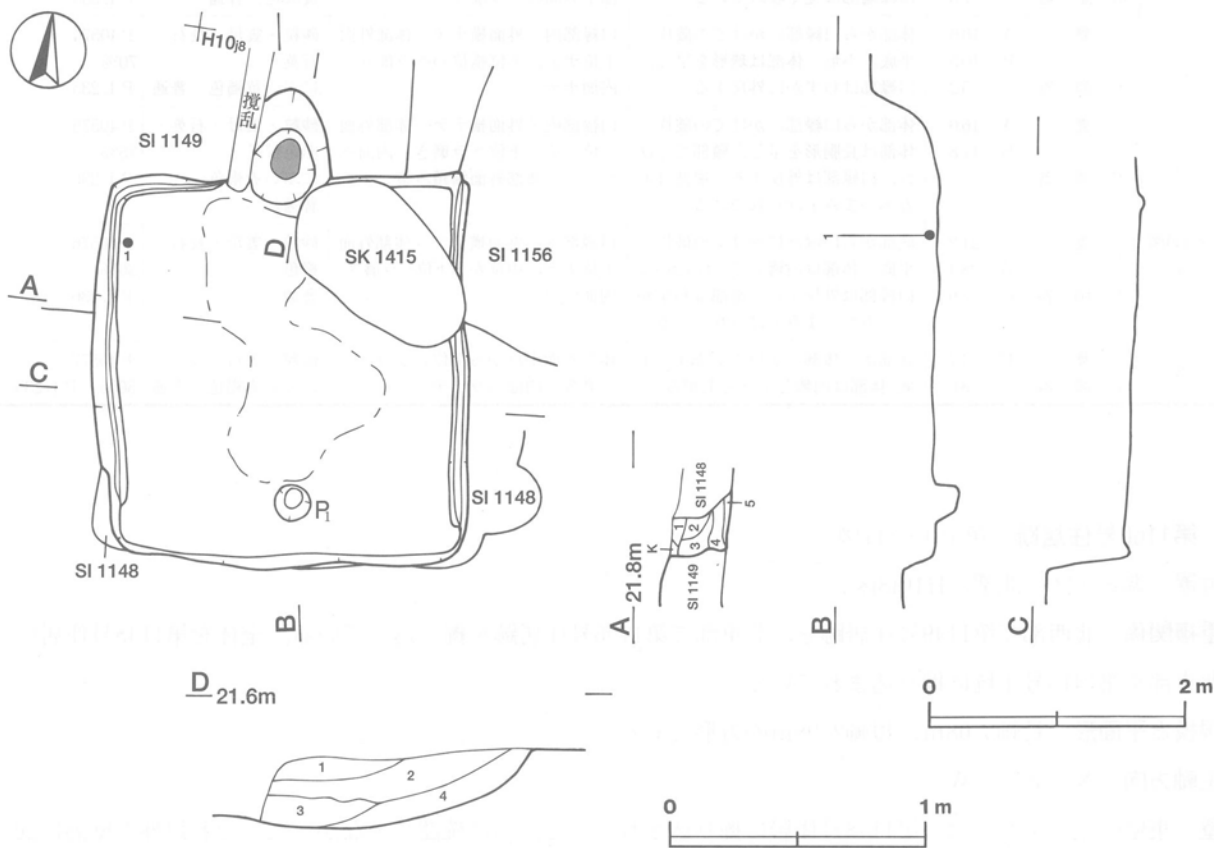
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

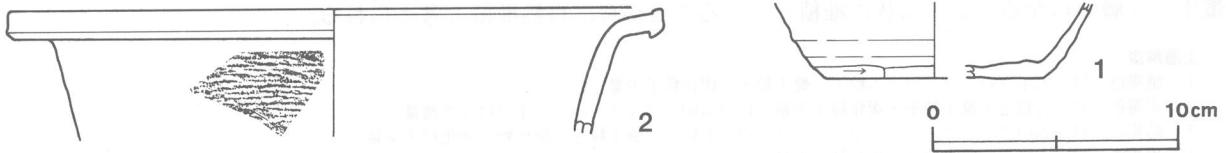
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片42点、須恵器片15点が出土している。第311図1の須恵器坏片は西壁際の覆土下層から、2の須恵器鉢片は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、8世紀中葉と考えられる。



第310図 第1160号住居跡実測図



第311図 第1160号住居跡出土遺物実測図

第1160号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第311図 1	坏 須恵器	B (3.0) C [8.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下 端手持ちヘラ削り。底部1方向の ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 灰黄色、普通	P40193 5%
2	鉢 須恵器	A [26.0] B (5.0)	体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部 外面横位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P40275 5%

第1161号住居跡 (第312・313図)

位置 調査4区の北東部, H11b3区。

規模と平面形 北部が調査区域外に延びているために、全容は不明である。東西軸は4.84mで、南北軸は0.82mだけが確認できた。南東コーナー及び南西コーナーが直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-W。南壁中央部の壁際に位置するピットが出入り口施設に伴うピットと推定されることから、南壁直交方向を主軸方向とした。

壁 壁高は22~51cmで、ほぼ直立する。

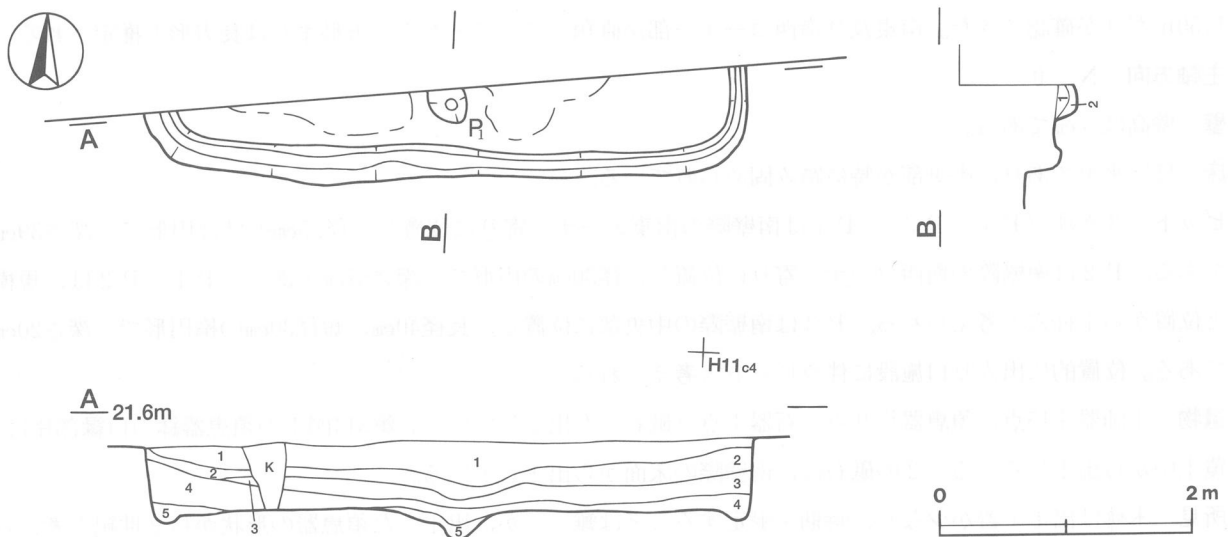
壁溝 確認された壁際を巡っている。上幅16~20cm, 下幅8~12cm, 深さ8~10cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き、よく踏み固められている。

ピット 1か所。P1は、径28cmのほぼ円形で、深さ16cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



第312図 第1161号住居跡実測図

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

遺物 土師器片46点, 須恵器片4点が出土している。第313図1の須恵器坏片と2の土師器甕片は, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から, 8世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第313図 第1161号住居跡出土遺物実測図

第1161号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第313図 1	坏 須恵器	B (1.4) C [8.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色, 普通	P 40225 15%
2	甕 土師器	B (1.9) C [6.8]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端横位のヘラ削り, 内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄褐色, 普通	P 40226 5%

第1162号住居跡 (第314図)

位置 調査4区の中央部, I10f5区。平成7年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており, そのため, 調査も北部は平成7年度, 南部は平成10年度と両年度にまたがった。

規模と平面形 平成7年度の調査区域は攪乱を受けており, 全容は不明である。東西軸は4.40mで, 南北軸は1.50mだけが確認できた。南東及び南西コーナー部が直角であることから, 方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

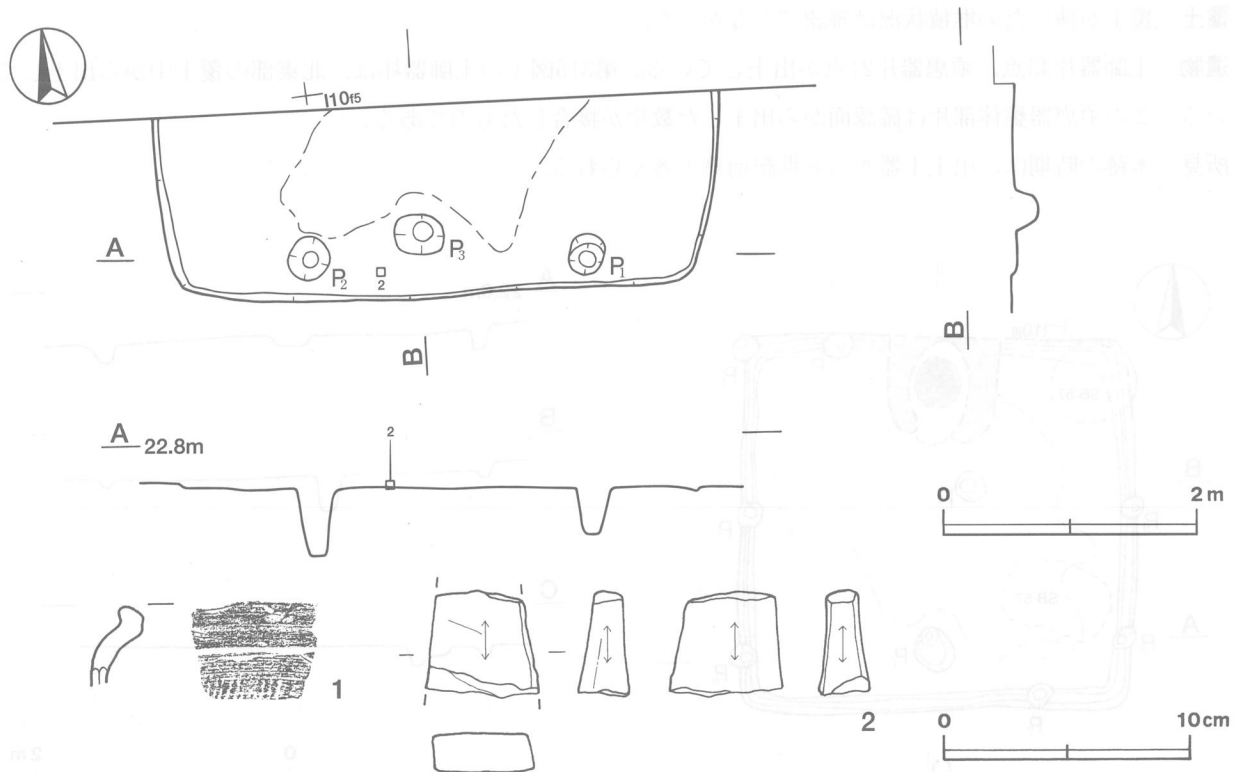
壁 壁高は5cmである。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は南壁際の南東コーナー寄りに位置し, 径25cmのほぼ円形で, 深さ39cmである。P2は南壁際の南西コーナー寄りに位置し, 径30cmの円形で, 深さ57cmである。P1・P2は, 規模と位置から支柱穴と考えられる。P3は南壁際の中央部に位置し, 長径40cm, 短径30cmの楕円形で, 深さ20cmである。位置的に入出口施設に伴うピットと考えられる。

遺物 土師器片15点, 須恵器片9点, 石器1点(砥石)が出土している。第314図1の須恵器鉢の口縁部片は, 覆土中から出土している。2の砥石は, 南壁際の床面から出土している。

所見 本跡は出土土器が少なく, 時期を限定することは難しいが, 出土した須恵器の形状から9世紀と考えられる。



第314図 第1162号住居跡・出土遺物実測図

第1162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第314図 1	鉢 須恵器	B (3.1)	口縁部の破片。口縁端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石にぶい黄褐色、普通	T P 40504 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第314図2	砥石	(4.2)	(4.6)	(2.1)	(45.0)	凝灰岩	両端部欠損。砥面4面。	Q40506 P L 239

第1164号住居跡 (第315図)

位置 調査4区の中央部, I10j6区。

重複関係 西部で第57号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は4cmである。

壁溝 全周している。規模は上幅12~17cm, 下幅4~8cm, 深さ約4cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

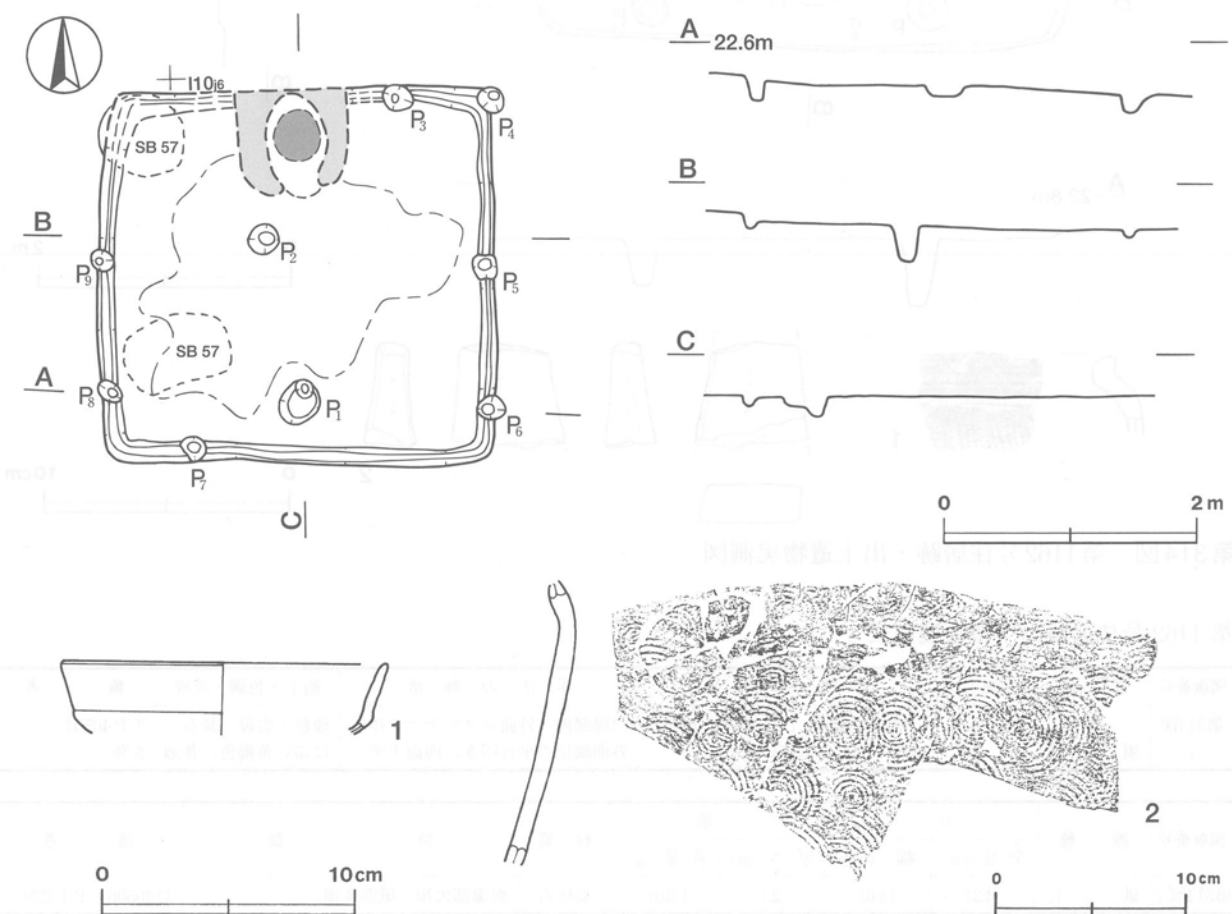
竈 粘土と焼土粒子・炭化粒子の分布が北壁の中央部で検出された。火床部の痕跡で, 火床面は赤変している。

ピット 9か所 (P1~P9)。P1は南壁際の中央部に位置し, 長径40cm, 短径32cmの楕円形で, 深さ16cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は性格不明である。P3~P9は壁際沿いに位置し, 径17cm~25cmで, 深さ13cm~27cmである。位置的に壁柱穴の可能性が考えられる。

覆土 覆土が薄いため堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片43点、須恵器片21点が出土している。第315図1の土師器坏は、北東部の覆土中から出土している。2の須恵器甕体部片は確認面から出土した数片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第315図 第1164号住居跡・出土遺物実測図

第1164号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第315図 1	土師器 坏	A [12.8] B (2.8)	体部上位から口縁部の破片。体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 40637 5%
2	須恵器 甕	B (15.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き目。内面ナデ。	砂粒・雲母 灰色、普通	T P 40505 5%

第1167号住居跡 (第316図)

位置 調査4区の中央部、I10h8区。

重複関係 本跡の大部分が第1169号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており、東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.20mで、東西軸は4.00mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることや、ピットや壁溝の位置から、長方形

と推定される。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の東側で確認された。規模は上幅12~18cm、下幅5~8cm、深さ約3cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦である。

竈 粘土と焼土粒子・炭化粒子の分布が、北壁の中央部で検出された。火床部の痕跡で、火床面は赤変している。

ピット 1か所。P1は南壁際に位置し、径20cmの円形で、深さ18cmである。位置的に、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

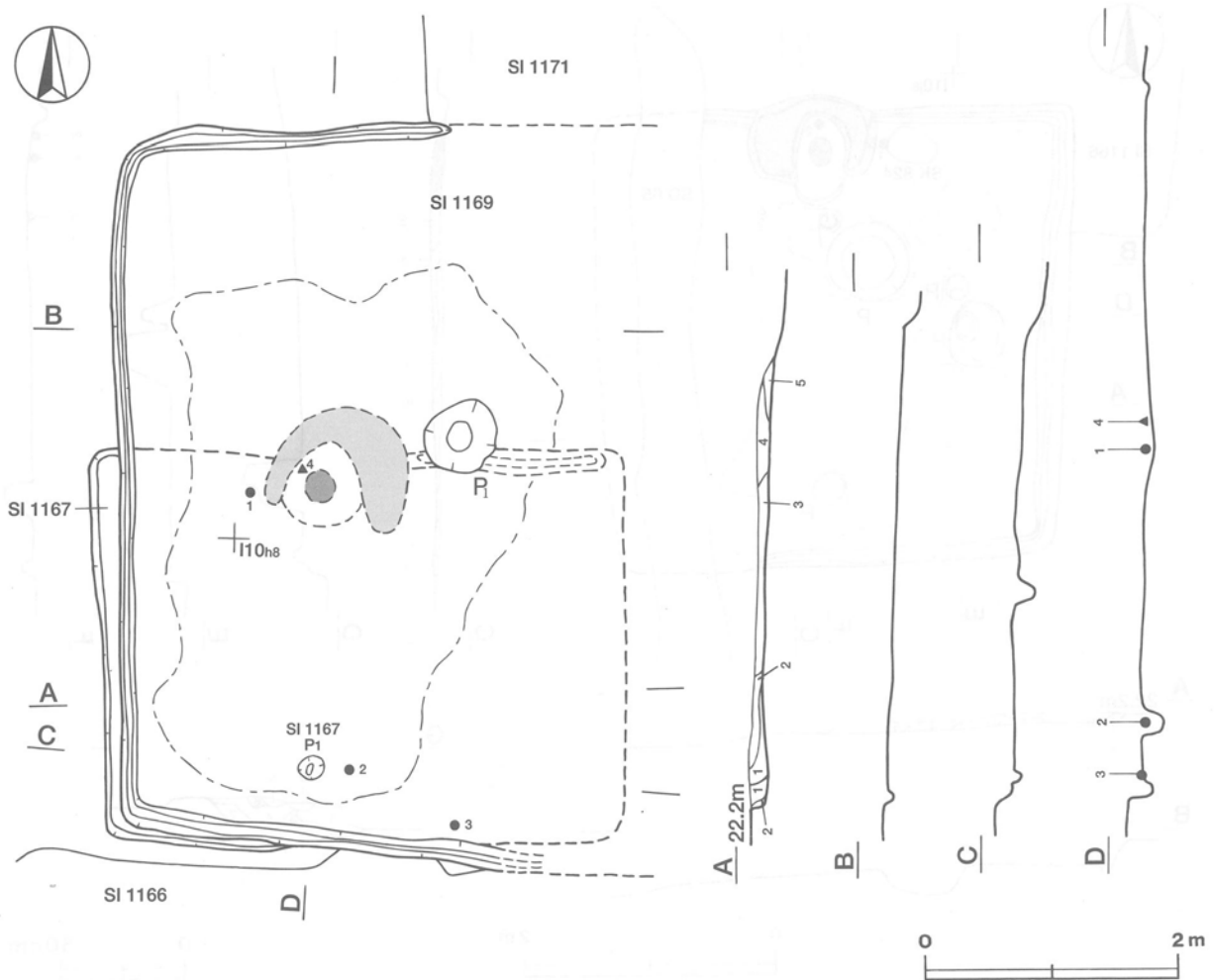
覆土 2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

遺物 土師器片5点が出土している。

所見 出土土器が少なく時期を限定することはできないが、8世紀後葉と考えられる第1169号住居に掘り込まれていることや、隣接する8世紀中葉と考えられる第1168号住居跡と軸方向がほぼ同じであることから8世紀と考えられる。



第316図 第1167・1169号住居跡実測図

第1168号住居跡 (第317・318図)

位置 調査4区の中央部, I10j8区。

重複関係 北部で第1166号住居跡を掘り込んでいる。また, 東部で第65号溝に, 北西部で第824号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており, 東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.60mで, 東西軸は2.70mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの位置から, 方形と推定される。

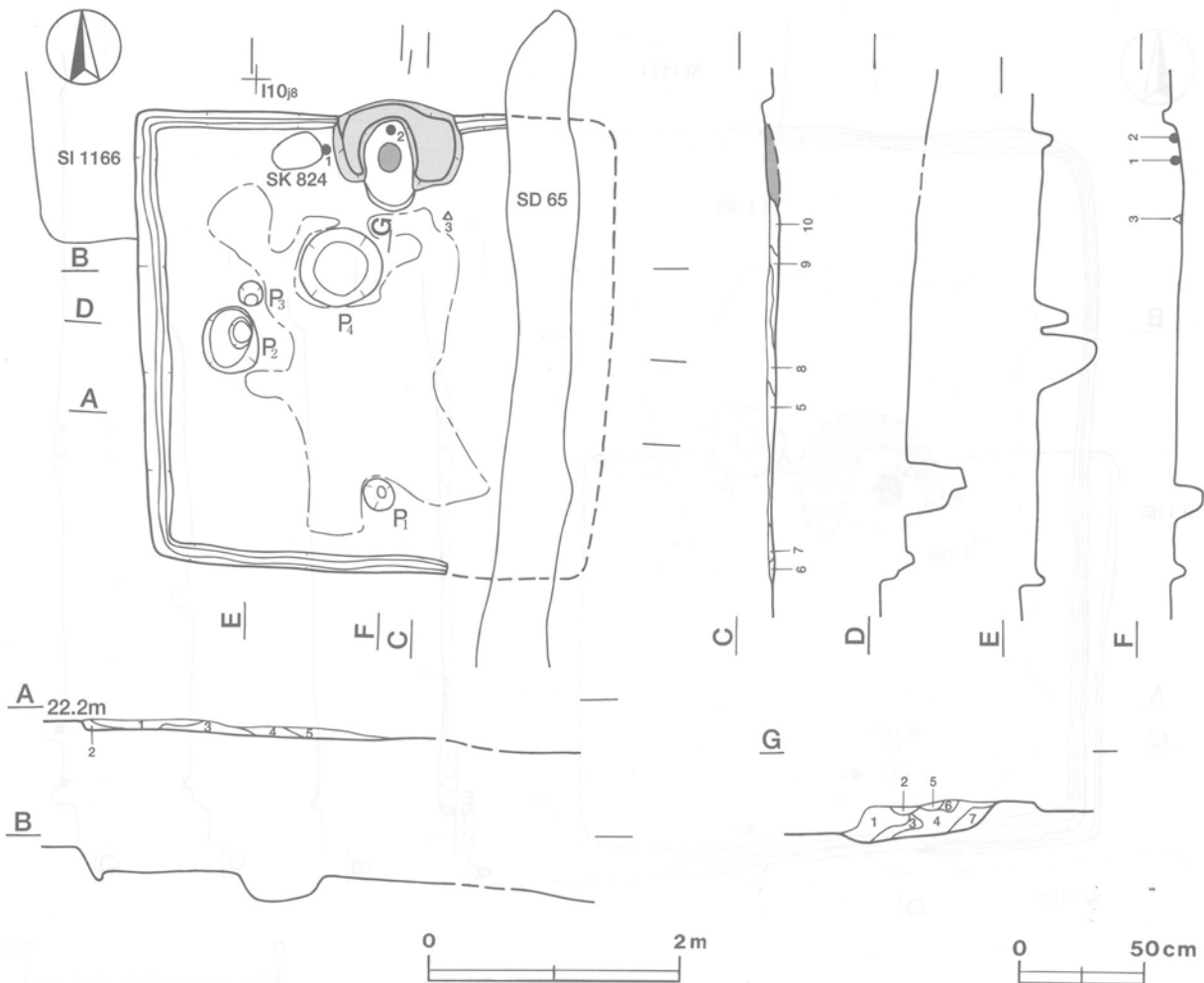
主軸方向 N - 6° - E

壁 壁高は12~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下に巡っている。規模は上幅12~25cm, 下幅4~6cm, 深さ約8cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に20cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口から煙道部まで95cm, 両袖部幅103cmである。東袖部の内側は, 火熱を受け赤変している。土層断面図中, 第4層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み, 下面が赤変していることから, 下面が火床面と考えられる。煙道は, 外傾して緩やかに立ち上がる。



第317図 第1168号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒少量, ローム小ブロック微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は南壁際に位置し、径30cmの円形で、深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2~P4は、径20cm~65cmのほぼ円形で、深さ21~50cmである。性格は不明である。

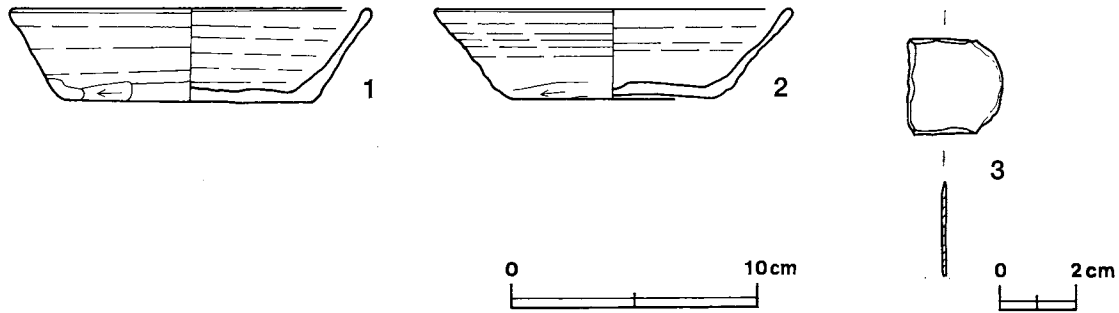
覆土 10層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 7 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 8 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 10 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片109点, 須恵器片22点, 不明鉄製品1点が出土している。第318図1の須恵器坏は、竈西袖部際の床面から正位で出土している。2の須恵器坏は、竈内の覆土下層から出土している。3の不明鉄製品は、竈正面の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第318図 第1168号住居跡出土遺物実測図

第1168号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第318図 1	坏 須恵器	A 14.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P 40613 70% P L 235
		B 3.8				
		C 9.7				
2	坏 須恵器	A [14.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 40614 40% P L 235
		B 3.6				
		C [8.0]				

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第318図3	不明鉄製品	(2.5)	(2.6)	(0.2)	(2.96)	鉄	板状。端部を円頭状に取めている。鈍尾の可能性有り。	M40505 P L 238

第1169号住居跡 (第316・319図)

位置 調査4区の中央部, I10g8区。

重複関係 南西部で第1166・1167号住居跡を, 北東部で第1171号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 傾斜地に立地しており, 東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は5.70mで, 東西軸は3.90mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることから, 方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は8~12cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西部から南西部にかけて巡っている。規模は上幅12~20cm, 下幅4~6cm, 深さ約7cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し, 径58cmの円形で, 深さ28cmである。性格は不明である。

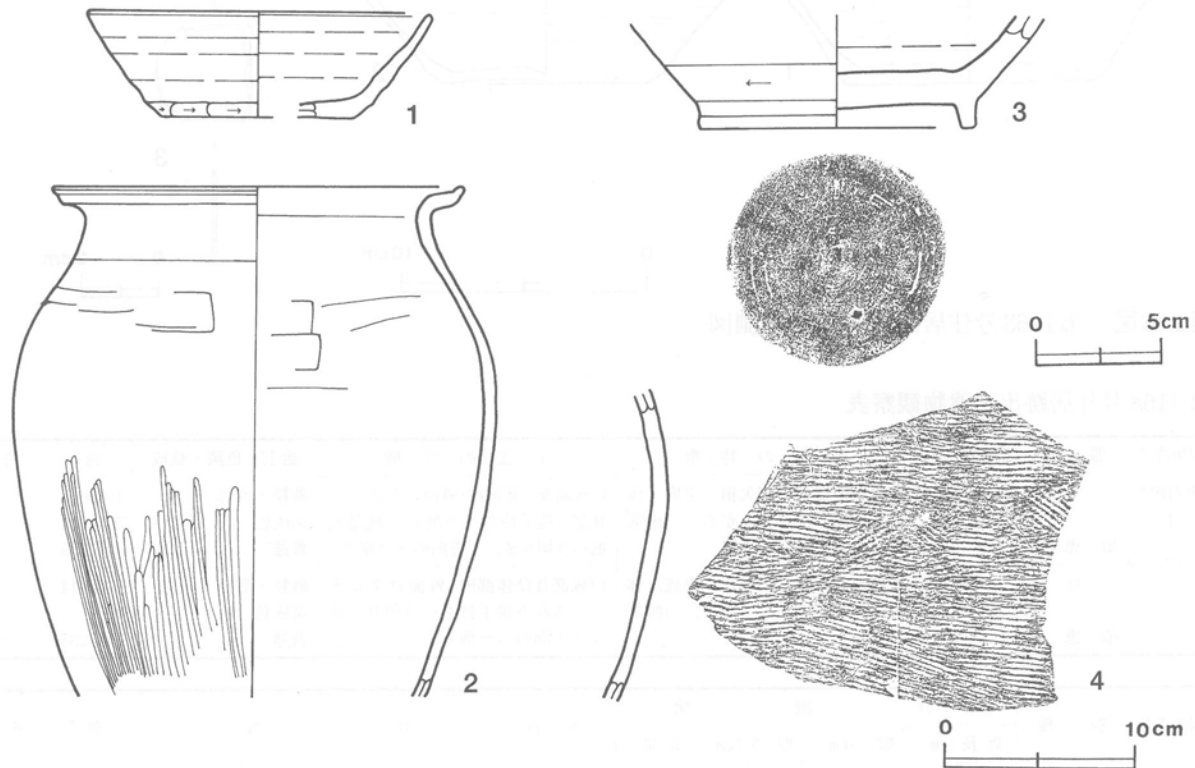
覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・ 焼土粒子・炭化粒子少量	3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子 少量
2 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子 少量	4 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
		5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片113点, 須恵器片41点が出土している。第319図1の須恵器坏は, 西部の床面から出土した2片が接合したものである。2の土師器甕は, 南部の床面から出土した破片数点が接合したものである。3の須恵器瓶の底部から体部片は, 南壁際の床面から出土している。4の須恵器甕体部片は, 西部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第319図 第1169号住居跡出土遺物実測図

第 1169 号住居跡出土遺物観察表

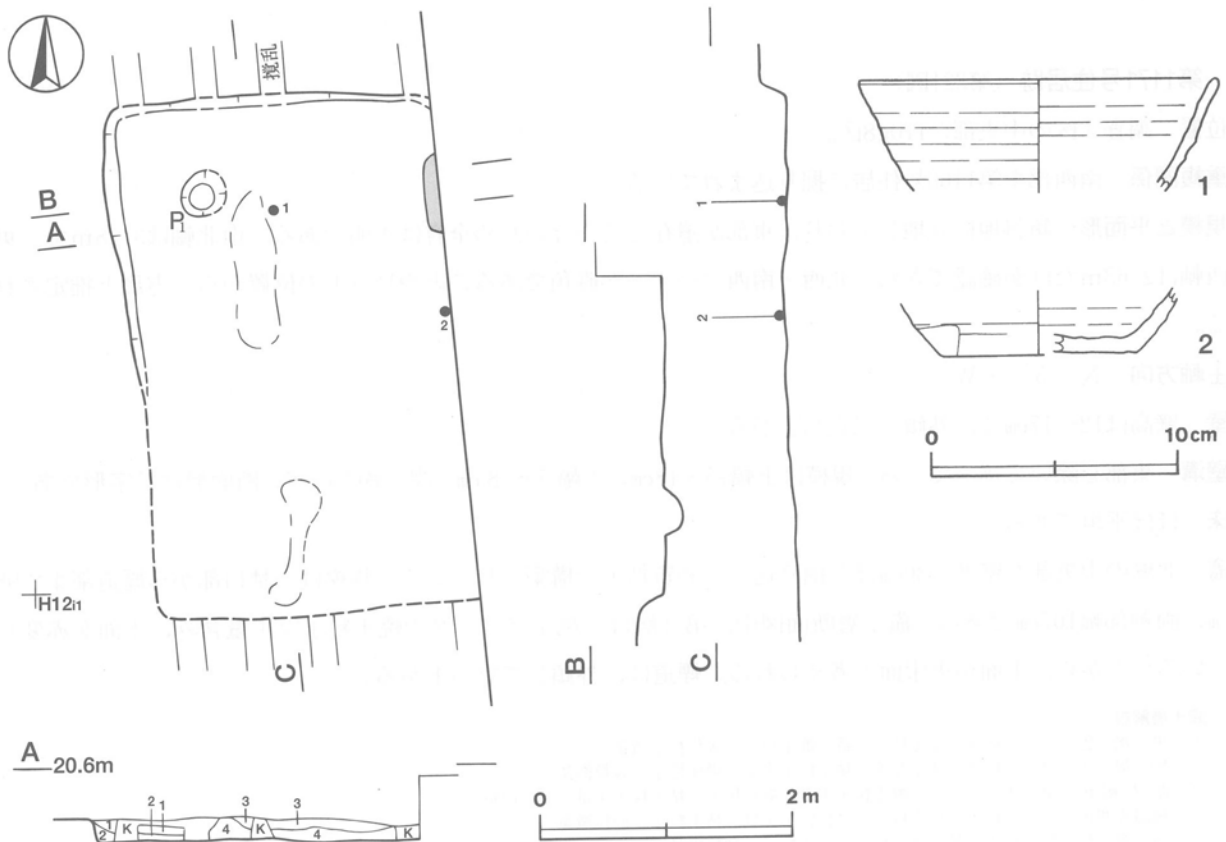
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第319図 1	坏 須恵器	A [13.5] B 4.2 C [7.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 40616 30%
2	甕 土師器	A [21.2] B (26.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部はわずかに上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラナデ、中位から下位にかけてヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P 40615 20% P L 236
3	瓶 須恵器	B (4.4) D [10.8] E 1.1	高台部から体部にかけての破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P 40617 10% P L 235
4	甕 須恵器	B (16.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色、普通	T P 40506 5%

第1170号住居跡 (第320図)

位置 調査4区の北東部、H12h1区。南に下る緩斜面上に立地している。

規模と平面形 東部が調査区域外に延びているために、東西軸は2.67mだけが確認された。南北軸は、南壁の立ち上がりが確認されなかったため、床面の広がりから4.13mと推定した。平面形は、北西コーナーが直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N - 5° - W



第320図 第1170号住居跡・出土遺物実測図

壁 北壁と西壁で確認できた壁高は17～21cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、北壁際及び南壁と推定される付近の床面から踏み固められた部分が検出された。

竈 北部の床面から焼土や粘土粒子、砂粒が検出されていることから、北壁際に砂質粘土で構築されていたと考えられる。

ピット 1か所。P1は、径36cmの円形、深さ14cmで、北西コーナー寄りに位置している。性格は不明である。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片37点、須恵器片3点が出土している。第320図1の須恵器坏片はP1の東側の床面から、2の須恵器坏片は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉ないし9世紀前葉と考えられる。

第1170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第320図 1	坏 須恵器	A [14.2] B (4.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黒色、普通	P40227 10%
2	坏 須恵器	B (2.6) C [7.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下 端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40228 10%

第1171号住居跡（第321図）

位置 調査4区の中央部、I10g8区。

重複関係 南西部を第1169号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており、東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.28mで、東西軸は2.63mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの位置から、方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は12～17cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東部を除いて巡っている。規模は上幅15～18cm、下幅5～8cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁の中央部を壁外に30cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、両袖部幅107cmである。竈土層断面図中、第3層は、焼土ブロックや焼土粒子を中量含み、下面が赤変していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、砂粒微量
- 4 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
- 5 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量

ピット 1か所。P1は南壁際の中央部に位置し、径25cmの円形で、深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

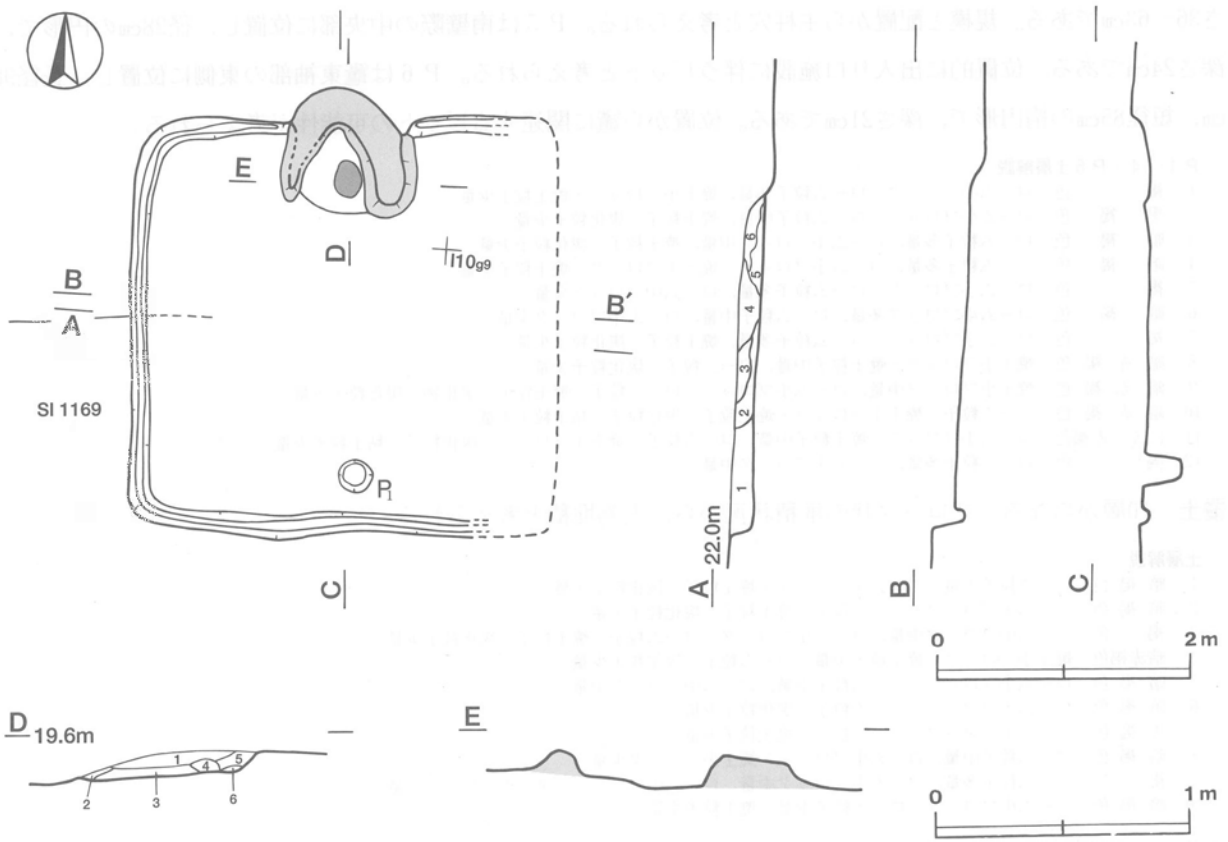
覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片14点, 須恵器片1点が出土している。

所見 出土土器が少なく時期を限定することはできないが、南東部を8世紀後葉と考えられる第1169号住居に掘り込まれていることや、隣接する8世紀中葉と考えられる第1168号住居跡と軸線がほぼ同じであることから8世紀と考えられる。



第321図 第1171号住居跡実測図

第1172号住居跡 (第322図)

位置 調査4区の中央部, J10b6区。

重複関係 南東コーナー部を第821号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.29m, 短軸4.27mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は5～12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅14～18cm、下幅7～10cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に10cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで85cm、両袖部幅78cmである。袖部内側は、火熱を受け赤変している。竈土層断面図中、第3層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み、下面が赤変硬化していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量
- 3 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 灰少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

ピット 6か所(P1～P6)。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し、径35～45cmの円形で、深さ36～63cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し、径28cmの円形で、深さ24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は竈東袖部の東側に位置し、長径98cm、短径85cmの楕円形で、深さ21cmである。位置から竈に関連するピットの可能性が考えられる。

P1～4・P6土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 11 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

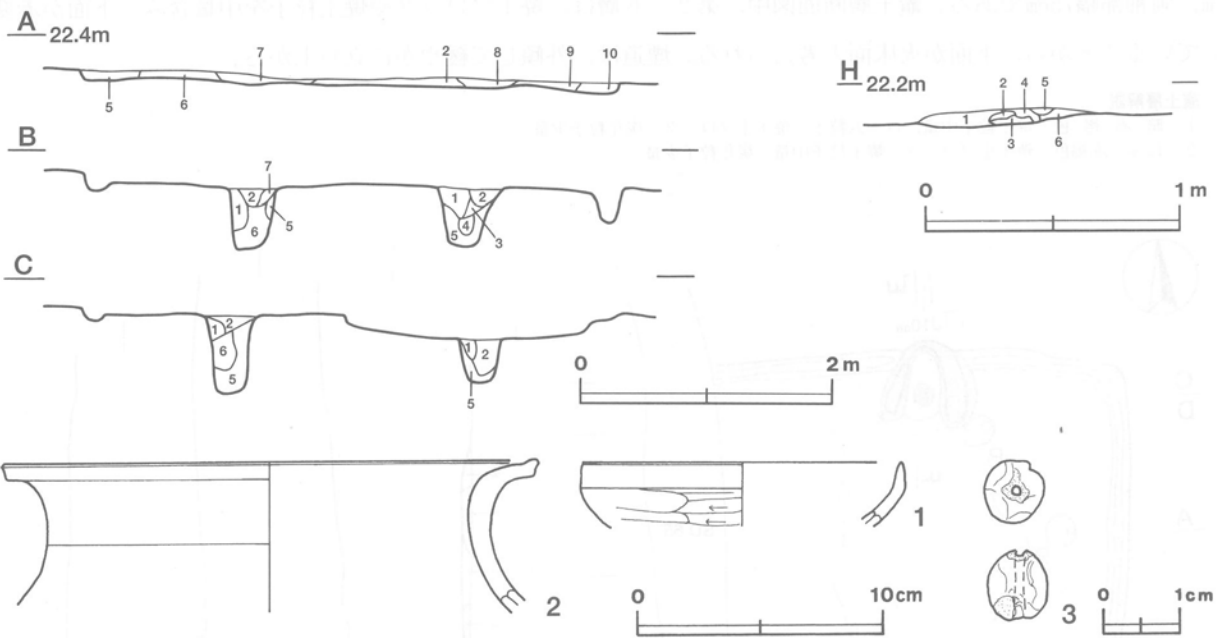
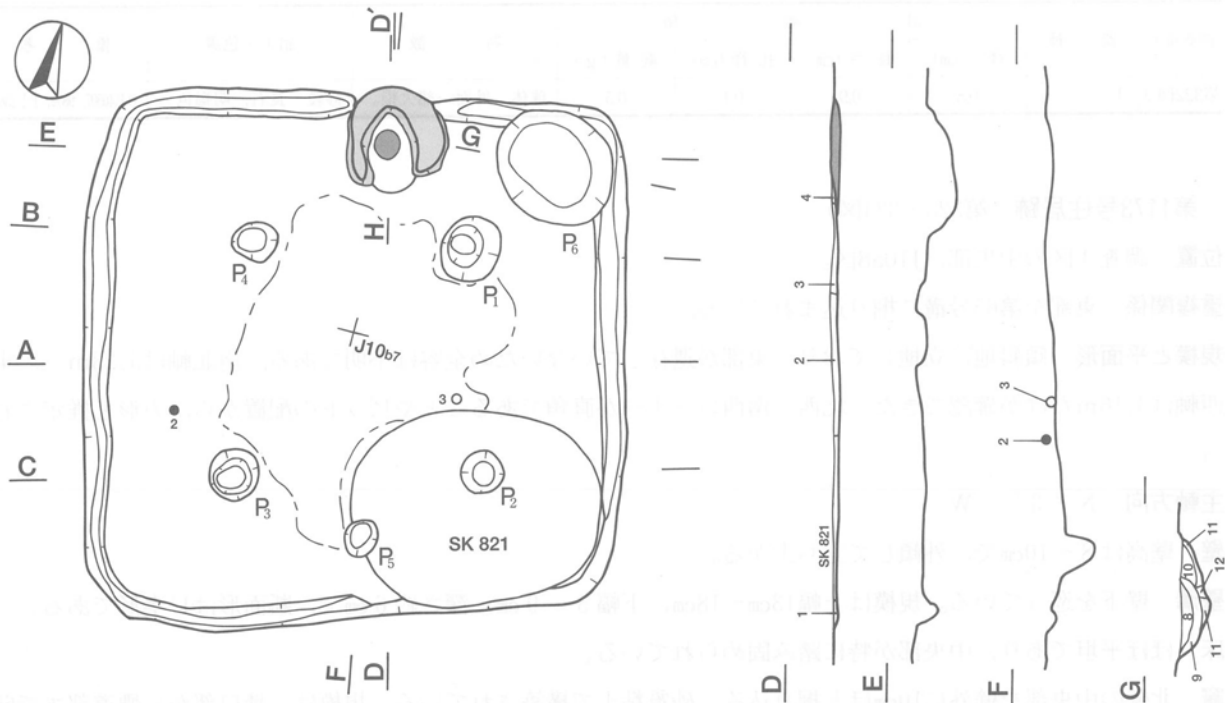
覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片101点、土製品1点(土玉)、須恵器片3点、鉄滓1点が出土している。第322図1の土師器坏片は西部の覆土中から、2の土師器甕片は西部の床面から出土している。3の土玉は、中央部の床面から出土している。鉄滓が出土しているが、鍛冶炉等は検出されなかった。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。覆土中から出土した1の土師器坏は7世紀前半と考えられるが、埋没途中で混入したものと考えられる。



第322図 第1172号住居跡・出土遺物実測図

第1172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 1	坏 土師器	A [12.8] B (2.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P 40618 5%
2	甕 土師器	A [21.2] B (6.0)	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反気味に開き、端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色、普通	P 40619 5% P L 235

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第322図3	土玉	0.8	0.9	0.1	0.5	球体, 外面一部欠損。	砂粒・長石, 明褐色	DP40507, 98%, PL236

第1173号住居跡 (第323・324図)

位置 調査4区の中央部, J10a8区。

重複関係 東部を第65号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており, 東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.23mで, 東西軸は3.16mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの配置から, 方形と推定される。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は8~10cmで, 外傾して立ち上がる。

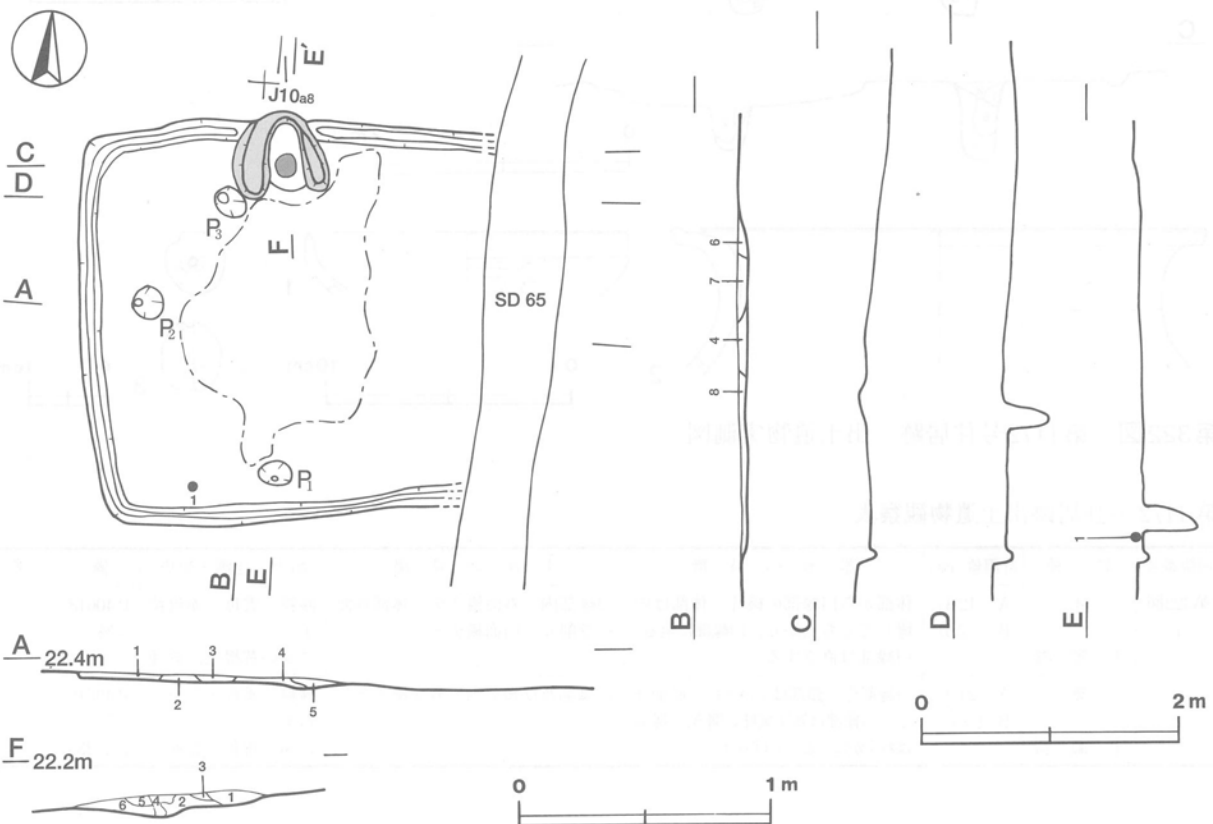
壁溝 壁下を巡っている。規模は上幅13cm~18cm, 下幅5~9cm, 深さ約6cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に10cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで65cm, 両袖部幅75cmである。竈土層断面図中, 第2・6層は, 焼土ブロックや焼土粒子を中量含み, 下面が赤変していることから, 下面が火床面と考えられる。煙道は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量



第323図 第1173号住居跡実測図

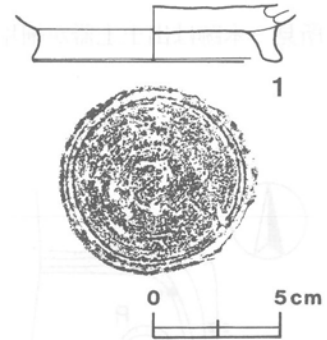
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・砂粒中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は南壁際の中央部に位置し, 長径25cm, 短径20cmの楕円形で, 深さ45cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は, それぞれ径25cm・20cmの円形で, 深さ40cm・35cmである。性格は不明である。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第324図 第1173号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片35点, 須恵器片2点が出土している。第324図1の須恵器高台付坏底部片は, 南西部の床面から出土している。

所見 本跡は, 出土土器が少なく時期を限定することは難しいが, 出土した土器の形状から8世紀と考えられる。

第1173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 1	高台付坏 土師器	B (2.1) D [9.6] E 1.3	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色, 普通	P 40620 5% P L 235

第1176号住居跡 (第325図)

位置 調査4区の中央部, I10h9区。

重複関係 中央部から東部を第12号溝に, 南部を第943号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 第12号溝に掘り込まれているため全容は不明である。南北軸は3.93mで, 東西軸は1.40mだけが確認できた。北西, 南西コーナー部が直角であることから, 方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は9~17cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を巡っている。規模は上幅18~30cm, 下幅6~13cm, 深さ約6cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2はそれぞれ北西コーナー・南西コーナーからやや中央部寄りに位置し, 径38cm・43cmの円形で, 深さ18cm・21cmである。規模と位置から支柱穴と考えられる。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

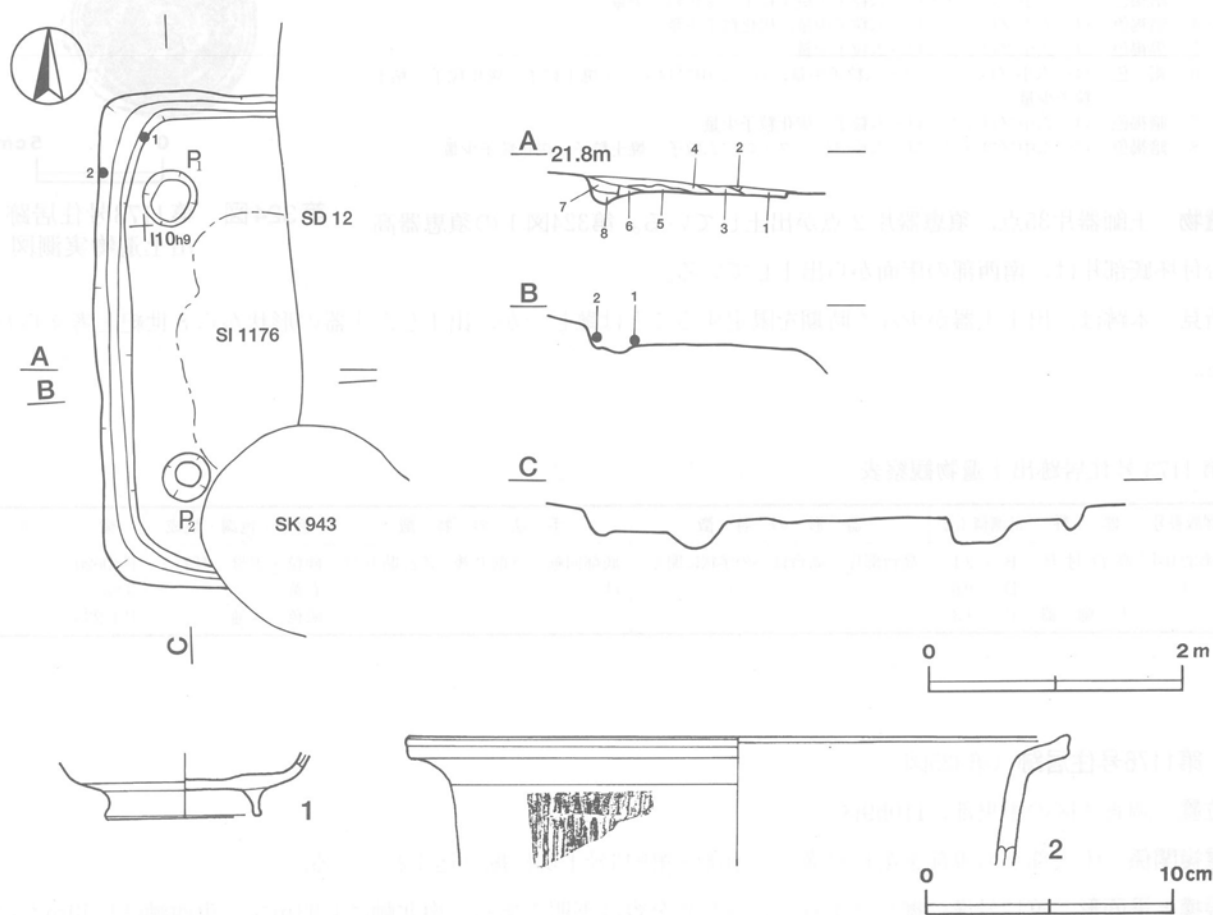
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片64点, 須恵器片13点が出土している。第325図1の須恵器高台付坏の底部片は, 北西コーナー部の床面から出土している。2の須恵器鉢の口縁部片は, 西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡は出土土器が細片で時期を断定することはできないが, 出土した土器の形状から9世紀と考えられる。



第325図 第1176号住居跡・出土遺物実測図

第1176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第325図 1	高台付坏	B (2.6) D 5.9	高台部から体部下端の破片。高台はハの字状に開き, 体部は外傾して立ち上がる。	体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色, 普通	P 40621 5% P L 235
	須恵器	E 1.2				
2	鉢	A [26.0] B (5.2)	体部上端から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部で屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き, 内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色, 普通	P 40622 5%

第1461号住居跡 (第326・327図)

位置 調査4区の北部, H10j4区。第1462号住居跡から北へ4.5mの距離に位置する。

規模と平面形 長軸4.43m, 短軸4.34mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

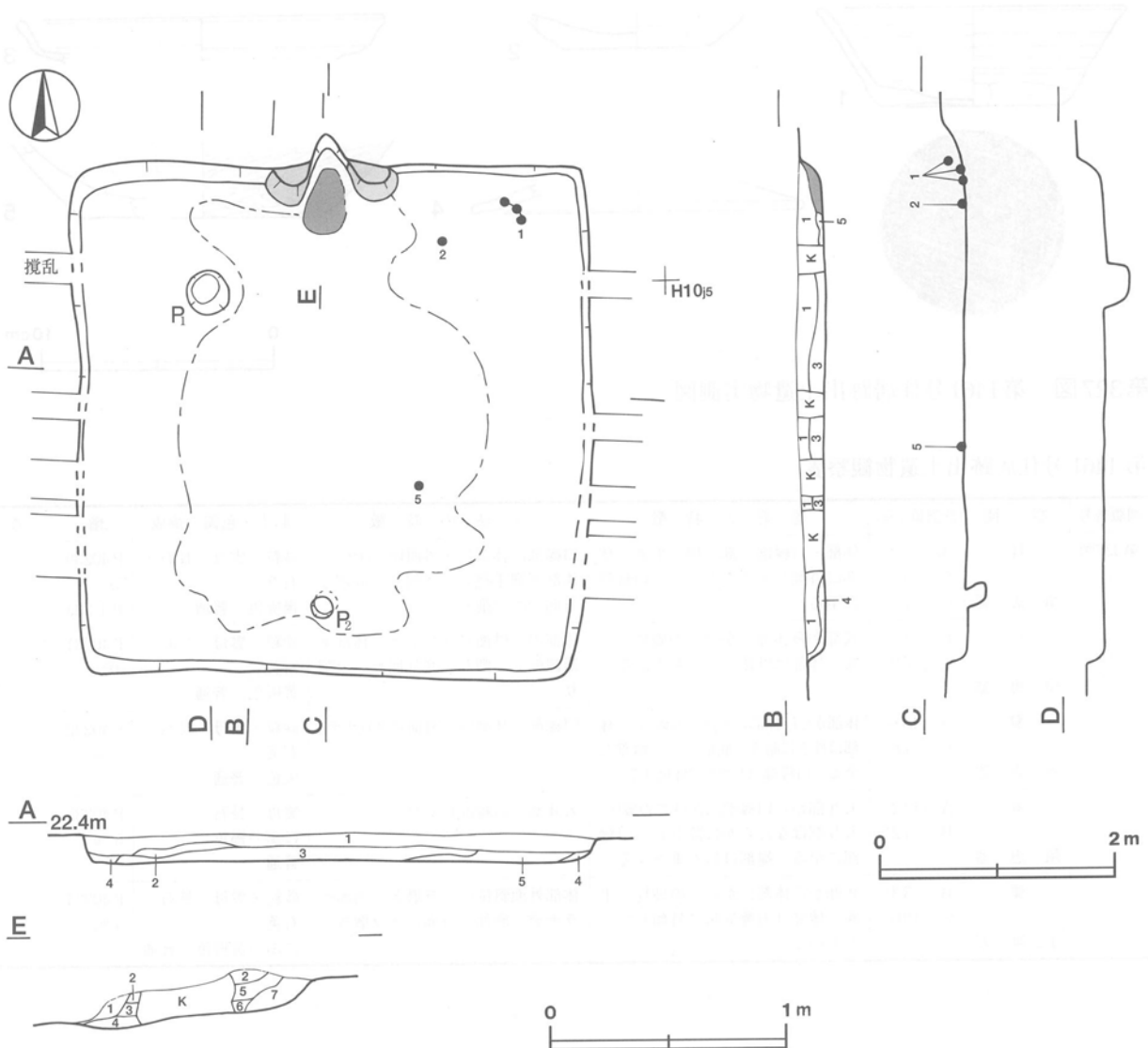
壁 壁高は16~23cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に33cm掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ75cm, 両袖部幅116cmである。天井部は崩落している。火床面は, 床面と同じ高さの平坦面を使用しており, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道は, 火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 極暗赤褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量



第326図 第1461号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径36cmのほぼ円形、深さ21cmで、北西コーナー寄りに位置している。性格は不明である。P2は、径18cmの円形、深さ15cmで、南壁中央部の壁際に位置している。中央部に向かって斜めに掘り込まれており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

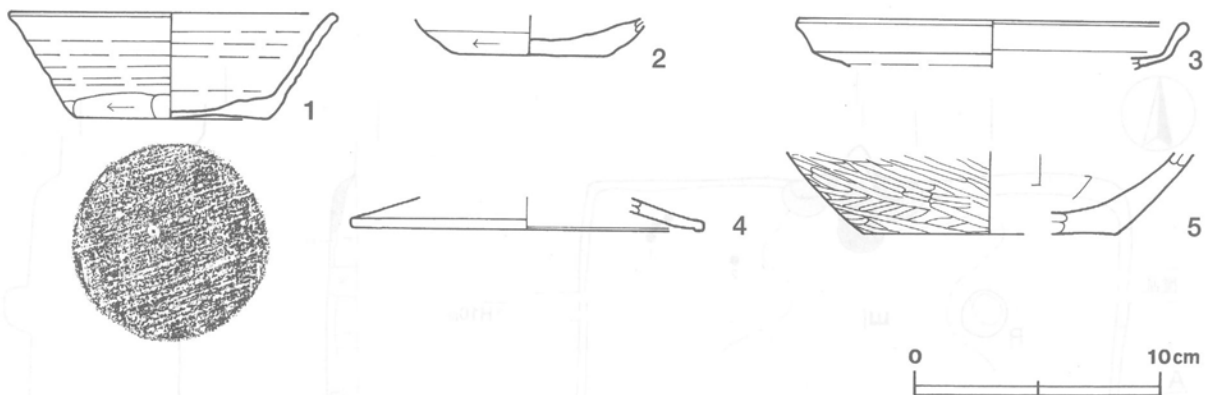
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物 土師器片198点、須恵器片29点が出土している。第327図1の須恵器坏は、北東コーナー部の床面から出土した破片7点が接合したものである。2の須恵器坏片は、北東コーナー寄りの床面から出土している。3の須恵器盤片と4の須恵器蓋片は、いずれも竈の覆土中から出土している。5の土師器甕片は、中央部の床面から出土している。いずれも、出土位置から、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉と考えられる。



第327図 第1461号住居跡出土遺物実測図

第1461号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第327図 1	須恵器 坏	A 12.9 B 4.2 C 7.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐灰色、普通	P40230 75% P L 235
2	須恵器 坏	B (1.6) C [6.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40231 10%
3	須恵器 盤	A [15.6] B (1.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外方に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P40232 5%
4	須恵器 蓋	A [14.2] B (1.2)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はなだらかに降下し、口縁部に至る。端部は短く垂下する。	天井部、口縁部ロクロナデ。	雲母・長石 にぶい褐色 普通	P40233 5%
5	土師器 甕	B (3.3) C [10.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。底部1方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色、普通	P40234 5%

第1462号住居跡 (第328図)

位置 調査4区の北部, I10b3区。第1461号住居跡から南へ4.5mの距離に位置する。

規模と平面形 床面が露出した状態で検出され、壁の立ち上がりを確認できなかったため、床面の広がりや竈の位置、壁溝から規模を推定した。長軸4.47m、短軸3.76mの長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

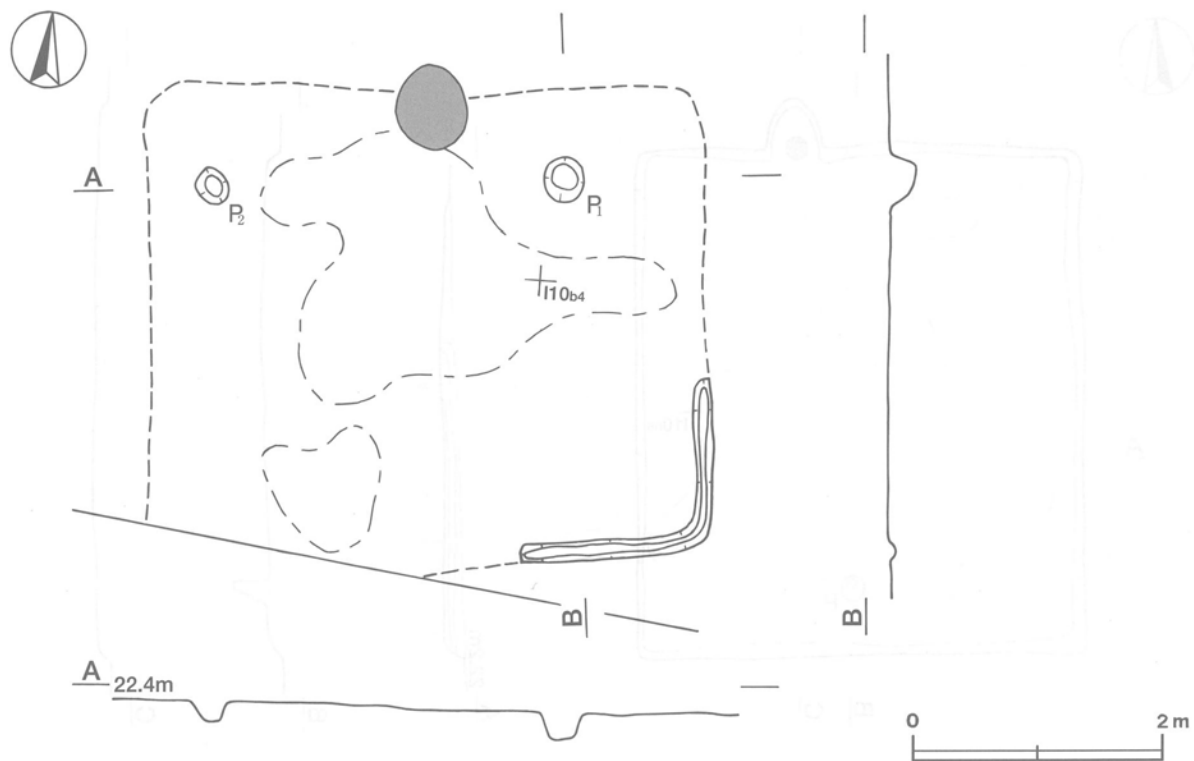
壁溝 南東コーナー部で検出された。上幅12cm、下幅6cm、深さ5cmで、断面はU字形である。

竈 遺存状態が悪く、北壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。火床面は、長径方向を住居の主軸と同じくする長径67cm、短径58cmの楕円形で、火熱を受けて赤変している。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径33cmの円形、深さ22cmで、P2は径26cmの円形、深さ17cmである。それぞれ北東コーナー寄り・北西コーナー寄りに位置していることから、支柱穴の可能性はある。

遺物 土師器細片21点が出土している。出土した土器片はいずれも甕・甔類の体部片であり、時期を判断できるものは出土していない。

所見 時期は、第1461号住居跡と住居の主軸方向や規模が近似することから、8世紀代と考えられる。



第328図 第1462号住居跡実測図

第1464号住居跡 (第329図)

位置 調査4区の北部, I10a5区。

規模と平面形 長軸4.02m、短軸3.62mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は4~6cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の東寄りを壁外に39cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。天井部や袖部は遺存していない。規模は、焚口部から煙道部までの長さ58cm、壁外に掘り込んだ部分の燃焼部幅46cmである。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 1か所。P1は、径18cmのほぼ円形で、深さ30cmである。南壁中央部の壁際に位置することから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

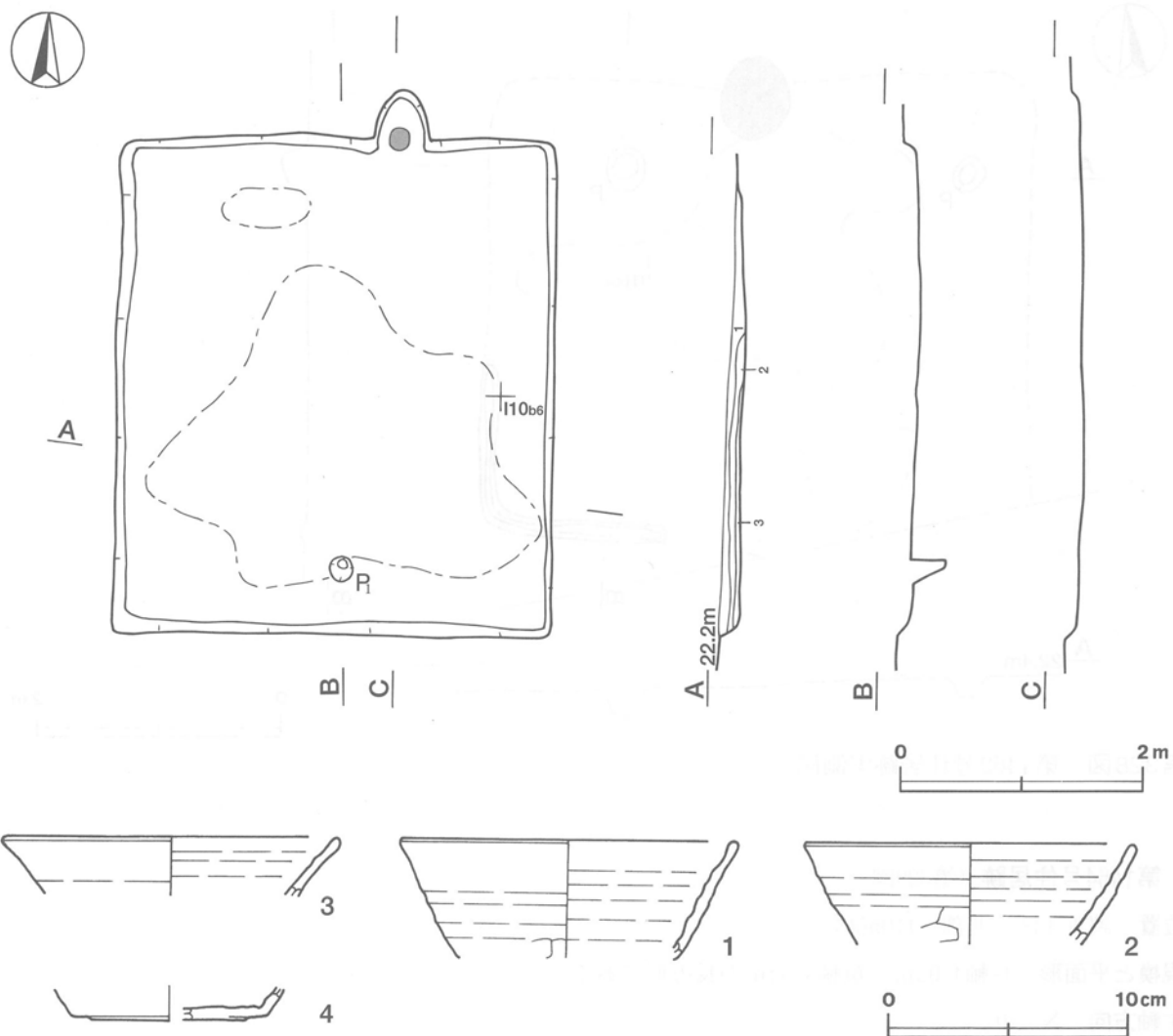
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片137点、須恵器片25点、攪乱により混入した陶器片3点が出土している。第329図1の須恵器坏片は南東部の覆土中から、2の須恵器坏片は南西部の覆土中から、3の須恵器坏片は北西部の覆土中から、4の須恵器坏片は南東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉ないし9世紀前葉と考えられる。



第329図 第1464号住居跡・出土遺物実測図

第 1464 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第329図 1	坏	A [13.8]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 黄灰色，普通	P 40238 5%
	須恵器	B (4.8)				
2	坏	A [13.6]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英，黄灰色，普通	P 40239 5%
	須恵器	B (4.1)				
3	坏	A [13.7]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英，にぶい黄橙色 焼成不明	P 40240 5% 二次焼成
	須恵器	B (2.4)				
4	坏	B (1.3)	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部不 定方向のヘラ削り。	雲母・長石・石英 黄灰色，普通	P 40241 5%
	須恵器	C [4.0]				

表 3 4 区住居跡一覧表

住居跡 番 号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 (m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)	
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴				
20	K10c0	N-21°-W	長方形	6.58×6.12	20~45	平坦	全周	1	3	-	竈1	-	自然	土師器(坏・碗・高坏・ 甕・甔)，支脚	本跡→SI21→SI22 →SI23	
21	K11c1	N-34°-W	長方形	[6.43]×[5.02]	-	平坦	-	-	2	1	竈1	-	自然	土師器(坏)	SI20→本跡→SI22・ 23	
22	K11c1	N-35°-W	長方形	6.43×5.02	34~45	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏・甕・甔)	SI20→本跡→SI23	
23	K11b1	N-14°-W	方形	4.16×3.92	54	平坦	全周	-	4	-	竈1	-	人為	須恵器(短頸壺)，土 師器(甕)	SI20→SI21・22→ 本跡	
29	K10h6	N-32°-W	[方形・ 長方形]	6.85×4.90	9~22	平坦	全周	-	3	1	-	-	自然	土師器(坏)	本跡→SI1013・ 1014	
129	I10a9	N-2°-E	長方形	[5.01]×(1.46)	48~55	平坦	一部	-	2	-	竈1	-	自然	須恵器(坏)，土師器 (甕)，砥石	SI130→本跡→ SD60	
130	I10a0	N-18°-W	[方形]	(4.56)×5.93	14~30	平坦	一部	1	3	-	竈1	-	人為	土師器(坏)，須恵器 (甕)，砥石	本跡→SI29・1122・ SD60	
407	J11g4	N-6°-W	方形	6.28×6.24	54	平坦	全周	-	4	1	-	-	-	-	土師器(坏)	
954	J9h6	N-93°-E	方形	4.73×3.29	20~29	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・高台付坏)	本跡→SI956・ SK758	
955	J9g6	N-25°-E	[長方形]	(2.63)×(2.00)	16~24	平坦	-	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(高台付坏)	SI956・977→本跡	
956	J9g5	N-2°-W	方形	6.72×6.27	15~45	平坦	全周	4	4	2	竈1	1	人為	土師器(坏・鉢・碗・ 高坏・甕・甔)，白玉	SI995→本跡→SI954・ 965・977・978・SK758	
957	J9i1	N-13°-W	長方形	6.38×5.70	28~32	平坦	全周	-	4	2	竈1	-	人為	土師器(坏)，須恵器(長頸 瓶・平瓶)，鉄錐，紡錘車		
958	J9j3	N-9°-W	方形	5.09×4.78	18~25	平坦	全周	-	4	2	竈1	-	人為	土師器(甕)		
959	J8j9	N-13°-W	[長方形]	(3.50)×3.22	10~27	平坦	全周	9	-	-	-	-	人為	土師器片，土玉，球状 土錐，薺羽口片	SI992・SB54→本跡→ SI960・961・965・SD54	
960	K8a0	N-10°-W	[長方形]	[2.83]×2.55	10~25	平坦	全周	1	-	-	竈1	-	自然	土師器(甕)	SI959・962・SB54→ 本跡→SI961・964・965	
961	K8a9	N-7°-W	[方形・ 長方形]	(3.30)×(1.65)	40~42	平坦	全周	-	2	-	竈1	-	自然	土師器(甕)，鎌	SI959・960→本跡 →SI964・SD54	
963	I9d7	N-11°-W	[方形・ 長方形]	(4.50)×(2.72)	54~66	平坦	[全周]	1	1	-	-	-	自然	土師器(坏)		
964	K8a9	N-5°-W	[方形・ 長方形]	(3.00)×(1.85)	14	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器(坏)	SI960・961→本跡	
965	K8a0	N-103°-E	[長方形]	4.91×3.62	10~25	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	須恵器(坏)	SI959・960・974・ 992・SB54→本跡	
966	K8b0	N-19°-W	[方形・ 長方形]	(2.49)×(1.15)	10~27	平坦	全周	-	1	-	[竈1]	-	自然	土師器(碗)	本跡→SI965	
967	K9b6	N-18°-E	長方形	3.75×3.40	5	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	-	土師器(甕)		
968	J9c4	N-11°-W	方形	9.41×9.35	35~40	平坦	全周	-	4	1	竈1	1	自然	土師器(坏・甕)，支 脚	本跡→SD50・51・ 53・54	
969	K9e5	N-9°-W	長方形	5.45×4.91	8~20	平坦	全周	-	3	1	竈1	1	-	土師器(甕)		
970	J9h2	N-28°-W	長方形	4.33×3.31	26~50	平坦	全周	-	-	3	竈1	-	自然	土師器(坏・高坏・壺・ 甕)	本跡→SI972・ SD60	
971	J9e2	N-18°-W	[方形・ 長方形]	3.43×3.29	40~44	平坦	[全周]	1	1	-	-	-	自然	土師器(坏)	本跡→SD50	
972	J9f2	N-17°-W	長方形	7.62×6.63	20~72	平坦	全周	52	4	2	竈1	-	自然	土師器(坏)，須恵器 (坏蓋)，鋤先，白玉	SI970→本跡→SI973・ SD50・51・54	
973	J9g2	N-11°-W	長方形	4.22×3.72	10~25	平坦	全周	3	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・甕)，土 錐，白玉，炭化種子	SI972→本跡→ SD51・54	
974	J9b1	N-30°-W	方形	5.65×5.23	5~25	平坦	全周	2	4	1	竈1	1	自然	土師器(坏・甕)	本跡→SI966・975・ SK755	
975	J9b2	N-2°-W	方形	3.73×3.42	10~20	平坦	全周	1	-	1	竈1	1	自然	土師器(坏・甕)	SI974→本跡→ SK755	
976	J9g7	N-11°-E	長方形	4.01×3.30	20~25	平坦	一部	3	-	-	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏)，須 恵器(甕)，鉄滓，雲母片岩		
977	J9f6	N-14°-E	長方形	3.16×2.82	18~22	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・高台付坏・ 皿・ミニチュア土器)	SI965・995→本跡 →SI955	
978	J9h4	N-15°-W	方形	3.86×3.65	25~45	平坦	一部	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・甕)，須 恵器(坏)，鉄滓	SI956→本跡→ SD62	

住居跡 番号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 (m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ビット	主柱穴	出入口	炬・竈	貯蔵穴			
979	J9c0	N-22°-W	方形	6.14 × 6.00	28~40	平坦	一部	-	4	1	竈2	-	人為	土師器 (環・甕・甌)	SI1018→本跡→SI985・996
980	J10e1	N-20°-W	方形	3.44 × 3.28	23~30	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器 (環)	
981	K9b3	N-16°-W	長方形	5.36 × 4.77	6~10	平坦	一部	-	4	2	竈1	-	自然	土師器 (環・甕), 紡錘車, 鉄鏝	
982	K9c1	N-7°-W	[方形・長方形]	4.14 × (3.56)	12~16	平坦	[全周]	-	1	-	竈1	1	-	土師器 (環), 須恵器 (環・蓋), 支脚	
983	K9d3	N-1°-E	長方形	5.34 × 4.76	12	平坦	[全周]	-	4	1	竈1	-	自然	土師器 (環・甕)	
984	K9c6	N-12°-W	[方形]	[4.75] × (4.55)	14	平坦	一部	-	3	-	竈1	-	-	土師器 (環)	SI990→本跡→SK756・757・759・SD52
985	J10d1	N-11°-E	方形	2.82 × 2.76	24~28	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器 (甕・甌)	SI979→本跡
986	J10i2	N-76°-E	方形	4.20 × 3.90	29~38	平坦	-	-	4	1	[竈]	-	人為	須恵器 (環)	SI987→本跡→SI1005
987	J10h1	N-25°-W	方形	6.20 × 6.10	44	平坦	全周	-	4	2	竈1	1	人為	土師器 (環・高環・壺・甕・手捏), 須恵器 (環), 耳環, 砥石	本跡→SI986・993・994・998・1005
988	K10a2	N-3°-W	[方形・長方形]	4.52 × (3.55)	20~40	平坦	[全周]	7	1	1	竈1	-	人為	土師器 (環・甕), 須恵器 (高台付環)	本跡→SD59
989	K10a1	N-3°-W	長方形	4.18 × 3.86	10~22	平坦	[全周]	-	2	2	[竈]	-	自然	土師器 (環), 炭化材	本跡→SD59
990	K9d7	N-50°-W	[長方形]	[5.50] × 4.90	5~8	平坦	-	2	4	-	-	-	-	土師器 (環・腕・甌)	本跡→SK757・984・SD52・55・56
991	J9g0	N-20°-W	方形	5.86 × 5.84	32~38	平坦	[全周]	2	4	1	竈1	-	自然	土師器 (環・甕)	本跡→SI1017・SD35A
992	J8j0	N-12°-W	[方形・長方形]	3.30 × 0.62	16	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片	SB54→本跡→SI959・960・965
993	J9i0	N-18°-W	方形	4.80 × 4.60	32~38	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	須恵器 (環・蓋), 土師器 (甕)	SI987→本跡
994	J10g2	N-23°-W	方形	3.85 × 3.65	20~38	平坦	全周	1	4	1	竈1	-	自然	土師器 (環・甕)	SI987→本跡
995	J9f6	不 明	[方形・長方形]	[2.10] × [0.34]	4	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	-	-	本跡→SI956・977
996	J9d0	N-6°-E	方形	2.80 × 2.70	16	平坦	-	1	(3)	1	竈1	-	-	土師器 (環), 須恵器 (蓋), 支脚	SI979→本跡
997	J10h4	N-3°-W	方形	6.00 × 5.80	27~45	平坦	全周	0	4	1	竈1	-	人為	須恵器 (環・高台付環・鉢・蓋・甕), 砥石	SI998→本跡
998	J10i3	N-34°-W	方形	4.40 × 4.20	24~30	平坦	[全周]	-	4	1	竈1	-	人為	土師器 (円筒形土器), 土師器片	本跡→SI987・997・999
999	J10i5	N-7°-W	[方形・長方形]	4.72 × 3.20	37~38	平坦	[全周]	-	2	-	竈1	-	人為	土師器 (環・高台付環・甕), 須恵器 (高台付壺・甕), 灰輪軸, 砥石	SI998→本跡
1000	K10e1	N-8°-E	[方形・長方形]	3.55 × 2.15	39~52	平坦	[全周]	10	1	-	竈1	-	自然	土師器片, 須恵器片	SI1006→本跡→SK760
1001	K10g4	N-32°-W	[方形・長方形]	2.10 × 1.30	27	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	自然	土師器 (高環), 支脚片	
1002	K9b0	N-26°-W	方形	9.00 × 8.80	42~64	平坦	[全周]	56	4	2	竈2	1	人為	土師器 (環・鉢・甕), 土玉, 砥石	SI1004→本跡
1003	K9d9	N-6°-E	[方形]	4.00 × (3.70)	16~32	平坦	[全周]	2	4	1	竈1	-	人為	須恵器 (環・蓋), 土師器 (甕)	SI1004→本跡→SD35A
1004	K9c9	N-11°-W	[方形・長方形]	5.20 × 1.60	6~10	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	自然	土師器片	本跡→SI1002・1003
1005	J10i2	N-6°-W	方形	2.47 × 2.43	28	平坦	-	-	4	1	竈1	-	自然	砥石	SI986・987→本跡
1006	K10e1	N-31°-W	[方形・長方形]	3.30 × 3.10	45~52	平坦	[全周]	1	1	-	-	-	自然	土師器片	本跡→SI1000
1007	K10j2	N-23°-W	[長方形]	4.20 × 2.80	14~18	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	土師器 (環)	本跡→SD57
1008	J10f4	N-3°-W	方形	4.90 × 4.90	45	平坦	全周	1	4	1	竈1	-	人為	土師器 (環・甌), 須恵器 (環蓋), 土玉, 刀子	SI1010→本跡
1009	J10e4	N-93°-E	方形	2.70 × 2.50	11~20	平坦	-	-	4	2	竈1	-	人為	土師器 (環・皿), 鉄鏝	SI1010→本跡
1010	J10e3	N-6°-W	方形	9.70 × 9.20	30	平坦	全周	24	4	4	竈1	-	人為	土師器 (環・手捏), 紡錘車, 白玉, 砥石	本跡→SI08・1009・1011
1011	J10d3	N-9°-W	長方形	2.70 × 2.40	6~14	平坦	全周	-	(1)	1	竈1	1	人為	土師器 (環・甕)	SI1010・1012→本跡
1012	J10c2	N-5°-W	方形	7.80 × 7.70	26	平坦	全周	6	4	2	竈1	1	人為	土師器 (環・高環・甕), 紡錘車	本跡→SI1011
1013	K10h6	N-114°-E	方形	3.30 × 3.25	12	平坦	一部	-	4	-	竈1	-	自然	土師器 (腕)	SI29・1014→本跡
1014	K10i6	N-5°-W	[長方形]	4.06 × 3.64	12	平坦	[全周]	-	4	1	竈1	-	人為	須恵器 (高台付盤)	SI29→本跡→SI1013
1016	J9a4	N-121°-E	[方形]	[2.70] × [2.62]		平坦	-	-	4	1	-	-	-	土師器片	本跡→SD50
1017	J9f9	N-8°-E	方形	5.45 × 5.13	12~16	平坦	[全周]	-	3	-	-	-	人為	土師器 (環), 刀子, 白玉	SI991→本跡→SD35A
1018	J9c9	N-6°-W	方形	4.58 × 4.43	14	平坦	[全周]	-	1	-	-	-	人為	土師器片	本跡→SD35A・SI979
1019	K10a7	N-2°-W	[方形・長方形]	4.58 × 2.14	35~38	平坦	-	-	-	1	竈1	-	自然	須恵器 (環・高台付環・蓋・甌), 土師器 (甌)	SI1020→本跡→SK786
1020	J10j8	N-76°-W	長方形	3.05 × 2.50	2~6	-	[全周]	-	-	1	竈1	-	人為	土師器 (環)	本跡→SI101
1021	J11i3	N-2°-E	[長方形]	4.60 × (1.10)	0~21	平坦	一部	-	2	-	-	-	人為	土師器片	
1023	J10a2	N-6°-E	長方形	4.17 × 3.58	-	平坦	[全周]	-	4	2	竈1	-	-	土師器 (甕), 紡錘車	本跡→SD66
1024	I11j2	N-7°-W	[方形]	3.25 × 2.70	6~10	平坦	[一部]	-	4	1	-	-	人為	土師器 (環)	本跡→SK902・904・ビット群1
1027	I10j1	N-3°-E	[方形]	2.86 × 2.66	12~16	平坦	一部	-	3	1	竈1	-	人為	須恵器 (環), 土師器 (甕)	SI1029→本跡→SI1028・SK787・914
1028	J11a2	N-0°	方形	3.50 × 3.40	7~19	平坦	一部	-	3	1	竈1	-	人為	須恵器 (鉢・甕), 土師器片	SI1027・1029→本跡→SK787・910・911・914
1029	J11a2	N-6°-E	方形	4.03 × 3.70	10~12	平坦	-	1	2	1	-	-	人為	土師器 (環・腕)	本跡→SI1028・SK787・911・912・913

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
1030	J10i6	N-22°-W	[方形・長方形]	5.15 × 3.15	24~35	平坦	-	2	-	-	竈1	-	人為	須惠器(坏, 土師器(甕), 支脚, 鉢, 刀子, 鉄鏝)	SI1032→本跡
1031	J10e7	N-39°-E	長方形	4.22 × 3.40	2~8	平坦	-	-	4	-	竈1	-	人為	須惠器(坏), 土師器(甕), 紡錘車	SI1054→本跡→SI1035
1032	J10i6	N-6°-E	[方形・長方形]	3.50 × 3.00	20~42	平坦	[全周]	2	4	-	竈1	-	-	土師器(坏・甕), 鎌	本跡→SI1030・1033
1033	J10i6	N-97°-E	長方形	3.48 × 3.14	23~32	平坦	[全周]	2	3	-	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏・甕)	SI1032・1048→本跡
1034	J9j9	N-22°-W	[方形・長方形]	2.28 × 2.65	31~41	平坦	[全周]	-	2	-	竈1	-	-	土師器(坏・高坏・甕・瓶), 支脚片	本跡→SD35A・59
1035	J10f7	N-8°-W	方形	3.00 × 2.95	15~26	平坦	-	-	4	1	竈1	-	人為	須惠器(坏・鉢)	SI1031・1051・1054→本跡
1037	J11d3	N-5°-W	[方形]	6.00 × 5.60	45~60	平坦	一部	1	4	2	竈1	-	人為	土師器(坏・碗片)	本跡→第11号方形竈穴状遺構・SK934
1039	J10h6	N-12°-W	方形	2.86 × 2.66	40	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	須惠器(坏), 土師器(甕)	SI1047・1048→本跡
1040	J10g6	N-23°-W	方形	6.12 × 5.84	18~31	平坦	[全周]	9	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 刀子, 白玉	SI1044→本跡→SI1047・1054
1042	J10b0	N-15°-W	方形	3.62 × 3.58	25~54	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 釘, 紡錘車	本跡→SK1416
1043	J11c0	N-108°-E	長方形	3.44 × 2.48	8~20	平坦	全周	1	-	-	竈1	-	人為	土師器(高台付坏・皿)	
1044	J10e5	N-1°-W	[方形・長方形]	5.86 × 3.40	12	平坦	一部	-	2	2	-	-	人為	土師器(坏・高坏・甕), 不明确的製品	本跡→SI1040・1045・1051
1045	J10c5	N-5°-W	方形	9.82 × 9.68	6~35	平坦	全周	33	4	2	竈1	1	人為	土師器(坏・高坏・甕), 須惠器(甕), 土玉, 磁石	SI1044→本跡→SI1046・1051・SD66・SK949
1046	J10d6	N-6°-W	方形	3.58 × 3.32	8~27	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・高台付坏・高台付皿), 釘, 紡錘車, 鎌	SI1045・1051→本跡
1047	J10h6	N-9°-W	方形	3.44 × 3.26	6~22	平坦	[全周]	-	-	1	竈1	-	自然	土師器(坏), 支脚,	SI1040・1048・1054→本跡→SI1039
1048	J10h7	N-24°-W	方形	5.70 × 5.52	40	平坦	全周	3	4	1	竈1	-	-	土師器(坏・碗), 鋤先	本跡→SI1033・1039・1047・1066・SA3
1049	J10d9	N-32°-W	方形	6.68 × 6.54	20~45	平坦	一部	3	4	2	竈2	1	人為	土師器(坏・高坏・甕・蓋)・管状土錘 耳環	本跡→SI1053・1059・SK92・1067号方形竈穴状遺構
1051	J10e7	N-8°-W	方形	4.76 × 4.40	13~31	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 須惠器(蓋), 釘, 磁石	SI1044・1045・1067→本跡→SI1035・1046
1052	J11h3	N-2°-W	長方形	4.25 × 3.69	20~36	平坦	全周	2	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 須惠器(坏)	SI407・1080→本跡
1053	J10e9	N-107°-E	[方形]	3.00 × 2.90	12~32	平坦	一部	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・鉢・甕)	SI1049・1059→本跡→SK921
1054	J10g7	N-86°-E	長方形	5.34 × 4.72	22	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(甕)	SI1040・1048→本跡→SI1031・1035・1047
1055	H10e8	N-7°-W	[方形]	4.06 × (3.80)	4~28	平坦	[全周]	-	4	1	[竈1]	-	人為	土師器(坏・甕), 磁石, 炭化米, 炭化種子	本跡→SD60・SK962・963
1056	H10f8	N-7°-W	方形	4.09 × 4.04	16~32	平坦	全周	1	4	1	竈1	-	人為	須惠器(坏・蓋), 土師器(高台付坏), 鉄鏝	SI1119→本跡
1059	J10e0	N-89°-E	[長方形]	4.00 × 3.50	18~35	平坦	一部	3	3	-	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕), 絞具	SI099・1061→本跡→SI1063・1077号方形竈穴状遺構・SK91・965
1060	J10f0	N-2°-W	方形	3.92 × 3.84	35~45	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・蓋・甕・鉢), 土師器(甕), 磁石	SI1061・1076→本跡→第12号方形竈穴状遺構
1061	J10f0	N-0°	方形	5.60 × 5.18	9~41	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・鉢・甕), 紡錘車	SI1061→本跡→SI1069・1060・1075・1076号方形竈穴状遺構・SK91
1062	J10h9	N-8°-W	方形	3.72 × 3.56	50	平坦	全周	8	3	1	竈1	-	人為	須惠器(蓋), 鎌	SI1063→本跡
1063	J10h9	N-4°-W	方形	5.64 × 5.12	16~60	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・高坏・甕), 須惠器(提瓶), 支脚	SI1076→本跡→SI1062・SB60・SE28
1064	J10j0	N-17°-W	方形	5.29 × 5.20	14~40	平坦	全周	4	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕)	本跡→SB59・60
1065	J10i8	N-7°-W	長方形	4.20 × 3.56	25~48	平坦	全周	-	3	1	竈1	-	人為	須惠器(坏・高台付皿・蓋・甕)	SI1066→本跡→SE28
1066	J10i7	N-5°-W	長方形	3.97 × 3.36	6~22	平坦	[全周]	-	-	-	竈1	-	人為	須惠器(坏・甕)	SI1048→本跡→SI1065
1067	J10e8	N-9°-E	方形	3.24 × 2.99	8~27	平坦	全周	-	-	2	竈1	-	人為	土師器(甕)	本跡→SI1051
1068	J11a4	N-4°-E	方形	3.58 × 3.32	44~50	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付皿・蓋), 須惠器(坏・甕), 支脚, 刀子, 紡錘車	
1069	J11b2	N-4°-W	方形	3.05 × 2.94	30~34	平坦	全周	-	-	1	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏・高台付皿・甕), 須惠器(坏・甕), 刀子	SI23→本跡
1070	J11j2	N-8°-E	長方形	3.05 × 2.58	20~28	平坦	-	-	-	1	竈1	-	人為	土師器(坏・皿・高台付坏・甕), 刀子, 鉄鏝	
1071	J10h0	N-85°-E	方形	2.68 × 2.60	16~23	平坦	[全周]	-	-	-	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・甕)	SI1075・1078→本跡→SK967
1072	J11a1	N-79°-E	長方形	3.35 × 2.95	11~26	平坦	[全周]	2	1	-	竈1	-	人為	須惠器(蓋), 土師器(甕)	本跡→SI1073
1073	J11a1	N-1°-E	方形	4.13 × 3.92	20~26	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	須惠器(坏・高台付坏・高盖・提瓶・甕・瓶), 土師器(甕), 刀子	SB59→本跡
1074	J11i1	N-7°-W	方形	3.62 × 3.32	26	平坦	全周	-	-	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕・瓶), 刀子	SI1078→本跡→SB59・60
1075	J11g1	N-17°-W	方形	4.68 × 4.60	36	平坦	[全周]	15	4	2	竈1	-	人為	須惠器(坏・蓋), 土師器(甕), 紡錘車	SI1061・1076・1078→本跡→SI1071・1077
1076	J10g0	N-8°-W	[方形・長方形]	5.71 × 5.66	26	平坦	[全周]	-	3	1	-	-	人為	土師器(坏・高坏・甕)	本跡→SI1060・1061・1063・1075
1077	J11g2	N-22°-E	長方形	3.82 × 3.38	16~32	平坦	全周	1	-	1	竈1	-	人為	須惠器(坏・甕・蓋), 土師器(甕), 紡錘, 鉄鏝, 紡錘車	SI1075・1080→本跡
1078	J11h1	N-2°-W	方形	5.08 × 4.78	47	平坦	全周	9	4	2	竈1	-	人為	土師器(坏・高坏・甕), 須惠器(蓋), 土玉	本跡→SI1071・1074・1075・SK967・SB59・60
1079	J11h2	N-15°-W	方形	3.78 × 3.48	12~22	平坦	[全周]	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏), 須惠器(蓋・長頸瓶), 刀子, 鉄鏝, 鉈尾, 磁石, 炭化種子	SI1080→本跡
1080	J11h2	N-6°-W	方形	6.50 × 6.20	58	平坦	全周	4	4	2	竈1	-	人為	土師器(坏・高坏・甕・鉢), 須惠器(坏・甕), 土玉, 磁石, 炭化種子	本跡→SI1052・1077・1079
1100	H11d7	N-88°-E	方形	2.68 × 2.53	12~14	平坦	-	2	1	1	竈1	-	自然	土師器(坏・高台付坏)	SI1101・1102→本跡
1101	H11e8	N-91°-E	長方形	4.15 × 2.86	15~23	平坦	一部	1	1	-	竈1	-	自然	須惠器(坏), 土師器(高台付坏・甕), 紡錘車, 鉄鏝	SI1102→本跡→SI1100

住居跡 番 号	位 置	主軸方向	平面形	規 模 (m) (長軸×短軸)	壁 高 (cm)	床 面	内 部 施 設					覆 土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)	
							壁溝	ビット	主柱穴	出入口	炉・竈				貯蔵穴
1102	H11d7	N-3°-E	方形	5.33 × 4.93	48~50	平坦	全周	-	4	-	竈2	-	自然	土師器(坏・甕), 須 惠器(蓋), 鉄鏡, 白玉	SI1103→本跡→ SI1100・1101
1103	H11b7	N-8°-E	[方形・ 長方形]	8.66 × (4.55)	38~48	平坦	[全周]	2	2	2	-	-	自然	土師器(坏・甕), 管 玉, 紡錘車	本跡→SI1102
1104	H11e4	N-1°-E	方形	3.43 × 3.28	36~48	平坦	全周	1	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏・高台付坏・ 鉢), 鉄鏡	SK931→本跡
1106	H11c9	N-10°-W	[長方形]	(2.79) × (2.53)	23~30	平坦	[全周]	-	2	-	-	-	人為	土師器(坏)	本跡→SK721
1107	H11i0	N-7°-W	[方形]	[4.18] × 4.10	6	平坦	-	1	-	-	竈1	-	自然	須惠器(坏)	本跡→SK814・815・ 816
1108	H11f0	N-2°-E	長方形	(5.46) × 4.93	9~12	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏)	本跡→SI1111
1109	H11h7	N-93°-E	方形	3.46 × 3.21	8~18	平坦	-	4	-	-	竈1	-	自然	土師器(皿・高台付坏・ 甕)	本跡→SK804・810・ 811・813・828
1110	H11j2	N-12°-W	方形	6.46 × 6.32	49~53	平坦	全周	1	4	1	竈1	1	自然	土師器(坏・高台付坏・甕), 須 惠器(内蓋・底皿), 土玉, 白土, 磁石	本跡→本跡→
1111	H12f1	N-10°-E	[方形・ 長方形]	5.04 × (2.06)	20~22	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏)	SI1108→本跡
1112	I11a1	N-2°-E	長方形	[4.66] × 3.29	15~26	平坦	-	1	-	-	竈1	-	自然	須惠器(坏・盤), 斧	SI130→本跡
1113	H11e9	N-0°	長方形	3.60 × 3.25	36~42	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	須惠器(坏)	
1114	I12a1	N-5°-W	[方形・ 長方形]	3.27 × (2.56)	5	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	須惠器(坏)	
1115	H11o5	N-10°-W	方形	4.83 × 4.77	43~77	平坦	全周	-	4	1	-	1	自然	土師器(坏・甕・飯), 鉄鏡, 鉄斧	本跡→SK737
1116	H10b5	N-1°-W	[方形・ 長方形]	4.48 × (2.28)	4~7	平坦	[全周]	1	2	1	-	-	自然	土師器片	SI1122→本跡
1119	H10g8	N-19°-W	方形	3.84 × 3.68	40~60	平坦	[全周]	-	3	1	竈1	1	自然	土師器(坏・高坏), 刀子	本跡→SI1056・ 1144
1120	H10f4	N-7°-E	長方形	4.15 × 3.70	-	平坦	全周	-	4	1	竈1	1	-	須惠器(坏・蓋)	
1121	H10d4	N-23°-W	方形	6.00 × 5.49	12~19	平坦	全周	-	4	1	竈1	1	人為	土師器(坏・碗・手捏), 支脚	
1122	H10c6	N-6°-E	方形	8.70 × 8.34	28~42	平坦	全周	3	4	2	竈1	-	自然	土師器(坏・碗・鉢・蓋・ 甕), 土玉, 鉄鏡, 磁石	本跡→SI1116・ 1123・1124・1125
1123	H10b7	N-4°-E	方形	3.90 × 3.70	18~24	平坦	全周	1	-	1	竈1	-	自然	土師器(坏・碗・高坏・ 甕), 紡錘車	SI1122→本跡→ SI1124・1125
1124	H10c7	N-94°-E	長方形	2.67 × 1.60	5~15	平坦	-	2	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏・皿)	SI1122・1123→ 本跡→SI1125
1125	H10c8	N-110°-E	方形	3.40 × 3.15	8~18	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏・甕)	SI1123・1124→ 本跡
1126	H10e0	N-12°-E	[方形・ 長方形]	[3.05] × [2.70]	5	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器(坏・皿・甕)	SI1127→本跡→ SD60
1127	H10c9	N-95°-E	方形	3.45 × 3.30	26~31	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏)	本跡→SI1126・ SD60
1128	H10d0	N-100°-E	長方形	4.13 × 3.25	8~16	平坦	[全周]	-	-	-	竈1	-	人為	土師器(坏・皿・甕)	本跡→SI1130
1129	H10e2	N-13°-E	[長方形]	[4.47] × [3.87]	-	平坦	-	1	-	1	竈1	-	-	-	-
1130	H10e9	N-25°-E	[長方形]	[4.26] × [3.55]	-	平坦	-	-	-	-	竈1	-	-	土師器(皿・甕)	SI1128・1133→ 本跡→SD60・SK743
1131	H10h5	N-2°-E	方形	3.71 × 3.65	6~20	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(甕)	SI1139→本跡→ SI1136
1133	H10f9	N-16°-W	[方形・ 長方形]	3.34 × (1.94)	25~35	平坦	[全周]	-	-	-	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 紡 錘車	本跡→SI1130・1134・ 1141・SB58・SD60
1134	H10f0	N-26°-W	方形	4.98 × 4.89	18~59	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・鉢・甕・ 甕), 紡錘車	SI1133→本跡→SI1135・ 1141・1144・SB58
1135	H10f0	N-13°-E	[長方形]	[3.30] × 2.94	12~22	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(高台付坏・皿), 須惠器(坏), 磁石	SI1134・1144→ 本跡
1136	H10g6	N-1°-E	方形	3.10 × 3.10	10~16	平坦	全周	-	-	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・盤), 土 師器(甕)	SI1131・1139→ 本跡→SK726
1138	H10g5	N-83°-E	方形	2.50 × 2.50	-	平坦	全周	1	-	-	竈1	-	-	土師器(皿)	SI1139→本跡
1139	H10h5	N-7°-W	方形	8.50 × 8.40	10~12	平坦	全周	2	4	2	竈1	1	自然	土師器(坏・甕)	本跡→SI1131・1136・1138・ SK725・726・745
1140	H10h8	N-0°	方形	4.20 × 4.12	28~52	平坦	一部	-	-	1	竈1	-	人為	須惠器(坏・高台付坏・鉢), 土 師器(甕), 刀子, 鉄鏡, 炭化材	SI1142・1144・ 1147→本跡
1141	H10f0	N-95°-E	[方形]	3.82 × [3.54]	6	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(坏) 須惠器(坏・甕), 有孔円盤, 鉄鏡, 刀子	SI1133・1134→ 本跡
1142	H10i9	N-24°-W	[長方形]	[3.90] × 3.20	7	平坦	[一部]	-	-	-	竈1	-	自然	鉄鏡	SI1144・1155→本跡→ SI1140・第23号地下式藏
1143	H11g1	N-66°-E	[方形]	[3.10] × [3.10]	-	平坦	-	-	-	-	竈1	-	-	土師器(坏・高台付坏)	SB58→本跡
1144	H10h9	N-8°-W	長方形	6.05 × 5.70	28~72	平坦	全周	2	4	2	竈1	-	自然	土師器(坏・甕), 須惠器(坏・高 台付坏・蓋・円皿), 支脚	SI1119・1134→本跡→SI1135・ 1140・1142・SB58・SK747
1145	H11d1	N-3°-W	方形	8.60 × 8.50	56~80	平坦	全周	-	4	2	竈1	1	自然	土師器(坏・碗・甕・ 甕), 須惠器(提瓶)	
1146	H11d3	N-87°-E	長方形	5.70 × 3.80	10~16	平坦	-	-	4	-	竈1	-	人為	土師器(坏・高台付坏・皿・高 台付坏・甕・飯), 鉄鏡, 刀子	本跡→SK727
1147	H10i7	N-2°-E	方形	4.72 × 4.48	30~52	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・蓋), 土 師器(甕), 刀子	SI1465→本跡→ SI1140・1149
1148	H10j8	N-81°-E	方形	3.20 × 2.90	20~54	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(高台付坏・甕), 鉄鏡	SI1160→本跡→ SI1156・SK1415
1149	H10j8	N-6°-W	方形	3.20 × 3.16	40~78	平坦	全周	-	-	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・甕), 土 師器(甕), 丸納	SI1147→本跡→ SI1160・SK1415
1151	H10j0	N-7°-W	方形	3.40 × 3.16	16~24	平坦	一部	-	-	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・高台付坏・蓋), 土師器(甕), 球状土錘	SI1153・1155→本跡 →第22号地下式藏
1152	H11i1	N-5°-E	[方形]	3.40 × [3.30]	32~41	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器(甕)	SI1153・1154→ 本跡
1153	H10j0	N-2°-W	長方形	5.02 × 4.25	12~22	平坦	-	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・甕), 須 惠器(坏)	SI1154・1155→ 本跡→SI1151・1152
1154	H10i0	N-12°-W	方形	4.32 × 4.30	10~32	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕・飯・ 手捏)	本跡→SI1152・ 1153

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
1155	H10i9	N-18°-W	方形	5.62 × 5.65	5~24	平坦	全周	1	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏・甕), 鎌	本跡→SI142・1151・1153・1156・敷2号地下式横・SD60
1156	H10j8	N-12°-E	[長方形]	[3.60] × 3.20	12~26	平坦	一部	-	-	1	竈1	1	自然	土師器(坏)	SI148・1155→ 本跡→SD60・SK1415
1157	I10f1	N-7°-E	方形	3.25 × 3.10	15~21	平坦	全周	-	1	1	竈1	-	自然	須惠器(坏), 土師器片	SI1159→本跡
1158	I10g2	N-6°-W	方形	4.10 × 4.00	5~10	平坦	[全周]	-	4	1	竈1	-	人為	須惠器(坏), 土師器(甕)	
1159	I10f2	N-0°	[方形]	7.10 × 6.90	8~22	平坦	全周	7	4	2	竈1	-	人為	土師器(坏・ミニチュア土器), 土製紡錘車, 白玉	
1160	H10j8	N-8°-W	方形	3.08 × 2.98	26~60	平坦	一部	-	-	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・鉢)	SI149→本跡→SI1148・1156・SK1415
1161	H11b3	N-8°-W	[方形・長方形]	4.84 × (0.82)	22~51	平坦	[全周]	-	-	1	-	-	自然	須惠器(坏), 土師器(甕)	
1162	I10f5	N-0°	[方形・長方形]	4.40 × 1.50	5	平坦	-	-	2	1	-	-	-	須惠器(鉢), 砥石	
1163	I10g5	N-26°-W	方形	8.20 × 8.00	10~22	平坦	全周	51	4	2	竈1	1	人為	土師器(坏・高坏・甕・瓶・手捏)	本跡→SB57・SK832・833・SD63
1164	I10j6	N-1°-E	方形	3.10 × 3.00	4	平坦	全周	8	-	1	竈1	-	-	土師器(坏), 須惠器(甕)	SB57→本跡
1165	I10i7	N-12°-W	[方形・長方形]	5.10 × 2.60	7~11	平坦	[全周]	-	-	4	竈1	-	人為	土師器片	本跡→SI1166・SD63
1166	I10h8	N-0°	[方形]	6.75 × 4.50	9~15	平坦	[全周]	5	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 須惠器(坏), 丸玉	SI1165→本跡→SI1167・1168・SK824・826・SD63
1167	I10h8	N-2°-E	[長方形]	4.00 × 3.20	8~10	平坦	一部	-	-	1	竈1	-	-	土師器片	本跡→SI1169
1168	I10j8	N-6°-E	[方形]	3.60 × 2.70	12~18	平坦	全周	3	-	1	竈1	-	自然	須惠器(坏), 土師器片	SI1166→本跡→SK824・SD65
1169	I10g8	N-1°-W	[方形・長方形]	5.70 × 3.90	8~12	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	須惠器(坏・瓶・甕), 土師器(甕)	SI1166・1167・1171→本跡
1170	H12h1	N-5°-W	[方形・長方形]	[4.13] × (2.67)	17~21	平坦	-	-	1	-	-	-	自然	須惠器(坏), 土師器片	
1171	I10g8	N-5°-W	[方形]	3.28 × 2.63	12~17	平坦	[全周]	-	-	1	竈1	-	人為	土師器片, 須惠器片	本跡→SI1169
1172	J10b6	N-10°-W	方形	4.29 × 4.27	5~12	平坦	全周	1	4	1	竈1	-	人為	土師器(坏・甕), 土玉, 鉄滓	本跡→SK821
1173	J10a8	N-3°-W	[方形]	3.23 × 3.16	8~10	平坦	[全周]	2	-	1	竈1	-	人為	須惠器(高台付坏)	本跡→SD65
1176	I10h9	N-0°	[方形・長方形]	3.93 × (1.40)	9~17	平坦	[全周]	-	2	-	-	-	人為	須惠器(高台付坏・鉢)	本跡→SD12・SK943
1456	H9i0	N-10°-E	[方形・長方形]	3.21 × (2.69)	4	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片	本跡→SD12・SK943
1461	H10j4	N-2°-E	方形	4.43 × 4.34	16~23	平坦	-	-	1	1	竈1	-	自然	須惠器(坏・盤・蓋), 土師器(甕)	
1462	I10b3	N-5°-W	[長方形]	[4.47] × [3.76]	-	平坦	一部	-	2	-	竈1	-	-	土師器片(甕・瓶)	
1463	H10j5	N-28°-W	方形	3.38 × 3.14	6~11	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器(坏・甕)	
1464	I10a5	N-0°	長方形	4.02 × 3.62	4~6	平坦	-	-	-	1	竈1	-	自然	須惠器(坏), 土師器片	
1465	H10j6	N-0°	長方形	4.28 × 3.71	12~29	平坦	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器(坏), 須惠器(坏身)	本跡→SI1147

(2) 掘立柱建物跡

① 古墳時代

第53号掘立柱建物跡(第330図)

位置 調査4区の西部, J9g1区。

重複関係 P2・P3が第54号溝に掘り込まれている。

規模 調査区域との境界線上に位置するため, 検出された柱穴はP1~P3の3か所だけである。他の柱穴は調査区域外に存在していると考えられ, 規模は確定できない。南東コーナー部に位置するP2を基準として, 柱間寸法はP1の方向へ2.68m, P3の方向へ2.63mである。柱穴は, 平面形が径80~84cmのほぼ円形で, 深さ84~103cmである。

桁行方向 不明である。P2からP1の方向は, N-21°-Wである。

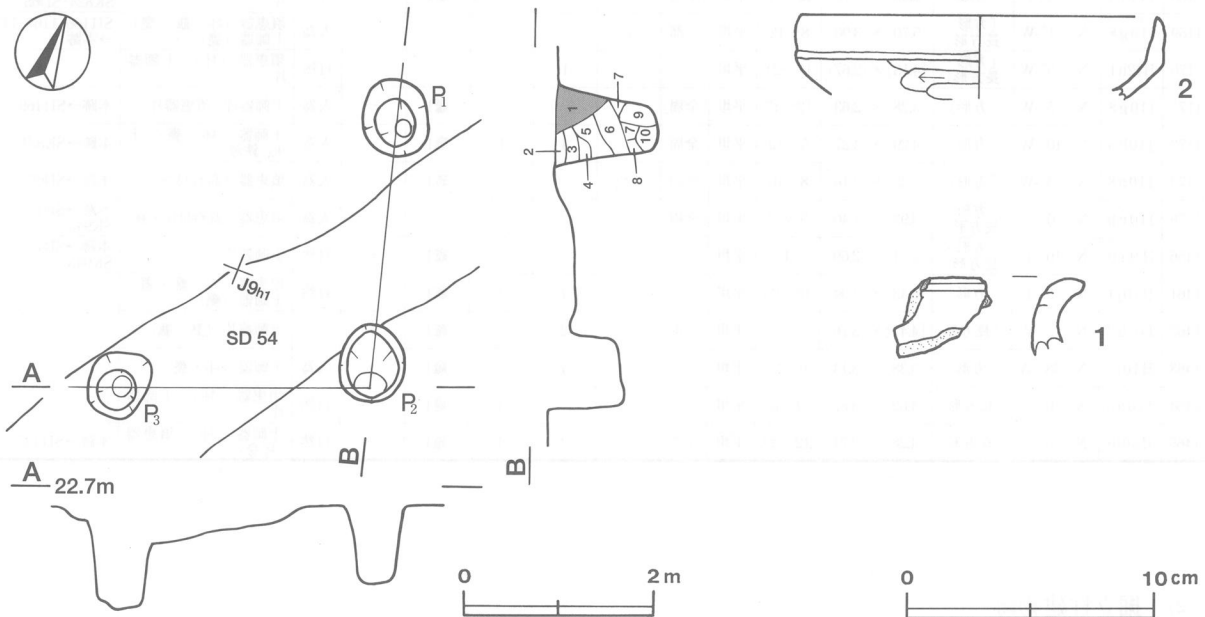
柱穴覆土 P1の土層だけが確認されている。第1層が柱の抜き取り痕, 他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P 1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

遺物 土師器片28点が、P 1～P 3 から出土している。内訳は、P 1 から土師器片 5 点、P 2 から土師器片 9 点、P 3 から土師器片14点である。第330図 1 の土師器甕片はP 1 の、2 の土師器坏片はP 2 の、それぞれ埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器と隣接する古墳時代後期の住居跡の主軸方向と本跡の方向が近似していることから6世紀後半から7世紀代と考えられる。



第330図 第53号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 1	甕 土師器	B 3.1	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石にぶい橙色, 普通	P41411 3% 外面摩滅
2	坏 土師器	A [14.3] B (3.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	石英・雲母にぶい橙色 普通	P41412 5% 外面摩滅

第54号掘立柱建物跡 (第331図)

位置 調査4区の西部, J8j0区。

重複関係 P 3・P 4 が第965号住居に、P 5 が第960号住居に、P 6 が第959号住居に、P 7 が第959号住居・第54号溝に掘り込まれている。

規模 桁行2間，梁行2間の総柱式の建物跡で，桁行長3.97m，梁行長3.95mである。柱間寸法は，桁行1.80～2.10m，梁行1.90～2.10mである。柱穴は，平面形が径37～51cmのほぼ円形で，深さ44～103cmである。

桁行方向 N-9°-W

柱穴覆土 P1の第1・3・4層，P2・P3・P4・P7の第1層，P6・P8の第1・2層，P9の第1・2・5層は比較的しまりも弱いことから柱の抜き取り痕，他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック微量

P2土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

P6土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

P7土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

P8土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

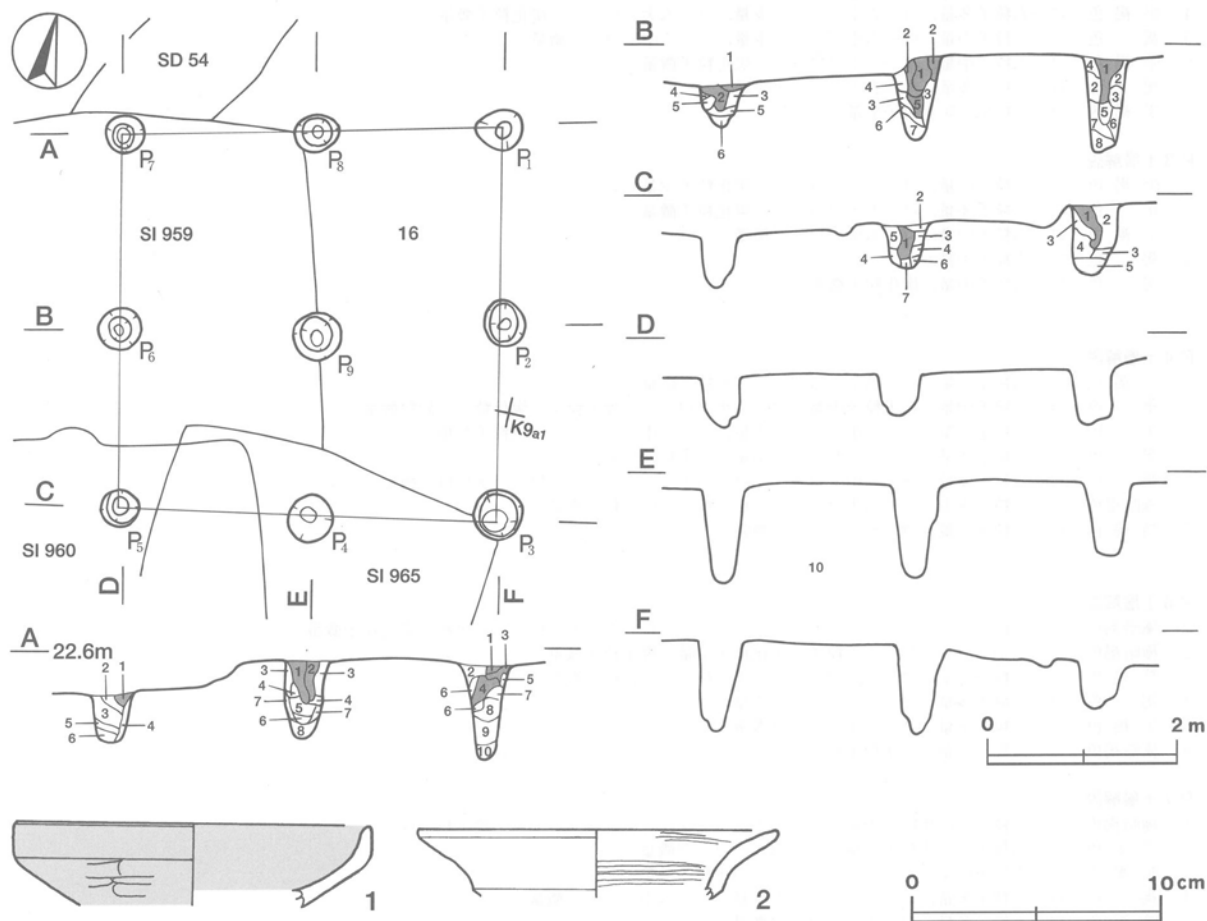
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

P9土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片10点がP1・P2から出土している。内訳はP1から8点, P2から2点で, 柱の抜き取り痕または埋土から出土している。第331図1の土師器坏片と2の土師器高坏片は, とともにP1の柱の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡と規模・形状・桁行方向が類似する掘立柱建物跡として, 第15号掘立柱建物跡(5区)・第120号掘立柱建物跡(8区)が検出されており, いずれも古墳時代後期のものである。本跡の時期は, 出土土器と重複関係から古墳時代後期でも6世紀後葉以前と考えられる。



第331図 第54号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第54号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第331図 1	坏 土師器	A [14.0] B (3.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 灰褐色 普通	P41413 5%
2	高坏 土師器	A [14.4] B (2.7)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横ナデ後、横位のヘラ磨き。外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P41414 5% 外面摩滅

第55号掘立柱建物跡 (第332・333図)

位置 調査4区の西部, J9a6区。第56号掘立柱建物跡の南側に隣接し, 南西へ24mの距離に位置する第57号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P1が第753号土坑に, P9・P16・P17が第53号溝に, P12が第51号溝に, P17が第751号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模 桁行5間, 梁行2間の総柱式の建物跡で, 桁行長12.20m, 梁行長6.20mである。柱間寸法は桁行2.30~2.80m, 梁行2.30~3.65mである。柱穴は, 平面形が長軸(径)0.55~1.65m, 短軸(径)0.50~1.00mの円形・楕円形・隅丸方形または不定形で, 深さ53~90cmである。

桁行方向 N-15°-W

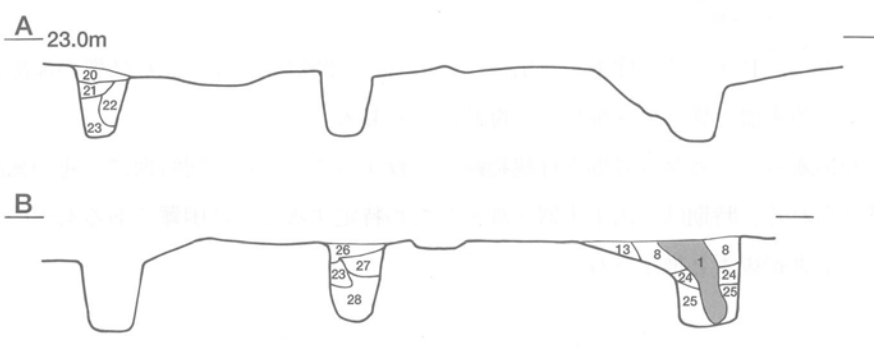
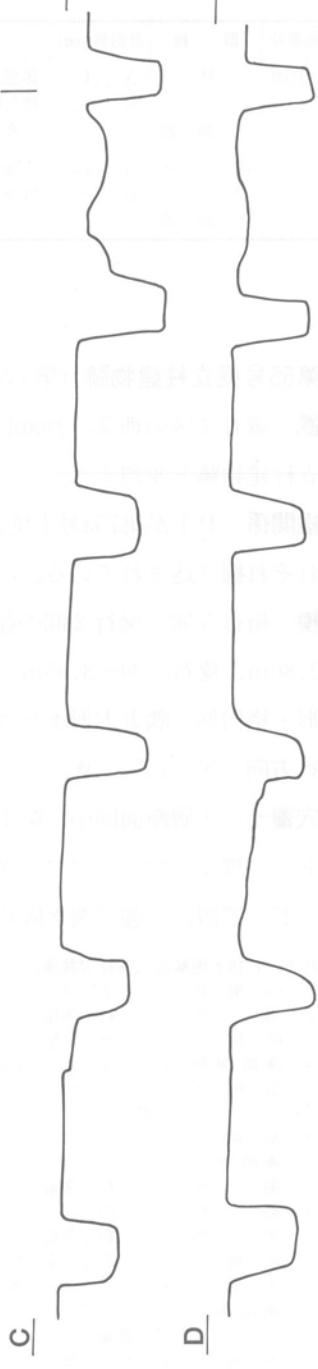
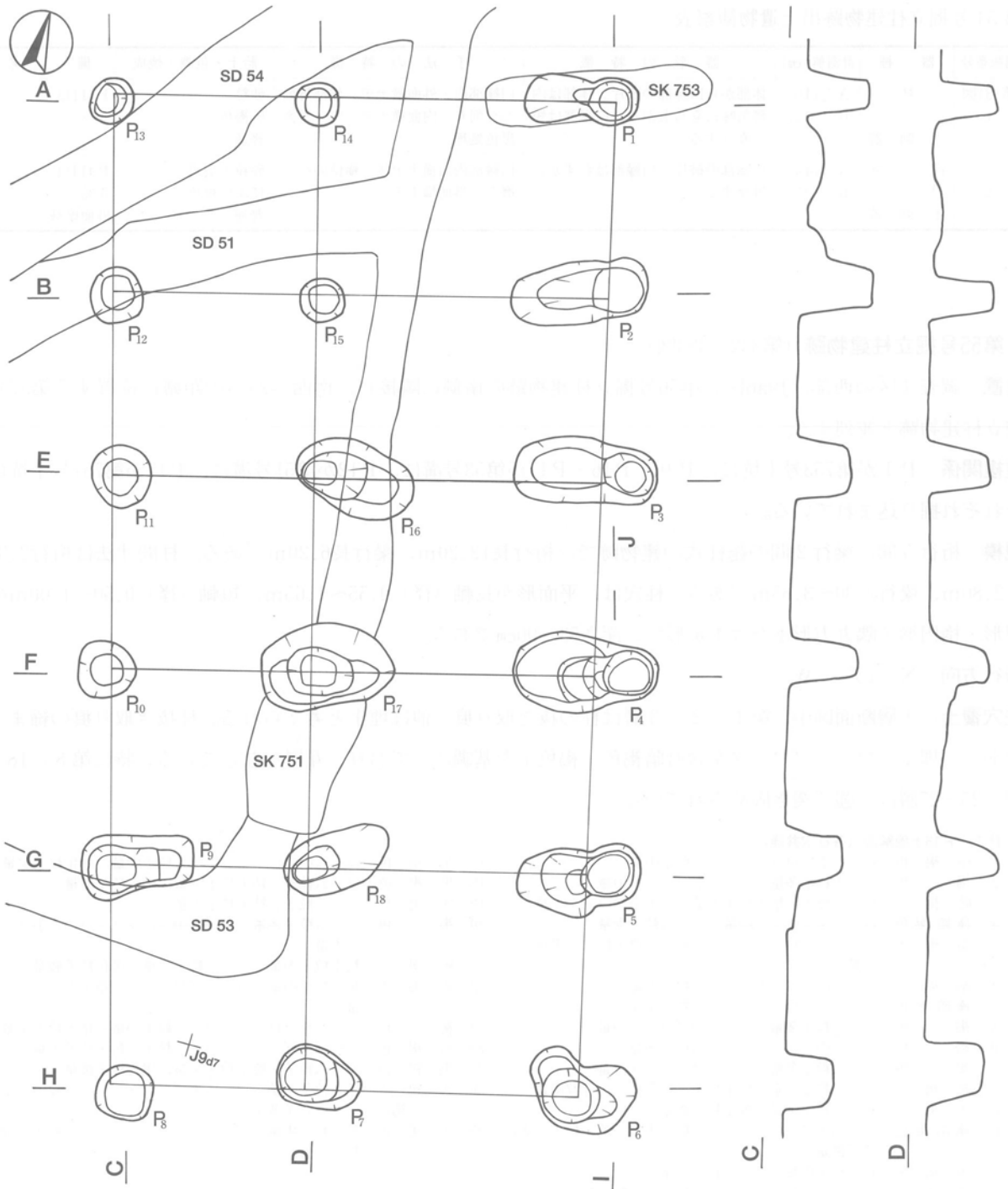
柱穴覆土 土層断面図中, 第1・2・3層は柱の抜き取り痕, 他は埋土と考えられる。柱抜き取り痕の締まりは弱い。埋土はロームブロックを含む暗褐色・褐色土を基調にしており, 互層をなしている。特に第8・18・24・25・27層は, 強く突き固められている。

P1~P18土層解説 (各柱穴共通)

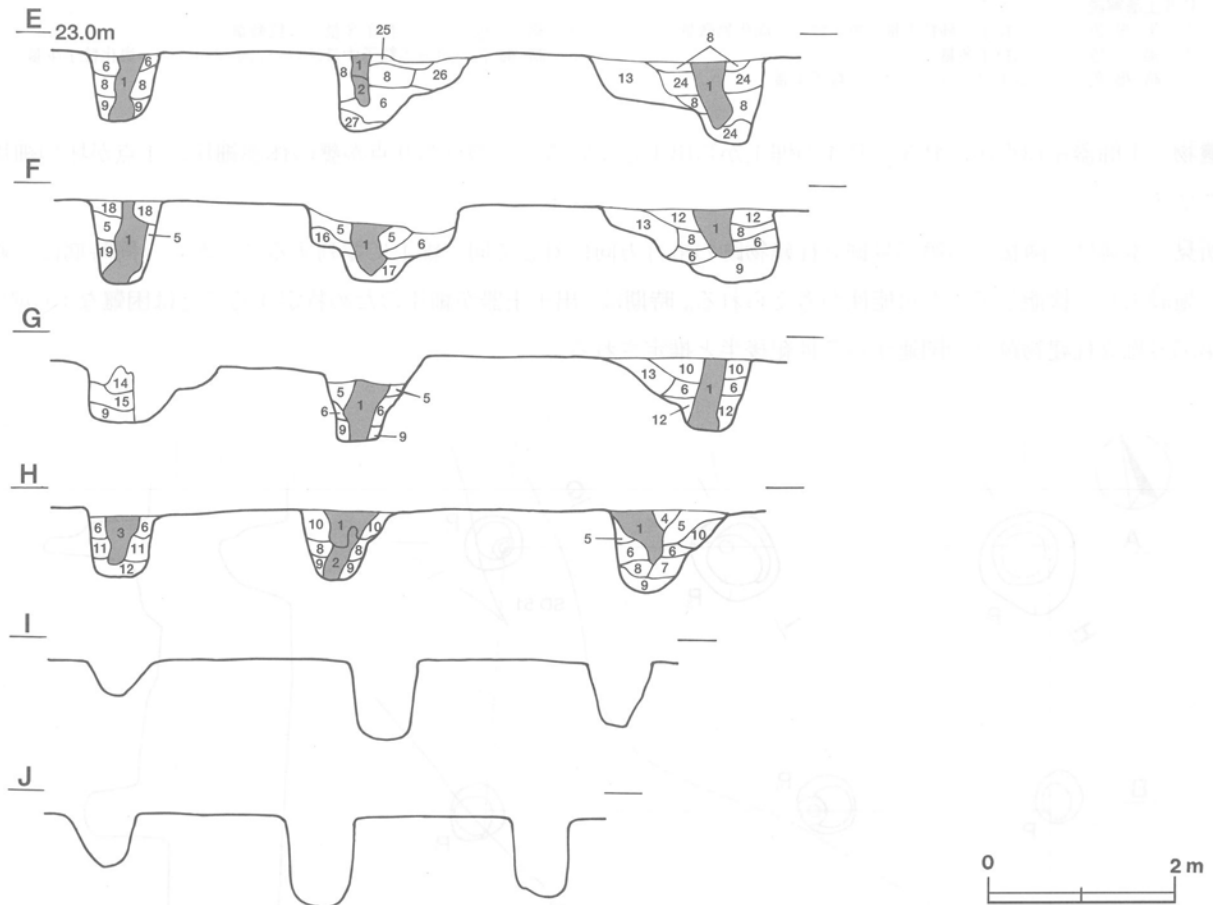
1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	17 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
2 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量	18 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 粘土小ブロック少量	19 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
4 極暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	20 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	21 灰褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量	22 灰褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
7 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	23 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量
8 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量	24 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量
9 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子多量	25 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
10 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量	26 灰褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
11 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	27 にぶい褐色	ローム粒子多量
12 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	28 灰褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
13 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		
14 黒褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量		
15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量		
16 褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック少量		

遺物 土師器片6点, 須恵器片1点が, P4・6の埋土から出土している。土師器片のうち4点は甕の体部細片, 2点は土師器坏の細片である。須恵器は甕の体部細片で, 攪乱により混入したとみられる。

所見 本跡の桁行方向が北東に24m離れている第57号掘立柱建物跡と一致することから, 同時期に一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は, 出土土器が細片なため特定することは困難であるものの, 第57号掘立柱建物跡との関連から7世紀後半と推定される。



第332图 第55号掘立柱建物跡実測図(1)



第333図 第55号掘立柱建物跡実測図(2)

第56号掘立柱建物跡(第334図)

位置 調査4区の中央部、I9i6区。第55号掘立柱建物跡の北側に隣接し、南西へ24mの距離に位置する第57号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P1が第51号溝に、P2・P5が第50号溝に、P3が第752号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模 桁行2間、梁行2間の総柱式の建物跡で、桁行長6.20m、梁行長5.10mである。柱間寸法は桁行2.50～3.70m、梁行2.40～2.80mである。柱穴は、平面形が長径0.40～1.10m、短径0.28～1.00mの円形または楕円形で、深さ70～123cmである。

桁行方向 N-74° - E

柱穴覆土 土層断面でとらえられたのは、すべて埋土である。

P1土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

P7土層解説

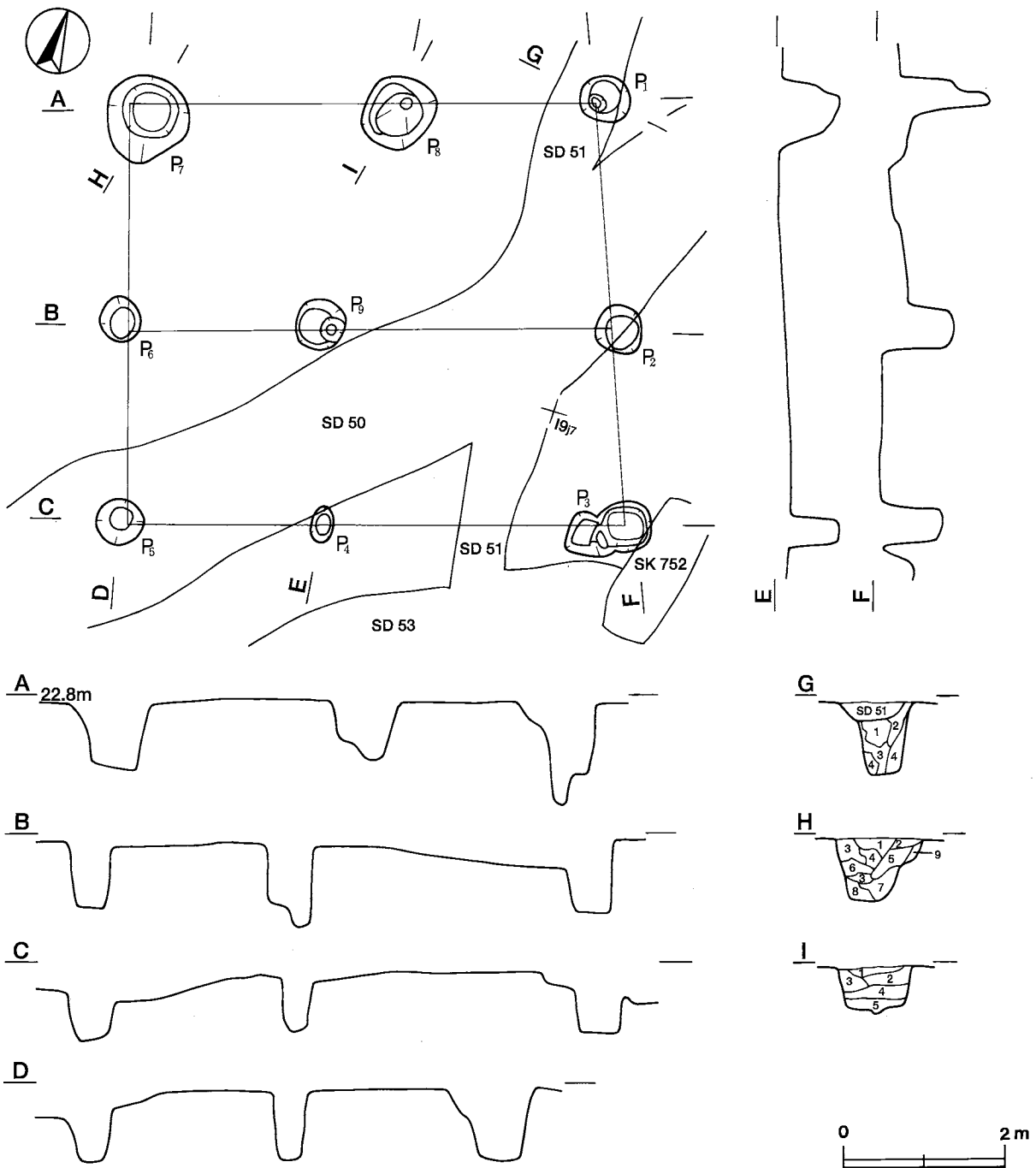
- 1 黒褐色 粘土小ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、粘土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量
- 8 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子少量

P 8 土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化物微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量，砂粒微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |

遺物 土師器片13点が，P 3・P 4の埋土から出土している。そのうち9点が甕の体部細片，4点が坏の細片である。

所見 本跡は，隣接する第55号掘立柱建物跡の桁行方向に対して同一線上に並列することから，同時期に一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は，出土土器が細片のため特定することは困難なもの，第55号掘立柱建物跡との関連から7世紀後半と推定される。



第334図 第56号掘立柱建物跡実測図

第57号掘立柱建物跡 (第335・336図)

位置 調査4区の中央部, I10i5区。第55・56号掘立柱建物跡から北東に24mの距離に位置する。

重複関係 P2～P5・P21・P22が, 第1163号住居跡を掘り込んでいる。P4を第832号土坑に, P5を第63号溝に, P25・P26を第1164号住居にそれぞれ掘り込まれている。

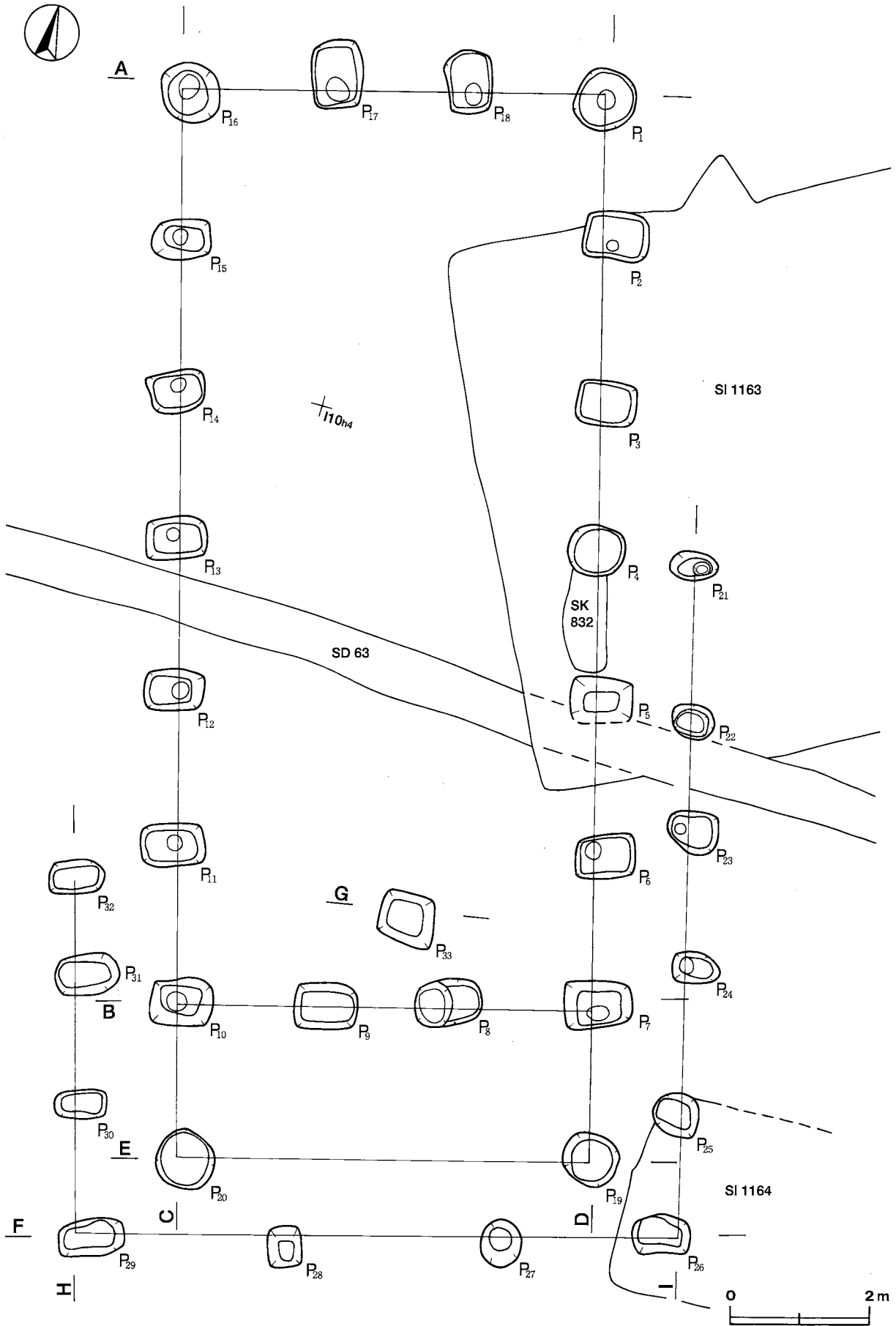
規模 桁行6間, 梁行3間の側柱式の建物跡で, 桁行長13.16m, 梁行長6.15mである。桁行の柱間寸法は, 2.10～2.30mである。梁行寸法は, 南側梁行中央部のP8とP9の間が1.40mと狭く, その両側のP7とP8の間, P9とP10の間が2.40mと広い。それ以外は, 2.00～2.10mである。柱穴の平面形は, P1・P16だけが径0.90mほどの円形で, それ以外は長軸(径)0.91～1.00m, 短軸(径)0.60～0.85mの隅丸長方形, または楕円形である。深さは, 各コーナーに位置するP1・P7・P10・P16が0.82～0.93mと深く, その他は0.43～0.70mである。また, P7・P10からそれぞれ南側へ2.20m離れてP19・P20が検出された。平面形は, いずれも径0.85mほどの円形で, 深さはそれぞれ0.40m, 0.47mである。さらに, 本跡の南側にこの建物の一部を構成していたと考えられる柱穴列を検出した。P4～P7から東側へ1.40m離れて東桁行に, P7～P10から南側へ3.50m離れて南梁行に, P10・P11から西側へ1.30m離れて西桁行にそれぞれ平行して, 全体で「コ」の字状の柱列(P21～32)が確認できた。規模は, P21～P26の長さ9.60m, P26～P29の長さ8.40m, P29～P32の長さ5.30mである。柱間寸法は, P27とP28の間だけが3.00mと広く, それ以外は1.50m～2.60mである。柱穴は, 平面形が長軸(径)0.60～0.85m, 短軸(径)0.41～0.78mの隅丸長方形, 円形または楕円形で, 深さ40～55cmである。また, P8から北西へ0.70m離れてP32を検出した。長径0.82m, 短径0.70mの隅丸長方形で, 深さ0.48mである。

桁行方向 N-14° - W

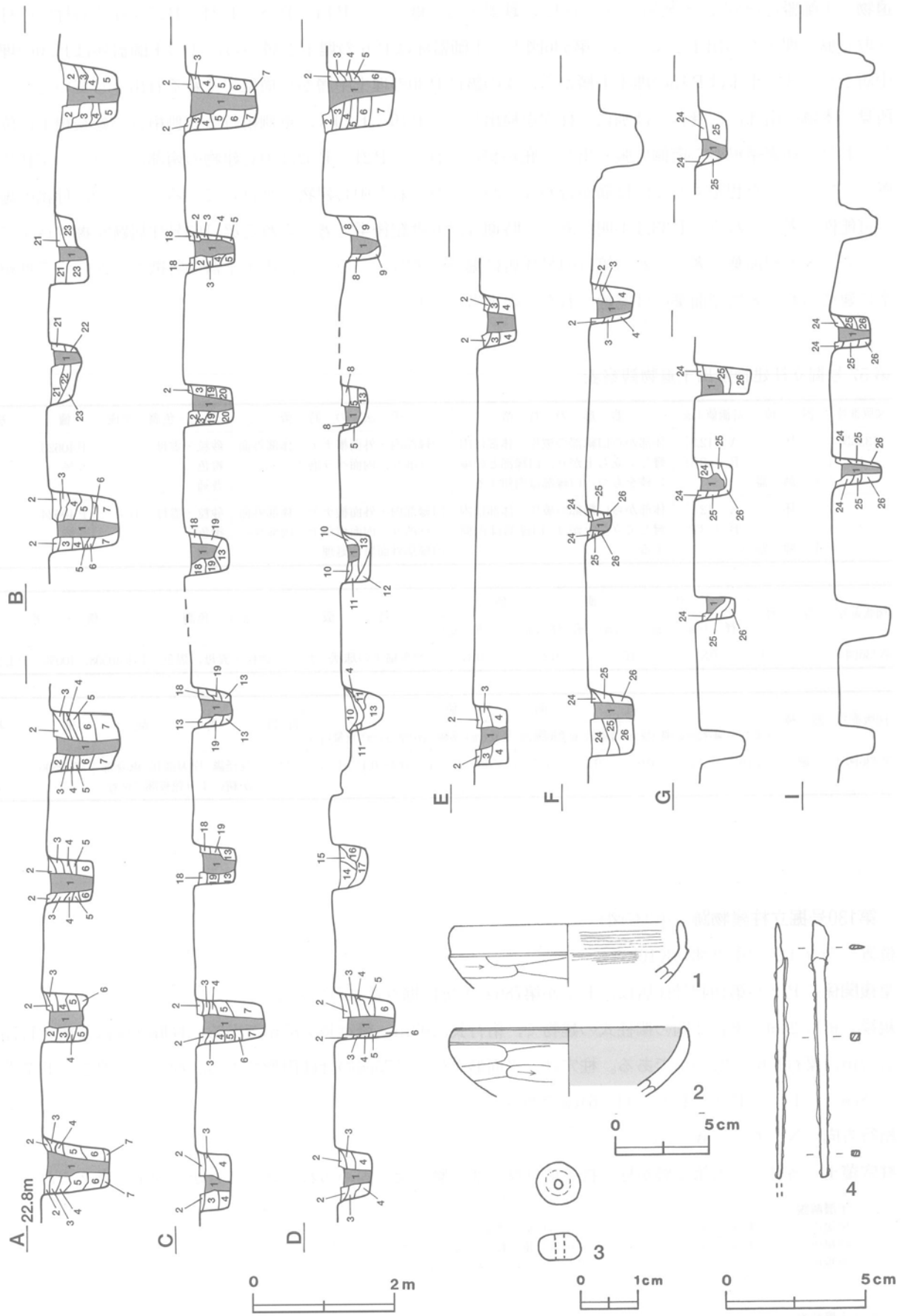
柱穴覆土 土層断面図中, 第1層は柱の抜き取り痕, 他は埋土と考えられる。柱抜き取り痕は, 粘性・締まりが弱い。埋土はロームブロックを含む暗褐色土・褐色土を基調にしており, ローム粒子の多い層と少ない層が版築状に突き固められている。特に第2～8・13・19・20・23～26層は, 強く突き固められている。

P1～33土層解説(各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 粘土粒子中量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・粘土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 15 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 17 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 18 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 19 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 20 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 21 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 22 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 23 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 24 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 25 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 26 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム大ブロック少量



第335图 第57号掘立柱建物迹实测图



第336图 第57号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片186点，土製品1点（小玉），鉄器1点（鎌）が，P14～P18・P24・P25を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第336図1の土師器坏はP6の埋土上層から，2の土師器坏はP30の埋土中層から，3の小玉はP15の埋土上層から，4の鎌はP30の埋土中層から横位でそれぞれ出土している。

所見 本跡の南部に，身舎とは別に，柱穴を検出した。P19・P20は，東側桁行と西側桁行の延長線上に位置しており，切妻屋根から南側に張り出した庇が想定される。P21～P32は中心建物の南部に「コ」の字状に位置している。庇を想定するには柱筋が合わないが，それぞれが中心建物に平行していることから，付属の施設の可能性が考えられる。P33は不明である。時期は，6世紀後半と考えられる第1163号住居跡を掘り込んでいること，8世紀前葉と考えられる第1164号住居に掘り込まれていること，出土土器の特徴などから，7世紀後半に建てられ，8世紀前葉には廃絶されたものと考えられる。

第57号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図1	坏 土師器	A [12.3] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P40623 5%
2	坏 土師器	A [12.4] B (3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内面及び口縁部外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P40624 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第336図3	土玉	0.8	0.5	0.2	0.31	やや扁平の球状。ナデ。	砂粒・雲母，黒色	DP40508，100%，PL240

図版番号	器種	計測値								材質	特徴	備考	
		全長(cm)	鎌身長(cm)	鎌身幅(cm)	篋被部長(cm)	篋被部幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	厚さ(cm)				重量(g)
第336図4	鎌	(14.6)	(2.7)	0.9	9.3	0.7	(3.8)	0.4	0.2～0.4	(12.5)	鉄	長径鎌。片刃箭状。鎌身部が錆により篋被部に付着。	M40506

第130号掘立柱建物跡（第337図）

位置 調査4区の中央部，K10b9区。

重複関係 P2が第1042号住居に，P7が第786号土坑に掘り込まれている。

規模 桁行2間，梁行2間の側柱式の建物で，桁行長3.93m，梁行長3.85mである。柱間寸法は，桁行1.75～2.12m，梁行1.63～2.15mである。柱穴は，平面形が径63～75cmのほぼ円形である。深さは，P5～P7が23～28cmで，P1～P4・P8が44～64cmである。

桁行方向 N-6°-W

柱穴覆土 各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕，他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量

P 3 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P 4 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P 5 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

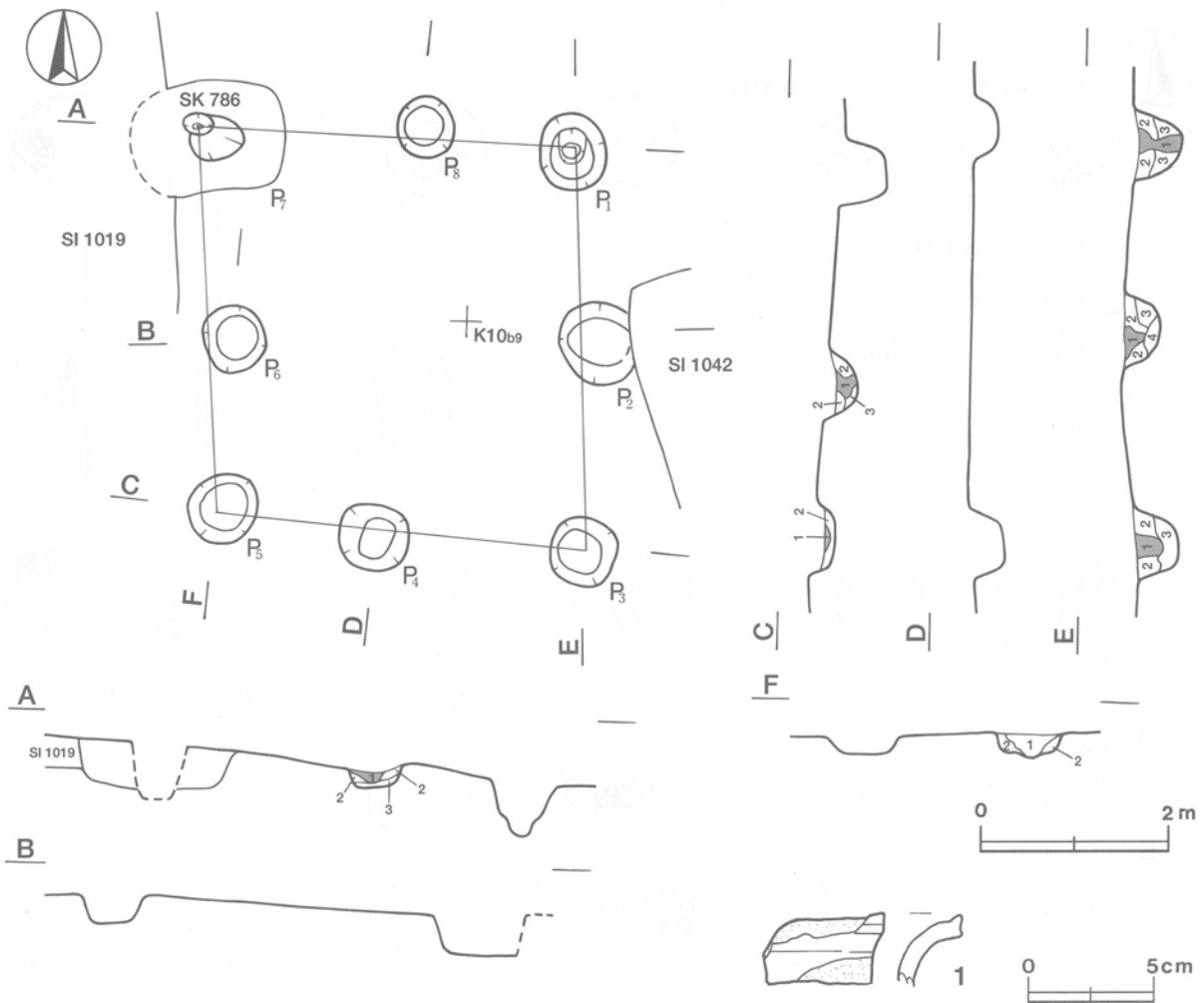
P 6 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

P 8 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片89点が、P 1～P 6・P 8の各柱穴の柱の抜き取り痕及び埋土から出土している。その内訳は、



第337図 第130号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P 1 から土師器片 8 点, P 2 から土師器片 8 点, P 3 から土師器片 14 点, P 4 から土師器片 32 点, P 5 から土師器片 17 点, P 6 から土師器片 3 点, P 8 から土師器片が 7 点がそれぞれ出土している。第 337 図 1 の土師器甕片は, P 6 の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は, 8 世紀前葉と考えられる第 1042 号住居跡に掘り込まれていることと, 出土土器の傾向から古墳時代後期でも 7 世紀後半以前と考えられる。

第 130 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

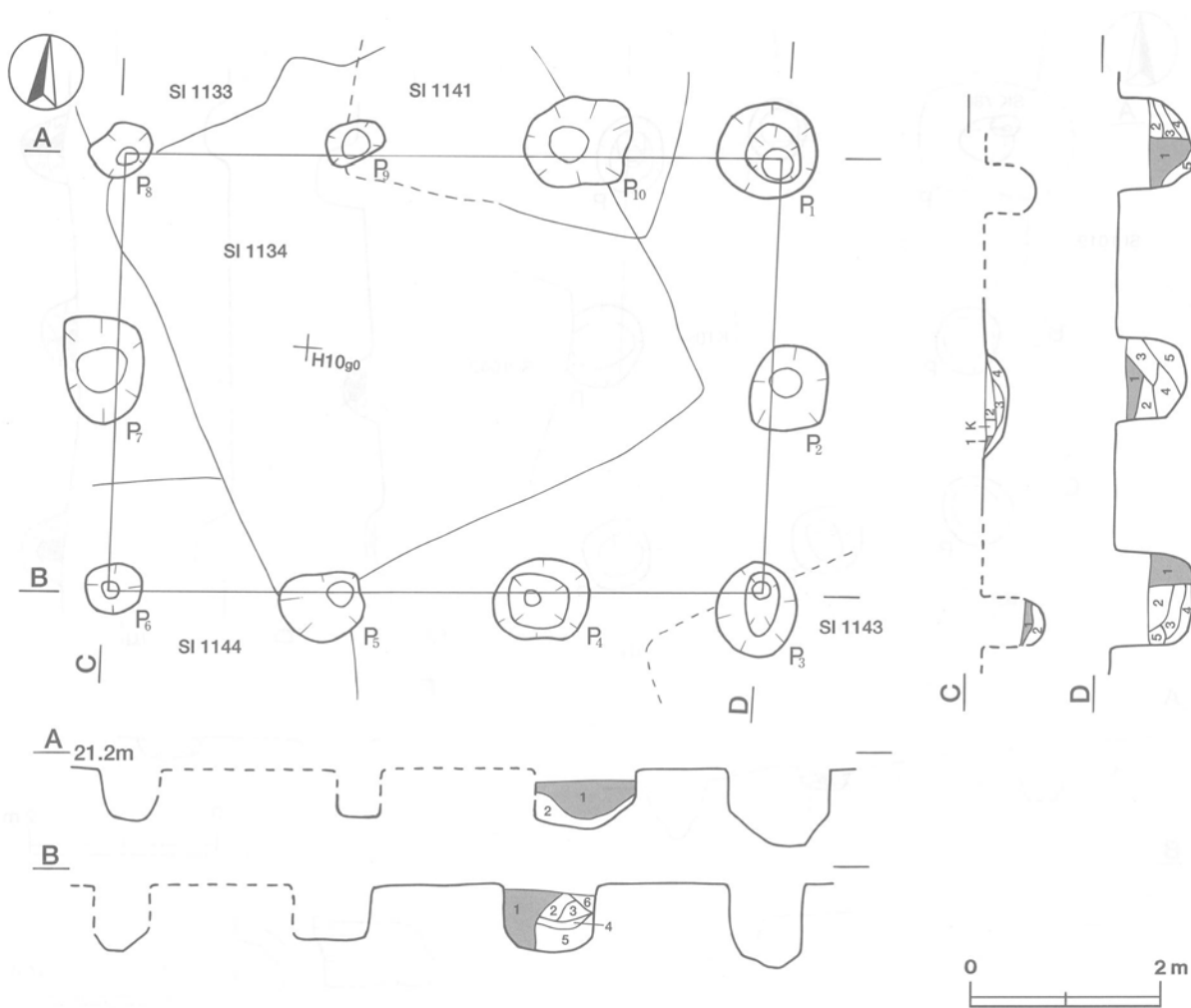
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 337 図 1	甕 土師器	A [14.0] B (3.2)	口縁部の破片。口縁部は外反し, 端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色, 普通	P 41445 5% 外面摩滅

② 奈良・平安時代

第 58 号掘立柱建物跡 (第 338・339 図)

位置 調査 4 区の北部, H10g0 区。

重複関係 P 5・P 6 が第 1144 号住居跡を, P 8 が第 1133 号住居跡を, P 9・P 10 が第 1134 号住居跡を掘り込んでいる。P 3 を第 1143 号住居に, P 9・P 10 を第 1141 号住居に掘り込まれている。



第 338 図 第 58 号掘立柱建物跡実測図

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長7.04m、梁行長4.62mである。柱間寸法は、桁行2.10～2.50m、梁行2.10～2.40mである。柱穴の平面形は、P1・P6がそれぞれ径107cmと69cmの円形、P3が長径101cm、短径87cmの楕円形、P2・P4・P5・P7・P10は長軸96～118cm、短軸83～93cmの隅丸長方形、P8・P9はそれぞれ長軸63cmと65cm、短軸44cmと41cmの小形の隅丸長方形である。深さは、P7だけが28cm、それ以外の柱穴は52～88cmで、断面形はいずれもU字形である。

桁行方向 N-87° - E

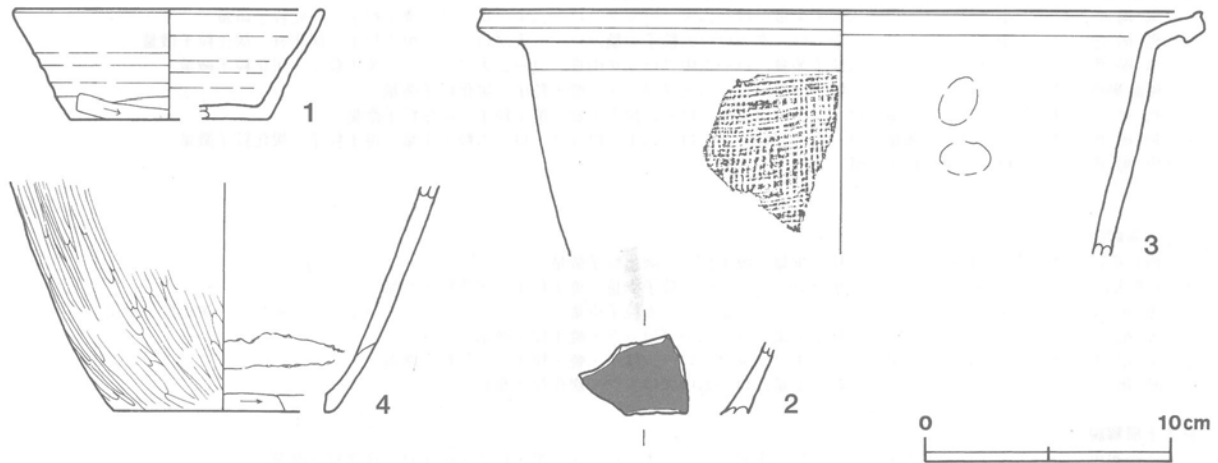
柱穴覆土 柱抜き取り痕は、土層断面図中の第1層が相当し、締まりが弱い。第2～6層は埋土である。埋土は、ロームブロックを含んだ暗褐色土・褐色土であり、互層になっている。突き固められた痕跡は、確認されなかった。

P1～P10土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 P4から土師器片4点、P5から土師器片9点、P10から土師器片17点、須恵器片3点が出土している。第339図1の須恵器坏片は、P10の埋土から出土している。2の須恵器坏片、3の須恵器鉢片、4の土師器甗片は、いずれもP10の柱抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、9世紀前葉と考えられる。



第339図 第58号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第58号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第339図 1	坏 須恵器	A [12.4] B 4.3 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P40245 20%
2	坏 須恵器	B (2.8)	体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、黄灰色、普通	P40246, 5% 体部内面漆附着
3	鉢 須恵器	A [28.9] B (9.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部を面取りして角張らせている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き後、縦位の平行叩き、内面指頭痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色 普通	P40248 45%
4	甗 土師器	B (9.0) C [8.8]	底部から体部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ、下端横位のヘラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子、橙色、普通	P40250 5%

第59号掘立柱建物跡（第340図）

位置 調査4区の西部，J10j0区。

重複関係 P1が第1074・1078号住居跡と第60号掘立柱建物跡のP1を，P7～P10が第1064号住居跡を掘り込み，P3・P4が第1073号住居に掘り込まれている。

規模 桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行長7.06m，梁行長4.81mである。柱間寸法は，桁行2.00～2.70m，梁行2.20～2.60mである。P1～P4・P6～P9は平面形が，長軸（径）94～122cm，短軸（径）65～92cmの隅丸長方形または楕円形である。深さは，P3・P4・P8が44～62cmで，P1・P2・P6・P7・P9が85～103cmである。P5・P10は平面形が，それぞれ径94cmと99cmのほぼ円形で，深さ86cmと65cmである。

桁行方向 N-0°

柱穴覆土 各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕，他の層はロームブロックを多く含み，突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

P3土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

P4土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック多量，ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

P5土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック中量，炭化粒子微量

P 6 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

P 7 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量

P 8 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム大ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 極暗褐色 ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, 炭化粒子微量

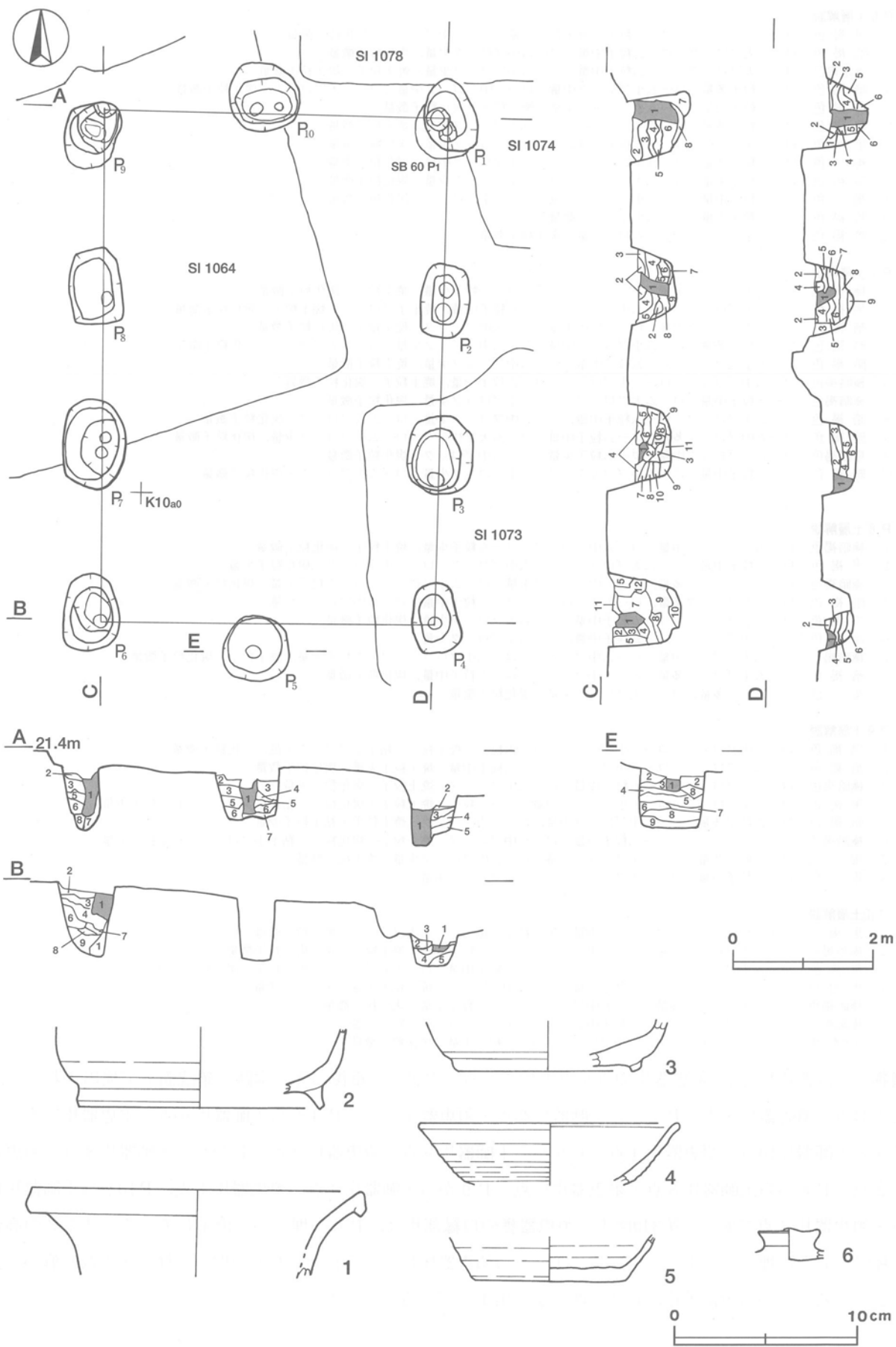
P 9 土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム小ブロック中量

P 10 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片127点, 須恵器片39点が出土している。内訳は, 重複のない本跡の確認面上で検出された土師器片34点・須恵器片8点, P 1 から土師器片23点・須恵器片5点, P 3 から土師器片6点・須恵器片3点, P 5 から土師器片10点・須恵器片4点, P 6 から土師器片9点・須恵器片2点, P 7 から土師器片8点・須恵器片2点, P 8 から土師器片8点・須恵器片11点, P 9 から土師器片16点・須恵器片1点, P 10から土師器片13点・須恵器片3点である。第340図1の須恵器甕の口縁部片は, P 6 の埋土から出土している。2と3の高台付坏は, P 7 の埋土から出土している。4と5の須恵器坏片は, それぞれP 8 の埋土と柱の抜き取り痕から出土している。6の須恵器蓋片はP 9 の埋土から出土している。



第340图 第59号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

所見 本跡は、調査7・8区で検出されている8世紀から9世紀代にかけての側柱式の掘立柱建物跡と規模・形状・桁行方向が類似しており、ほぼ同時期の遺構と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から8世紀後半と考えられる。

第59号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第340図 1	甕 須恵器	A [17.6] B (4.6)	口縁部の破片。口縁部は外反し、 端部は下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P41416 5% 外面摩滅
2	高台付坏 須恵器	B (4.3) D [13.4] E 1.2	高台部から体部下位にかけての破片。 高台は「ハ」の字状に開く。 体部下位は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ロクロナデ。底部回 転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナ デ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	P41417 10% 外面摩滅
3	高台付坏 須恵器	B (2.7) D [10.3] E 0.7	高台部から体部下位にかけての破片。 高台は「ハ」の字状に開く。 体部下位は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ロクロナデ。底部回 転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナ デ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P41418 10%
4	坏 須恵器	A [13.8] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、端部 は丸く収められている。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P41419 10%
5	坏 須恵器	B (2.5) C 8.1	底部から体部下位にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回 転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P41420 25% P L 240
6	蓋 須恵器	B 1.7 F 3.2 G 0.9	つまみの破片。つまみは擬宝珠状。	つまみ外面ナデ。つまみは貼り付 け。	砂粒・長石 灰色、普通	P41421 5% 外面摩滅

第60号掘立柱建物跡（第341図）

位置 調査4区の中央部、J10i0区。

重複関係 2か所の柱穴が、第1078号住居跡を掘り込んでいると推定されるが確認されなかった。P3が第1064号住居跡を、P5が第1063号住居跡を掘り込み、P1は一部を残し第59号掘立柱建物のP1に掘り込まれている。

規模 南西コーナー部に位置するP3を基準として、桁行2間、梁行2間の側柱式の建物跡と推定され、桁行長は3.93m、梁行長は3.91mである。柱間寸法は、桁行1.80～2.10m、梁行1.70～2.30mである。柱穴は8か所と推定されるが、検出されたのは6か所（P1～P6）である。平面形はP1・P6がそれぞれ長径69cmと76cm、短径60cmと63cmの楕円形で、深さ34cmと24cmである。P2～P5は径60～65cmのほぼ円形で、深さ25～49cmである。

桁行方向 N-10° - W

柱穴覆土 P2～P4・P6の堆積状況が確認できた。各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕、他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

P4土層解説

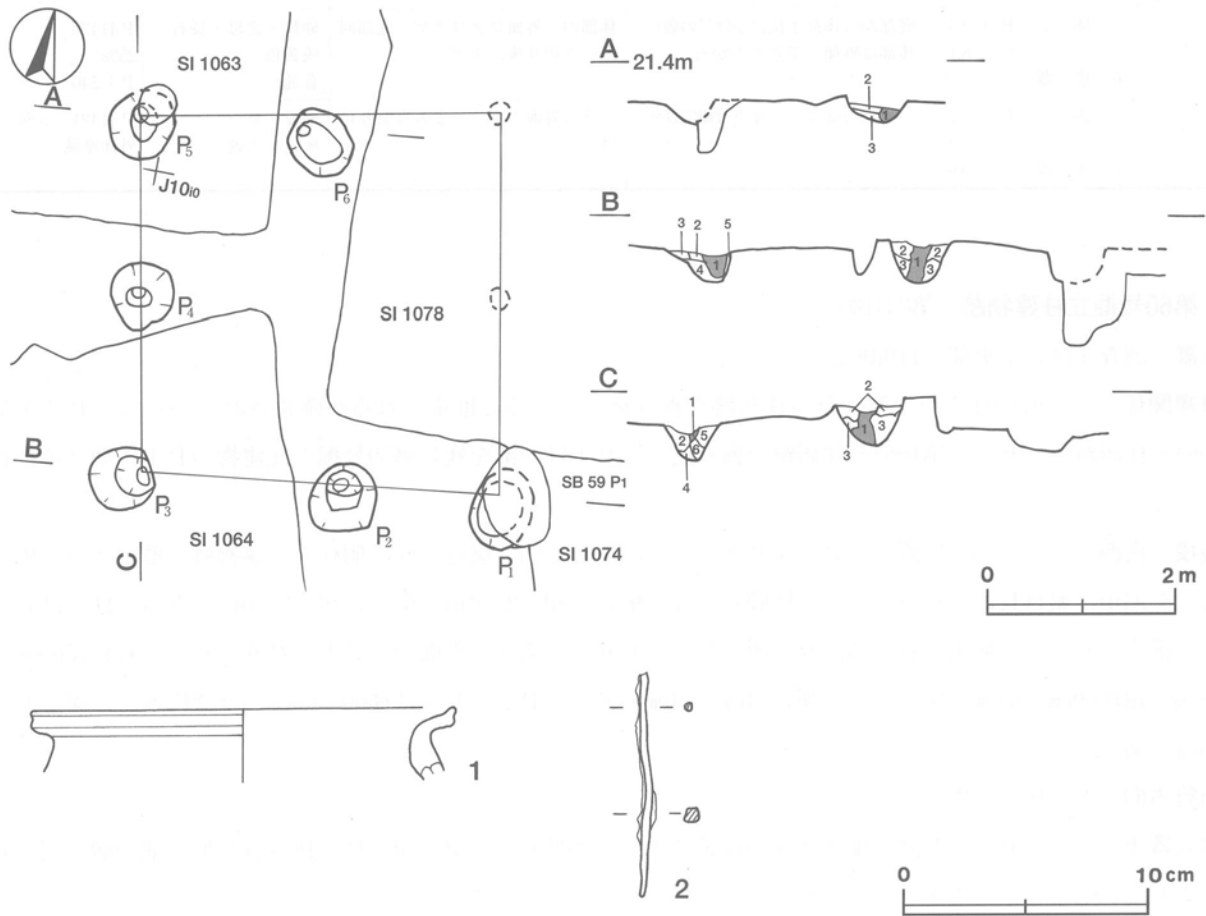
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

P6土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片20点, 須恵器片1点, 不明鉄製品1点が出土している。内訳は, P1から土師器片1点, P2から土師器片6点・不明鉄製品1点, P3から土師器片2点・須恵器片1点, P4から土師器片7点, P8から土師器片3点である。第341図1の土師器甕の口縁部片は, P4の埋土から出土している。2の不明鉄製品はP2の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器と重複関係から8世紀前半と考えられる。



第341図 第60号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第60号掘立柱建物跡出土遺物観察表

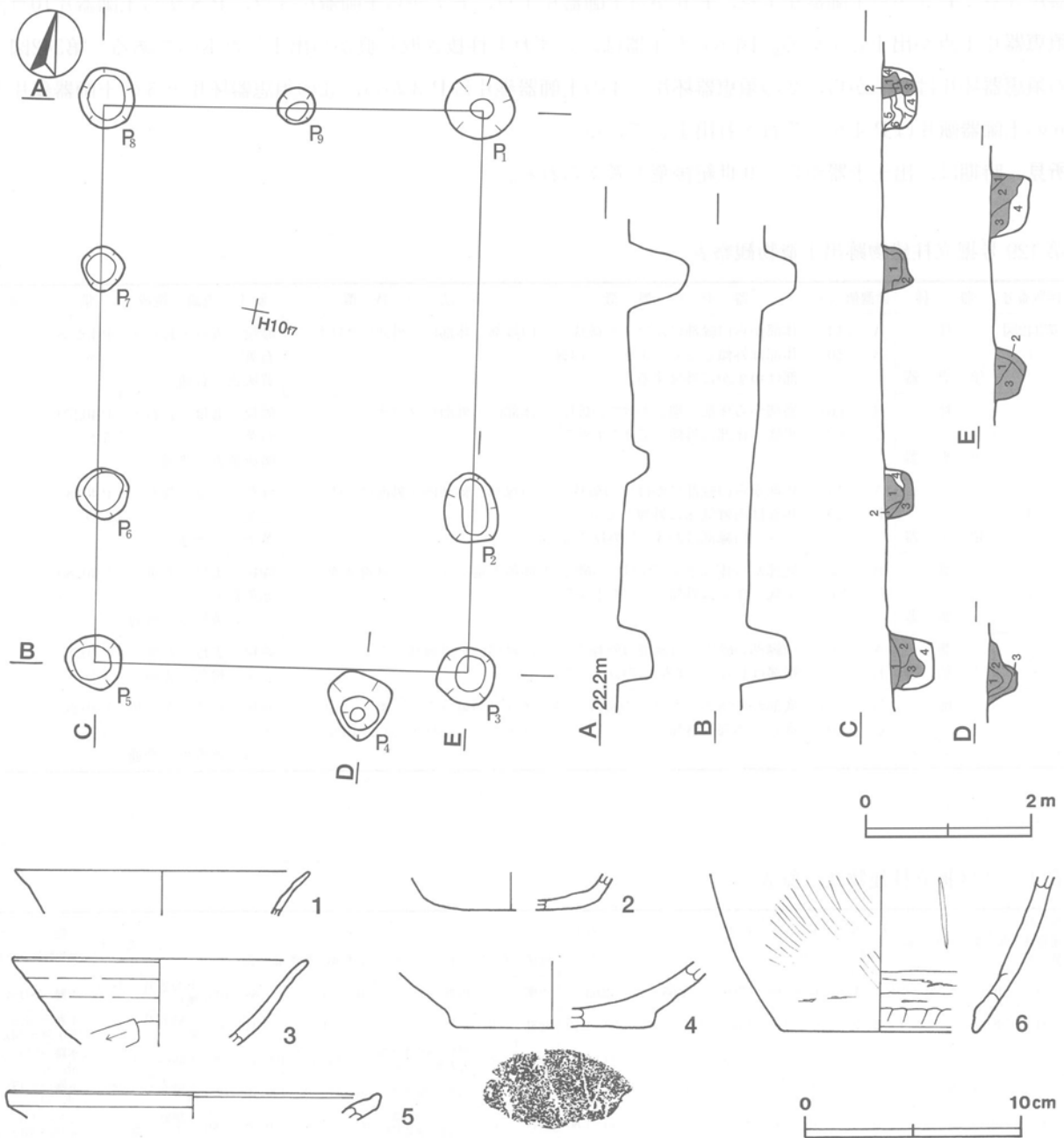
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図 1	甕 土師器	A [17.0] B (2.8)	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部は屈曲し, 口縁部は外反する。 端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部, 頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P41425 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第341図2	不明	(8.9)	0.3~0.6	0.3~0.5	(6.4)	鉄	棒状、断面は方形。釘又は紡錘の軸部の一部カ。	M41056

第129号掘立柱建物跡 (第342図)

位置 調査4区の北部, H10f7区。

規模 桁行3間, 梁行2間の側柱式の建物跡で, 桁行長6.76m, 梁行長4.58mである。桁行の柱間寸法は, P1とP2の間だけが4.64mで, それ以外は2.02~2.66mである。P1とP2の間に柱穴が存在することを想定して精査したが, 柱穴は確認されなかった。梁行の柱間寸法は, 2.28~2.36mである。柱穴の平面形は, P2だけが長径82cm, 短径66cmの楕円形, それ以外の柱穴は径45~83cmの円形で, 深さは24~68cmである。



第342図 第129号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 N-9°-W

柱穴覆土 柱抜き取り痕は、土層断面図中の第1～3層が相当し、締まりが弱い。第4～7層は埋土である。埋土は、ロームブロックを含んだ暗褐色土・褐色土であり、互層になっている。突き固められた痕跡は、確認されなかった。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 P1から土師器片1点、P2から土師器片6点、P3から土師器片6点、P4から土師器片21点、須恵器片3点、P5から土師器片1点、P6から土師器片1点、P7から土師器片3点、P8から土師器片10点、須恵器片1点が出土している。図示した土器は、いずれも柱抜き取り痕から出土したものである。第342図1の須恵器坏片はP1から、2の須恵器坏片と4の土師器甕片はP3から、3の須恵器坏片と5の土師器甕片と6の土師器甕片はP4からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、9世紀後葉と考えられる。

第129号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図 1	坏 須恵器	A [13.4] B (2.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40278 5%
2	坏 須恵器	B (1.6) C [8.2]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 暗灰黄色、普通	P40279 5%
3	坏 須恵器	A [13.4] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40281 5%
4	甕 土師器	B (3.0) C [8.6]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端ヘラ削り。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P40280 5%
5	甕 土師器	A [17.0] B (1.2)	口縁部の破片。口縁部は外傾し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色、普通	P40282 5%
6	甕 土師器	B (7.1) C [9.0]	底部から体部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ、下端横位のヘラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	P40283 5%

表4 4区掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物跡番号	位置	桁行方向	桁×梁(間)	規模(m)	面積(m ²)	桁行柱間(m)	梁行柱間(m)	柱穴 (cm)					出土遺物	備考 新旧関係(古→新)	
								壁溝	柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)			深さ
53	J9g1	N-21°-W	(1×1)	(2.68×2.63)	(7.05)	2.68	2.63	不明	3	円形	80~84	84~103	土師器片(坏・甕)	本跡→SD54	
54	J8j0	N-9°-W	2×2	3.97×3.95	15.68	1.80~2.10	1.90~2.10	総柱	9	円形	37~51	44~103	土師器片(坏・甕)	本跡→SI959・960・965・SD54	
55	J9a6	N-15°-W	5×2	12.20×6.20	75.64	2.30~2.80	2.30~3.65	総柱	18	円形・楕円形・隅丸長方形・不定形	55~165	50~100	53~90	土師器片(坏・甕)	本跡→SD51・53・SK751・753
56	I9i6	N-74°-E	2×2	6.20×5.10	31.62	2.50~3.70	2.40~2.80	総柱	9	円形・楕円形	40~110	28~100	70~123	土師器片(坏・甕)	本跡→SD50・51・SK752
57	I10i5	N-14°-W	6×3	13.16×6.15	80.93	2.10~2.30	2.30~2.80	側柱	33	円形・楕円形・隅丸長方形・隅丸長方形	60~100	50~70	38~100	土師器片(坏)・小玉・鉄鏝	SI1163→本跡→SI1164・SD63・SK832
58	H10g0	N-87°-E	3×2	7.04×4.62	32.52	2.10~2.50	2.10~2.40	側柱	10	円形・楕円形・隅丸長方形	63~118	41~93	28~88	土師器片(甕)・須恵器片(坏・鉢)	SI1133・1134・1144→本跡→SI1141・1143

掘立柱 建物跡 番号	位置	桁行方向	桁×梁 (間)	規模 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)		
								壁溝	柱穴	平面形	長径(軸)			短径(軸)	深 さ
59	J10j0	N-0°	3×2	7.06×4.81	33.96	2.00~2.70	2.20~2.60	側柱	10	円形・楕円形・隅丸長方形	94~122	65~94	44~103	土師器片(高台付環)・須恵器片	SI1064・1074・1078・SB60→本跡→SI11073
60	J10i0	N-10°-W	2×2	3.93×3.91	15.29	1.80~2.10	1.70~2.30	側柱	6	円形・楕円形	60~76	60~63	24~49	土師器片(甕)・須恵器片・不明鉄製品	SI1063・1064・1078→本跡→SB59
129	H10f7	N-9°-W	3×2	6.76×4.58	30.96	2.02~4.64	2.28~2.36	側柱	9	円形・楕円形	45~83	66	24~68	土師器片(甕・甗)・須恵器片(環)	
130	K10b9	N-6°-E	2×2	3.93×3.85	15.13	1.75~2.12	1.63~2.15	側柱	8	円形	63~75		23~64	土師器片(甕)	本跡→SI1042・SK786

(3) 鍛冶工房跡

当遺跡からは調査4区の西部で、1棟の鍛冶工房跡が検出されている。

第1号鍛冶工房跡(第343・344図)

位置 調査4区の西部、I9d8区。

規模と平面形 北部が攪乱を受けているため、全容は不明である。東西軸は2.70mで、南北軸は3.10mだけが確認できた。南東・南西コーナーが直角であることから、長方形と推定される。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は10~23cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。全体に軟質で、踏み固められた部分は見られなかった。

鍛冶炉 中央部からやや北西寄りに位置し、長径47cm、短径35cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。炉の南側にP3を検出した。P3から鍛冶炉へは長さ27cm、上幅10~12cm、下幅3~6cm、深さ約4cmの溝がつながっている。緩やかに炉側に向かって傾斜しており、鞆羽口装着溝の可能性が考えられる。

炉土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ローム粒子中量、灰少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・灰中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化材微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・灰少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 12か所(P1~P12)。P1は中央部から東壁寄りに位置し、長径102cm、短径88cmの楕円形で、深さ46cmである。底面は、踏み固められて硬化している。覆土下層から上層にかけて鉄滓が出土している。また、覆土下層から炭化材が出土している。P1の北部には径18cmのほぼ円形で、深さがP1の底面から34cmの掘り込みが確認された。P2はP1の南側に位置し、長径75cm、短径55cmの不整楕円形で、深さ25cmである。P2の南部からは、径25cmのほぼ円形で、深さがP2の底面から20cmの掘り込みが確認された。P3は中央部に位置し、長径102cm、短径78cmの楕円形で、深さ15cmである。P3の北部からは、さらに深く掘り込まれた部分が2か所確認され、それぞれ長径25cm・35cm、短径17cm・20cmの楕円形で、深さはP3の底面から33cm・44cmである。P4はP3の南側に位置し、長径68cm、短径52cmの楕円形で、深さ60cmである。P5~P8はP1の北東部に位置し、長径18~63cm、短径13~45cmの楕円形で、深さ27~74cmである。これらのピットは、位置や形態から、作業に関わるものと考えられる。P9・P10は、南東・南西コーナー部に位置し、それぞれ長径25cm・23cm、短径18cm・17cmの楕円形で、深さ27cm・23cmである。位置と規模から、柱穴の可能性が考えられる。P11は南壁中央部の壁際に位置している。二段掘り込みになっており、上段は長径48cm、短径33cmの楕円形、深さ12cmで、下段は径19cmの円形、深さ24cmで、床面から下段底面までの深さは40cmである。位置や形態から、

出入り口施設に伴うピットの可能性が考えられる。P12は南壁際の西寄りに位置し、長径56cm、短径48cmの楕円形で、深さ16cmである。性格は不明である。

P1土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化材中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭化材微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 7 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化材・焼土粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化材微量 |

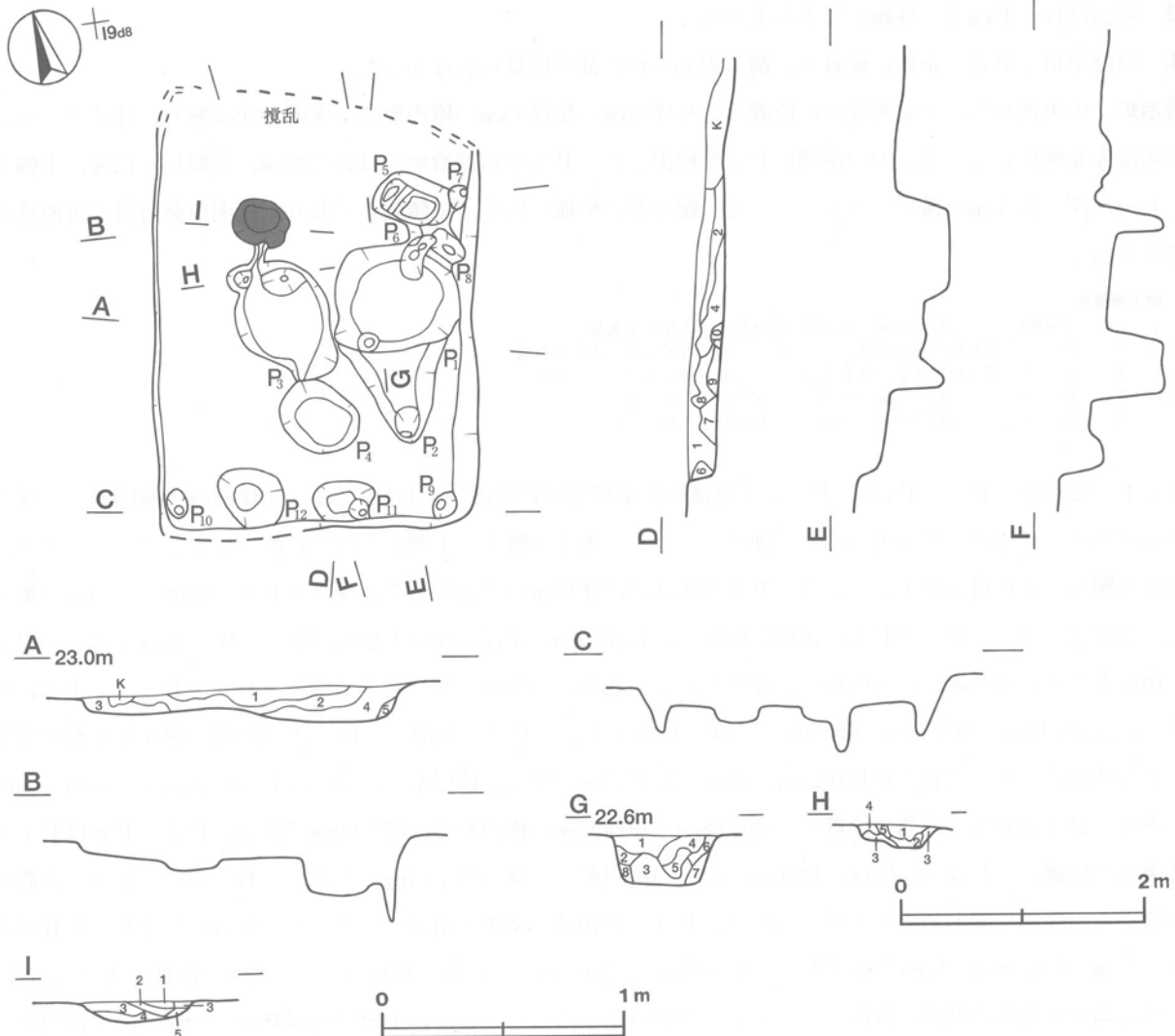
P3土層解説

- | | | |
|---|--------|-----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

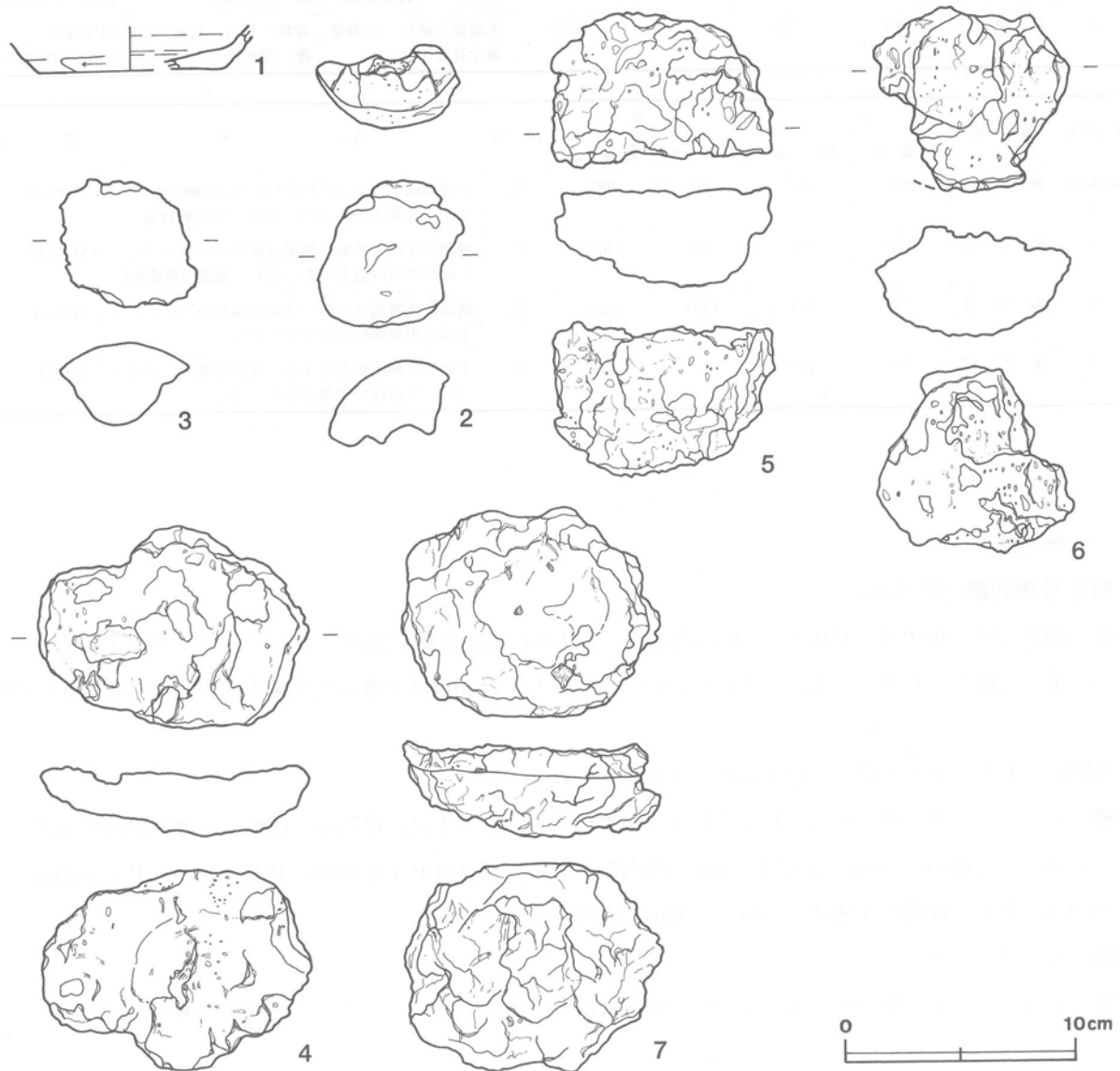
- | | | |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第343図 第1号鍛冶工房跡実測図

3	褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
4	黒褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
5	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子少量
6	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
7	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
9	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 土師器片66点, 須恵器片18点, 鞆羽口片13点, 鉄滓7436g (腕形滓・鉄滓・鍛造剥片・粒状滓を含む) が出土している。第344図1の須恵器坏は, 南西部の覆土中から出土している。2の鞆羽口片は南東部の覆土下層から, 3の鞆羽口片はP1の覆土下層から出土している。4~7は腕形滓である。4は中央部やや東寄りの覆土中層から, 5は中央部やや西寄りの覆土中層から, 6は南西部の覆土中層から, 7はP1の覆土中層からそれぞれ出土している。鉄滓類はP1付近に集中しており, 特にP1の覆土中からは, 炭化材209g, 鉄滓1708g, 鍛造剥片494g, 粒状滓61gが出土している。鍛造剥片と粒状滓を大きさで大別すると, 鍛造剥片の長さが7.1mm以上が28.5g, 2.1~7mmが144.2g, 2mm以下が321.6g検出された。粒状滓は直径が5.1mm以上が14.2g, 4.1~5mmが17.5g, 2.1~4mmが20.8g, 2mm以下が8.7g検出された。



第344図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土土器が細片のため時期を特定することは困難であるが、出土した須恵器の形状から9世紀と考えられる。本跡からは鍛造剥片や粒状滓、椀形滓、鉄滓等が出土し、鞆羽口片も出土していることから鍛冶工房跡と考えられる。また、P1の底部の硬化面は、このピット内で作業が行われた際に踏み固められたものと考えられる。出土した鍛造剥片は長さが2mm以下のものが多く、粒状滓は比較的粒の大きいものが出土している。また、大形の椀形滓も出土していることから、精錬鍛冶から鍛錬鍛冶段階の作業工程を行っていたことが想定される。

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第344図 1	坏 須恵器	B (1.9) C [8.0]	底部から体部下端にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。体部下 端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色、普通	P40504 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第344図 2	鞆羽口	[6.8]	(6.2)	[1.8]	(77.5)	先端部の破片。先端部 黒色ガラス質滓付着。	砂粒・長石・石英・小 礫 明赤褐色	DP40501 10%, P L236
3	鞆羽口	[8.0]	(5.3)	—	(63.5)	先端部の破片。内面摩 減で孔径不明。	砂粒・長石・石英・小 礫 明赤褐色	DP40502 10%, P L236

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第344図 4	椀形滓	8.6	11.6	3.0	287	鉄	平面形は不整な台形を呈する。底面は緩やかにカーブし、上面はややくぼむ。表面に炭化物付着。	M40514
5	椀形滓	(6.5)	9.5	4.1	(308)	鉄	側面は全面破断面。底面は緩やかにカーブし、上面は中央付近がややくぼむ。緻密で重量感有。	M40515
6	椀形滓	(7.8)	(8.3)	(4.7)	(224)	鉄	側面に破断面2か所。底面は緩やかにカーブし、上面は中央付近がややくぼむ。	M40516
7	椀形滓	9.9	11.0	4.2	479	鉄	平面形は楕円形を呈する。底面は緩やかにカーブし、上面は中央部がややくぼむ。	M40517

(4) 柵列跡

第3号柵列跡(第345図)

位置 調査4区の中央部、J10i6区。地形的には、本跡から東側は緩い斜面になっており、黒色土が広がっている。第4号柵列がわずかに方向がずれるものの、本跡から4.40mほど離れた北東方向のほぼ延長線上に位置している。

重複関係 P2~P4が第1048号住居跡を掘り込んでいる。

規模 直線上に、4か所の柱穴(P1~P4)が検出された。P1は、径71cmの円形で、深さ54cmである。P2~P4は、長径64~81cm、短径54~64cmの楕円形である。深さはP1が77cm、P2が42cm、P3が24cm、P4が52cmである。柱間の寸法は、2.08~2.30mである。

方向 N-28°-E

覆土 各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕、他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

P 2 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック微量

P 3 土層解説

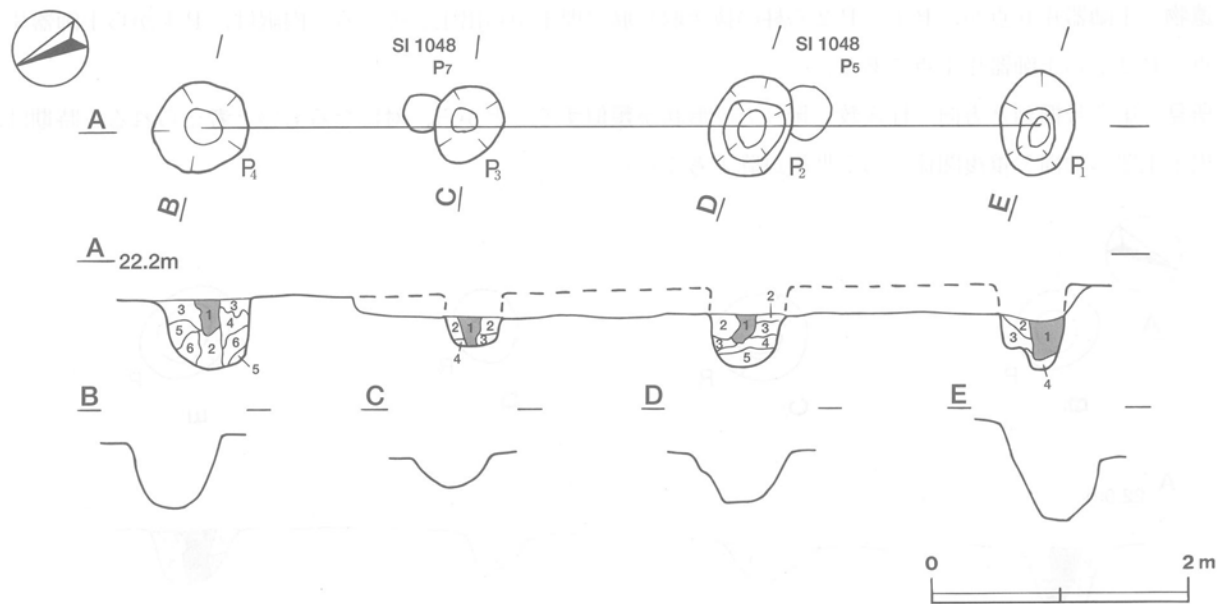
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P 4 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片 7 点, 須恵器片 3 点が, P 1・P 3・P 4 の抜き取り痕や埋土から出土している。内訳は, P 1 から土師器片 2 点・須恵器片 3 点, P 3 から土師器片 4 点, P 4 から土師器片 1 点である。いずれも甕の体部細片である。

所見 第 4 号柵列と方向・柱穴数・掘り方の形状が類似することから, 対になるものと考えられる。時期は, 出土土器の傾向と重複関係から 7 世紀以降と考えられる。



第 345 図 第 3 号柵列跡実測図

第4号柵列跡 (第346図)

位置 調査4区の中央部, J10f9区。第3号柵列がわずかに方向がずれるものの, 本跡から4.40mほど離れた南西方向のほぼ延長線上に位置している。

重複関係 P1が第1049号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。

規模 直線上に, 4か所の柱穴(P1~P4)が検出された。P1は, 径64cmの円形で, 深さ51cmである。P2~P4は長径58~83cm, 短径47~66cmの楕円形で, 深さ38~45cmである。柱間の寸法は, 2.18~2.38mである。

方向 N-23° - E

覆土 P1・P4では, 第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。P2・P3では, 柱の抜き取り痕が確認されなかった。他の層は突き固められていることから, 埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

P3土層解説

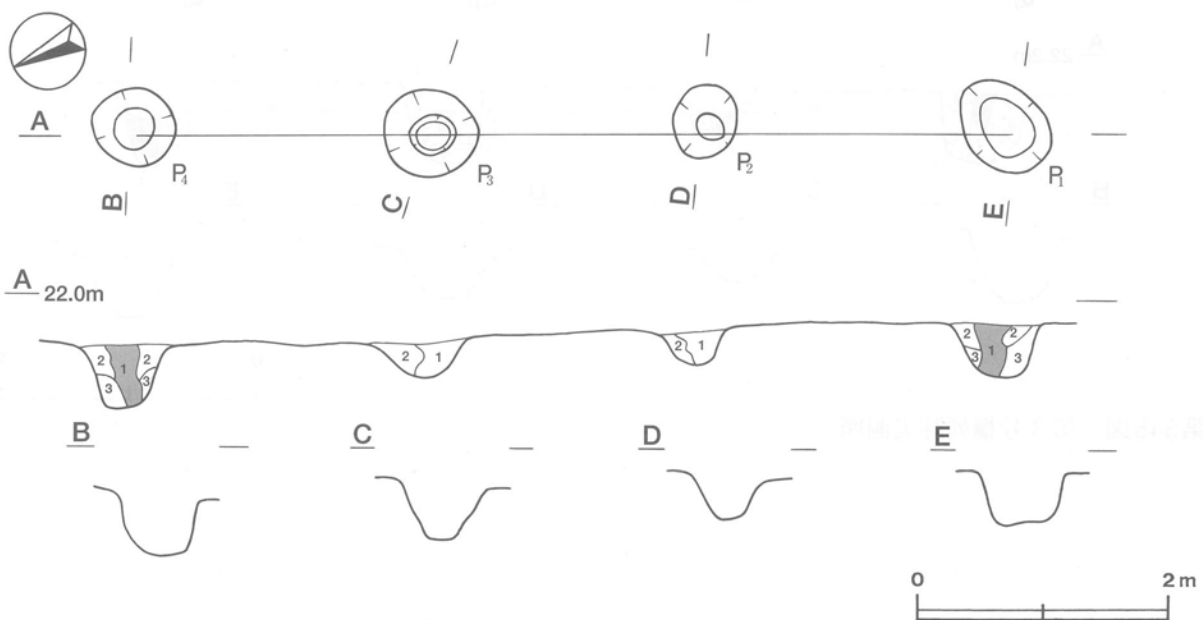
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

P4土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量; ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片6点が, P1・P2の柱の抜き取り痕や埋土から出土している。内訳は, P1から土師器片5点, P2から土師器片1点である。

所見 第3号柵列と方向・柱穴数・掘り方の形状が類似することから, 対になるものと考えられる。時期は, 出土土器の傾向と重複関係から7世紀以降と考えられる。



第346図 第4号柵列跡実測図

第5号柵列跡 (第347図, 付図)

位置 調査4区の中央部, I10h8~I10b8区。本跡は第12号溝の約2m西側に, 南北に直線上に位置している。

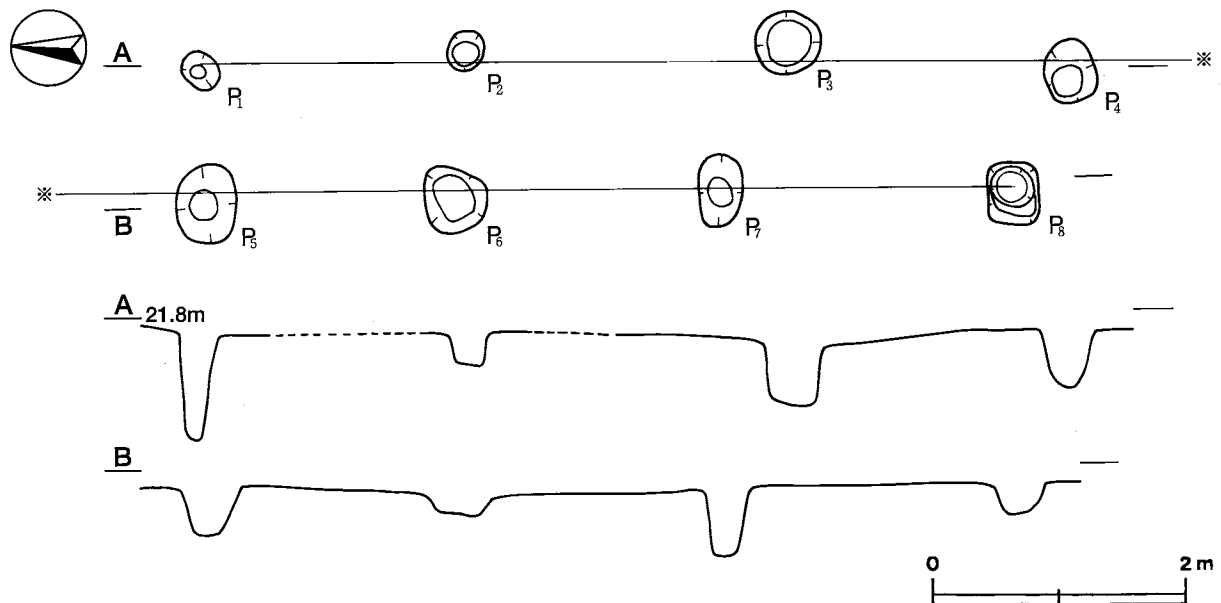
規模 直線上に, 8か所の柱穴 (P1~P8) が検出された。P1~P8間の長さは15.5m, 柱間の寸法は2.00~2.50mである。P1~P4・P6は径32~54cmのほぼ円形で, 深さ16~58cmである。P5・P7は長径62cmと49cm, 短径47cmと34cmの楕円形で, 深さ39cmと58cmである。P8は長軸51cm, 短軸41cmの隅丸長方形で, 深さ26cmである。P2・P6は深さが16cm・26cmであり, P1・P3~P5・P7・P8は深さが50~57cmである。

方向 N-4°-W

覆土 いずれもローム小ブロック・ローム粒子混じりの黒褐色土・暗褐色土・褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は, 出土遺物がなく不明である。本跡の東側に平行して第12号溝が位置しており, ほぼ等間隔に配列していることから, 溝に関わる遺構の可能性が考えられる。



第347図 第5号柵列跡実測図

(5) 溝

調査4区では17条の溝を検出した。特徴的な遺構について記載し, それ以外の遺構や遺物については, 土層断面図と一覧表で掲載する。溝の平面図は付図に示す。

第12号溝 (第348図, 付図1)

位置 調査4区の中央部, J11b3区~J10b9区, J10b9区~I10a9区。墓塚の可能性のある土坑群の南側と西側を囲むようにL字状に延びている。平成7年度の調査区と平成10年度の調査区にまたがって位置している。そのため, 調査もI10区を平成7年度に, J10・J11区を平成10年度にと, 両年度にわたった。

重複関係 第1176号住居跡を掘り込んでいる。また, 第822・920・923・925・926・932・933・940・942号土坑, 第63号溝に掘り込まれている。

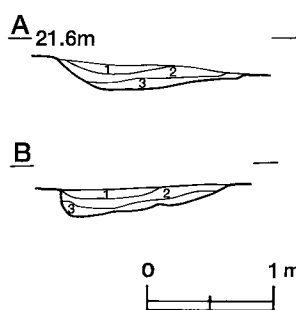
規模と形状 上幅100～180cm，下幅30～90cmで，確認面からの深さは22～38cmである。断面は浅いU字形を呈し，壁は西側と南側は外傾して立ち上がり，東側と北側は緩やかに傾斜して立ち上がる。調査区域内ではL字状に確認され，確認できる長さは南北23.0m，東西16.6mで，北側で平成7年度の調査の第12号溝につながり，東側で調査区域外に延びている。方向や形状から，北側の延長線上に位置する第60号溝とつながると考えられる。

方向 J11b3区から西方向（N-5°-W）に直線的に延び，J10b9区で北方向（N-88°-W）にほぼ直角に屈曲し，直線的に延びてI10a9区に至る。

覆土 3層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量



第348図 第12号溝土層断面図

遺物 土師器片284点，須恵器片43点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 本跡の北部は平成7年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告書』第120集を参照されたい。時期は，判断できる遺物が出土していないため不明であるが，墓壇の可能性が考えられる土抗群を取り囲むように西側と南側に位置するため，墓域に関する溝の可能性が考えられる。

第35A号溝（第349・350図，付図1）

位置 本跡の調査は，平成7・9・10・11年の4年間にわたっている。平成7年度には，第11号溝として調査4区の北西部（I9b0～I9d0区）で調査されており，平成9年度には，第35号溝として調査11区の東端から西端（F12j4～G10i2区）で調査されている。平成10年度には，平成7年度と平成9年度の調査区の間である4区の北西部の一部（H10b2～H10h2区）と，4区の西部～南部（I9e0～K9j8区）の調査がなされ，第11号溝と第35号溝は連続する同一の溝であることが判明し，第35号溝として調査している。平成11年度には，平成10年度の調査4区に残った北西部の一部（H10h2～I9b0区）を第35号溝として調査した。調査の結果，第35号溝は調査4区と調査8区をほぼ南北に連続する溝と考えられていたが，調査4区と調査8区の境を東西に横断する第5号道路状遺構の部分で別の溝であることが判明した。そのため，第35号溝は，調査4区より北側の部分を第35A号溝，調査8区から南側を第35B号溝と区分した。

ここでは，平成10・11年度の調査4区内の北西部の一部（H10b2～I9b0区）と，調査4区の西部から南部（H10h2～K9j8区）について第35A号溝として報告する。

重複関係 第991・1003・1017・1018・1034号住居跡を掘り込み，第56・59・63号溝及び第770号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査4区の西寄りを北端から南端まで，南北に直線状に延びている。調査4区北西部（H10b2～I9b0区）では，上幅223～332cm，下幅32～80cmで，確認面からの深さは85～104cmである。長さ26.4mで，直線的に南北に延びる。断面の形状は箱葉研堀状である。調査4区西部から南部（H10h2～K9j8区）では，上幅109～309cm，下幅35～66cmで，確認面からの深さは65.5～141cmである。長さは，97.4mで直線的に南北に

延びる。断面の形状は箱葉研堀状であるが、南部に入って南へ下るほど上幅が狭くなり、深さも浅くなっている。これは、下幅が調査4区北西部とあまり変わらないこと、調査4区の西部から南部にかけて地表面が緩斜していること、南部で検出された住居跡の覆土が薄いこと等から、地表面が長年の耕作によって削平されてしまっていると考えられ、本跡が付設され機能していた時期は、同じ形状をしていたものと考えられる。溝の底面の標高は、調査4区北西部では21.06～21.31mで、調査4区西部から南部にかけては21.45～21.66mである。調査区の北端と南端の底面の高低差は0.60mで、南から北に向かってわずかであるが緩やかに傾斜している。

方向 N-5°-E

覆土 レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

A-A' 土層解説

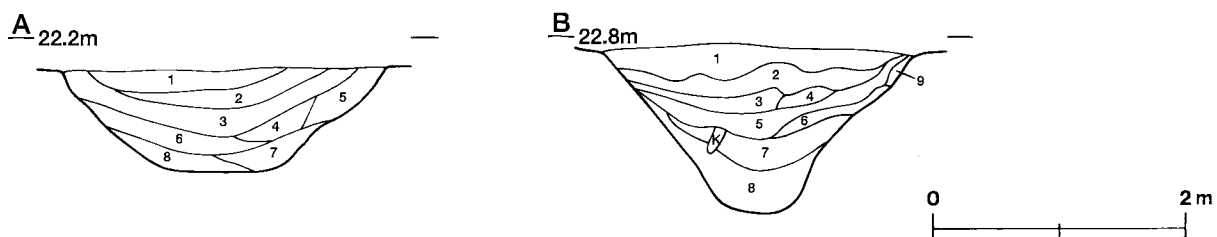
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

B-B' 土層解説

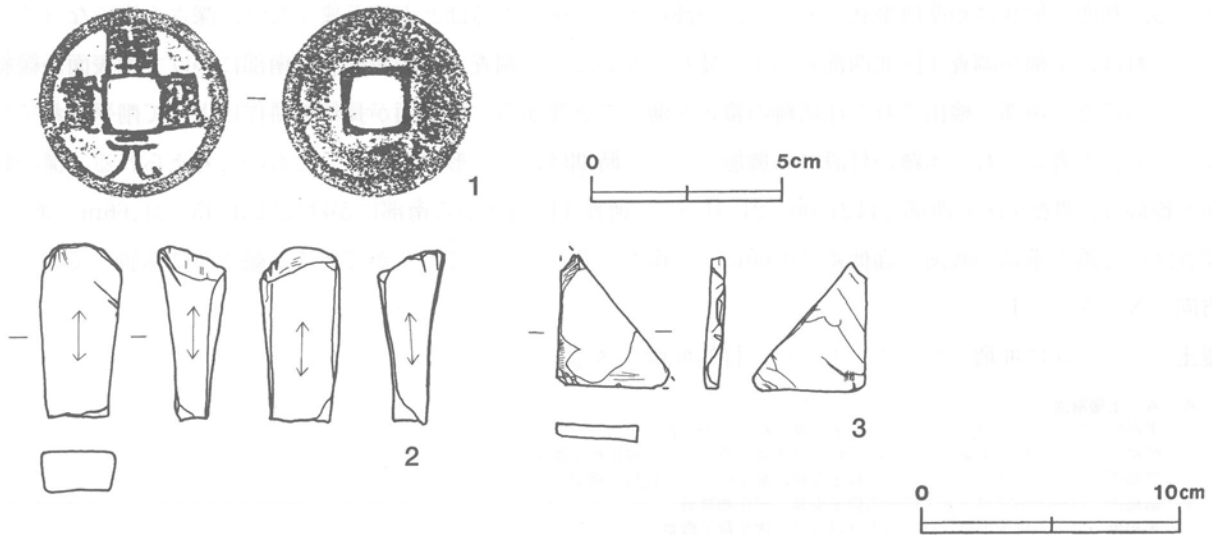
- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック・粘土粒子微量
- 8 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物 土師器片724点, 須恵器片59点, 鉄滓1点, 古銭1点, 砥石2点, 馬骨片・馬歯, 陶器片1点, 磁器片1点が出土している。第350図1の古銭は, I9g0区の覆土上層から出土している。2の砥石は, K9e9区の覆土中層から出土している。3の砥石は, 覆土中から出土している。図示した遺物を含めて出土している土器片と鉄滓は, 細片であり, 多くは流れ込みによって混入したものと考えられる。特に, 土師器片・須恵器片の多くは, 掘り込んでいる古墳時代後期(第991・1018・1034号)と8世紀前葉(第1003・1017号)の住居跡から混入した遺物とも考えられる。馬骨片・馬歯は, 2か所の地点の覆土下層から出土している。陶器・磁器片は, 攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は, 調査11区で東西に延び, 東端と西端で直角に屈曲し, 南へと延びる, 堀ともいえる大溝である。断面の形状や高低差, 8世紀から9世紀代にかけての掘立柱建物跡等との配置から考えても, ある特定の場所を区画する溝であると推定できる。本跡のこれまでの調査結果の詳細については、『茨城県教育財団文化財報告書』第120・166集を参照されたい。時期は, これまでの調査の報告から, 8世紀中葉に位置づけられている。今回の調査では, 8世紀前葉の住居跡を掘り込んでいることから, 8世紀前葉以降であることがあらためて確認されたが, 廃絶された時期については不明である。



第349図 第35A号溝土層断面図



第350図 第35 A号溝出土遺物実測図

第35 A号溝出土遺物観察表

図版番号	鑄名	計測値			鑄造年	鑄造国名	備考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ (g)			
第350図1	開元通宝	2.5	0.7×0.7	3.22	初鑄621年のものカ	唐 (中国)	M41057 100% P L 240

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
第350図2	砥石	(6.8)	3.1	1.7	(64.6)	凝灰岩	砥面4面, 断面長方形	Q41037 50% P L 240
3	砥石	(4.4)	(5.2)	0.7	(13.8)	泥岩	砥面2面, 端部欠損	Q41038 50%

第60号溝 (第351図, 付図1)

位置 調査4区の北部, I10a9区~H10d9区, H10d9区~H11a7区。H10j9区で第22号地下式塋の, H10i9区で第23号地下式塋の, H11c4区で第24号地下式塋のそれぞれ上層を通過している。墓塋と考えられる土坑群の西側と北側を囲むようにL字状に延びている。第12号溝の北側の延長線上に位置している。

重複関係 第129・130・1055・1103・1126・1127・1130・1142・1144・1155・1156号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 上幅107~207cm, 下幅15~150cmで, 確認面からの深さは20~35cmである。断面はU字形を呈し, 壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からピットが20か所検出された。長径25~105cm, 短径28~65cmの円形または楕円形で, 深さ19~77cmである。性格は不明である。確認できる長さは南北32.5mで, 北端ではほぼ直角に曲がり東に30.7m延びる。東端と南端は掘り込みが浅くなり確認できなかった。方向や形状から, 南側の延長線上に位置する第12号溝とつながると考えられる。

方向 I10a9区から北方向 (N-5°-W) に直線的に延び, H10d9区で東方向 (N-82°-E) にほぼ直角に屈曲し, 調査区域外に延びている。

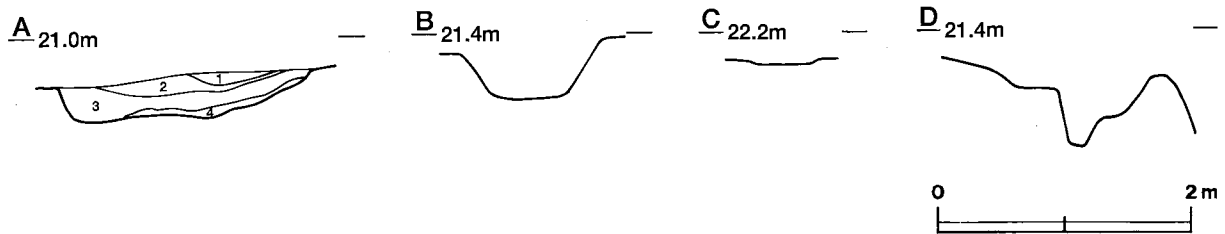
覆土 4層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

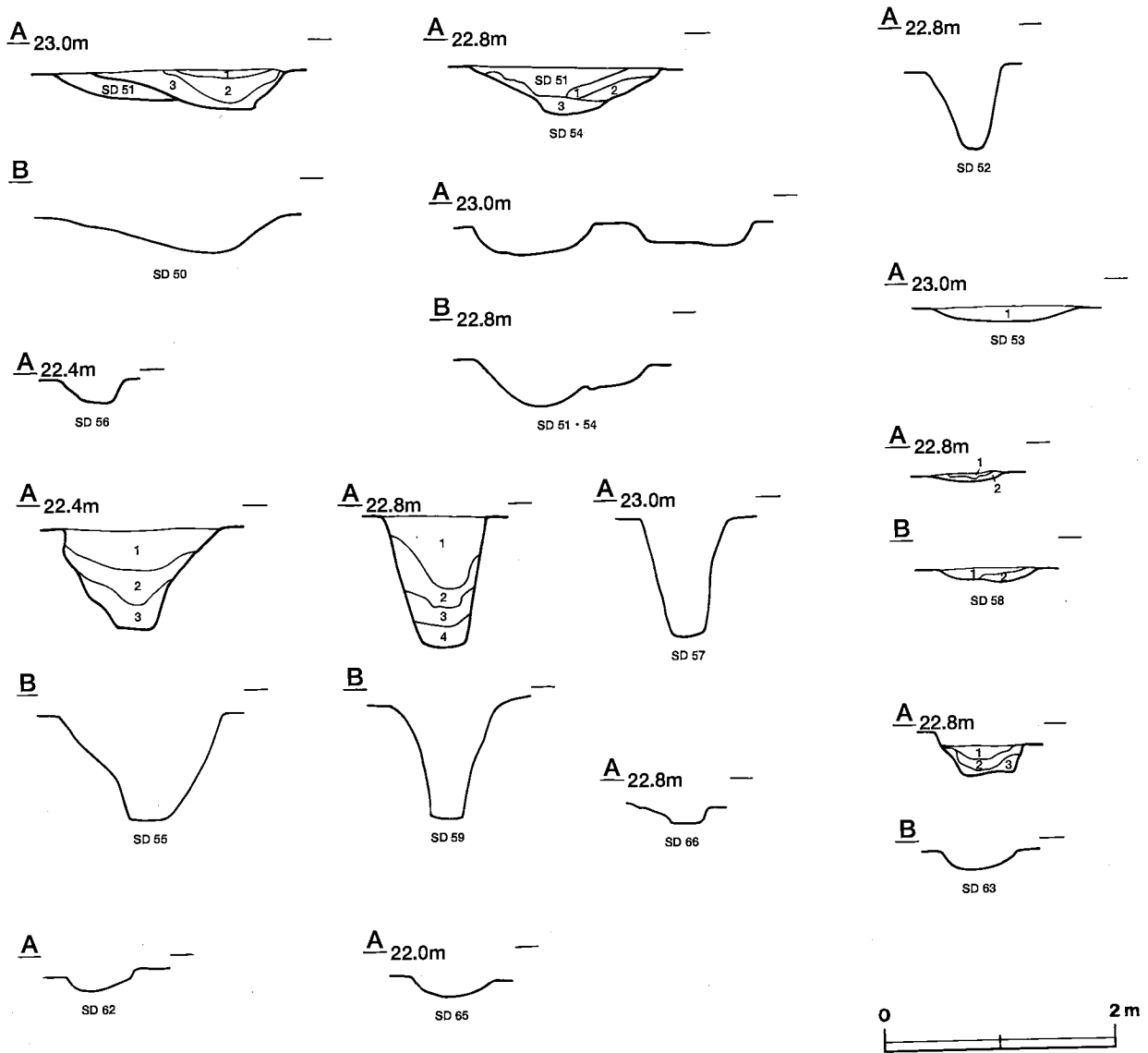
遺物 土師器片269点, 須恵器片82点が出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断できる遺物が出土していないため不明であるが, 溝に沿って地下式墳が掘り込まれていることや, 本跡と第12号溝とで「コ」の字状に取り囲まれている中に, 墓壇や墓壇の可能性が考えられる土抗群, 火葬施設, 地下式墳が検出されていることなどから, 墓域を区画した溝の可能性が考えられる。



第351図 第60号溝断面図

その他の溝 (第352図)



第352図 その他の溝断面図

第50号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第53号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第54号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第55号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

第58号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子微量

第59号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第63号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

表5 4区溝一覧表

溝番号	位置	走行方向	形状	規模 (m)				壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係 (古→新)
				確認長	上幅	下幅	深さ (cm)					
12	I10a9~J11b3	北~東	L字状	(39.60)	1.00~1.80	0.30~0.90	22~38	外傾	緩やかなU字	自然	—	SI1176→本跡→SK822-923-925-920-926-932-933-940-942-SD63
35A	H10b2~K9j8	北~南	直線状	(123.80)	1.09~3.32	0.32~0.82	65.5~141	外傾	緩やかなU字	自然	土師器片・須恵器片, 陶器片, 磁器片, 古銭, 砥石, 馬骨・鹿	SI991-1003-1017-1018-1034→本跡→SD56-59-63-SK770
50	I9d9~J9g1	北東~南西	直線状	(60.60)	1.02~1.88	0.14~0.79	20~40	緩斜	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI968-SI971-SI1016-SB56-SD51→本跡
51	I9f6~K8a9	北~南西	L字状	(72.70)	0.48~0.90	0.28~0.68	16~38	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片	SB53-961-968-972-SB53-SD55→本跡
52	J9i6~K9d6	北~東	L字状	27.70	0.60~0.76	0.12~0.20	58~70	外傾	V	自然	土師器片, 陶器片	SI984-990→本跡→SD55-59
53	J9a6~J9c3	北~東	L字状	(23.60)	0.46~0.68	0.32~0.46	13~	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片	SI968→本跡→SK751
54	I9j8~K8a9	東~南西	L字状	(57.70)	0.55~1.28	0.18~0.50	18~40	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片	SI959-961-968-972-SB53→本跡→SK752
55	K9d6~K9g6	北~南	直線状	(10.74)	0.86~1.47	0.24~0.35	78~90	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI990-SD35A→本跡
56	K9d7~K10f1	北西~南東	直線状	(19.10)	0.30~0.65	0.11~0.36	14~20	外傾	U	自然	—	SD35A→本跡→SK762
57	K10g2~L10a1	北~南	直線状	(17.32)	0.64~1.04	0.22~0.36	85~102	外傾	U	自然	土師器片	SI1007→本跡→SK767
58	I9e9~I9j8	北~南	蛇行状	(23.96)	0.36~0.93	0.12~0.32	5~12	緩斜	U	自然	土師器片, 鉄滓	本跡→SK754
59	J9i6~J10j2	東~西	直線状	(26.94)	0.56~1.02	0.17~0.38	97~114	外傾	U	自然	陶器片	SD35A-52-62→本跡
60	H11b7~I10a9	東~南	L字状	(63.2)	0.54~2.07	0.15~1.50	20~47	外傾	U	自然	—	SI129-130-1055-1103-1126-1127-1130-1142-1144-1155-1156→本跡
62	J9h3~J9i6	東~西	直線状	(11.20)	0.48~0.81	0.04~0.32	4~19	緩斜	U	自然	—	SI970-978-SD59→本跡
63	I9h6~I10h9	東~西	直線状	(35.80)	0.42~0.80	0.20~0.40	15~28	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片, 磁器片	SI1163-1165-1166-SD35A→本跡→SD64-SK825
65	I10i8~J10b8	北~南	直線状	(12.75)	0.42~0.72	0.13~0.30	14~16	緩斜	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 鉄滓	SI1168-1173→本跡
66	J10a1~10b8	北~西	L字状	(27.44)	0.34~0.56	0.08~0.38	5~22	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI1045-SK935-948-944→本跡→SI1023

(6) 井戸跡

第28号井戸跡〔SK-947〕(第353・354図)

位置 調査4区の中央部, J10i8区。

重複関係 第1063・1065号住居跡を掘り込んでいる。

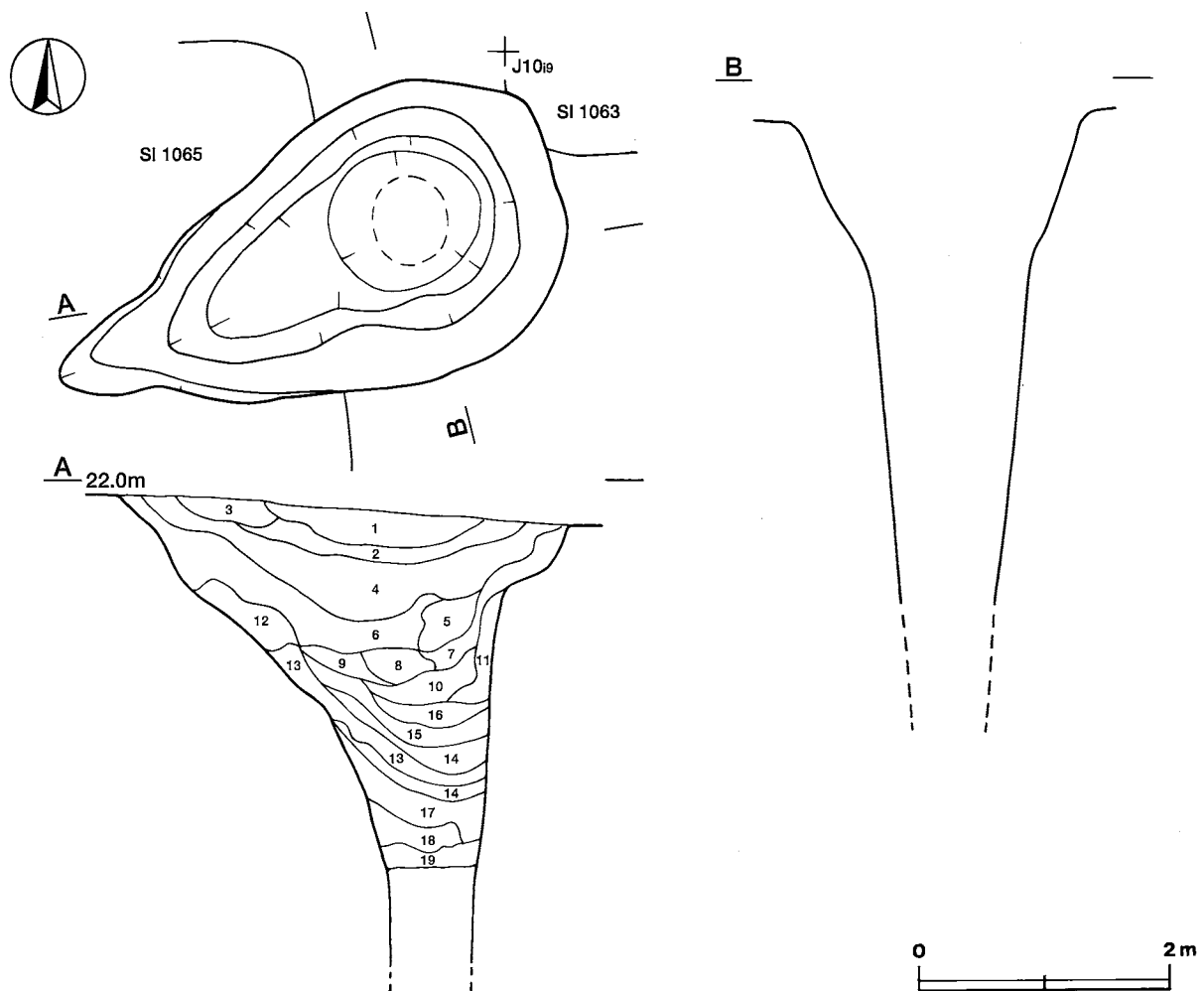
規模と形状 掘り方が確認されただけである。掘り方は漏斗状を呈している。上部の平面形は、長径4.22m、短径2.31mの卵形で、確認面から1.10mの深さまでは緩やかな傾斜ですぼまっていき、下部は径1.22mのほぼ円筒形に掘り込まれている。確認面下、4.95mまで掘り込み調査し、底面は確認できなかった。底面付近の平面形は、長径68cm、短径59cmの楕円形である。本跡は、ローム層と常総粘土層を掘り込み、さらに砂質粘土層まで掘り込んでいる。主に水の滲出が見られるのは、常総粘土層の上部である。

長径方向 N-118° -W

覆土 19層まで確認されている。全体的にはレンズ状の堆積状況を呈しているものの、含有物の特徴と土層中の上層～下層から同時期に比定される須恵器大甕の破片が出土していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化材中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

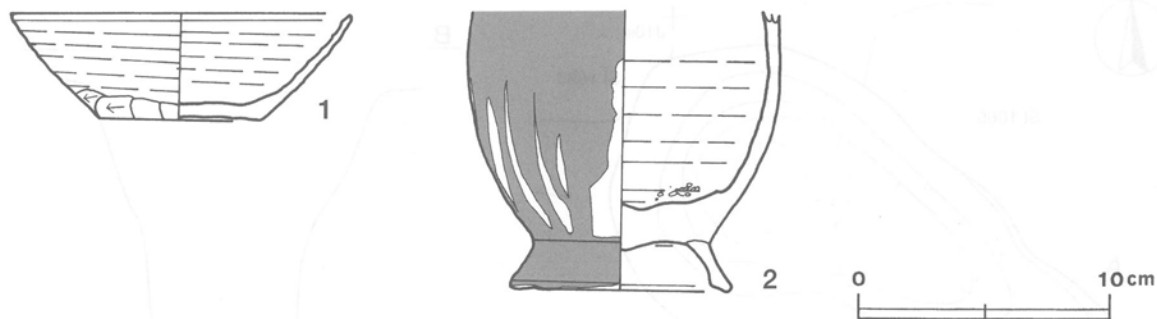


第353図 第28号井戸跡実測図

- 5 黒褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 12 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量
- 14 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化材少量, ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 17 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量
- 18 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土中ブロック微量
- 19 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック微量

遺物 土師器片129点, 須恵器片13点, 灰釉陶器片1点が出土している。第354図1の須恵器坏と2の灰釉陶器水瓶片は, とともに覆土下層から出土している。須恵器片のうち大甕片は11点で, そのうち3点が本跡の10mほど西側に位置する第999号住居跡の大甕片と接合している。

所見 本跡の覆土中には, 本跡が掘り込んでいる焼失住居, 第1065号住居跡のものと考えられる, 炭化材・炭化粒子・焼土粒子が多く含まれ, また, 本跡から出土している大甕片と同時期と思われる大甕片も, 第1065号住居跡から1点ではあるが出土している。さらに, 本跡から出土した遺物は, 第1065号住居跡の遺物と時期的にも一致するものであり, 本跡を廃棄したときに第1065号住居跡に属した土器が混入したと考えられる。本跡の時期は, 9世紀後半と考えられる第1065号住居跡を掘り込んでいることから, 9世紀後半以降と考えられる。



第354図 第28号井戸跡出土遺物実測図

第28号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第354図 1	坏 須恵器	A 13.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り痕を残す, 不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石にふい橙色普通	P41433 95% P L 240 二次焼成
		B 4.3				
		C 6.4				
2	水瓶 灰釉陶器	B (11.0)	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後, ナデ。軸は流し掛け。	緻密胎土 灰白色釉 緑がかったオリーフ 灰色, 良好	P41434 40% P L 240 黒笹90号窯式
		D 8.7				
		E 1.9				

(7) 地下式墳

第21号地下式墳 (第355図)

位置 調査4区の中央部, I10h9区。墓墳と考えられる土坑群の西側に位置している。

重複関係 堅坑が第1176号住居跡を掘り込み, 第823・942号土坑に掘り込まれている。

堅坑 平面形は、長軸1.23m、短軸0.82mの、長軸が主軸に直交する隅丸長方形である。壁は外傾して立ち上がる。壁高は第823号土坑に掘り込まれているため、確認できたのは141cmである。底面は、主室と同じ高さでほぼ平坦である。

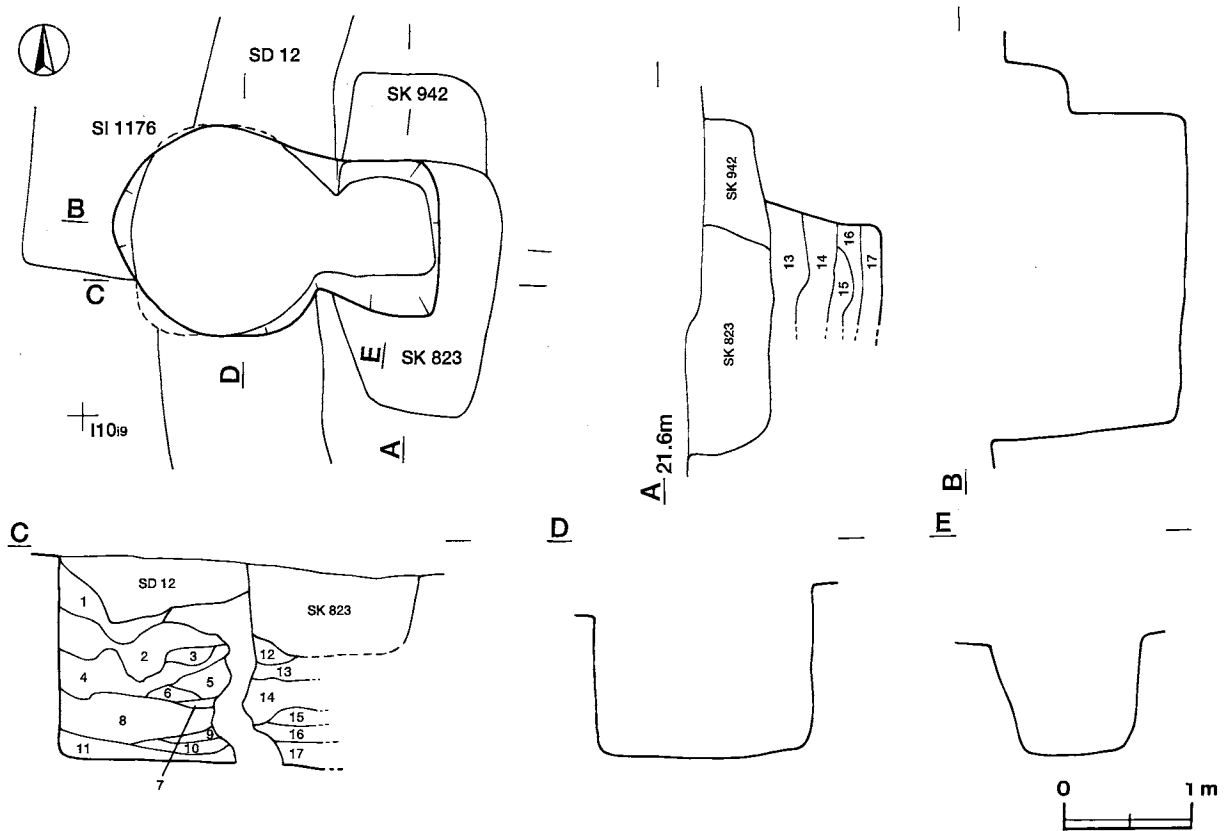
主室 平面形は、径1.65mの円形で、壁はほぼ直立し、壁高は110cmである。底面は平坦である。天井部は崩落し、遺存していない。

主軸方向 N-81°-W

覆土 17層からなる。第1~11層は、主室の堆積土層である。土層断面図中、第8層がロームブロックを多量に含むことから、天井部の崩落土層と考えられる。第8層の下部から検出された第9~11層は、天井部の崩落前に堅坑から流れ込んだ層で、第8層の上部から検出された第1~7層は、天井部の崩落後に周囲から流れ込んだ層と考えられる。堅坑内から検出された第12~17層は、堅坑から流れ込んだ層と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
- 9 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 10 灰褐色 粘土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、ローム大ブロック少量
- 12 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 15 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 16 褐色 粘土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化物・炭化粒子少量
- 17 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量



第355図 第21号地下式墳実測図

遺物 土師器片82点, 須恵器片21点が覆土中から出土している。いずれも混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土遺物からは判断できないが, 遺構の形態から中世と考えられる。性格については, 東部に墓塚の可能性があると考えられる土坑群が確認されているため, 墓域との関連が考えられる。

第22号地下式塋 (第356図)

位置 調査4区の北部, H10j9区。本跡及び以下に記載する第23~25号地下式塋は, 墓塚と考えられる土坑群を囲むように位置している。本跡は, 第23号地下式塋から南へ5.5m, 第25号地下式塋から西へ19mの距離に位置する。

重複関係 東部で第1151号住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 平面形は, 長軸1.33m, 短軸1.07mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。壁は外傾して立ち上がり, 壁高は1.24~1.38mである。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 平面形は, 長軸1.53m, 短軸1.08mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部はドーム状を呈しており, 底面から天井部までの高さは0.79~1.07mである。壁は直立し, 壁高は0.79mである。底面は平坦である。

主軸方向 N-108° - W

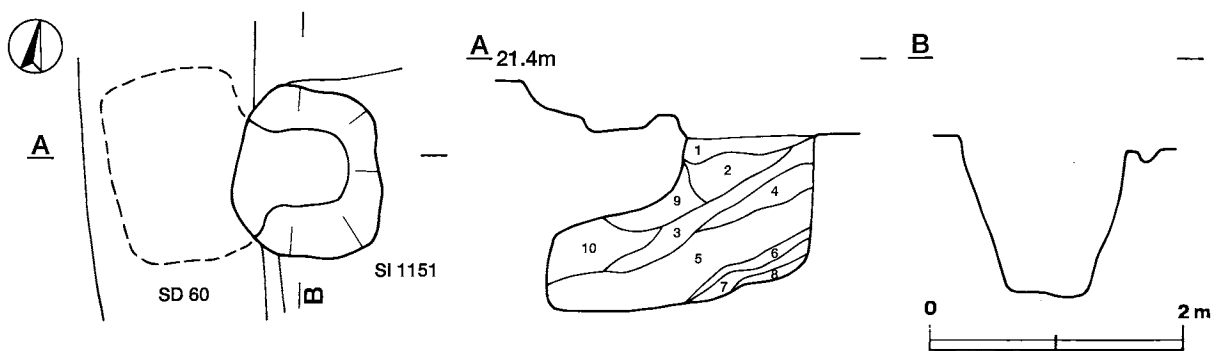
覆土 10層からなる。土層断面図中, 第5層がローム土の純層に近いことから, 天井部や壁の一部が剥落したものと考えられる。第5層の下部から検出された第6~8層は, 竪坑から主室に向かって傾斜して堆積していることから, 天井部や壁の一部が崩落する前に竪坑から流れ込んだ層と考えられる。第5層の上部から検出された第1~4・9・10層は, 崩落後に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量

遺物 混入した土師器片17点, 須恵器片4点が出土している。時期を判断できる遺物は, 出土していない。

所見 本跡及び以下に記載する第23~25号地下式塋は墓塚と考えられる土坑群を囲むように位置していることから, 中世の埋葬施設との関連が考えられる。詳細な時期は, 判断できる遺物が出土していないことから, 不明である。



第356図 第22号地下式塋実測図

第23号地下式墳（第357図）

位置 調査4区の北部，H10i9区。第22号地下式墳から北へ5.5m，第24号地下式墳から南西へ28mの距離に位置する。

重複関係 北部で第1142号住居跡を，南部で第1155住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 平面形は，長軸1.10m，短軸0.94mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。壁は急な傾斜で立ち上がり，壁高は0.87～1.18mである。底面は，主室と同じ高さで，平坦である。

主室 平面形は，長軸1.48m，短軸1.03mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。西壁際にドーム状と推定される天井部の一部が残存している。底面から天井部までの高さは0.88～1.02mである。壁は直立し，壁高は0.88mである。底面は平坦である。

主軸方向 N-88°-W

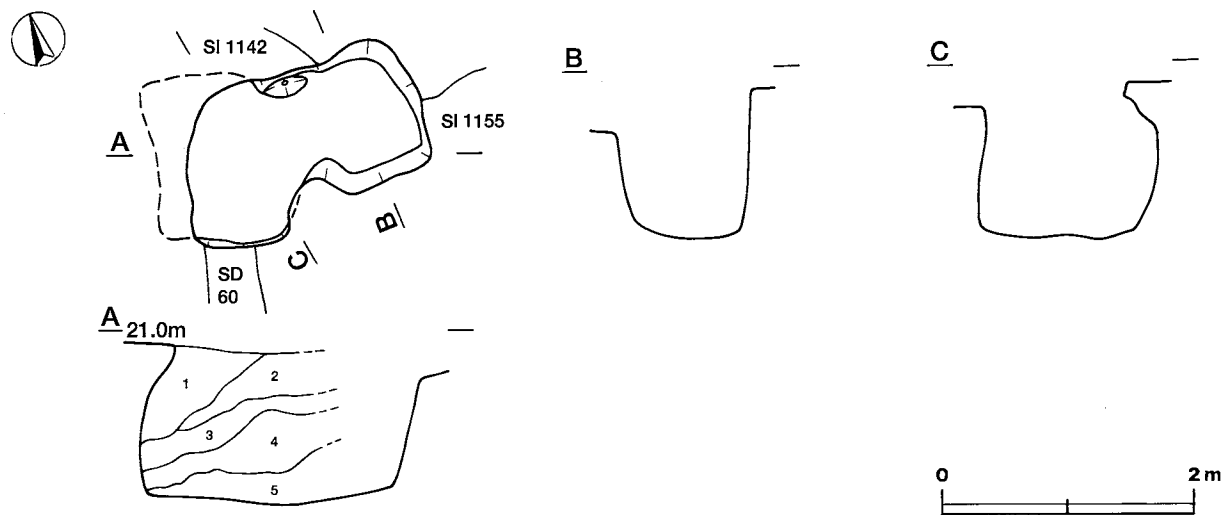
覆土 5層からなる。土層断面図中，第4層がローム土の純層に近いことから，天井部の崩落土と考えられる。第4層の下部から検出された第5層は天井部の崩落以前に，第4層の上部から検出された第1～3層は崩落後に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 混入した土師器片8点が出土している。

所見 時期は，判断できる遺物が出土していないことから，不明である。



第357図 第23号地下式墳実測図

第24号地下式墳（第358図）

位置 調査4区の北東部，H11c4区。第23号地下式墳から北東へ28m，第26号地下式墳から北へ18mの距離に位置する。

竪坑 平面形は，径0.65mのはほぼ円形である。壁は直立しており，壁高は1.40～1.65mである。底面は，主室に向かって緩やかに下降している。竪坑と主室をつなぐ部分の天井部の一部が遺存しており，底面からの高さ

は1.25mである。天井部は、主室に向かって緩やかに下降している。

主室 平面形は、長軸1.74m、短軸1.30mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部は遺存していない。壁高は1.61～1.81mで、北壁は外傾して立ち上がり、それ以外の壁はほぼ直立する。底面は平坦である。

主軸方向 N-7°-E

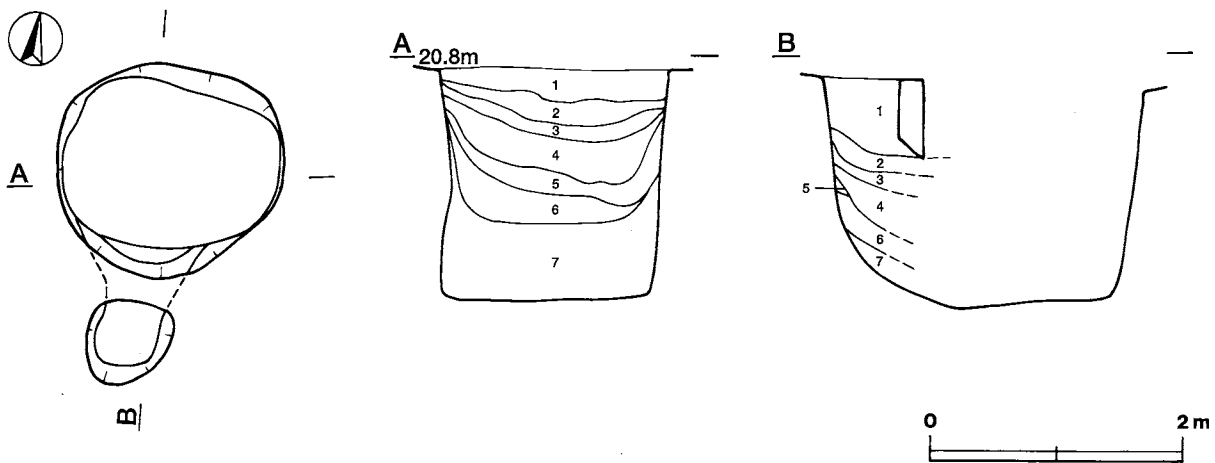
覆土 7層からなる。最下層である第7層はローム土の純層に近いことから、天井部の崩落土と考えられる。その他の土層は、レンズ状に堆積していることから、天井部が崩落した後、自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、粘土粒子少量

遺物 混入した土師器片7点が出土している。

所見 時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。



第358図 第24号地下式壙実測図

第25号地下式壙 (第359図)

位置 調査4区の北東部、H11a4区。第22号地下式壙から東へ19m、第26号地下式壙から南へ12mの距離に位置する。

竪坑 平面形は、長軸1.02m、短軸0.76mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。壁はほぼ直立し、壁高は0.73mである。底面は、主室と同じ高さで、平坦である。

主室 平面形は、長軸1.69m、短軸1.42mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、壁高は0.76mである。底面は、平坦である。

主軸方向 N-92°-W

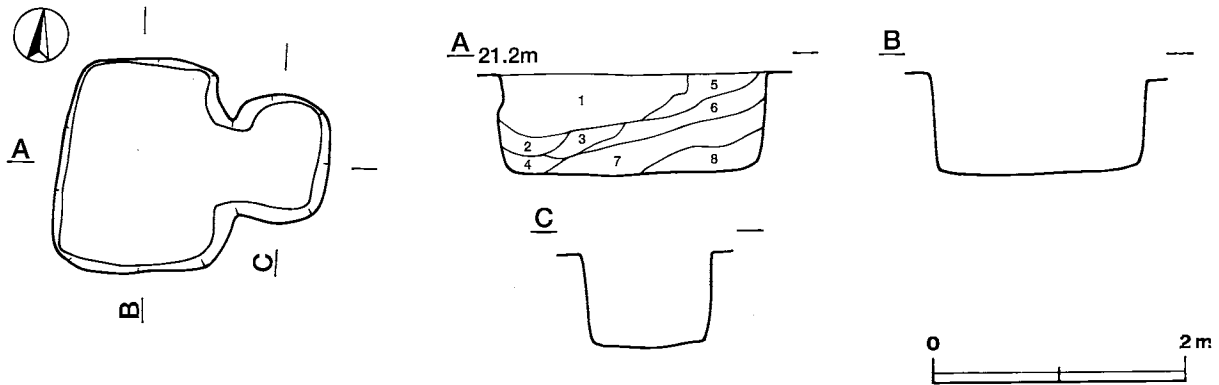
覆土 8層からなる。土層断面図中、第5～8層がローム粒子を多量に含む褐色土であることから、天井部の崩落土と考えられる。その上部から検出された第1～4層はレンズ状に堆積していることから、天井部の崩落後自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 時期は, 判断できる遺物が出土していないことから, 不明である。



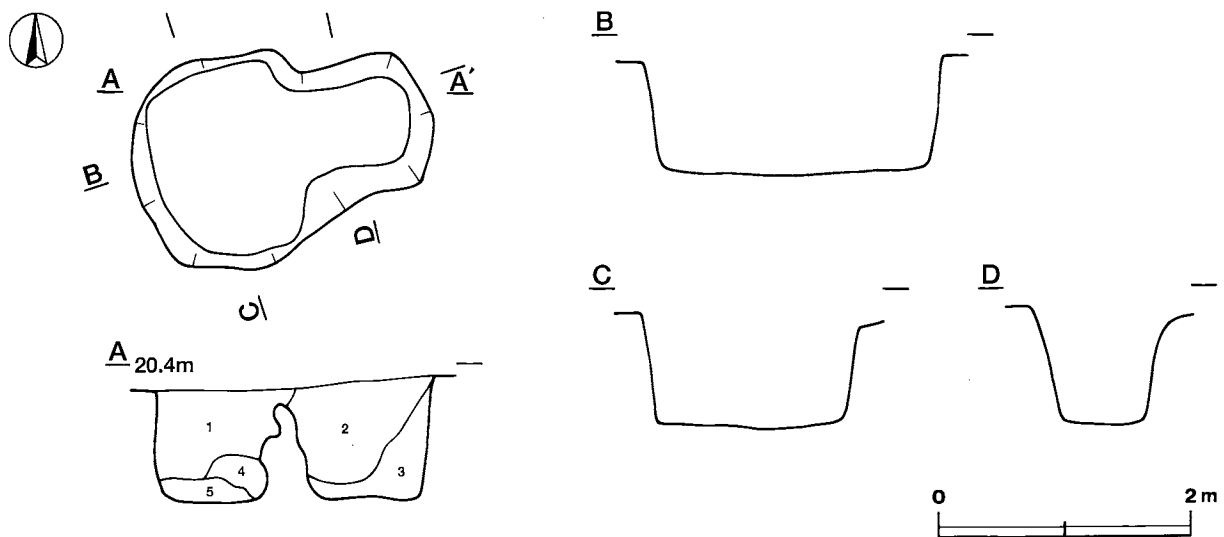
第359図 第25号地下式壙実測図

第26号地下式壙 (第360図)

位置 調査4区の北東部, H11h4区。第24号地下式壙から南へ18m, 第25号地下式壙から北へ12mの距離に位置する。

竪坑 平面形は, 長軸1.12m, 短軸1.07mの隅丸方形である。壁はほぼ直立し, 壁高は83~92cmである。底面は, 主室と同じ高さで, 平坦である。

主室 平面形は, 長軸1.49m, 短軸1.07mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し, 壁高は0.76~0.90mである。底面は, 平坦である。



第360図 第26号地下式壙実測図

主軸方向 N-110° -W

覆土 5層からなる。第4・5層が天井部の崩落土と考えられる。その他の土層は、天井部の崩落後、自然堆積したと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 5 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | | |

遺物 混入した土師器片10点, 須恵器片2点が出土している。

所見 時期は, 判断できる遺物が出土していないことから, 不明である。

表6 4区地下式壙一覧表

番号	位置	方向	規 模						覆土	出土遺物	備 考 新旧関係 (古→新)
			堅 坑			主 室					
			長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (m)	平 面 形	長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (m)	平 面 形			
21	I10h9	N-81°W	1.23×0.82	1.41	隅丸長方形	1.65	1.10	円 形	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SK823・942
22	H10j9	N-108°W	1.33×1.07	1.24~1.38	隅丸長方形	1.53×1.08	0.79~1.07	隅丸長方形	人為	土師器片, 須恵器片	SI1151→本跡
23	H10i9	N-88°W	1.10×0.94	0.87~1.18	隅丸長方形	1.48×1.03	0.88~1.02	隅丸長方形	人為	土師器片	SI1142・1155→本跡
24	H11c4	N-7°E	0.65	1.08	円 形	1.74×1.30	1.61~1.81	隅丸長方形	自然	土師器片	
25	H11a4	N-92°W	1.02×0.76	0.73	隅丸長方形	1.69×1.42	0.76	隅丸長方形	人為		
26	H11h4	N-110°W	1.12×1.07	8300~9200	隅丸長方形	1.49×1.07	0.76~0.90	隅丸長方形	自然	土師器片, 須恵器片	

(8) 方形堅穴状遺構

方形堅穴状遺構が, 調査4区で11基検出されている。平成7年度の調査では2基から骨粉や人の歯等が出土している。平成10年度の調査では, 8基が検出されており, 火葬施設や墓壙の可能性があると考えられる土坑群に隣接している。墓域に関わる遺構の可能性が考えられる。以下にその特徴等を記載する。

第9号方形堅穴状遺構 (第361図)

位置 調査4区の中央部, J10d0区。

重複関係 第1049号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.40mの長方形である。

長軸方向 N-76° -W

壁 壁高は26~30cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり, 中央部から出入り口にかけて特に踏み固められている。中央部やや東寄りの長軸70cm, 短軸40cmの不定形の範囲に炭化物(藁カ)が薄く分布していた。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は径15~25cmの円形で, 深さ38~60cmである。P1・P2は東西壁際の中央部に, P3は南壁際の中央部に, P4は南西コーナー部にそれぞれ位置しており, いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に, 確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから, 出入り口と考えられる。規模は幅65cm, 長さ60cm, 傾斜約20°である。

出入り口土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量, 締めり強

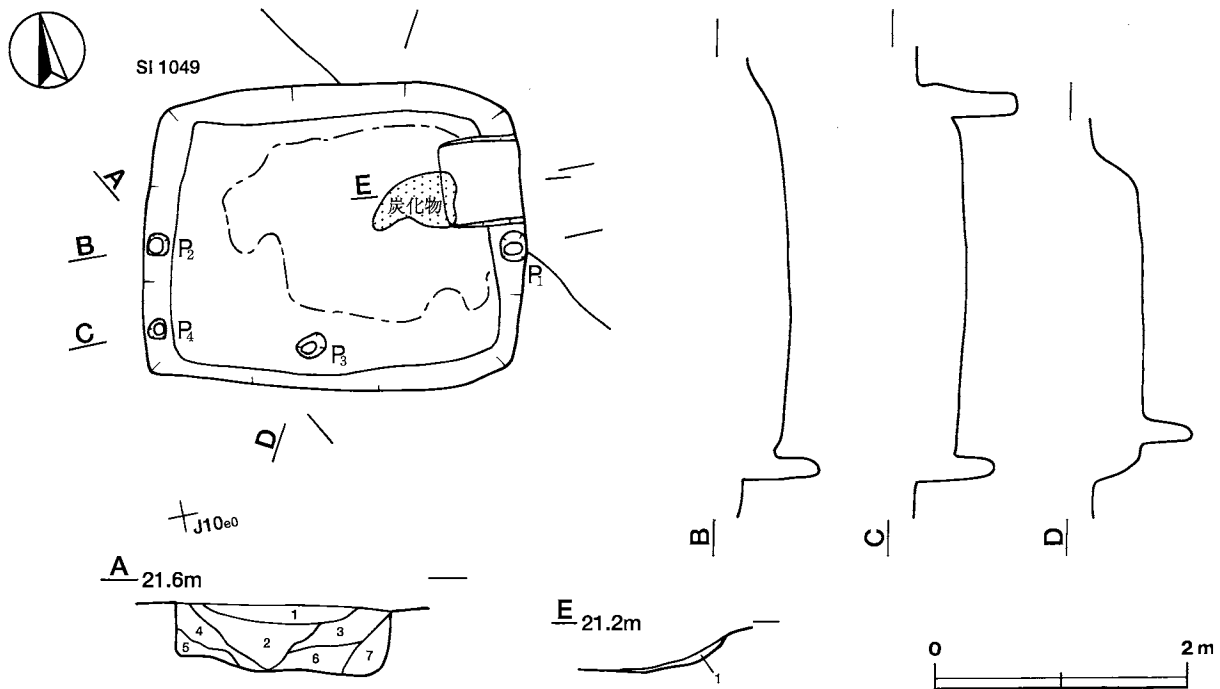
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片48点, 須恵器片16点が出土しているが, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第361図 第9号方形竪穴状遺構実測図

第10号方形竪穴状遺構 (第362図)

位置 調査4区の中央部, J11d1区。

規模と平面形 長軸2.60m, 短軸2.36mの長方形である。

長軸方向 N-1°-E

壁 壁高は40~48cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦である。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1・P2は東西壁際に位置し, それぞれ径43cm・58cmの円形で, 深さ64cm・53cmである。P3はP2の隣りに, P4・P6は南東・南西コーナー部に, P5は南壁際にそれぞれ位置し, 径20~30cmで, 深さ43~66cmである。いずれも垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に, 確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから, 出入り口と考えられる。規模は幅42~58cm, 長さ112cm, 傾斜約16°である。

出入り口土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 締まり強
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, 締まり強

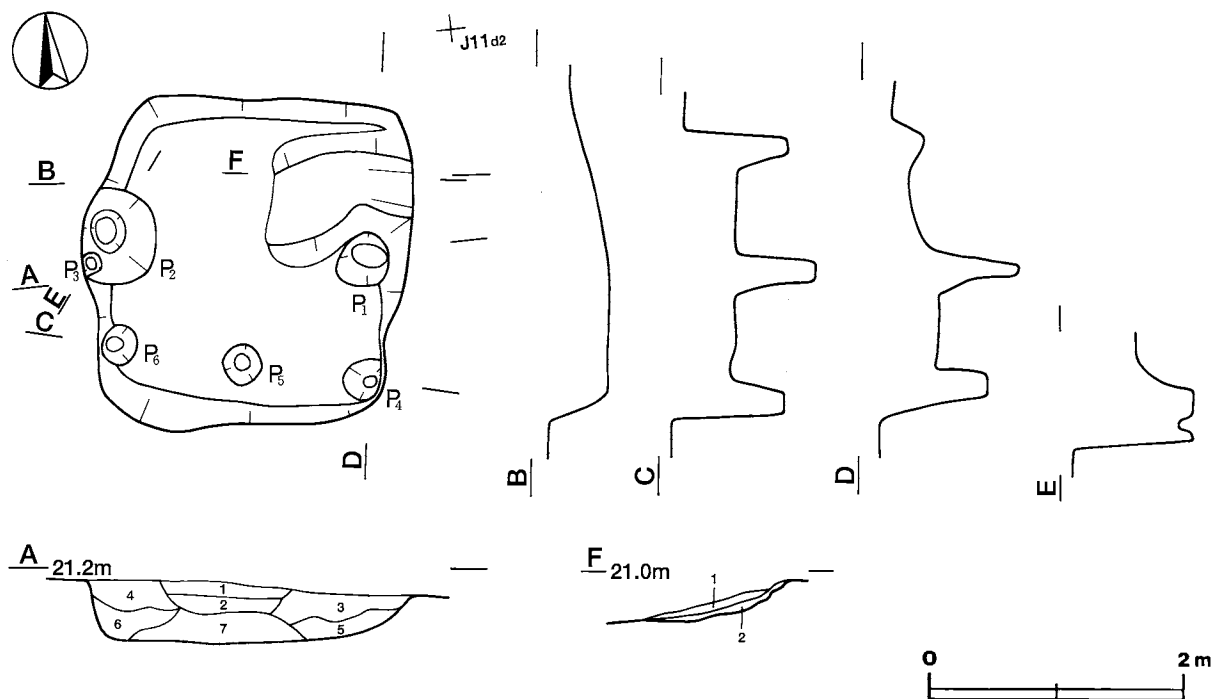
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片50点, 須恵器片10点が出土しているが, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第362図 第10号方形竪穴状遺構実測図

第11号方形竪穴状遺構 (第363図)

位置 調査4区の中央部, J11d2区。

重複関係 第1037号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸2.54mの長方形である。

長軸方向 N-16° - E

壁 壁高は28cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり, 中央部から南側が特に踏み固められている。中央部の長軸75cm, 短軸50cmの不定形の範囲に炭化物(藁カ)が, P1の北側の長軸70cm, 短軸35cmの不定形の範囲に焼土がそれぞれ薄く分布していた。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2はそれぞれ東西壁際の中央部に位置しており, 径38cm・31cmの円形で, 深さ73cm・84cmである。いずれも垂直に掘り込まれている。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

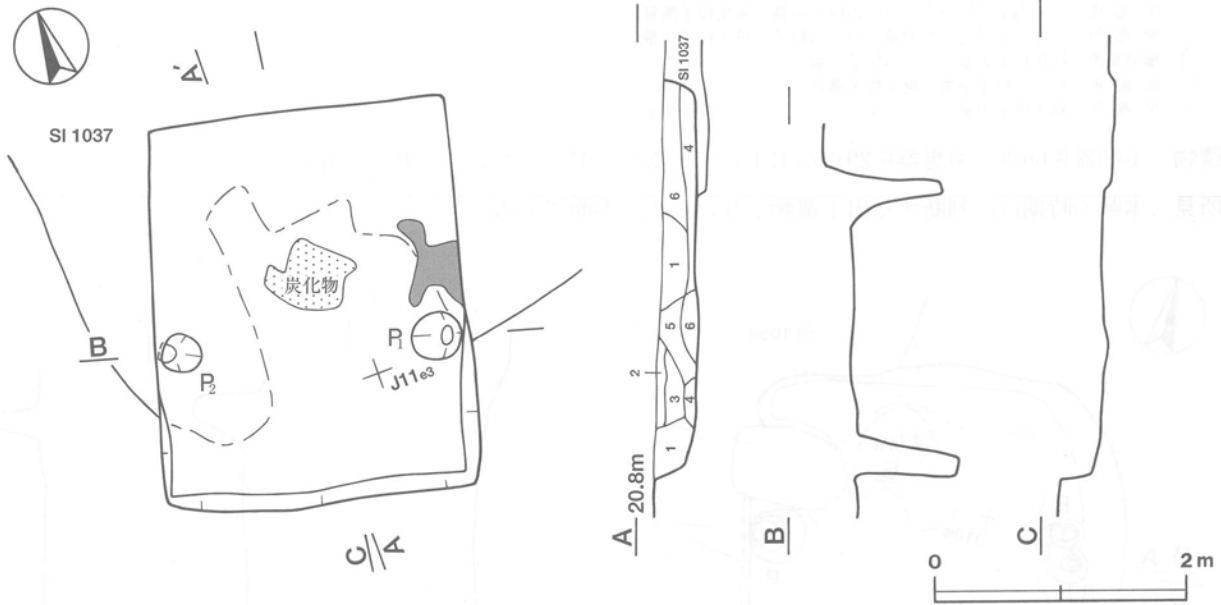
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量

- 3 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物 土師器片31点，須恵器片7点が出土しているが，混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は，判断する出土遺物がないため，不明である。



第363図 第11号方形竪穴状遺構実測図

第12号方形竪穴状遺構 (第364図)

位置 調査4区の中央部，J10f0区。

重複関係 東部で第1059号住居跡を，南東部で第1060号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.69m，短軸2.58mの方形である。

長軸方向 N-73°-W

壁 壁高は28~68cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり，中央部から出入り口にかけて踏み固められている。出入り口付近の長軸98cm，短軸45cmの不定形の範囲に炭化物(藁カ)が薄く分布していた。

ピット 5か所(P1~P5)。P1・P2は東西壁際の中央部に位置しており，それぞれ径45cm・30cmの円形で，深さ42cm・61cmである。P3はP2の隣に，P4・P5は南東・南西コーナー部にそれぞれ位置し，径25~35cmの円形で，深さ35~38cmである。いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に，確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから，出入り口と考えられる。規模は幅49~61cm，長さ91cm，傾斜約18°である。

出入り口土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，締まり強
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，締まり強
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

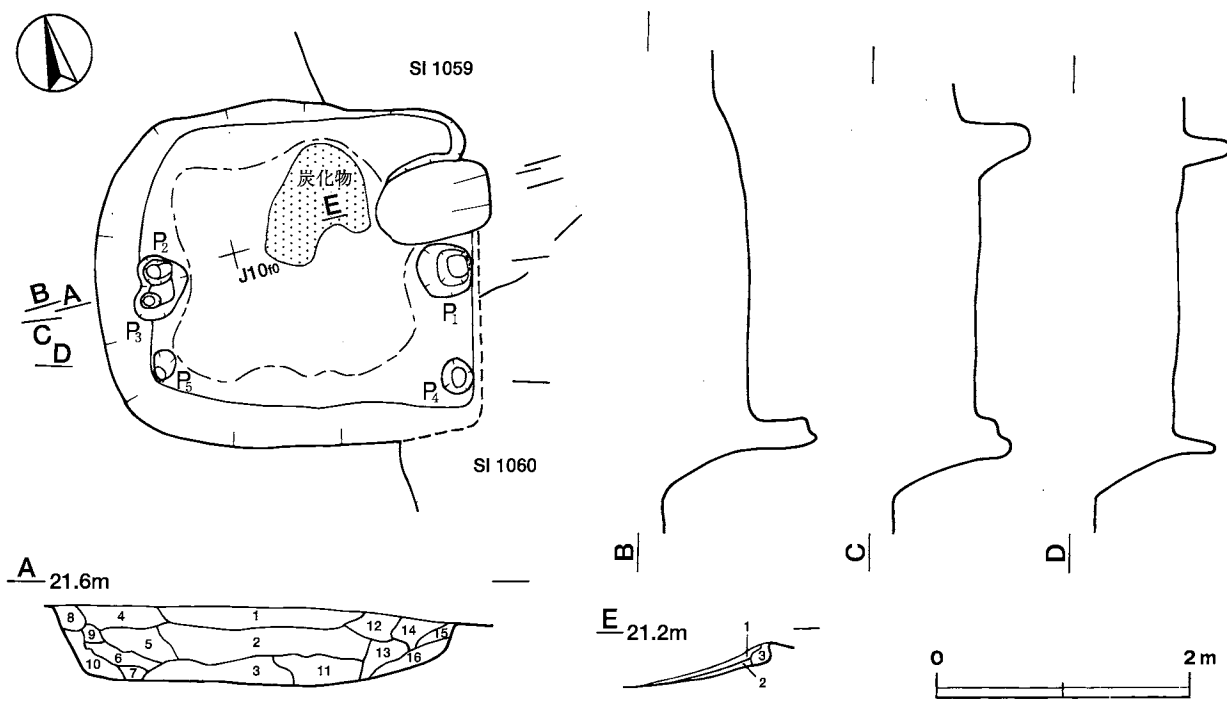
覆土 16層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 極暗褐色 ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 14 極暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 16 黒褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片66点, 須恵器片29点が出土しているが, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第364図 第12号方形竪穴状遺構実測図

第13号方形竪穴状遺構 (第365図)

位置 調査4区の中央部, J11e1区。

重複関係 南西部で第1061号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.72m, 短軸2.66mの方形である。

長軸方向 N-86°-W

壁 壁高は17~26cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 全体的に踏み固められている。出入り口付近の長軸75cm, 短軸35cmの不定形の範囲に炭化物(藁カ)が薄く分布していた。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1・P2はそれぞれ東西壁際の中央部に位置しており, P1は長軸58cm, 短軸40cmの楕円形で, 深さ62cmである。P2は径27cmの円形で, 深さ48cmである。P3はP2に隣接しており,

長径30cm, 短径18cmの楕円形で, 深さ29cmである。いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に, 確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから, 出入り口と考えられる。規模は幅30~58cm, 長さ103cm, 傾斜約15°である。

出入り口土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量, 締まり強
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, 締まり強
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

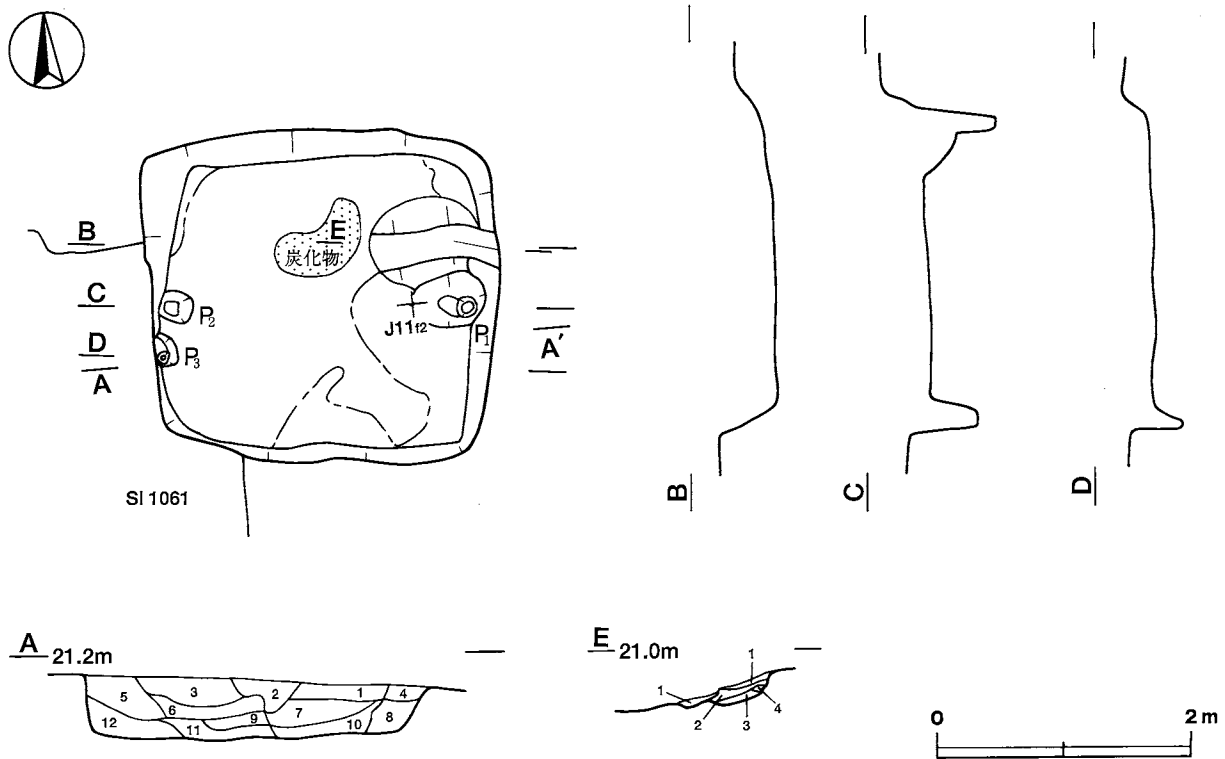
覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化材微量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 12 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片59点, 須恵器片14点が出土しているが, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第365図 第13号方形竪穴状遺構実測図

第14号方形竪穴状遺構 (第366図)

位置 調査4区の中央部, J11f3区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.74mの方形である。

長軸方向 N-85° -W

壁 壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部から出入り口にかけて踏み固められている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1・P2はそれぞれ東西壁際の中央部に位置しており、径26cm・43cmで、深さ22cm・45cmである。P3はP2の隣に、P4は南西コーナー部に位置し、それぞれ径35cm・20cmで、深さ40cm・38cmである。いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に、確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから、出入り口と考えられる。規模は幅115cm、長さ93cm、傾斜約15°である。

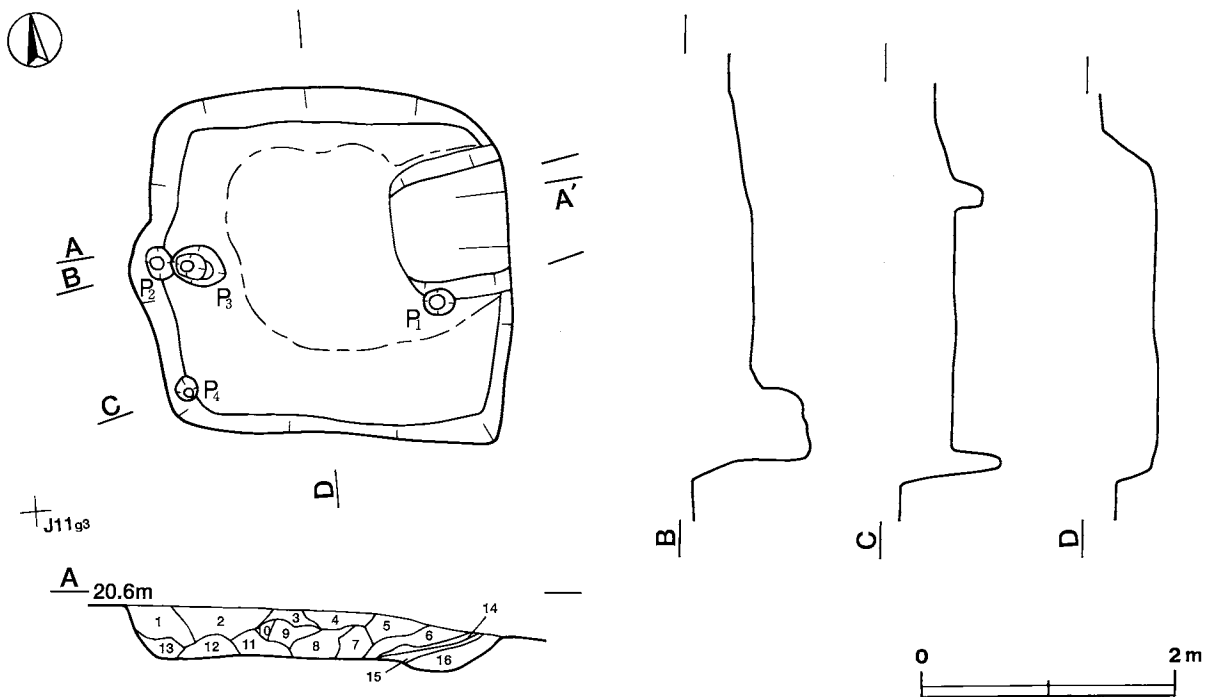
覆土 16層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第14~16層は出入り口の土層である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 14 黒褐色 ローム粒子少量、締まり強
- 15 褐色 ローム粒子中量、締まり強
- 16 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片22点、須恵器片4点が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第366図 第14号方形竪穴状遺構実測図

第15号方形竪穴状遺構 (第367図)

位置 調査4区の中央部, I10j0区。

規模と平面形 長軸2.50m, 短軸2.46mの方形である。

長軸方向 N-7°-E

壁 壁高は10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 中央部が特に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し, 径24cmの円形で, 深さ41cmであり, ほぼ垂直に掘り込まれている。

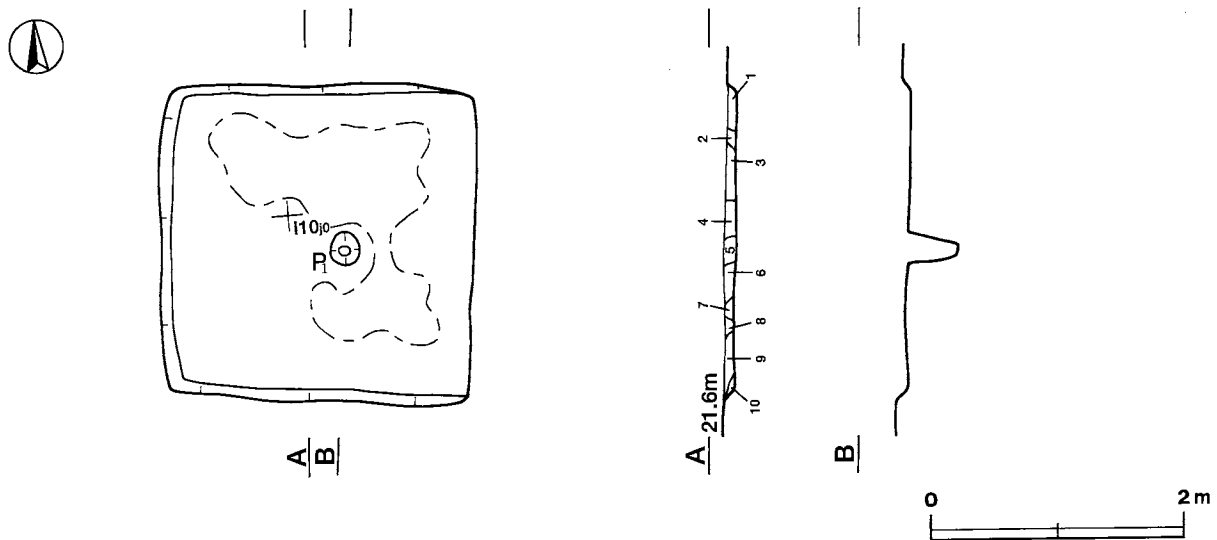
覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 灰褐色 粘土小ブロック多量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム小ブロック中量
- 10 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第367図 第15号方形竪穴状遺構実測図

第16号方形竪穴状遺構 (第368図)

位置 調査4区の北東部, H11d0区。

重複関係 北部を第721号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.06m, 短軸3.03mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は20~39cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で, 踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径34cmの円形, 深さ11cmで, 南西コーナー部に位置している。性格は,

不明である。P 2 は径18cmの円形、深さ20cmで、南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

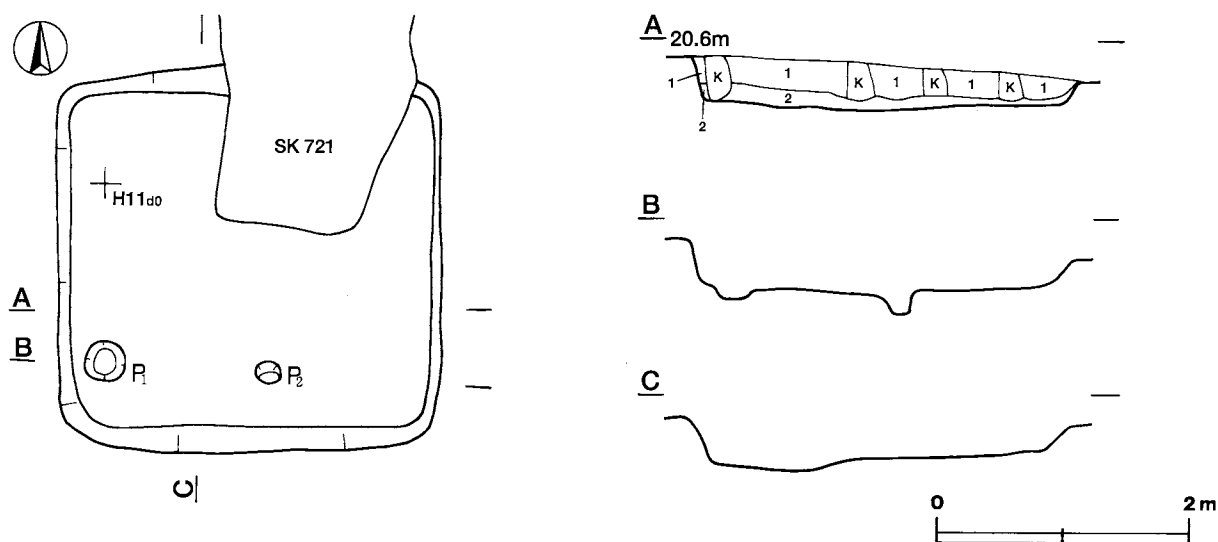
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

遺物 土師器細片27点、須恵器細片19点が出土している。時期を判断できる遺物は出土していない。

所見 本跡からは、竈や硬化面が検出されていないため、住居跡とは考えにくい。時期は、判断できる土器が出土していないため、不明である。



第368図 第16号方形竪穴状遺構実測図

第17号方形竪穴状遺構 (第369図)

位置 調査4区の北東部、H11g0区。

重複関係 南西部を第817号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.20m、短軸2.02mの方形である。

長軸方向 N-86° - E

壁 壁高は50~55cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所 (P 1・P 2)。P 1 は径34cmの円形、深さ46cmで、P 2 は長径28cm、短径20cmの楕円形、深さ44cmで、それぞれ北壁中央部の壁際、南壁中央部の壁際に位置している。規模と位置から、柱穴の可能性はある。

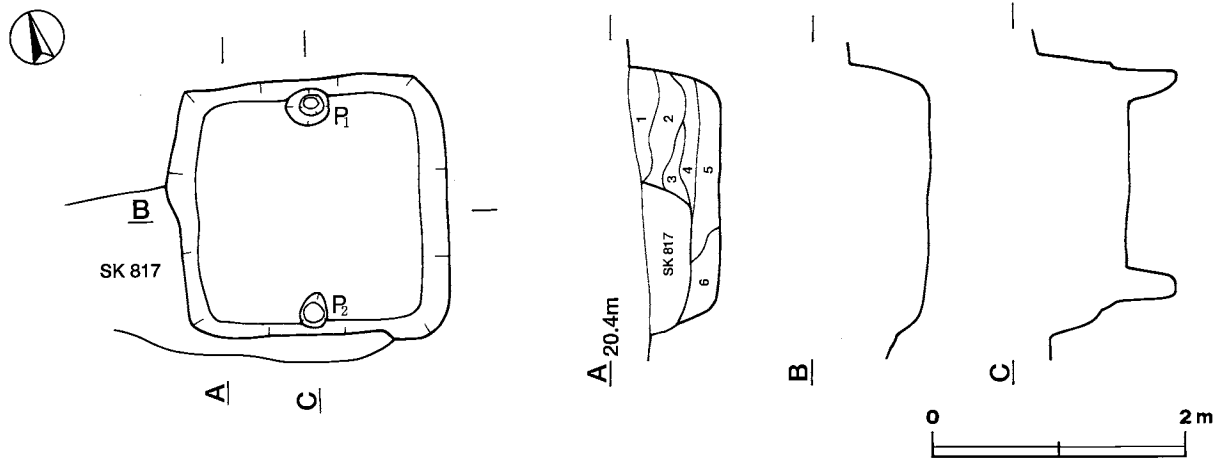
覆土 6層からなる。各層ともロームブロックを含み、東側から埋め戻されたように傾斜した堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 出土していない。

所見 時期は、判断できる土器が出土していないため、不明である。



第369図 第17号方形竪穴状遺構実測図

第18号方形竪穴状遺構 (第370図)

位置 調査4区の北東部, H11g9区。

規模と平面形 長軸2.22m, 短軸2.00mの長方形である。

長軸方向 N-6°-W

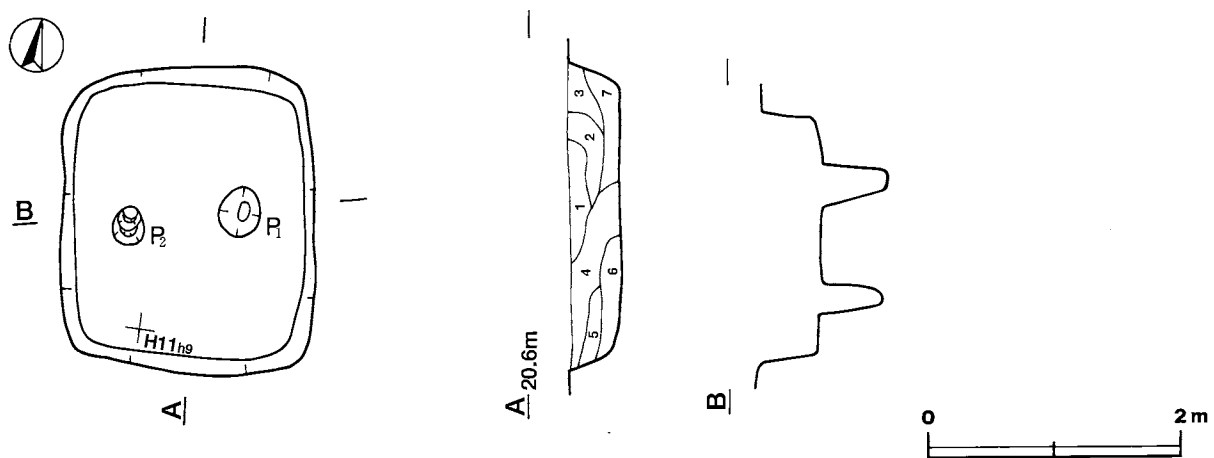
壁 壁高は35~50cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径33cmの円形、深さ54cmで、P2は径26cmの円形、深さ50cmである。

それぞれ中央部東寄り, 中央部西寄りに位置していることから、柱穴の可能性はある。

覆土 7層からなる。各層ともロームブロックを含み、ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。



第370図 第18号方形竪穴状遺構実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 時期は, 判断できる土器が出土していないため, 不明である。

第19号方形竪穴状遺構 (第371図)

位置 調査4区の北東部, H11h5区。

規模と平面形 長軸2.05m, 短軸1.63mの長方形である。

長軸方向 N-8°-W

壁 壁高は12~48cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径50cm, 短径38cmの楕円形, 深さ16cmで, P2は長径35cm, 短径26cmの楕円形, 深さ6cmである。それぞれ東壁際の中央, 西壁際の中央やや南寄りに位置していることから, 柱穴の可能性はある。

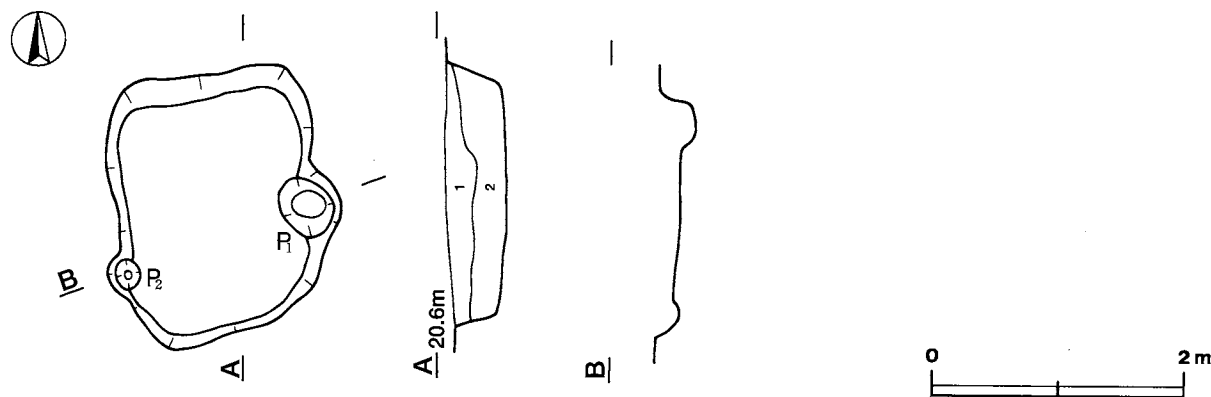
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 時期は, 判断できる土器が出土していないため, 不明である。



第371図 第19号方形竪穴状遺構実測図

表7 4区方形竪穴状遺構一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
9	J10d0	N-76°-W	長方形	3.00×2.40	26~30	直立	平坦	人為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1049 → 本跡
10	J11d1	N-1°-E	長方形	2.60×2.36	40~48	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 遺 物	備 考 重 複 関 係 新 旧 関 係 (古 → 新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (cm)					
11	J11d2	N-16°-E	長 方 形	3.10×2.54	28	直 立	平 坦	人 為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1037 → 本跡
12	J10f0	N-73°-W	方 形	2.69×2.58	28~68	外 傾	平 坦	人 為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1059・1060 → 本跡
13	J11e1	N-86°-W	方 形	2.72×2.66	17~26	外 傾	平 坦	人 為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1061 → 本跡
14	J11f3	N-85°-W	方 形	3.00×2.74	30~38	外 傾	平 坦	人 為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	
15	I10j0	N-7°-E	方 形	2.50×2.46	10	外 傾	平 坦	人 為	炭化物, 土師器片	
16	H11d0	N-1°-W	方 形	3.06×3.03	20~39	直 立	平 坦	自 然	土師器片, 須恵器片	本跡 → S K 721
17	H11g0	N-86°-E	方 形	2.20×2.02	50~55	直 立	平 坦	人 為		本跡 → S K 817
18	H11g9	N-6°-W	方 形	2.22×2.00	35~50	直 立	平 坦	人 為		
19	H11h5	N-8°-W	長 方 形	2.05×1.63	12~48	外 傾	平 坦	自 然		

(9) ピット群

第4号ピット群 (付図1)

位置 調査4区の中央部, I10h0~I11j2区。

規模 東西9m, 南北8mの範囲に不規則に存在するピットを24か所検出した。ピットのうち, 3か所以上のピットが直線上に並ぶものは4か所あるものの, ピットの掘り方の形状及びピット間の間隔など統一性・規則性は見出せない。ピットの形状は, P1・P4・P6・P13・P15は, 長径39~46cm, 短径28~42cmの楕円形で, 深さ40~73cmである。P12は長軸76cm, 短軸40cmの不定形で, 深さ54cmと55cmの2か所の小ピットを有している。P19は径73cmのほぼ円形で, 深さ46cmである。その他のピットは径22~42cmのほぼ円形で, 深さ16~68cmで, 不規則である。

覆土 いずれも, ローム小ブロック・ローム粒子混じりの暗褐色土または褐色土である。

遺物 P19の覆土中から土師器片2点, 須恵器片2点が出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 ピットの掘り方と配列が不規則であることから, 掘立柱建物跡とは考えにくい。墓墳の可能性が考えられる土坑群に隣接して集中的に確認されていることから, 墓域に関わる遺構の可能性が考えられる。

第5号ピット群 (付図1)

位置 調査4区の中央部, I10g9~J11c3区。第12号溝の底面及び西側と南側に位置している。

規模 東西20mで幅12m, 南北26mで幅8mの範囲で, 第12号溝の底面に38か所, 同溝の西側と南側に22か所検出されている。第12号溝の底面に確認されたピットは, 溝調査後に検出されたものである。第12号溝の底面及び西側と南側に検出されたピットは, 形状・方向・ピット間の間隔等, 規則性を見出せない。P3・P5・P20・P21・P23・P26・P38・P39・P47は長径30~74cm, 短径20~49cmの楕円形で, 深さ49~76cmである。P13・P14は, それぞれ長軸29cmと30cm, 短軸24cmと28cmの隅丸長方形で, 深さ75cmと57cmである。P2・P40・P43は長軸49~122cm, 短軸48~69cmの不定形で, 深さ65~81cmである。その他のピットは径20~56cmのほぼ円形で, 深さ26~88cmである。なかでも, P38とP42はピット内に2か所の小ピットを, P28とP43はピット内に3か所の小ピットを, それぞれ有している。

覆土 いずれも, ローム小ブロック・ローム粒子を中量から少量含む暗褐色土または黒褐色土である。

遺物 出土していない。

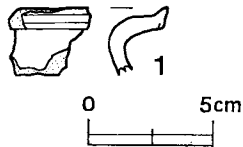
所見 第12号溝の底面及び周辺から検出されたピットは、形状及び配置が不規則なことから、掘立柱建物跡や柵列跡とは考えにくい。溝の周辺に集中していることから、一部は溝に関わる遺構の可能性が考えられる。時期は、不明である。

第6号ピット群（第372図，付図1）

位置 調査4区の中央部，J10e8～J10g9区。

規模 東西7m，南北8mの範囲でピットが22か所確認されている。P12～P15の4か所のピットは，N-63°-Eの方向にはほぼ直線上に位置するものの，その他のピットは，形状・配列ともに規則性を見出せない。ピットの形状は，P1～P7・P11～P22は，径19～42cmのほぼ円形で，深さ14～52cmである。P8～P10は，長径38～55cm，短径19～34cmの不定形で，深さ21～41cmである。

覆土 いずれも，ローム小ブロック・ローム粒子を中量から少量含む暗褐色土または黒褐色土である。



第372図 第6号ピット
群出土遺物実測図

遺物 土師器片17点，須恵器片1点が出土している。第372図1の土師器甕の口縁部片は，P16の覆土中から出土している。出土している土器片は，図示した甕片を含めていずれも細片である。

所見 性格は不明である。時期は，出土土器の傾向と重複関係から8世紀以降と考えられる。

第6号ピット群出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第372図 1	甕 土師器	B(2.6)	口縁部の破片。口縁部は屈曲し，端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナア。	砂粒・長石・石英 橙色，普通	P41441 3% 外面摩滅

(10) 土坑

ここでは，性格や形状に特徴のあるものを次のように分類した。

①陥し穴 ②火葬施設 ③墓壇 ④墓壇の可能性のある土坑

以下，この分類に従って記載する。記載できなかった土坑については一覧表で紹介する。また，出土遺物については実測図と観察表でその一部を掲載する。

① 陥し穴

第812号土坑（第373図）

位置 調査4区の北東部，H12i1区。

規模と平面形 長径2.37m，短径1.57mの楕円形，深さ1.40mである。

長径方向 N-40°-E

壁面 急な傾斜で立ち上がる。

底面 長径1.21m，短径0.56mの楕円形で，ほぼ平坦である。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

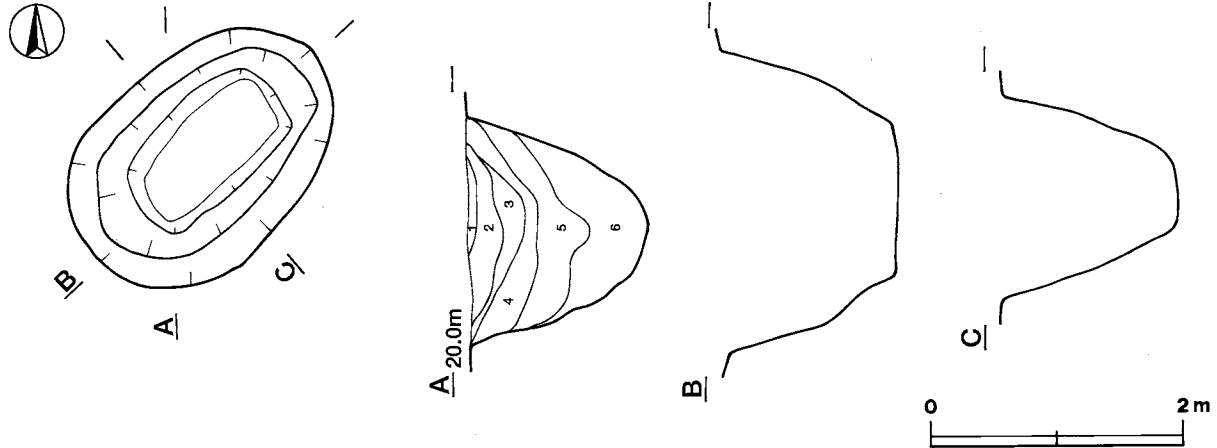
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、形態から、縄文時代の陥し穴の可能性はある。詳細な時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。



第373図 第812号土坑実測図

② 火葬施設

第917号土坑 (第374図)

位置 調査4区の中央部, J10a0区。

規模と形状 楕円形を2つつないだような不整形で、全長は1.62mである。西側の燃焼部は、長軸が主軸と直交する、長軸78cm, 短軸50cmの楕円形で、深さ15cmである。壁面は外傾して立ち上がる。東側の開口部は、長軸が主軸と平行する、長軸112cm, 短軸82cmの楕円形で、深さ10cmである。壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃焼部と直交し、長さ65cm, 上幅18~38cm, 下幅11~15cmで、深さ26cmである。壁面は燃焼部側は外傾して立ち上がり、開口部側は緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-61° -W

底面 開口部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は、一部火熱を受け赤変している。

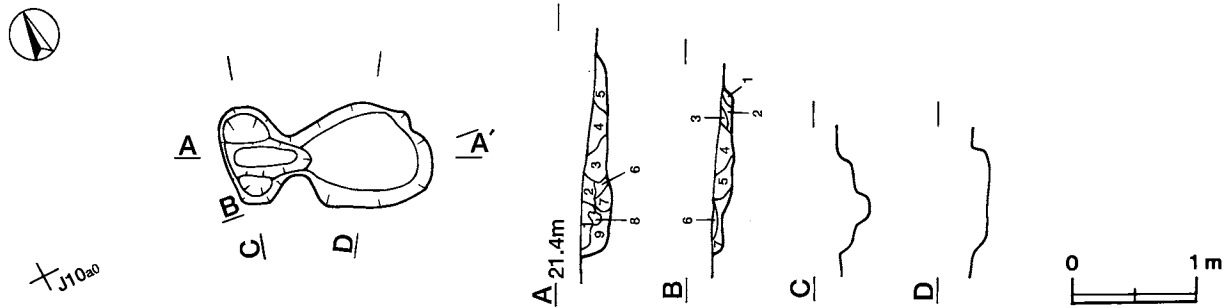
覆土 9層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第2・8・9層から火葬骨片が出土している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・火葬骨片少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化材・炭化物少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子・火葬骨粉少量
- 9 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物中量, ローム粒子・火葬骨粉少量

遺物 燃焼部から火葬骨片が出土している。開口部から土師器甕細片1点が出土しているが混入したものと考えられる。

所見 本跡は、燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており、火葬骨片・炭化材等が出土していることから、火葬施設と考えられる。本跡の時期は、形状から中世と考えられる。



第374図 第917号土坑実測図

第918号土坑 (第375図)

位置 調査4区の中央部, J10a0区。

規模と形状 T字状を呈し、全長93cmである。開口部は確認されなかった。燃焼部は、長軸が主軸と直交する、長軸75cm、短軸55cmの楕円形で、深さ25cmである。壁面はほぼ直立する。通気溝は燃焼部と直交し、長さ93cm、上幅25~33cm、下幅13~19cmで、深さ39cmである。壁面は、燃焼部側はほぼ直立し、南側は外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-21°-E

底面 燃焼部に向かってやや傾斜する。燃焼部及び通気溝の底面は、一部火熱を受け赤変している。

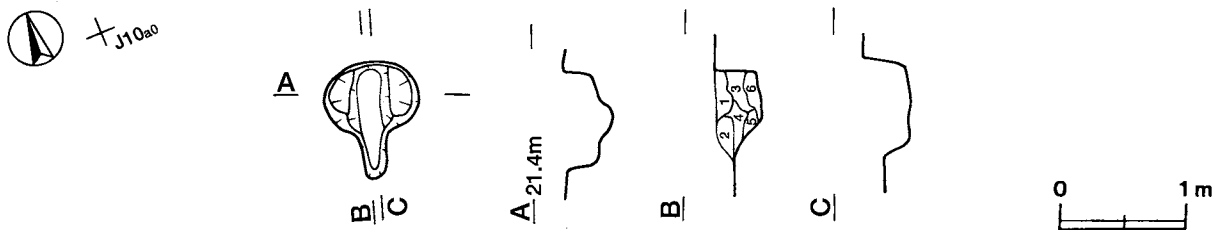
覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第3・5・6層から火葬骨片が出土している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・火葬骨片少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化物・灰・火葬骨片少量
- 6 暗赤褐色 炭化物多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・火葬骨片少量

遺物 燃焼部から火葬骨片が出土している。また覆土下層から多量の炭化物が出土している。

所見 本跡は、燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており、火葬骨片・炭化物が出土していることから、火葬施設と考えられる。本跡の時期は、形状から中世と考えられる。



第375図 第918号土坑実測図

第919号土坑 (第376図)

位置 調査4区の中央部, J10a0区。

規模と形状 T字状を呈し、全長95cmである。開口部は確認されなかった。燃焼部は、長軸が主軸と直交する、

長軸80cm, 短軸50cmの楕円形で, 深さ22cmである。壁面はほぼ直立する。通気溝は燃焼部と直交し, 長さ95cm, 上幅23~35cm, 下幅14~20cmで, 深さ35cmである。壁面は, 燃焼部側はほぼ直立し, 南側は外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-30° - E

底面 燃焼部に向かってやや傾斜する。燃焼部及び通気溝の底面は, 一部火熱を受け赤変している。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。土層断面図中, 第5・8層から火葬骨片が出土している。

土層解説

- | | | |
|---|--------|------------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・火葬骨片少量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量 |
| 7 | 灰褐色 | 灰多量, 焼土粒子少量 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・火葬骨片少量 |

遺物 燃焼部から火葬骨片が出土している。また, 覆土下層には炭化物が見られる。

所見 本跡は, 燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており, 火葬骨片・炭化物が出土していることから, 火葬施設と考えられる。本跡の時期は, 形状から中世と考えられる。



第376図 第919号土坑実測図

③ 墓墳

第736号土坑 (第377図)

位置 調査4区の北東部, H11i8区。

規模と平面形 長径1.05m, 短径0.80mの隅丸長方形, 深さ0.38~0.42mである。

長径方向 N-92° - W

壁面 ほぼ直立する。

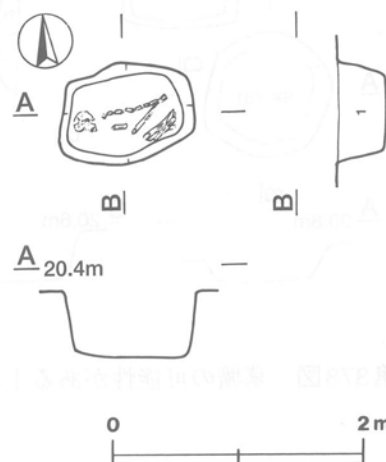
底面 ほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積の可能性が高い。

土層解説

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
|---|-----|--|

遺物 膝を抱え込んだ人骨一体分が, 頭を西にして南を向いた状態で底面から出土している。その他の遺物は出土していない。

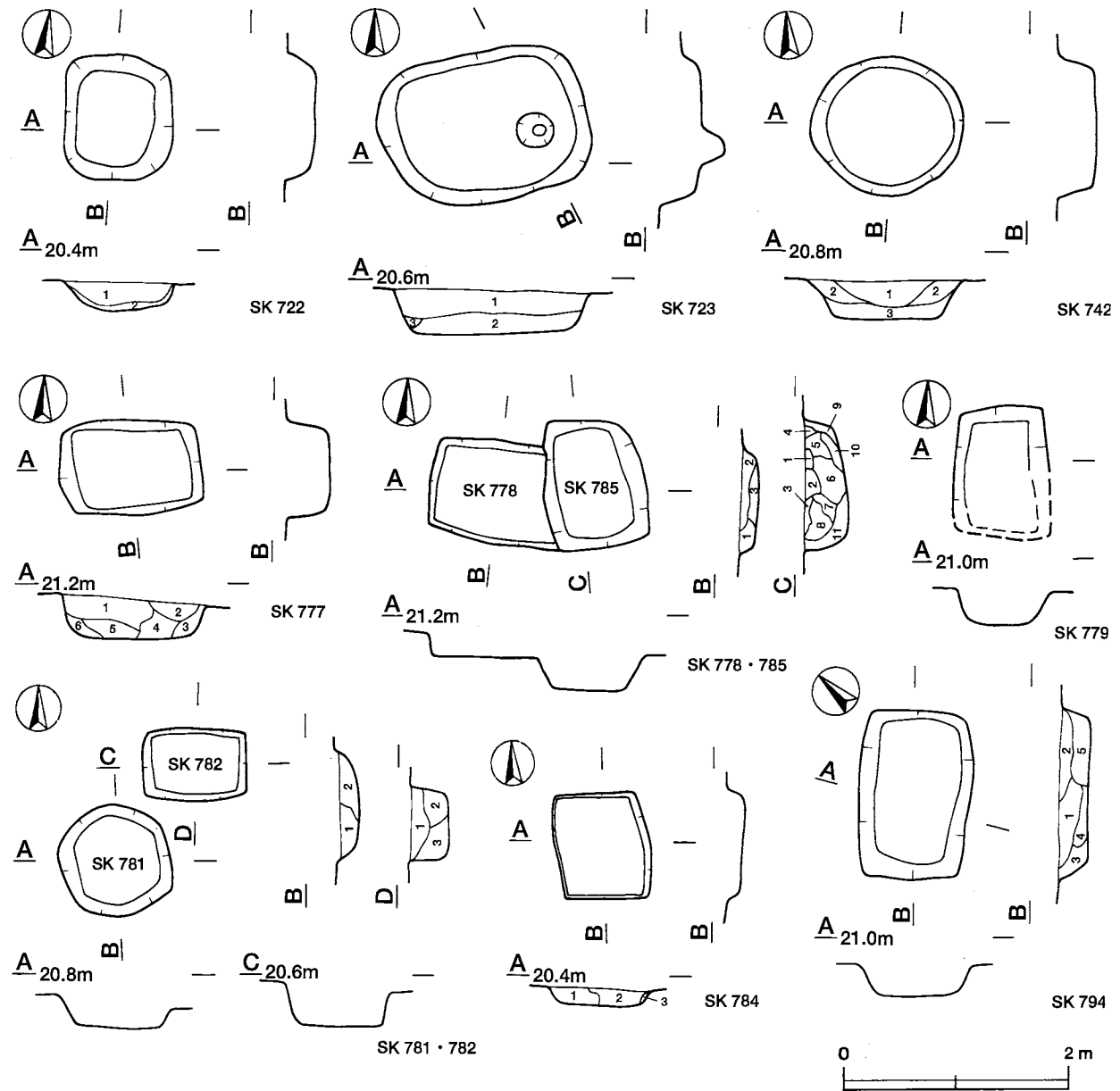


第377図 第736号土坑実測図

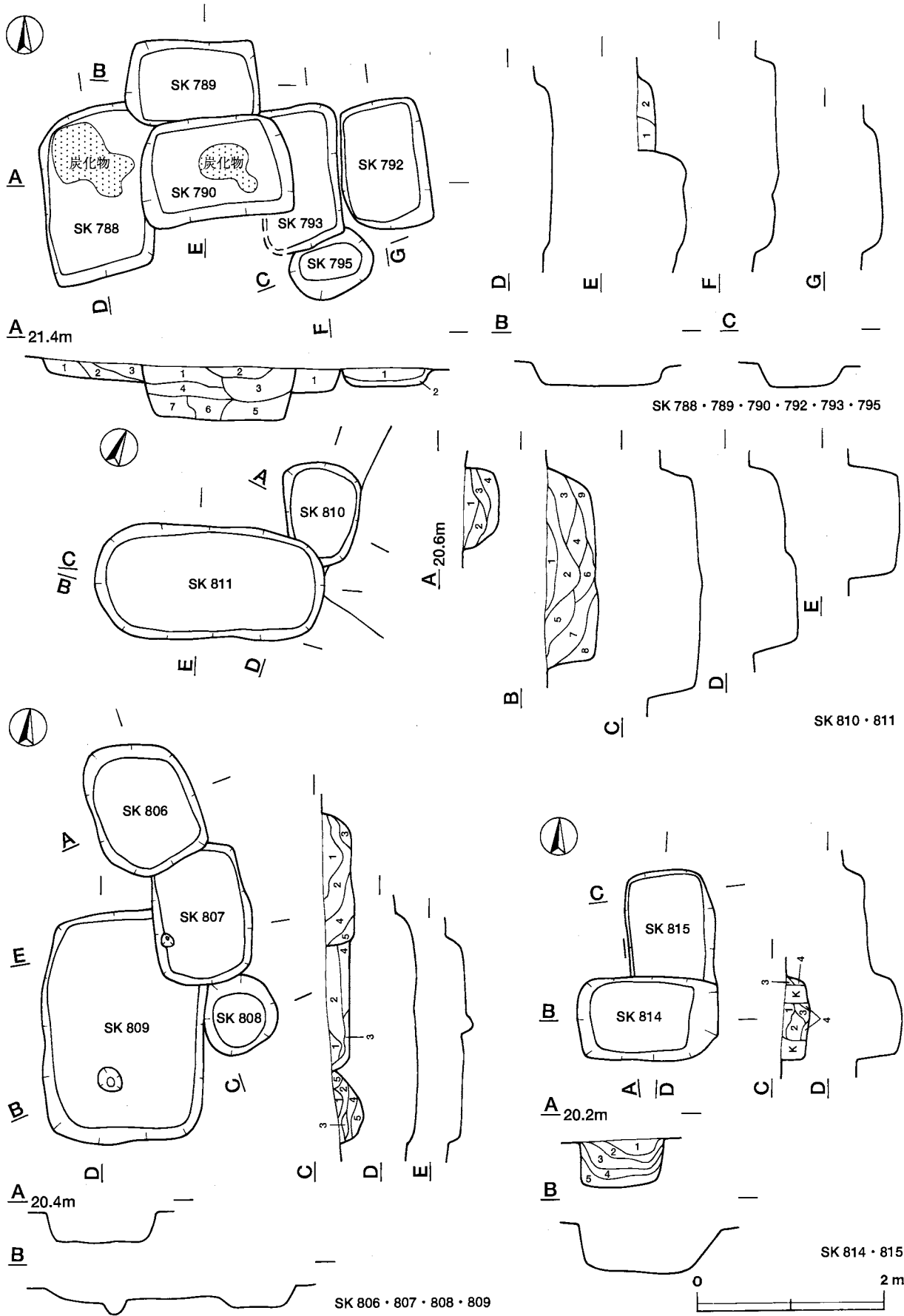
所見 人骨は、出土状況から、埋葬されたものと考えられる。時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。

④ 墓塚の可能性のある土坑

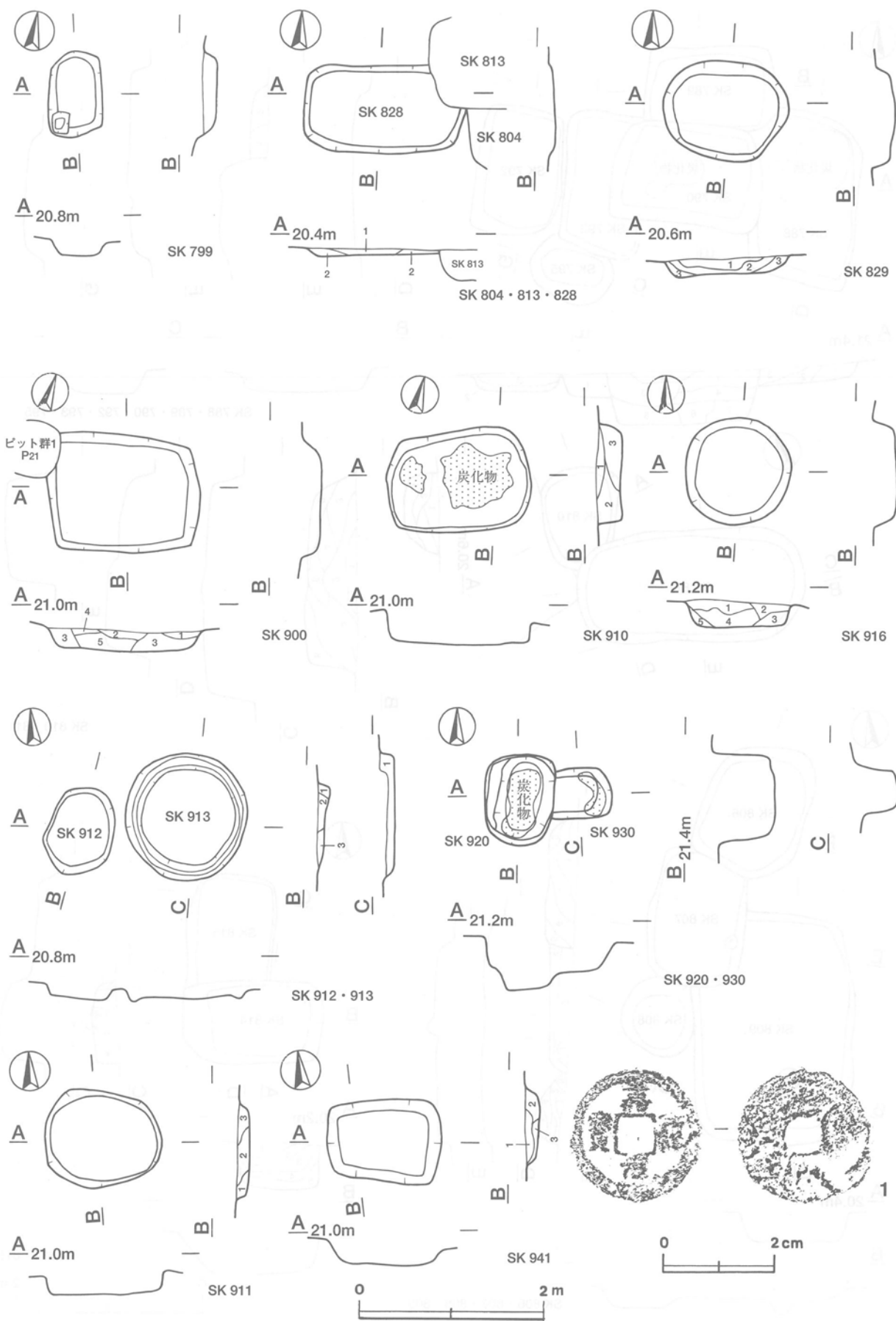
4区から検出された土坑は、遺物が少ないために、時期や性格の不明なものが多いが、調査区の中央部から北東にかけて位置する一群は、人為的に埋め戻された痕跡があり、形態的にも前述の墓塚に類似していることから、墓塚群の可能性が考えられる。以下、実測図と土層解説を記載する。



第378図 墓塚の可能性のある土坑実測図 (1)



第379図 墓墳の可能性のある土坑実測図 (2)



第380図 墓壙の可能性がある土坑・第794号土坑出土遺物実測図

第794号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭名	計測値			特徴	備考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ (g)		
第380図1	嘉□□寶	2.3	0.7×0.7	2.3	円体方孔。初隸年不明。	M40507 P L240

第722号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第723号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第742号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第777号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第778号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第781号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

第782号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第784号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第788号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第785号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

第789号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第790号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第792号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量

第793号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

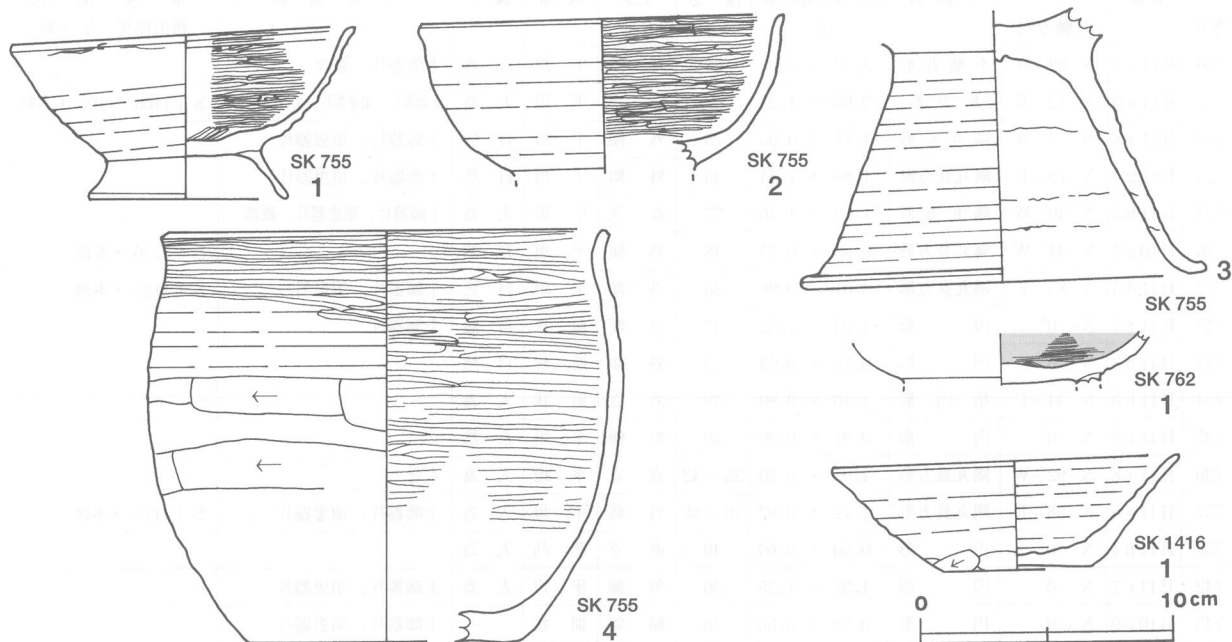
第794号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第799号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

その他の性格が不明な土坑については一覧表で掲載し、出土した主な遺物のみを紹介する。



第381図 第755・762・1416号土坑出土遺物実測図

第755号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	高台付 土師器	A 13.7 B 6.8 D [7.8] E 1.9	高台部・体部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部・体部外面ロクロナデ。口縁部・体部内面横位のヘラ磨き。底部ヘラ切り痕を残すナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通	P 41435 80% P L 240
2	高台付 土師器	A [14.6] B (6.1) E (0.2)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。口縁部・体部内面横位のヘラ磨き。	砂粒 明赤褐色 普通	P 41436 40% P L 240
3	高台付 土師器	B (10.8) D 16.0 E 9.3	高台部の破片。高台は足高でラッパ状に開き、裾部でわずかに外反する。	内・外面ロクロナデ。裾部設地面ナデ。	砂粒・雲母にぶい黄橙色 普通	P 41437 40% P L 240
4	甕 土師器	A [17.2] B 16.3 C [10.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。端部は角張る。	口縁部内・外面、体部内面横位のヘラ磨き。体部外面上位ロクロナデ、中位以下横位のヘラ削り。	砂粒・小礫 橙色 普通	P 41438 40% P L 240

第762号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	高台付 土師器	B (2.1) E (0.4)	底部から体部下位にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい黄橙色 普通	P 41439 30%

第1416号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	須恵器	A [13.7] B 4.3 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸く収めている。	口縁部、体部ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 41440 40% P L 240

表8 4区土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		立ち 上が り面	底 面	覆 土	主 な 遺 物	備 考 重 複 関 係 新 旧 関 係 (古 → 新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (cm)					
120	H11i5	N-22°-W	不整方形	3.02 × 2.80	28	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 鉄滓	
721	H11c0	N-12°-E	[長方形]	(3.60) × 1.23	110	直 立	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片, 瓦質土器片	S I 1105・1106 → 本跡
722	H11i8	N-4°-W	隅丸方形	1.11 × 0.95	25	外 傾	平 坦	自 然	土師器片, 須惠器片	
723	H11g5	N-79°-E	隅丸長方形	1.84 × 1.34	35	外 傾	平 坦	自 然	土師器片, 須惠器片	
724	H11h5	N-40°-W	隅丸方形	1.20 × 1.16	73	直 立	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	
726	H10g6	N-44°-W	隅丸長方形	0.96 × 0.75	48	外 傾	平 坦	自 然		S I 1136 → 本跡
727	H11d3	N-85°-E	隅丸長方形	3.01 × 0.98	20	外 傾	平 坦	自 然	土師器片, 須惠器片	S I 1146 → 本跡
732	H11f5	N-0°	円 形	1.03 × 1.02	47	外 傾	皿 状	自 然	土師器片	
733	H11h3	N-0°	円 形	0.78 × 0.65	24	外 傾	皿 状	自 然		
734	H11h3	N-34°-E	楕 円 形	1.10 × 0.90	49	直 立	皿 状	人 為		
735	H11e8	N-0°	円 形	0.91 × 0.90	39	外 傾	平 坦	自 然		
736	H11i8	N-92°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.80	38~42	直 立	平 坦	人 為	人骨	
737	H11c5	N-88°-E	隅丸長方形	1.72 × 0.92	10~60	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片	S I 1115 → 本跡
738	H11h4	N-0°	円 形	0.60 × 0.60	40	直 立	凹 凸	人 為		
742	H11e7	N-0°	円 形	1.38 × 1.25	36	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片	
743	H10e9	N-0°	円 形	0.56 × 0.56	18	緩 斜	皿 状	-	土師器片, 須惠器片	
745	H10g0	N-55°-W	楕 円 形	[0.94] × 0.76	0~8	緩 斜	平 坦	-		S I 1132・1134・1144・S B 58 → 本跡
747	H10h9	N-59°-W	楕 円 形	0.52 × 0.41	40~62	外 傾	平 坦	人 為		S I 1144 → 本跡
751	J9b7	N-11°-E	[楕円形]	[2.72] × 1.22	21	緩 斜	平 坦	人 為		S D 53 → 本跡 → S B 55
752	I9j7	N-16°-E	長 方 形	1.85 × 0.74	41	直 立	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片	
753	I9j7	N-71°-E	不整楕円形	2.78 × 0.62	50	緩 斜	平 坦	-	土師器片	本跡 → S B 55
754	I9j8	N-13°-E	長 方 形	2.31 × 1.06	53	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片	
755	K9a1	N-23°-E	隅丸長方形	0.70 × 0.54	13	緩 斜	平 坦	人 為	土師器 (高台付坏, 鉢)	S I 975 → 本跡
756	K9d6	N-19°-E	円 形	0.80 × 0.73	43	直 立	平 坦	-		S I 984 → 本跡
757	K9d6	N-27°-E	長 方 形	1.29 × 0.85	53	直 立	平 坦	人 為		S I 984・990 → 本跡
758	J9h6	N-9°-E	隅丸長方形	1.28 × 0.94	31	外 傾	平 坦	人 為		
759	K9c6	N-31°-E	長 方 形	1.13 × 0.56	26	外 傾	平 坦	-		S K 984 と重複
760	K10e1	N-17°-E	不 定 形	1.92 × 1.36	91	直 立	平 坦	人 為		S I 1000 → 本跡
761	K10f1	N-29°-E	不整楕円形	1.04 × 0.81	68	外 傾	凸 凹	人 為		
762	K10f1	N-53°-E	不 定 形	1.58 × 0.89	77	外 傾	平 坦	人 為	土師器片 (高台付坏)	本跡 → S D 56
763	K10g1	N-52°-W	不整楕円形	1.84 × 1.31	76	直 立	平 坦	人 為		
764	K9e9	N-64°-W	隅丸長方形	1.03 × 0.76	35	直 立	平 坦	人 為		S K 765 と重複
765	K9f0	N-19°-E	長 方 形	1.35 × 0.77	77	直 立	平 坦	人 為		S K 766 と重複
766	K10g1	N-78°-W	不整楕円形	1.44 × 0.85	63	直 立	平 坦	人 為		S K 769 と重複
767	K10h1	N-56°-W	楕 円 形	0.90 × 0.61	23	直 立	平 坦	人 為		S D 57 と重複
768	K9h0	N-58°-W	不整楕円形	1.33 × 1.10	45	外 傾	平 坦	人 為		
769	K10h1	N-74°-W	不 定 形	1.31 × 0.99	43	外 傾	平 坦	人 為		S K 766 と重複
770	K9g9	N-0°	[楕円形]	[1.15] × [0.90]	43	外 傾	平 坦	人 為		本跡 → S D 35A
771	K9i9	N-49°-W	楕 円 形	1.12 × 1.00	40	外 傾	平 坦	人 為		
772	K9j0	N-13°-W	楕 円 形	1.04 × 0.95	40	外 傾	傾 斜	人 為		
774	K9f7	N-0°	円 形	1.38 × 1.32	40	外 傾	平 坦	人 為		
775	I10i9	N-78°-E	楕 円 形	1.76 × 1.25	16	緩 斜	平 坦	人 為	土師器片	
776	I10h0	N-83°-E	長 方 形	1.96 × 1.70	16	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 須惠器片	
777	I10h0	N-86°-E	長 方 形	1.28 × 0.85	36	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 土製品	本跡 → S K 776
778	I10i0	N-79°-W	(長方形)	(1.15) × 0.92	19	外 傾	平 坦	人 為	不明鉄製品	

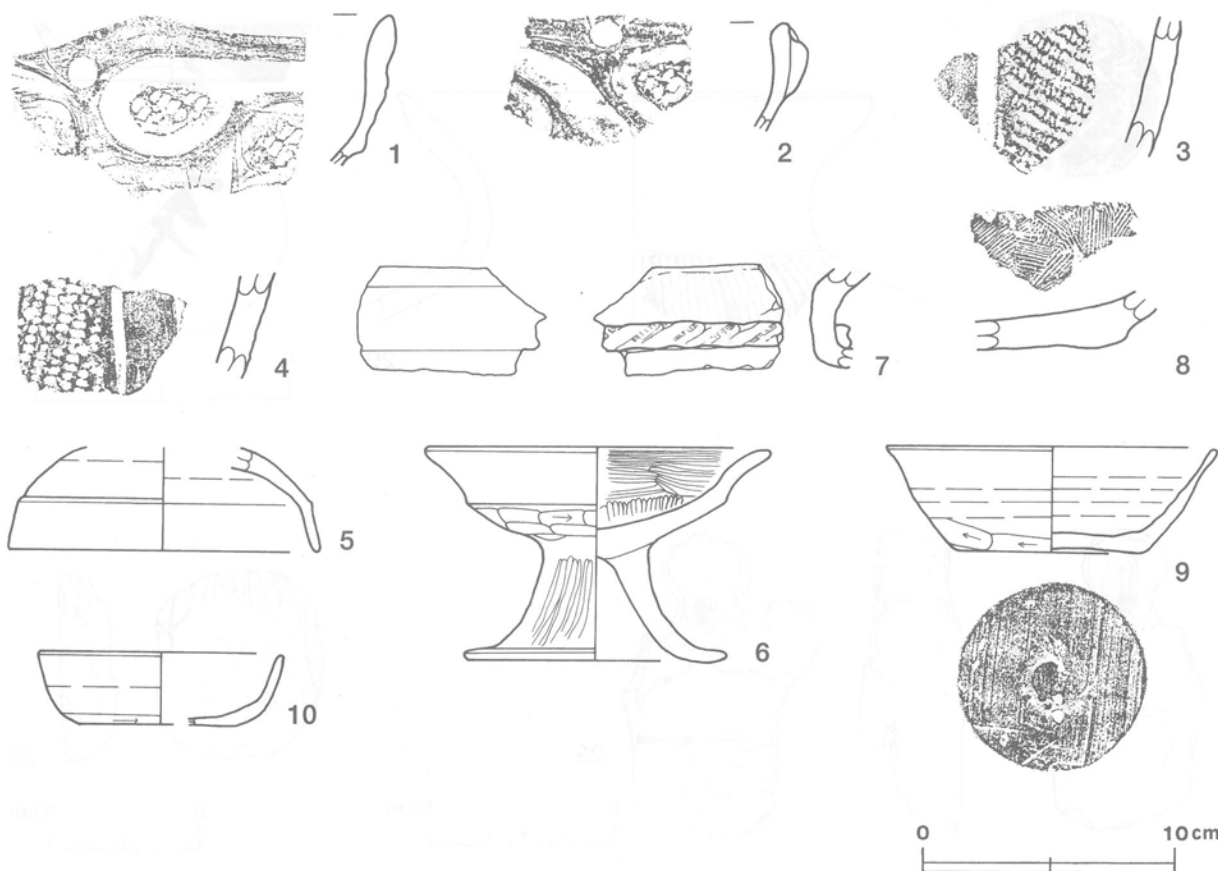
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		立ち 上がり り面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考 重 複 関 係 新 旧 関 係 (古 → 新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (cm)					
779	I10h0	N-4°-W	[長方形]	[1.15]×0.85	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
780	I11h2	N-87°-E	不定形	2.19×(0.92)	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓	
781	I11i2	N-11°-W	円形	0.98×0.97	25	緩斜	平坦	人為		
782	I11i2	N-90°-?	長方形	0.92×0.64	35	外傾	平坦	人為		
783	I11h3	N-3°-W	不定形	1.37×1.14	53	外傾	平坦	人為		
784	I11h3	N-5°-W	長方形	0.93×0.80	17	外傾	平坦	人為		
785	I10i0	N-9°-W	長方形	1.14×0.92	31	外傾	平坦	人為		
786	K10a8	N-80°-E	隅丸長方形	[1.58]×1.12	85	直立	凹凸	人為		本跡→S I1019
787	J11a2	N-1°-E	不整形	1.26×1.18	17	外傾	凹凸	人為	土師器片	
788	I10j0	N-4°-W	長方形	1.82×1.14	15	外傾	平坦	人為		本跡→S K790
789	I10j0	N-88°-E	[長方形]	1.43×[0.94]	24	外傾	平坦	人為		本跡→S K790
790	I10j0	N-83°-E	長方形	1.64×1.09	54	外傾	凹凸	人為	土師器片	S K788・789・791・793→本跡
791	I10j0	N-12°-W	[長方形]	[1.55]×1.25	32	[外傾]	[平坦]	-		本跡→S K790
792	I11j1	N-6°-W	長方形	1.39×0.94	21	緩斜	平坦	人為		
793	I11j1	N-5°-W	[長方形]	[1.55]×[0.88]	20	外傾	平坦	人為	須恵器片	本跡→S K790
794	I11i1	N-44°-E	長方形	1.53×1.01	26	外傾	平坦	人為	古銭, 土師器片, 須恵器片, 礫	
795	I11j1	N-58°-E	[隅丸長方形]	0.87×[0.66]	24	緩斜	平坦	-		
796	I10i0	N-66°-W	円形	0.74×0.61	25	外傾	皿状	-	土師器片	
797	I10h0	N-1°-E	長方形	0.68×0.50	24	緩斜	皿状	-		
798	I11i1	N-24°-W	楕円形	0.76×0.55	17	外傾	皿状	-	土師器片	
799	I11i2	N-7°-W	楕円形	0.93×0.60	14	緩斜	平坦	人為		
804	H11h6	N-11°-W	[長方形]	[1.39]×1.06	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I1109→本跡→S K813
806	H11i7	N-26°-W	隅丸長方形	1.50×1.10	33	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 鉄滓, 礫	S K807→本跡
807	H11i7	N-9°-W	不定形	1.46×0.96	19	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S K809→本跡→S K806
808	H11i7	N-17°-W	円形	0.87×0.75	18	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→S K807
809	H11i7	N-1°-E	[長方形]	2.50×[1.73]	13	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→S K807・808
810	H11h6	N-22°-W	[楕円形]	1.11×0.82	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I1109→本跡→S K811
811	H11h6	N-64°-E	楕円形	2.47×1.17	53	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓	S I1109・S K810→本跡
812	H12i1	N-40°-E	楕円形	2.37×1.57	140	外傾	平坦	自然		
813	H11h6	N-8°-W	円形	1.00×0.90	49	外傾	平坦	人為		S I1109・S K804→本跡
814	H11h0	N-88°-E	長方形	1.52×0.89	45	外傾	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片	S I1107・S K815→本跡
815	H11h0	N-6°-W	[長方形]	[1.14]×0.92	22	外傾	平坦	人為	土師器片	S I1107→本跡→S K814
816	H11h9	N-42°-E	隅丸長方形	0.77×0.69	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I1107→本跡
817	H11g9	N-89°-W	[楕円形]	3.48×0.96	31~43	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	第17号方形竪穴状遺構→本跡
819	I10g3	N-40°-W	(円形)	0.77×(0.57)	19	外傾	平坦	-		
820	I10g2	N-49°-E	楕円形	1.98×0.77	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
821	J10b7	N-68°-E	楕円形	1.98×1.55	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 砥石	
822	I10h9	N-1°-W	楕円形	1.12×0.55	20	外傾	平坦	人為		
823	I10h9	N-1°-W	[楕円形]	[2.00]×1.08	46	外傾	平坦	人為		
824	I10i8	N-73°-E	楕円形	0.52×0.35	34~44	外傾	凹凸	人為	土師器片	
825	I10i8	N-50°-E	[楕円形]	[0.87]×[0.55]	45	外傾	平坦	人為		
826	I10i8	N-67°-E	[楕円形]	[1.06]×0.68	13	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
827	I10i8	N-87°-W	楕円形	0.63×0.44	46~65	外傾	凹凸	-		
828	H11h6	N-85°-E	隅丸長方形	1.72×0.93	5	外傾	平坦	人為		本跡→S K813
829	H10g6	N-90°-E	楕円形	1.36×0.84	18	外傾	皿状	人為	土師器片	
830	I10h5	N-79°-E	楕円形	0.70×0.42	32~42	外傾	凹凸	人為		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		立ち 上がり り面	底面	覆 土	主 な 遺 物	備 考 重 複 関 係 新 旧 関 係 (古 → 新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (cm)					
831	I10h5	N-89°-E	楕円形	0.63 × 0.50	50	外傾	凹凸	人為		
832	I10h5	N-16°-W	[楕円形]	(1.50) × 0.60	0~16	外傾	平坦	人為	土師器片, 土製品片	
833	I10h4	N-18°-W	不整楕円形	1.16 × 0.58	10	外傾	平坦	人為	土師器片	
900	I11j2	N-75°-E	長方形	1.62 × 1.28	22	緩斜	平坦	人為	土師器片	
901	I11h2	N-1°-E	円形	1.30 × 1.18	25	外傾	傾斜	人為	土師器片	2号ピット群→本跡
902	I11i2	N-16°-W	円形	0.51 × 0.49	17	外傾	平坦	-		
903	I11h1	N-90°-E	楕円形	1.00 × [0.80]	24	外傾	皿状	-		2号ピット群→本跡
904	I11j2	N-90°-E	長方形	0.68 × 0.58	15	外傾	傾斜	人為	土師器片	S I1024→本跡
905	J11d2	N-1°-E	円形	1.30 × 1.20	15	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄滓	
906	J11e3	N-90°-E	隅丸長方形	1.94 × 1.20	12	外傾	凹凸	人為	土師器片	
907	J11b1	N-2°-E	長方形	[1.67] × [0.86]	8	外傾	平坦	人為		本跡→SK908
908	J11b1	N-6°-E	長方形	2.34 × [1.08]	8	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SK907→本跡
909	J11b2	N-6°-E	円形	0.80 × 0.76	10	外傾	傾斜	人為		
910	I11j2	N-69°-E	隅丸長方形	1.54 × 1.08	30	直立	平坦	人為	土師器片	S I1028→本跡
911	J11a2	N-79°-W	楕円形	1.28 × 1.10	20	外傾	平坦	人為	土師器片	S I1027→本跡
912	J11a2	N-17°-E	楕円形	0.96 × 0.72	12	外傾	傾斜	人為	土師器片	S I1029→本跡
913	J11a2	N-0°	円形	1.38 × 1.32	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓	S I1029→本跡
914	I11j2	N-1°-W	不整楕円形	0.92 × 0.55	8	緩斜	傾斜	-		S I1027→本跡
916	J11a1	N-5°-E	円形	1.14 × 1.12	26	外傾	平坦	人為	土師器片	
917	J10a0	N-61°-W	不整形	1.62 × 0.82	26	外傾	傾斜	人為	土師器細片, 骨片	火葬施設
918	J10a0	N-21°-E	不定形	0.93 × 0.55	37	外傾	傾斜	人為	骨片, 炭化物	火葬施設
919	J10a0	N-30°-E	不定形	0.95 × 0.50	35	外傾	傾斜	人為	骨片, 炭化物	火葬施設
920	J10a9	N-1°-E	隅丸長方形	1.00 × 0.76	62	直立	皿状	人為	炭化物	SK930→本跡
921	J10e9	N-78°-W	楕円形	1.34 × 1.02	10	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
922	J10b0	N-75°-W	不定形	1.31 × 0.70	26	外傾	皿状	人為	土師器片	
923	J11b1	N-60°-W	不定形	1.26 × 0.60	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
924	J11a1	N-45°-E	楕円形	1.04 × 0.80	70	外傾	凹凸	人為		
925	J10b0	N-90°-W	不定形	[1.02] × 0.76	48	直立	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓, 礫	SK926と重複
926	J10b0	N-10°-E	楕円形	[1.74] × 1.34	46	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	SK925と重複
927	H11e7	N-30°-W	[楕円形]	[0.88] × 0.66	66	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片	SK928と重複
928	H11e3	N-22°-E	[楕円形]	[0.98] × 0.82	70	緩斜	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片	SK927と重複
929	H11f4	N-90°-W	楕円形	[1.80] × [1.26]	50	緩斜	皿状	人為	土師器片, 不明鉄製品片	
930	H10a9	N-90°-W	[楕円形]	(0.62) × 0.56	40	外傾	皿状	人為		本跡→SK920
931	H11b5	N-88°-E	楕円形	[1.92] × [1.24]	30	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SI1104
932	J11b1	N-50°-E	楕円形	1.38 × 1.00	68	外傾	皿状	人為	土師器片, 礫	SD64→本跡
933	J11b2	N-10°-E	長方形	1.24 × [0.70]	60	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	SD64→本跡
934	J11d3	N-87°-W	楕円形	2.30 × 1.46	18~37	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SD66→本跡
935	J10b3	N-22°-E	楕円形	1.40 × [1.06]	113	外傾	傾斜	自然		SD66→本跡
936	J14c9	N-0°	円形	0.96 × 0.96	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
937	J10e9	N-29°-E	不整楕円形	1.42 × 0.36	39~74	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片	SI1049・1053→本跡
939	J10c9	N-18°-E	楕円形	0.91 × 0.80	48	直立	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片	
940	J10a9	N-10°-W	隅丸長方形	0.80 × 0.52	33	外傾	平坦	人為		SD64→本跡
941	I10j9	N-78°-W	長方形	1.25 × 0.90	25	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
942	I10h9	N-1°-E	[長方形]	[1.96] × 1.15	44	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
944	J10b8	N-4°-E	隅丸長方形	1.80 × 0.71	50	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
945	J11d1	N-84°-W	楕円形	1.27 × 1.04	9	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	

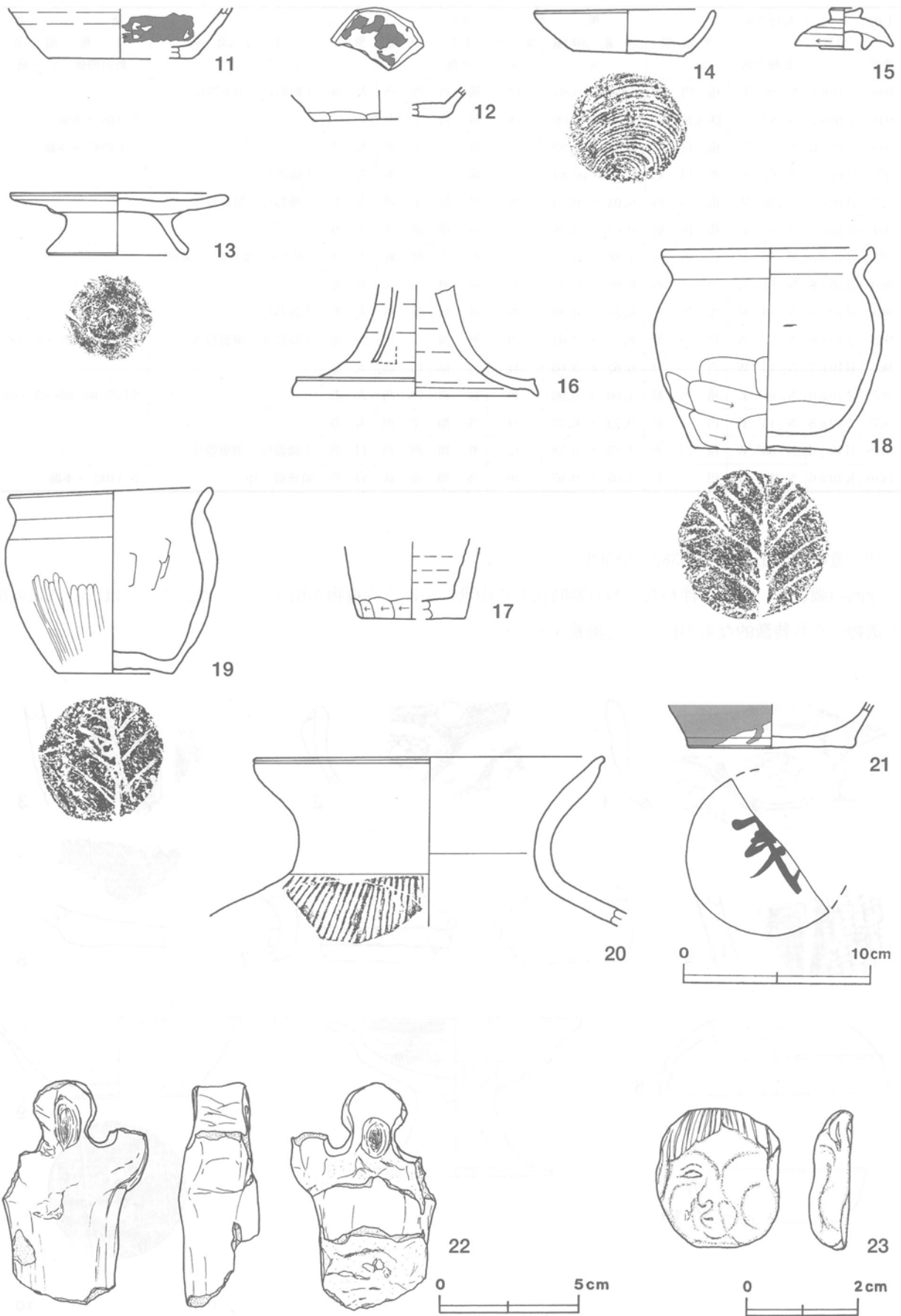
土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		立ち 上がり 面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考 重 複 関 係 新 旧 関 係 (古 → 新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深 さ (cm)					
946	J 11 d 1	N-88°-E	楕 円 形	1.10 × 0.94	12	緩 斜	凹 凸	人 為	土師器片, 須恵器片	
948	J 10 b 5	N-83°-E	隅丸長方形	[1.15] × 1.00	18	緩 斜	平 坦	-		S D 66 → 本跡
949	J 10 c 6	N-62°-E	楕 円 形	0.98 × 0.82	82	直 立	平 坦	人 為		S I 1045 → 本跡
952	H 10 f 5	N-67°-E	楕 円 形	0.94 × 0.84	25	緩 斜	平 坦	人 為	土師器片	
953	H 10 e 5	N-28°-W	楕 円 形	0.93 × 0.83	38	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 須恵器片	
961	H 10 e 7	N-13°-E	楕 円 形	0.60 × 0.48	18	外 傾	皿 状	人 為		
962	H 10 d 8	N-6°-E	長 方 形	1.38 × 0.72	45	直 立	傾 斜	人 為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	
963	H 10 e 8	N-81°-E	円 形	0.93 × 0.87	22	緩 斜	皿 状	人 為		
964	H 10 e 8	N-73°-E	楕 円 形	0.86 × 0.50	33	外 傾	傾 斜	人 為	土師器片	
965	J 10 e 0	N-57°-W	楕 円 形	0.75 × 0.61	33	外 傾	平 坦	人 為	土師器片, 須恵器片	S I 1059 → 本跡 → S I 1061
966	H 10 h 7	N-15°-W	円 形	0.62 × 0.60	44	外 傾	皿 状	人 為		
967	J 10 h 0	N-61°-E	楕 円 形	[1.00] × [0.90]	30	緩 斜	凹 凸	人 為		S I 1071-1075-1076-1078 → 本跡
977	J 10 g 8	N-15°-E	円 形	0.73 × 0.70	34	外 傾	平 坦	人 為		
1415	H 10 j 8	N-60°-W	楕 円 形	1.55 × 0.78	15	外 傾	凹 凸	自 然	土師器片, 須恵器片	
1416	K 10 b 6	N-15°-W	円 形	1.05 × 0.97	40	外 傾	皿 状	自 然	須恵器(坏)	S I 042 → 本跡

(i) 遺構外出土遺物 (第382~385図)

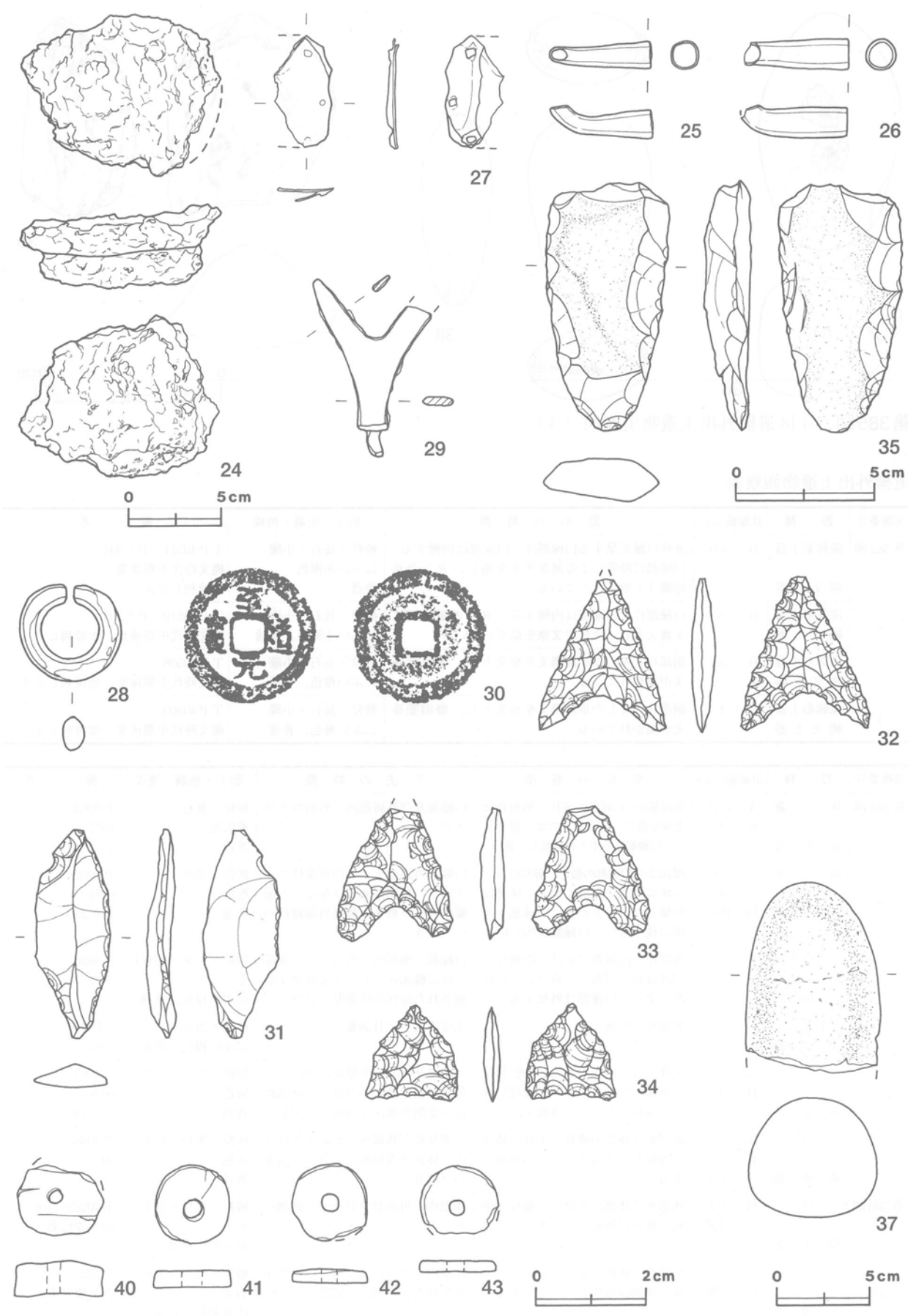
今回の調査で、遺構に伴わない旧石器時代から中世にかけての遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



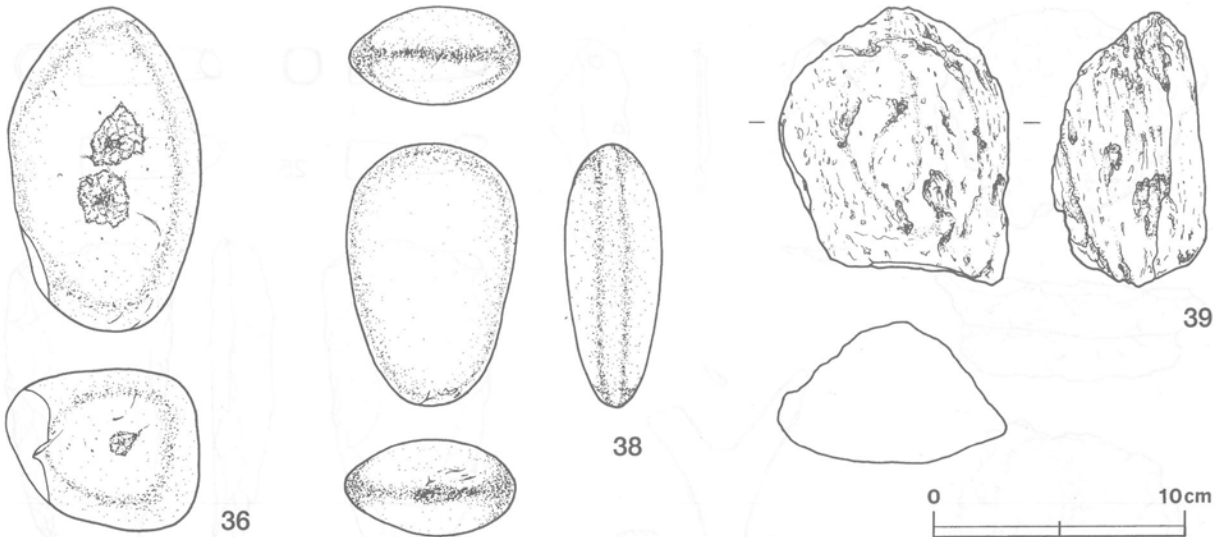
第382図 4区遺構外出土遺物実測図(1)



第383図 4区遺構外出土遺物実測図(2)



第384图 4区遺構外出土遺物実測図(3)



第385図 4区遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (6.0)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部に隆帯による渦巻き文を施し、RLの単節縄文を地文としている。	砂粒・長石・小礫 にぶい赤褐色 普通	T P 40511 P L 241 縄文時代中期後葉 加曾利E II式
2	深鉢形土器 縄文土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部は内彎する。RLの単節縄文を地文とし、隆帯で文様を描写している。	砂粒・長石・小礫 にぶい赤褐色、普通	T P 40510 P L 241 縄文時代中期後葉、加曾利E II式
3	深鉢形土器 縄文土器	B (5.4)	胴部片。RLの単節縄文を地文とし、磨消懸垂文が描かれている。	砂粒・長石・小礫 にぶい橙色、普通	T P 40508 縄文時代中期後葉、加曾利E II式
4	深鉢形土器 縄文土器	B (4.3)	胴部片。RLの単節縄文を地文とし、磨消懸垂文が描かれている。	砂粒・長石・小礫 にぶい褐色、普通	T P 40509 縄文時代中期後葉、加曾利E II式

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 5	坏 須恵器	A [12.2] B (4.1)	外周部から口縁部の破片。外周部は丸味を帯び、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾して開く。	口縁部及び外周部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P 40633 10% P L 240
6	高坏 土師器	A 13.6 B 8.5 D 10.6	脚部から口縁部の破片。脚部はラッパ状に開き、裾部に至る。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り、内面縦位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P 40628 60% P L 240
7	壺 土師器	B (4.2)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は強く屈曲し、直立して口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面ナデ。頸部下位に櫛歯状工具による刺突文が施された紐状の隆帯貼り付け。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい橙色、普通	P 40261 5%
8	甕 土師器	B (1.7) C [5.9]	底部片。平底。	底部内面ハケ目調整。	砂粒・雲母 にぶい橙色、普通	T P 40507 5%
9	坏 須恵器	A 13.1 B 4.3 C 7.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり口縁部に至る。端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 40631 60% P L 240
10	坏 須恵器	A [9.6] B 2.9 C 6.4	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 40638 10%
第383図 11	坏 須恵器	B (2.7) C [7.8]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 40263 10% 内面漆付着
12	坏 須恵器	B (1.6) C [7.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色、普通	P 40264 10% 内面漆付着

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第383図 13	皿 土師器	A 11.7	高台部一部欠損。高台は高く、ハの字状に開く。体部は外方向に開き、立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P 40627 90% P L 240
		B 3.3				
		D 7.5				
		E 2.4				
14	皿 土師器	A 9.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転系切り。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	P 40626 70% P L 240
		B 2.6				
		C 6.0				
15	蓋 須恵器	A 5.4	口縁部一部欠損。天井部は丸みを帯び、中央部をくぼませたボタン状のつまみが付く。口縁部内面には大きなかえりが付く。	天井部から口縁部にかけて外面へラ削り後、つまみ取り付け。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 40634 80% P L 240
		B 2.2				
		F 1.8				
		G 0.5				
16	高坏 須恵器	B (6.0)	脚部片。脚部はラッパ状に開き、裾部は屈曲して下方へ垂下する。中に長方形の透かし孔を穿つ。	脚部内・外面ロクロナデ。透かし孔はへら切り。	砂粒・長石 灰白色 普通	P 40632 20% P L 240
		D 13.2				
17	壺 須恵器	B (4.2)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は若干外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部へらナデ。	砂粒・長石・石英 黄灰色、普通	P 40265 5% 壺G類
		C [5.8]				
18	甕 土師器	A 11.2	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は球形を呈し、頸部で屈曲する。口縁部は外反気味に開く。端部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位横位のへら削り。内面輪積み痕を残すへらナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色 普通	P 40629 95% P L 240
		B 11.0				
		C 8.0				
19	甕 土師器	A 11.0	体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部でくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら磨き。内面へらナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 40630 90% P L 240
		B 10.0				
		C 6.2				
20	甕 須恵器	A 18.8	体部上位から口縁部の破片。体部は内傾・内彎して立ち上がり、頸部で屈曲し口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 40635 20% P L 240
		B (9.6)				
21	瓶 陶器	B (2.4)	底部から体部下端の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	軟質 釉：灰白色 胎土：にぶい黄褐色 普通	P 40636 10% P L 241 底部外面墨書「戒カ」
		C 9.0				

図版番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第383図 22	土 偶	(8.1)	(3.0)	5.2	(79.7)	頭部・腕部の一部及び体部下欠損。顔は円形を呈し、中央が深くくぼむ。目・鼻・口の表現はない。腹面・背面ともに無文で、ていねいに磨かれている。	D P 40014 50% P L 241
23	泥面子	2.6	2.2	0.8	3.6	面形。おかめ。橙色。	D P 40509 P L 241

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第384図 24	碗形滓	(8.8)	(10.9)	(4.7)	(337)	鉄	側面に破面1か所。底面は緩やかにカーブし上面は中央部付近がややくぼむ。	M40508
25	煙管	(3.7)	0.9	1.0	(2.7)	銅	雁首。火皿部欠損。	M40509
26	煙管	(3.8)	1.1	1.1	(7.7)	銅	雁首。火皿部欠損。	M40510
27	鉈尾	4.0	(2.1)	0.5	(3.8)	銅	一端を欠損。端部3か所に表裏貫通する径約2mmの鉈が接合されている。	M40511 P L 241
28	耳環	1.8	1.8	0.6	4.4	青銅	環状。銅芯に鍍銀を施し、開き部を設けている。	M40512 P L 241

図版番号	器種	計測値							材質	特徴	備考
		全長 (cm)	鎌身長 (cm)	鎌身幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第384図 29	鎌	(6.4)	5.4	(4.0)	(1.0)	0.5	0.2~0.3	(11.6)	鉄	雁股鎌。刃部のV字状のえぐり・開きともにやや浅い。	M40513 P L 241

図版番号	銭名	計測値			特徴	備考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ (g)		
第384図30	至道元寶	2.4	0.6×0.6	2.3	円体方孔。初鑄995年。	M40028 P L 241

図版番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第384図31	ナイフ形石器	3.8	1.4	0.5	2.12	瑪瑙カ	両縁調整。	Q 40511 P L 241
32	鎌	(2.8)	2.3	0.4	(1.72)	チャート	凹基無形式石鎌。えぐりが比較的深い。	Q 40512 P L 241
33	鎌	(2.4)	2.1	0.4	(1.78)	黒曜石	凹基無形式石鎌。脚部が丸くハート形。	Q 40513 P L 241
34	鎌	1.8	1.6	0.3	0.64	黒曜石	平基無形式石鎌。先端が小さくびれ、側縁が鋸歯状。	Q 40514 P L 241
35	石斧	(8.9)	(4.5)	(1.7)	(76.0)	安山岩	両縁部押圧剥離。	Q 40508 P L 241
第385図36	磨石	12.8	7.7	6.5	903.0	チャート	中央部に径約2cm平面円形の凹部2か所有り。	Q 40509 P L 241
第384図37	磨石	(10.3)	7.3	6.5	(643.0)	安山岩	下半部欠損。先端部に磨痕有り。	Q 40501 P L 241
第385図38	磨石	10.4	6.8	3.8	366.5	安山岩	両端部に使用痕有り。	Q 40011 P L 241
39	浮子カ	11.0	9.1	6.0	69.7	軽石	表面全体が摩耗している。	Q 40010

図版番号	器種	計測値				材質	色調	特徴	備考
		全長 (cm)	背幅 (cm)	刃幅 (cm)	重さ (g)				
第384図40	白玉	1.6	0.6	0.25	1.56	滑石	灰色	片面に2本の刻線有り。全体的に粗い調整。	Q 40515 P L 241
41	白玉	1.4	0.3	0.4	0.86	滑石	灰色	中央部に穿たれてる円孔に向けて1本の刻線有り。	Q 40516 P L 241
42	白玉	1.4	0.2	0.3	0.53	滑石	灰色	片面が平滑に研磨されている。	Q 40517 P L 241
43	白玉	1.4	0.2	0.3	0.47	滑石	灰色	片面が平滑に研磨されている。	Q 40518 P L 241



3 5区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

① 古墳時代

第748号住居跡 (第386・387図)

位置 調査5区の北東部、H13i2区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も北部は平成9年度、南部は平成11年度と、両年度にわたった。

重複関係 南東部で第1459号住居跡を掘り込み、南部を第1408・1409号土坑に、東部から中央部を第91号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 北部は平成9年度に調査され、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に記載されている。全体的な規模は、長軸6.60m、短軸6.30mで、平面形は方形である。

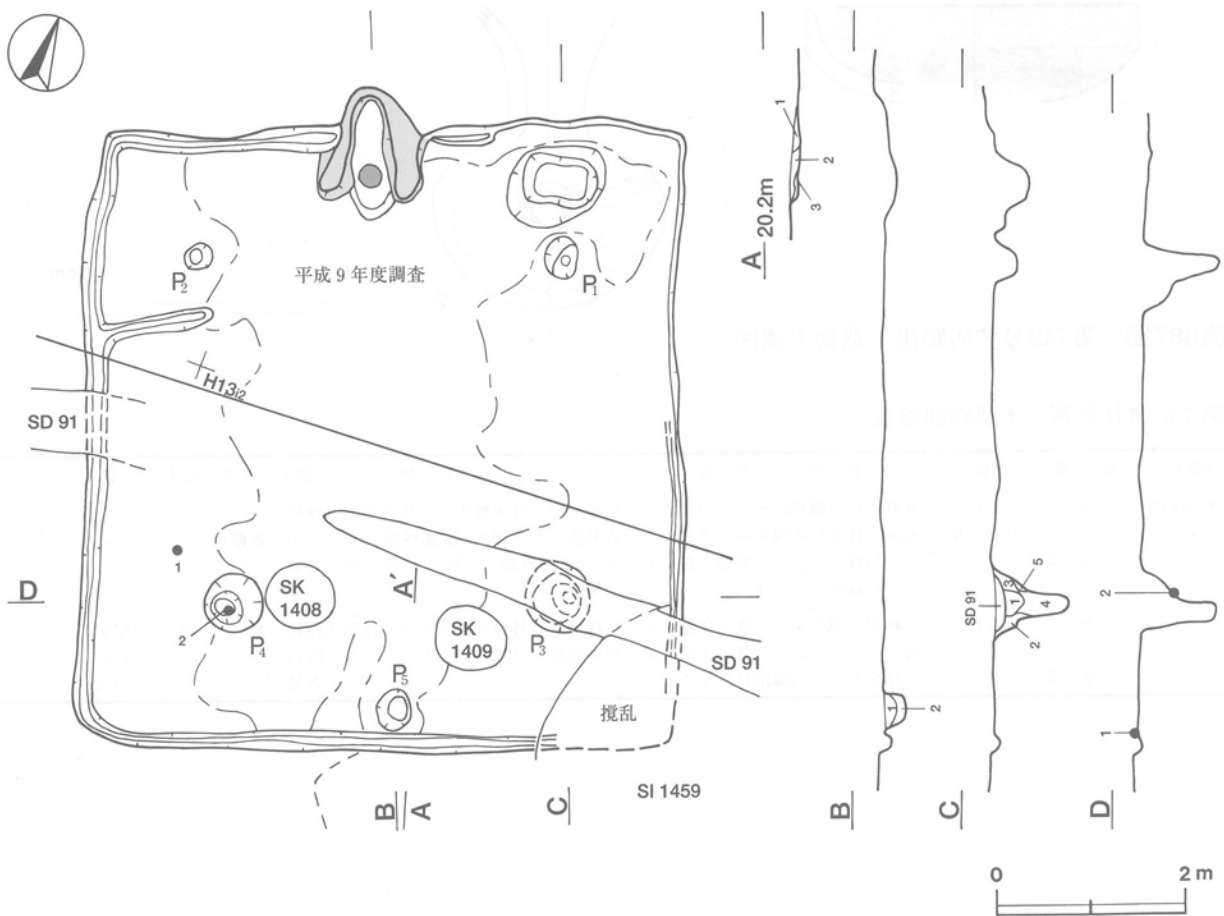
主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は6~8cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東部以外は壁下を巡っている。規模は上幅13~22cm、下幅3~10cm、深さ4~8cmで、断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部から南部にかけてよく踏み固められている。

ピット 3か所 (P3~P5)。P1・P2は平成9年度の調査で検出されており、平成11年度の調査ではP3~P5が検出されている。南東・南西コーナーからやや中央部寄りに位置するP3・P4は上端径68cm、62



第386図 第748号住居跡実測図

cmのほぼ円形、下端径約34cm、24cmのほぼ円形で、深さはそれぞれ80cm、78cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP 5は上端径36cm、下端径20cmのほぼ円形で深さ25cmである。位置的に出入口施設に伴うピットと考えられる。

P 3土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P 5土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

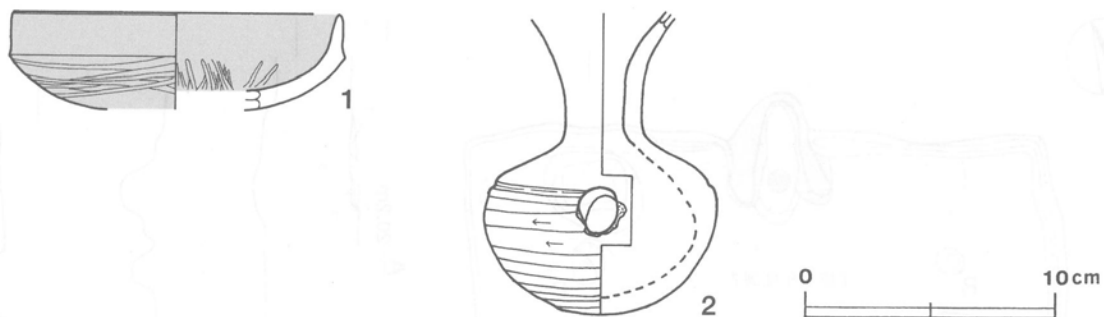
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片28点、須恵器片3点、陶器片1点が出土している。第387図1の土師器坏は、南西部P 4からやや北西寄りの床面から出土している。2の須恵器甗は、P 4の柱抜き取り痕底面から斜位で出土している。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に記載されているとおり、6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第387図 第748号住居跡出土遺物実測図

第748号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第387図 1	坏 土師器	A [13.0] B (3.9)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒にぶい黄橙色 普通	P5301 15%
2	甗 須恵器	B (12.0)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部上位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P5302 95% P L 242

第1451号住居跡 (第388・389図)

位置 調査5区の北東部, H13j3区。

重複関係 北西部で第1459号住居跡を掘り込んでいる。南部を第1402号土坑に, 東部を第1403号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 東西両壁が攪乱を受けているため, 壁の立ち上がりは確認できず, 規模と平面形は, 床質から南北軸5.50m, 東西軸5.30mの方形と推定された。

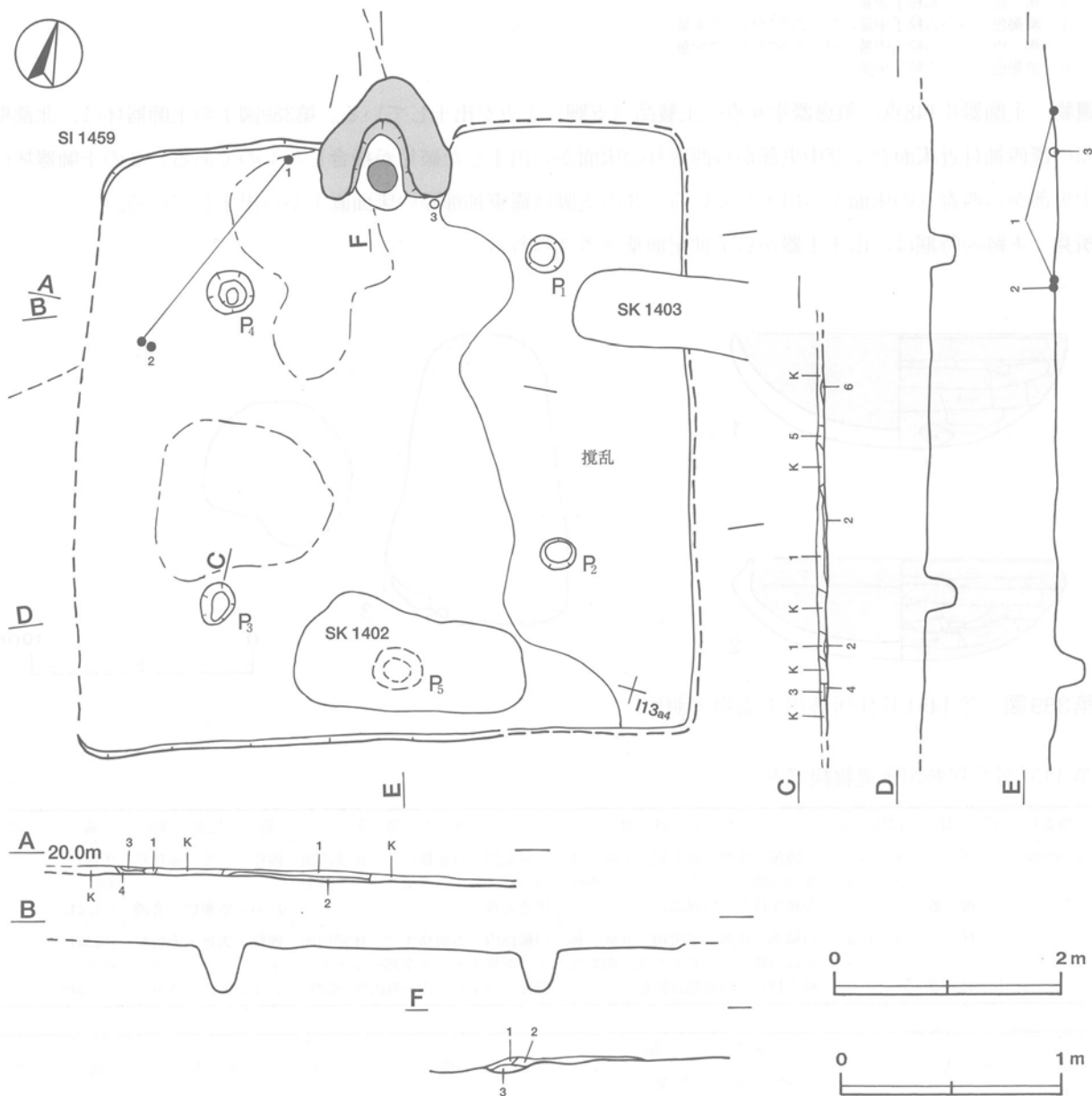
主軸方向 南北軸を主軸とみなし $N-18^{\circ}-W$ と推定した。

壁 確認できた壁高は4~8cmで外傾して立ち上がる。

壁溝 壁溝は確認できなかった。

床 ほぼ平坦である。竈西袖部付近とP3の北部が踏み固められている。

竈 北壁中央を壁外に35cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで115cm,



第388図 第1451号住居跡実測図

両袖部幅約115cmである。火床部は床面よりわずかに高く、焼土小ブロック・焼土粒子が約8cm堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子少量

ピット 5か所 (P1~P5)。各コーナー部からやや中央部寄りに位置するP1~P4は上端径30~40cm, 下端径約10~25cmのほぼ円形で、深さ26~44cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端径47cmで、下端径24cmのほぼ円形で深さ24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム少ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片148点, 須恵器片6点, 土製品(支脚)1点が出土している。第389図1の土師器坏は、北部壁際の竈西袖付近床面および中央部から西寄りの床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は中央部から西寄りの床面から出土している。3の支脚は竈東袖部際の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第389図 第1451号住居跡出土遺物実測図

第1451号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	坏 土師器	A 14.8	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P5303 90% P L 242
		B 5.0				
2	坏 土師器	A 13.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、明瞭な稜を持ち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半部横ナデ、下半部ヘラナデ、外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P5304 90% P L 242
		B 4.5				

図版番号	種別	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第389図3	土製支脚	(12.8)	4.5~8.0	(528.0)	下位に指頭押圧による調整。	砂粒・長石・石英、明褐色	D P 5301

第1453号住居跡（第390～393図）

位置 調査5区の北東部，I12b9区。

重複関係 東部で第1458号住居跡を掘り込み，北東部を第1455号住居に，竈袖部付近から南部にかけて第1454号住居に，北西部の壁際を第1404号土坑に掘り込まれている。第1454号住居の掘り込みは，床面まで達していない。また，南部の壁際を第128号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.80m，短軸6.60mの方形である。

主軸方向 N-18° -W

壁 壁高は6～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 第1404号土坑に掘り込まれている北西部以外は巡っている。規模は上幅6～24cm，下幅2～7cm，深さ6～16cmで，断面形はU字形をしている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅約100cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。天井部は崩落しており，砂粒を多量，粘土粒子を中量含む第4層が崩落土と考えられる。火床部は床面から8cmほど掘りくぼめられ，焼土ブロックや焼土粒子，灰が約7cmの厚さで堆積している。煙道は火床面からほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・砂粒中量，焼土大ブロック・焼土小ブロック少量，粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，砂粒中量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土粒子少量
- 4 褐色 砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 砂粒多量，焼土中ブロック・焼土粒子・灰中量，粘土粒子少量
- 6 にぶい橙色 灰多量，焼土粒子・砂粒中量，粘土粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 8 暗赤褐色 砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 9 褐色 砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子少量
- 10 にぶい赤褐色 砂粒多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 11 暗赤褐色 砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・灰少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 13 灰褐色 焼土大ブロック・砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量・焼土粒子微量
- 14 にぶい褐色 砂粒多量，焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 15 暗褐色 砂粒中量，焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
- 16 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 17 暗赤褐色 焼土粒子多量，砂粒中量，ローム小ブロック微量
- 18 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量

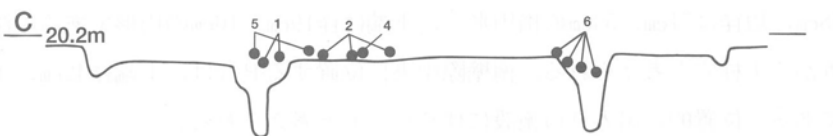
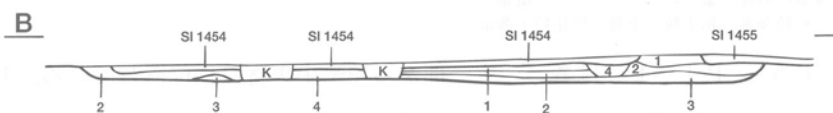
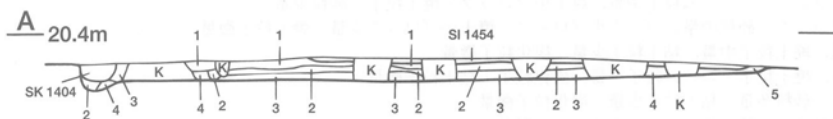
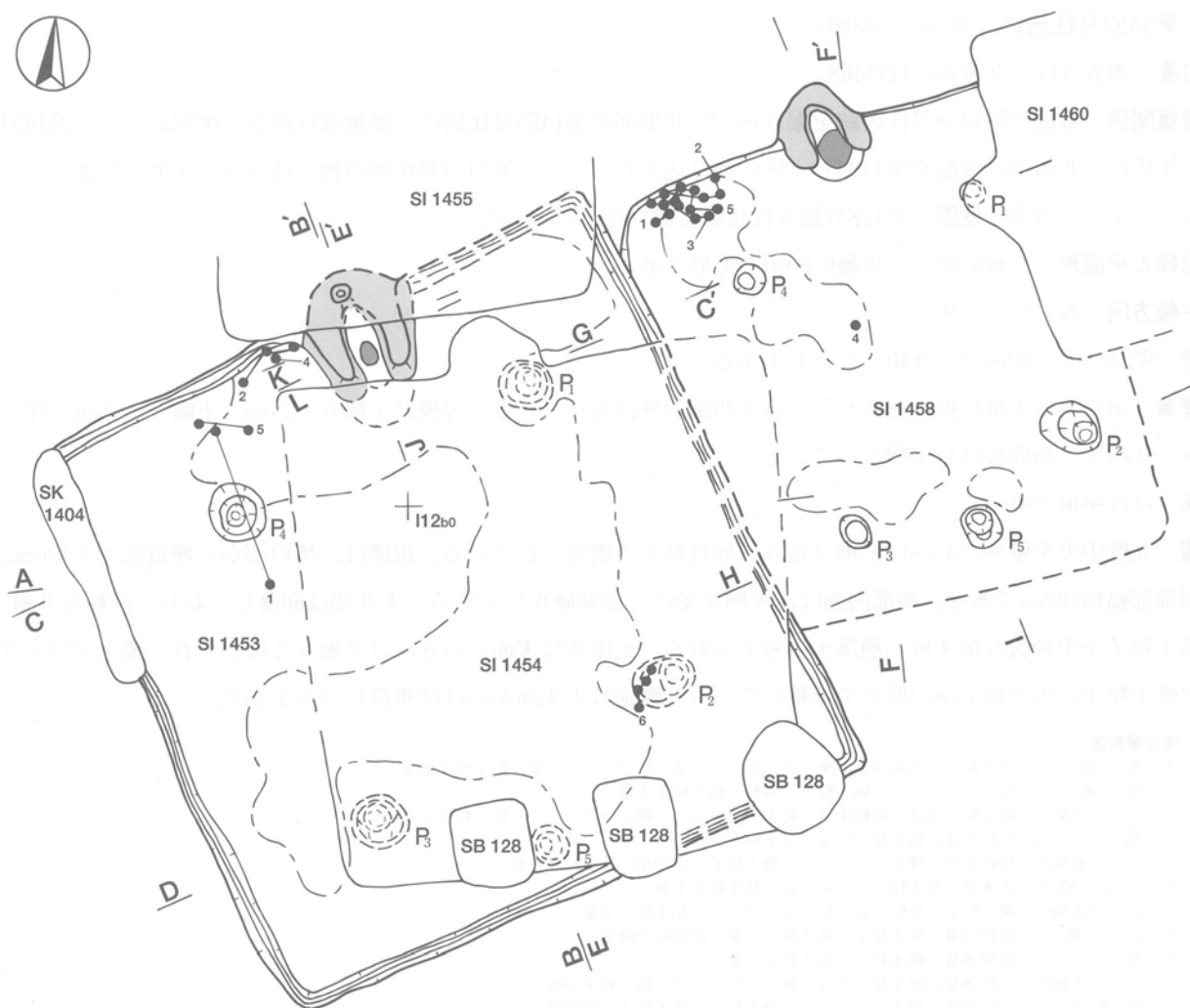
ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー部からやや中央寄りに位置している。P1・P3の上端はそれぞれ径55cm，57cm，下端は径14cm，17cmのほぼ円形で，深さ79cm，82cmである。P2・P4の上端は長径それぞれ65cm，68cm，短径は51cm，53cmの楕円形で，下端は径19cm，10cmの円形である。深さは90cm，79cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は，上端径42cm，下端径15cmのほぼ円形で，深さ46cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

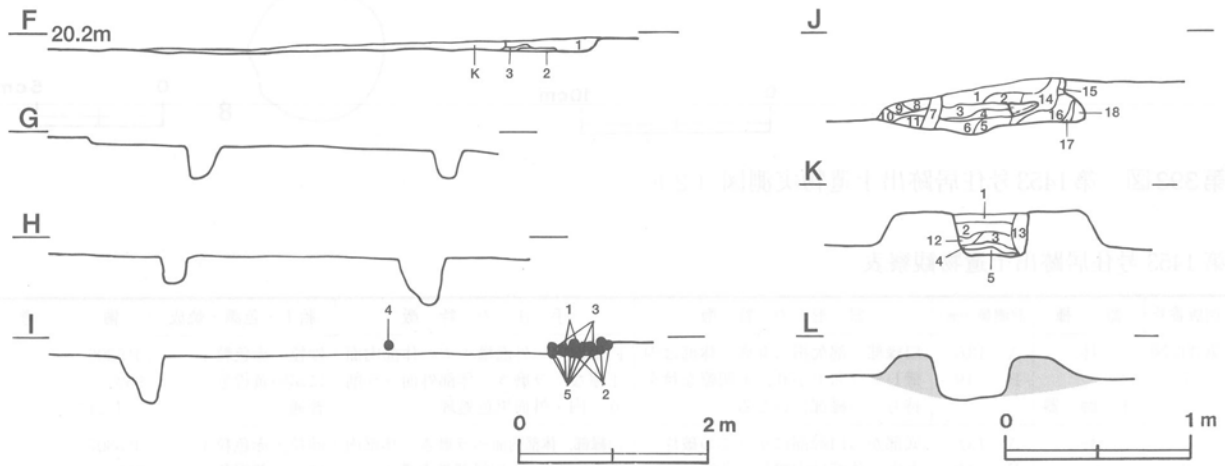
遺物 土師器片389点，須恵器片15点，土製品（支脚片）5点，鉄滓1点，陶器片3点が出土している。第392図1の土師器坏は，中央部からやや西寄りの床面と北部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は，北壁際の竈西袖寄りの床面および覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の土



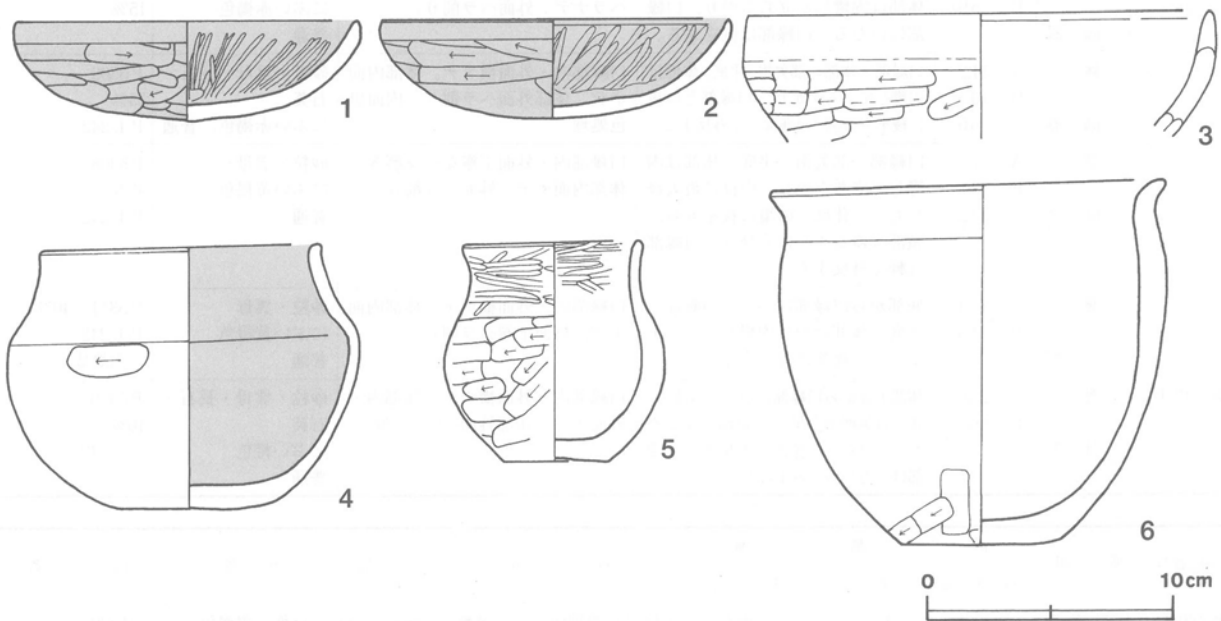
第390图 第1453·1458号住居跡実测图(1)

師器坏は北部の覆土中から出土している。4の土師器鉢は、北部の覆土中層および下層と南部の覆土中から出土した破片が接合したものである。5の土師器甕は、北壁際の竈西袖部寄りの覆土下層から出土している。6の土師器甕は、南部の床面および覆土中から出土した破片が接合したものである。第393図7の土師器甕は、南東部の覆土中層および下層、南部の覆土中やP2の覆土上層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。8の支脚片は、竈内から横位で出土している。鉄滓と陶器片は、攪乱により混入したものと考えられる。

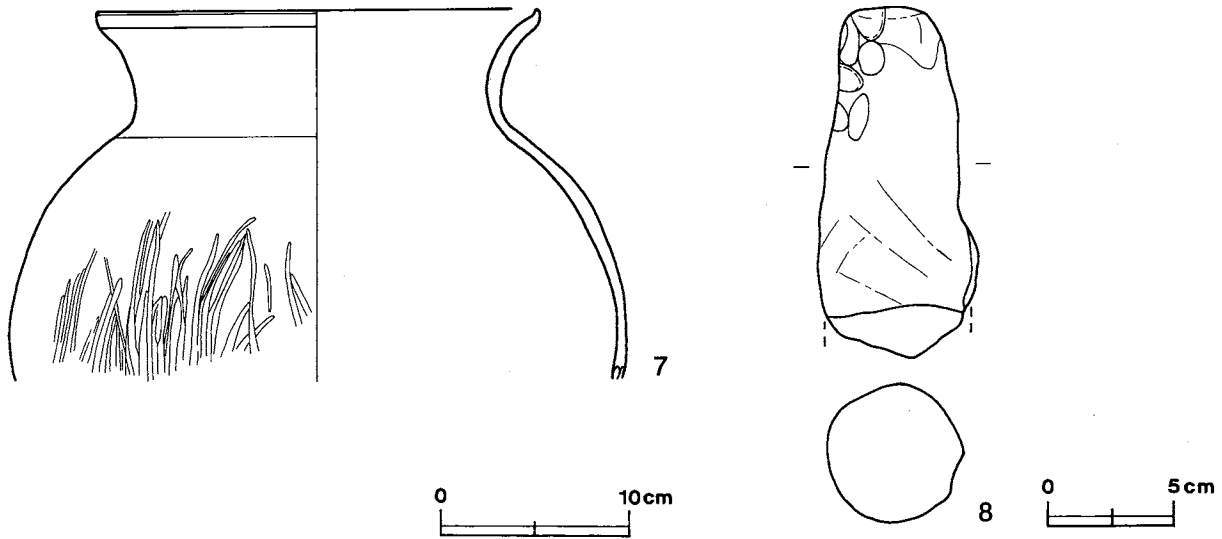
所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第391図 第1453・1458号住居跡実測図(2)



第392図 第1453号住居跡出土遺物実測図(1)



第393図 第1453号住居跡出土遺物実測図(2)

第1453号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第392図 1	坏 土師器	A 13.6 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P 5306 95% P L 242
2	坏 土師器	A [13.8] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内面ヘラ磨き。体部内面下位横ナデ。口縁部外面横ナデ。外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子にぶい黄橙色普通	P 5307 85% P L 242
3	坏 土師器	A [18.4] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・にぶい赤褐色普通	P 5312 15%
4	鉢 土師器	A 11.2 B 10.5 C 6.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい赤褐色、普通	P 5309 85% P L 242
5	甕 土師器	A 7.0 B 8.8 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。体部との境に稜をもち、頸部はゆるやかにくびれ、口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面丁寧なヘラ磨き。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	砂粒・雲母にぶい黄褐色普通	P 5308 95% P L 242
6	甕 土師器	A [15.4] B 14.5 C 6.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はやや内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面下端ヘラ削り。	砂粒・雲母にぶい黄褐色普通	P 5311 40% P L 242 二次焼成
第393図 7	甕 土師器	A [23.0] B (19.1)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は倒卵形を呈し、頸部はゆるやかにくびれ、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面中位ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい橙色普通	P 5310 10% P L 242

図版番号	種別	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第393図8	土製支脚	(13.9)	4.2~6.4	(468.0)	上位に指頭押圧による調整。	砂粒・長石・石英、明褐色	D P 5302

第1454号住居跡 (第394図)

位置 調査5区の北東部, I12b0区。

重複関係 北西部で第1453号住居跡を, 北東部で第1458号住居跡を掘り込み, 南部壁際で第128号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.35m, 短軸5.00mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 北部の一部および南部で確認できた。壁高は5cmで, 外傾して立ち上がる。

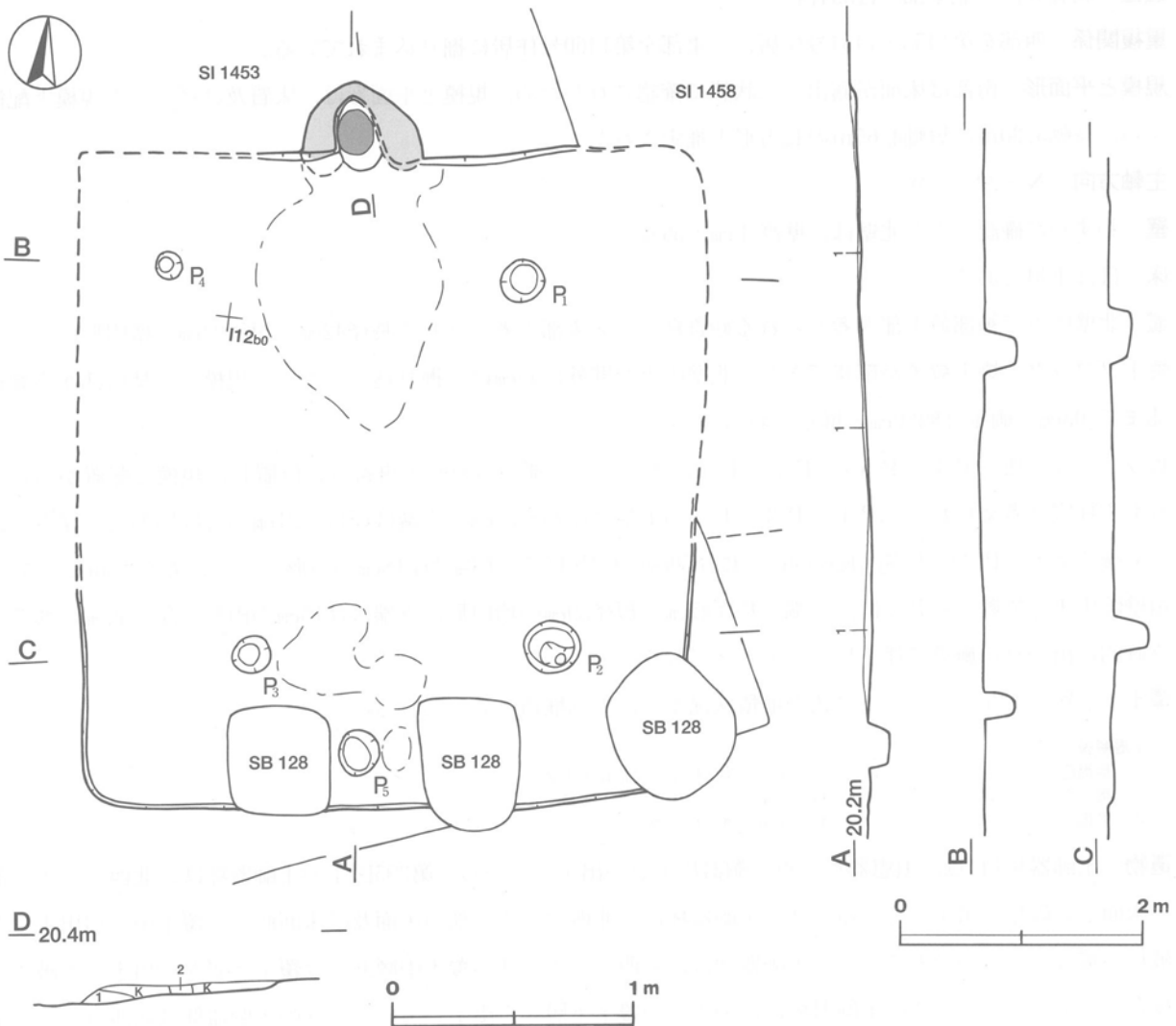
壁溝 確認できなかった。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に60cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。覆土が薄いことや耕作による攪乱のため遺存状態は良くない。規模は, 焚口部から煙道部までは残っている部分で75cm, 両袖部幅95cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さである。覆土の第1層は, 焼土粒子を多量に含み下部が赤変していることから, 下部が火床面の一部と考えられる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量



第394図 第1454号住居跡実測図

ピット 5か所（P1～P5）。各コーナ一部からやや中央寄りに位置するP1～P4は、上端径20～45cm、下端径11～36cmのほぼ円形で、深さ12～29cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端が径32cmのほぼ円形、下端が長径30cm、短径20cmの楕円形である。深さは15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 単一層である。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片83点、須恵器片3点、陶器片1点が出土している。覆土中から出土した土師器片は、大部分が甕の体部細片である。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は、覆土が薄いことや重複のために時期を判断できる土器が出土していないが、6世紀後葉に位置づけられる第1458号住居跡や6世紀後葉から7世紀前葉に位置づけられる第1453号住居跡を掘り込み、9世紀後半と考えられる第128号掘立柱建物に掘り込まれていることから、7世紀前葉以降から9世紀後半以前の住居跡と考えられる。

第1458号住居跡（第390・391・395図）

位置 調査5区の北東部、I13a1区。

重複関係 西部を第1453・1454号住居に、東部を第1460号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 南部は床面が露出した状態で確認されたため、規模と平面形は、床質及びピットの規模と配置から、長軸5.30m、短軸4.65mの長方形と推定された。

主軸方向 N-23°-W

壁 わずかに確認できた北壁は、壁高4cmである。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央で袖部最下部と考えられる砂質粘土と火床部と考えられる長径42cm、短径33cmの楕円形に広がる焼土ブロックと焼土粒子が確認できた。北壁中央を壁外に45cmほど掘り込んでおり、規模は、焚口部から煙道部まで108cm、両袖部幅90cmと推定される。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナ一部からやや中央寄りに位置し、規模と配置からいずれも支柱穴と考えられる。P1・P3・P4の上端は径25～33cm、下端は径17～21cmのほぼ円形で、深さは28～37cmである。P2の上端は長径64cm、短径50cmの楕円形で、下端は径18cmの円形である。深さは50cmである。南壁際中央に位置するP5は、上端が長径47cm、短径39cmの楕円形、下端は径13cmの円形で深さ52cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

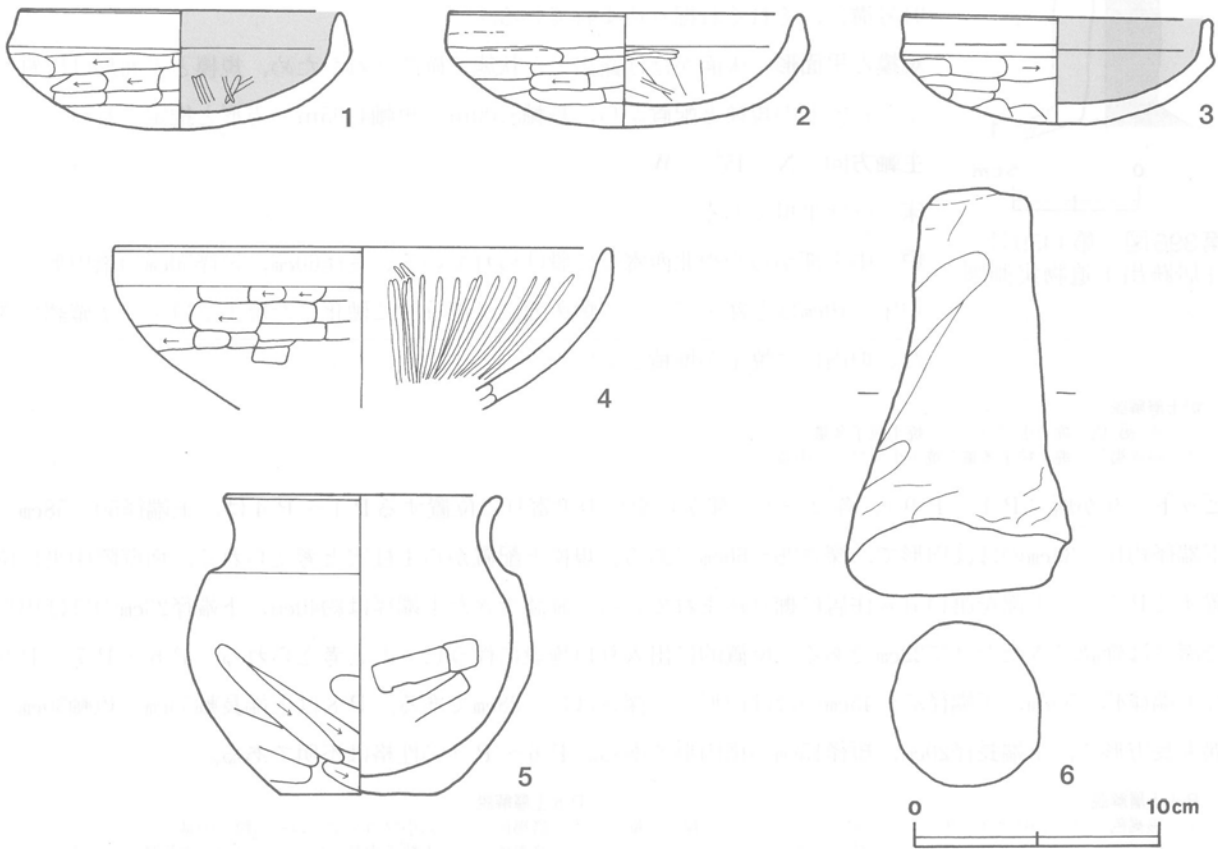
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片144点、須恵器片4点、陶器片1点が出土している。第395図1の土師器坏は、北西コーナ一部の床面から破片で出土している。2の土師器坏は、北西コーナ一部の床面及び床面直上と覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器坏は、北西コーナ一部の覆土中層および覆土下層から出土した破片が接合したものである。4の土師器坏は、中央部の覆土下層から出土している。5の土師器鉢は北西コーナ一部の床面から出土している。6の土製支脚は北西コーナ一部の覆土中から出土している。陶器片は攪乱により混

入したものと考えられる。

所見 本跡からは、壁溝は確認できなかった。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



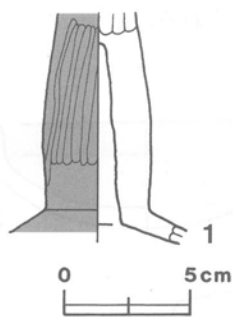
第395図 第1458号住居跡出土遺物実測図

第1458号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.7	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にぶい黄橙色 普通	P 5313 80% P L 242
2	坏 土師器	A 14.0 B 4.5	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、上位ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母、にぶい橙色 普通	P 5314 60% P L 242
3	坏 土師器	A 12.4 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・白色粒子 灰黄褐色 普通	P 5315 60% P L 242
4	坏 土師器	A [19.8] B (6.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面縦位のヘラ磨き、外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P 5316 15%
5	鉢 土師器	A [11.1] B 12.9 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 5317 45% P L 242

図版番号	器種	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第395図6	土製支脚	16.2	4.2~8.74	869.0	下位に指頭押圧による調整。	砂粒・長石・石英、明褐色	D P 5303

第1459号住居跡 (第396・397図)



第396図 第1459号住居跡出土遺物実測図

位置 調査5区の北東部, H13j3区。

重複関係 北西部を第748号住居に, 南部を第1451号住居に, 北東コーナー部を第91号溝に, それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 床面がほぼ露出した状態で確認されたため, 規模と平面形は床質およびピットの規模と配置から, 長軸5.00m, 短軸4.95mの方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

床 ほぼ平坦である。

炉 中央部からやや北西寄りに設けられている。長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 炉床は10cmほど窪んでいる。炉床面には部分的に硬化した焼土ブロックが確認できた。炉内には焼土が堆積していた。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量

ピット 9か所 (P1~P9)。各コーナー部からやや中央寄りに位置するP1~P4は, 上端径50~58cm, 下端径約10~38cmのほぼ円形で, 深さ26~66cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は, 上部を第1451号住居に掘り込まれている。確認できた上端径は約40cm, 下端径23cmのほぼ円形で深さは確認できただけで22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7・P9は上端径45~55cm, 下端径35~45cmのほぼ円形で, 深さは15~28cmである。P8は上端長軸55cm, 短軸30cmの隅丸長方形で, 下端長径20cm, 短径15cmの楕円形である。P6~P9の性格は不明である。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

P4土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P6土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

P7土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

P8土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P9土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片54点が出土している。第396図1の土師器高坏の脚部はP4の覆土上層とP3・P4・P9の覆土中から出土した坏部細片が接合したものである。それ以外の土師器片は古墳時代後期の甕細片で攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の壁は, 確認できなかった。時期は, 出土土器から5世紀前半と考えられる。



第397図 第1459号住居跡実測図

第1459号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第396図 1	高土師器	B (9.2)	脚部片。エンタシス状を呈する。	脚部外面縦位のヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒 赤褐色、普通	P 5328 15%

② 奈良・平安時代

第1452号住居跡 (第398・399図)

位置 調査5区の北東部, I13b2区。

規模と平面形 西部が攪乱を受けているため、その部分の壁の立ち上がりは確認できなかった。そのため、規模と平面形は、床質から東西軸3.60m、南北軸3.60mの方形と推定される。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は5~9cmで、外傾して立ち上がる。西部および北西部では確認できなかった。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に55cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。耕作による攪乱のため遺存状態は良くない。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで約85cm、両袖部幅は約110cmである。火床部は床面よりわずかに高く、焼土小ブロック・焼土粒子が約6cmの厚さで堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 3 にぶい暗赤褐色 焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

ピット 5か所 (P1~P5)。各コーナー部からやや中央寄りに位置するP1~P4は上端径22~25cm, 下端径4~7cmのほぼ円形で、深さ20~22cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端径50cm, 下端径17cmのほぼ円形で、深さは31cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

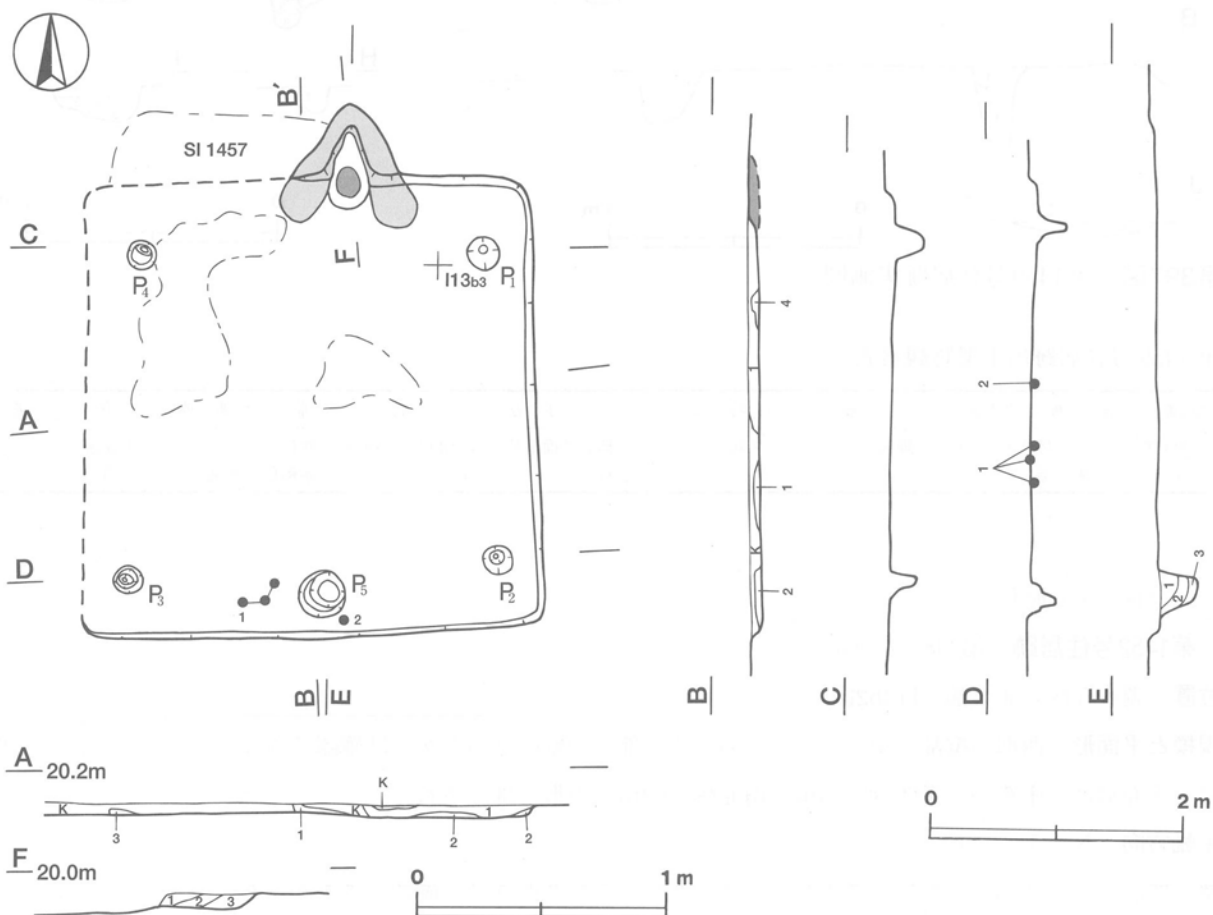
P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

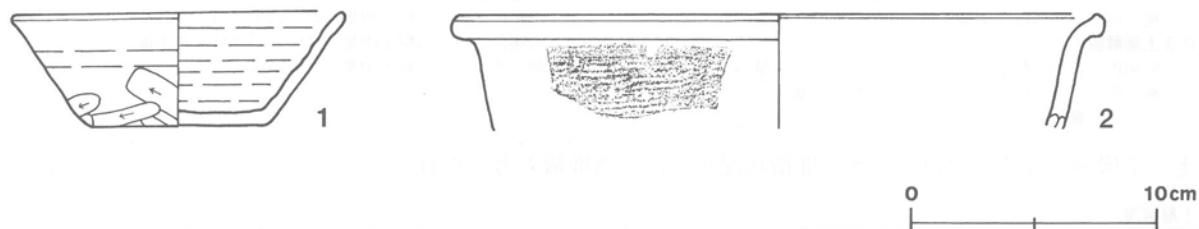
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



第398図 第1452・1457号住居跡実測図

遺物 土師器片130点、須恵器片27点、土製品（支脚）11点、陶器片2点、磁器片1点が出土している。第399図1の須恵器杯は、南部のP5付近の床面および覆土中から出土した破片が接合したものである。2の須恵器鉢口縁部片は、南部の床面から出土している。また、覆土中から出土した支脚片はすべて小片である。陶器片及び磁器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の壁溝は、確認できなかった。時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第399図 第1452号住居跡出土遺物実測図

第1452号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	杯 須恵器	A 13.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部、体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 灰色、普通	P5305 65% P L242
		B 4.5				
		C 7.0				
2	鉢 須恵器	A [25.4]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部、体部外面横ナデ。体部内面ナデ。外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・白色粒子 灰黄色 普通	P5326 5%
		B (4.5)				

第1455号住居跡（第400図）

位置 調査5区の北東部、I12a0区。

重複関係 南部で第1453号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は5~12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部壁下から北部の壁下にかけて一部巡っている。規模は上幅7~15cm、下幅3~5cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に30cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで95cm、両袖部幅93cmである。火床部は床面から8cmほど掘りくぼめられ、焼土小ブロック・焼土粒子が約8cmの厚さで堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量、焼土中ブロック微量
- 3 にぶい赤褐色 灰多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、砂粒微量
- 4 にぶい赤褐色 灰多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量、粘土粒子少量、炭化物・砂粒微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所（P1~P5）。各コーナー部からやや中央寄りに位置するP1~P4は、上端径24~34cm、

下端径20cmのほぼ円形で、深さ19~30cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は、上端の長径47cm、短径40cmで、下端の長径34cm、短径23cmの楕円形で深さ32cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量

P2土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P4土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

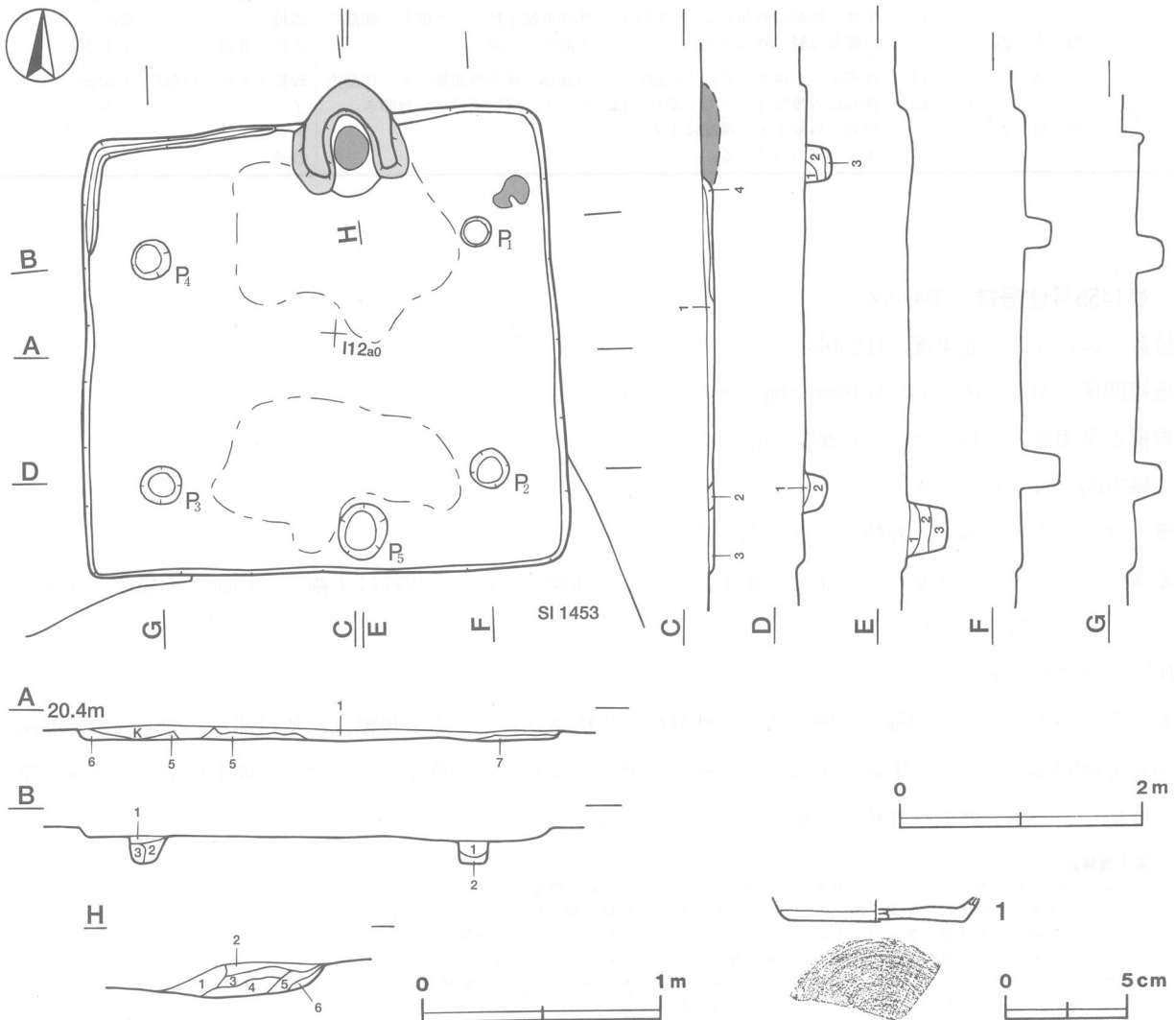
P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



第400図 第1455号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片60点, 須恵器片 3点, 陶器片 3点が出土している。第400図1の須恵器坏は, 北東部の覆土中から出土したものである。覆土中から出土した土師器片は大部分が甕の体部細片である。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器や重複関係から8世紀と考えられる。

第1455号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	坏 須恵器	B (1.0) C [7.2]	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 赤褐色, 普通	P5327 10%

第1460号住居跡 (第401図)

位置 調査5区の北東部, I13a1区。

重複関係 西部で第1458号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-106° -W

壁 壁高は2~7cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南部の壁下及び北東コーナー部の壁下を巡っているのが確認できた。規模は上幅8~17cm, 下幅2~7cm, 深さ約4cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 中央部から南部にかけてよく踏み固められている。

竈 西壁中央を壁外に50cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで105cm, 両袖部幅約110cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 焼土小ブロック・焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・粘土粒子・灰中量, 砂粒少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量
- 3 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 砂粒・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 砂粒・粘土粒子・灰少量
- 5 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量
- 6 灰褐色 砂粒・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 砂粒・粘土粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

ピット 中央部に位置するP1は上端径35cm, 下端径14cmの円形で, 深さ12cmである。性格は不明である。

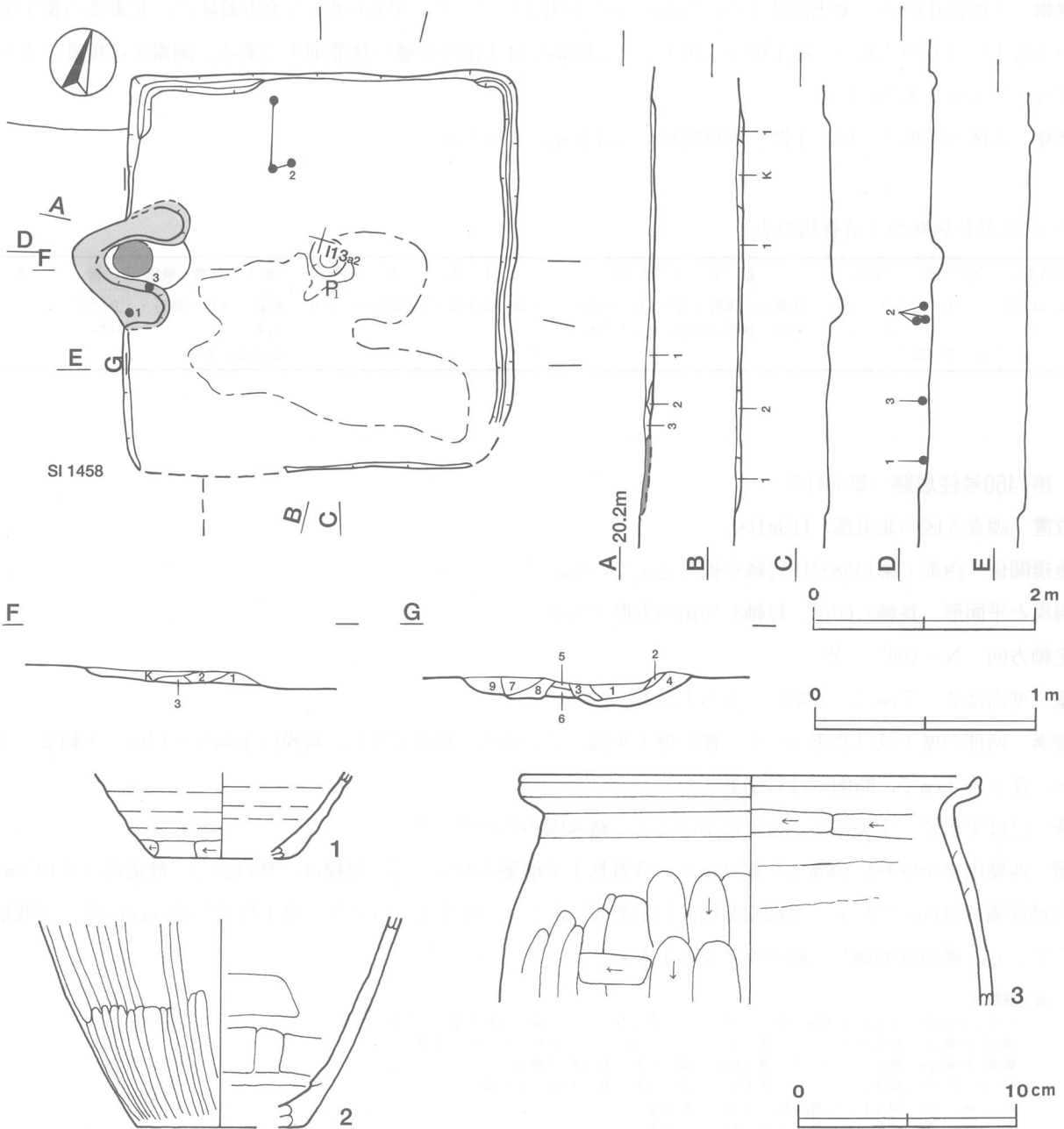
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片112点, 須恵器片 8点, 陶器片 1点が出土している。第401図1の須恵器坏は, 竈南袖部から出土している。2の土師器甕は, 北部の覆土中層や下層と北壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。3の土師器甕は, 竈の南袖部と覆土中から出土した破片が接合したものである。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から, 9世紀前半と考えられる。



第401図 第1460号住居跡・出土遺物実測図

第1460号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	坏 恵器	B (3.9) C [6.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色, 普通	P 5318 5%
2	甕 土師器	B (9.5) C [7.5]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。内面輪積み痕を残す横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい橙色, 普通	P 5320 10% P L 242
3	甕 土師器	A 20.6 B (10.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。体部内面上位輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・ 石英・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 5319 20% P L 242

(2) 掘立柱建物跡

① 奈良・平安時代

第128号掘立柱建物跡 (第402・403図)

位置 調査5区の北東部, I12c0区。

重複関係 第1453・1454号住居跡を掘り込み, 第18号溝にP2・P7が掘り込まれている。

規模 本跡の規模は, 桁行3間, 梁行3間の側柱式の建物跡で, 芯々間の桁行6.5m, 梁行4.9mである。柱間寸法は桁行2.0~2.2m, 梁行1.6mである。柱穴は, 平面形が長軸(径)0.85~1.2m, 短軸(径)0.7~0.9mの隅丸長方形や隅丸方形および楕円形で, 深さ35~60cmである。

桁行方向 N-9°-W

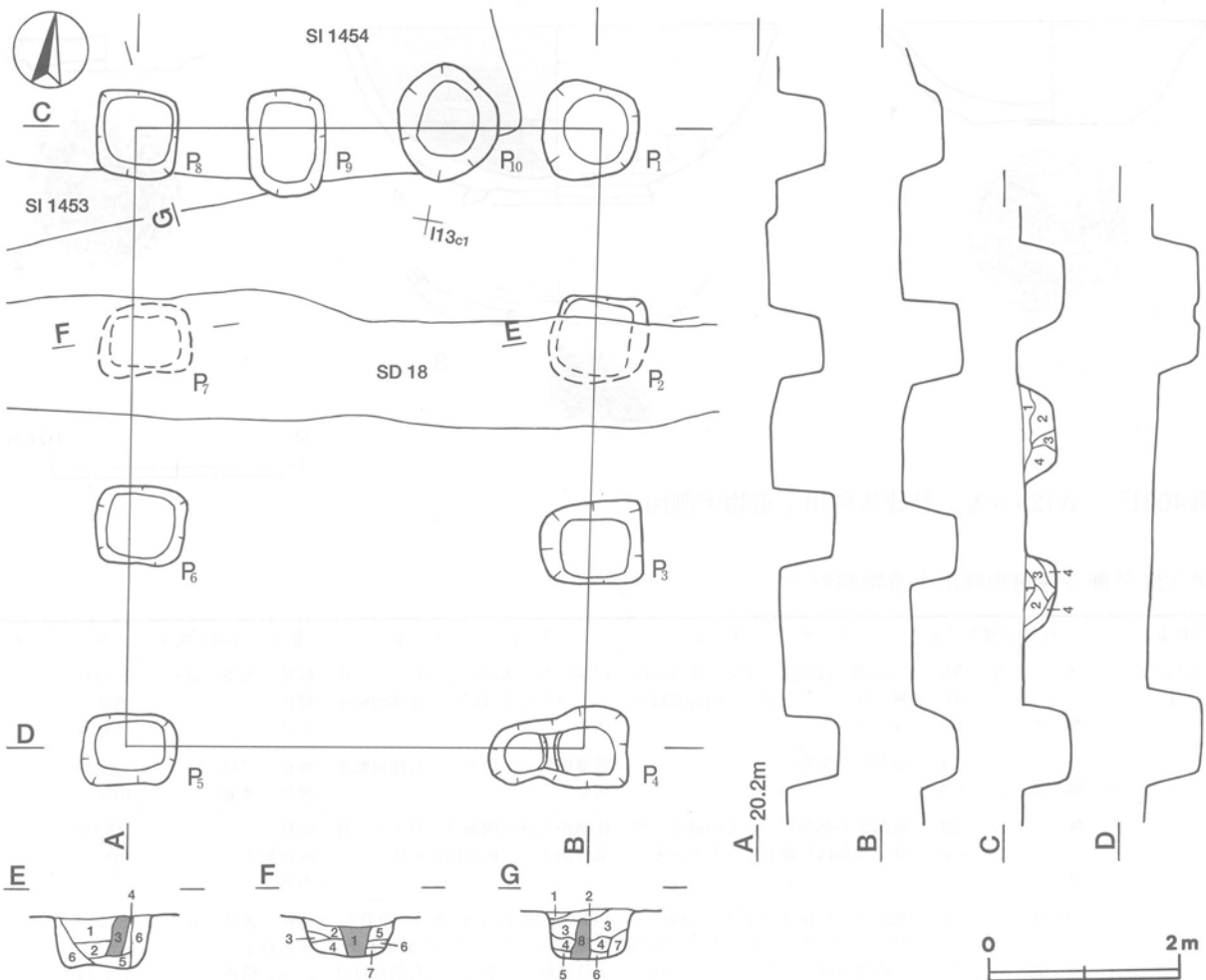
柱穴覆土 土層断面図中, P2の第3層やP7の第1層, P8の第8層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は埋土で, 突き固められている。他の柱穴では柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

P7土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量



第402図 第128号掘立柱建物跡実測図

P 8 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

P 9 土層解説

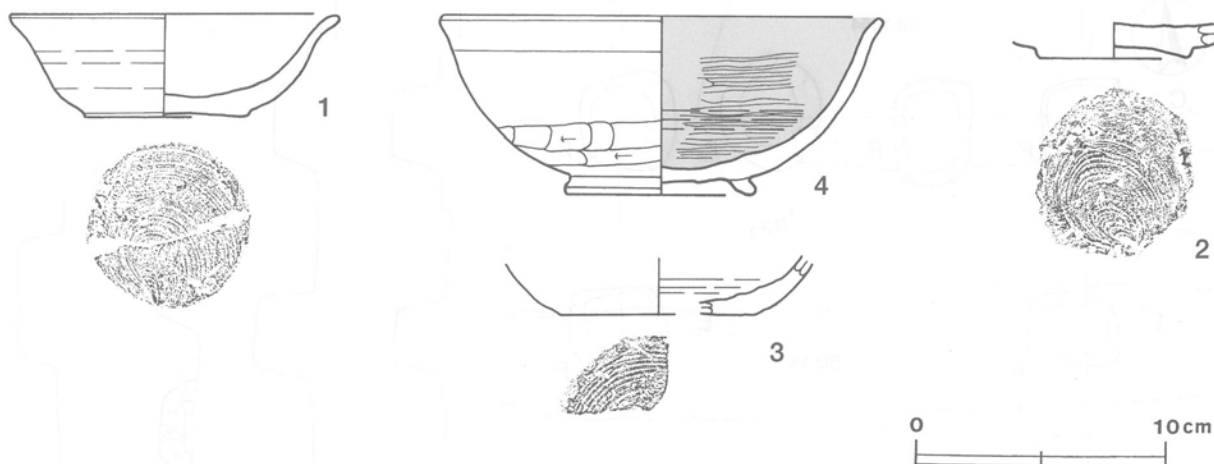
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

P 10 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック中量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 4 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

遺物 土師器片103点, 須恵器片 2 点が P 1・2・7~10の埋土から出土している。P 1 からは土師器片18点, 須恵器片 5 点, P 2 からは土師器片23点, P 7 からは土師器片 7 点, P 8 からは土師器片24点, P 9 からは土師器片14点, P 10からは土師器片22点, 須恵器片 1 点がそれぞれ出土している。第403図1の土師器坏や4の土師器高台付坏は, P 8 の埋土から出土している。2・3の土師器坏はP 8 の埋土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から, 10世紀後半と考えられる。



第403図 第128号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第128号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	土師器 坏	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P 5321 95% P L 242
		B 4.0				
		C 6.5				
2	土師器 坏	B (1.4)	底部片。平底。	底部内面ロクロナデ, 外面回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色, 普通	P 5329 10%
		C 6.0				
3	土師器 坏	B (2.3)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部から底部内面ロクロナデ。体部外面ナデ。底部回転糸切り。	砂粒 灰黄褐色 普通	P 5330 10%
		C [7.8]				
4	土師器 高台付坏	A [17.8]	底部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は軽く外反する。	口縁部, 体部内面丁寧なヘラ磨き。口縁部から体部中位外面横ナデ。下位回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 5322 65% P L 242
		B 6.9				
		D 7.6				
		E 0.7				

(3) 溝

第18号溝 (第404図・第409図)

位置 調査5区の北東部, I12c9~I13b6区。

重複関係 西部のI13c1区で第128号掘立柱建物跡のP 2を, I12c0区でP 7を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは30.2m, 規模は上幅92~144cm, 下幅35~112cm, 深さ5~17cmであり, 断面形は浅いU字形をしている。

方向 I13b6区から西方向 (N-100° -W) に, 直線的に延びている。

覆土 3層からなる。ロームブロックが土層断面図中第3層に多量に含まれているものの, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

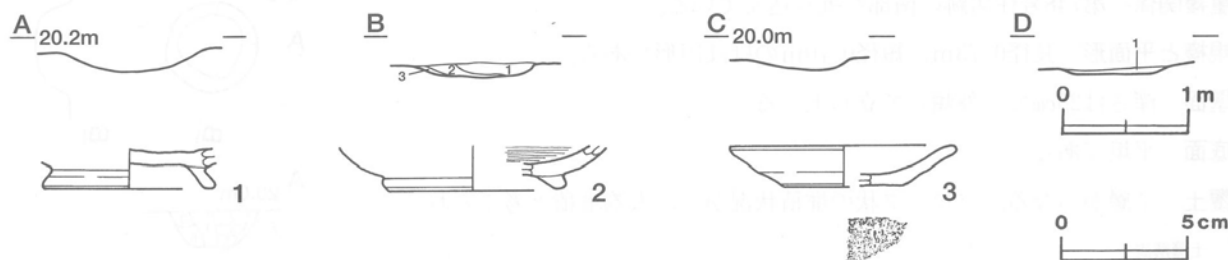
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 土師器片100点, 須恵器片7点が覆土中から出土している。第404図1の土師器高台付坏は中央部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付坏と3の土師器皿は, 東部の覆土中層から出土している。土師器片は大部分が甕の細片である。

所見 本跡の時期は, 10世紀後半と考えられる第128号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや出土遺物から10世紀後半以降と考えられる。比較的浅いことから, 区画溝と考えられる。



第404図 第18号溝・出土遺物実測図

第18号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	高台付坏 土師器	B (1.6) D [6.8] E 0.9	底部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面へら磨き, 外面へら削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色 普通	P5331 10%
2	高台付坏 土師器	B (1.8) D [6.8] E 0.6	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面丁寧なへら磨き, 外面ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通	P5332 5%
3	皿 土師器	A [9.1] B 1.7 C [4.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。口縁部は軽く外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒 橙色 普通	P5333 15%

第91号溝 (第405図・第409図)

位置 調査5区北東部, H12i8~H13i4区。

重複関係 第748号住居跡の東部から中央部を掘り込み, 第1459号住居跡の北東コーナー一部を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは26.6m, 規模は上幅60~166cm, 下幅14~50cm, 深さ9~20cmであり, 断面形はU字形をしている。

方向 H13i4区から西方向 (N-100° -W) に, 直線的に延びている。

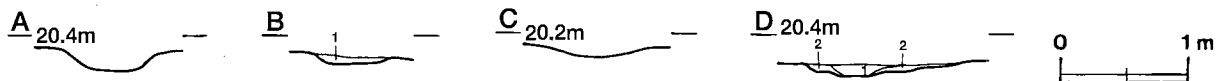
覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片17点, 須恵器片1点, 陶器片1点が覆土中から出土している。出土した土師器片は大部分が甕の体部細片である。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器が細片のため判断できない。重複している第1459号住居跡が5世紀前半, 第748号住居跡が6世紀後葉~7世紀前葉と考えられ, それより新しい。比較的浅いことから, 区画溝と考えられる。



第405図 第91号溝実測図

(4) 土坑

第1408号土坑 (第406図)

位置 調査5区の北東部, H13i2区。

重複関係 第748号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径0.73m, 短径0.70mのほぼ円形である。

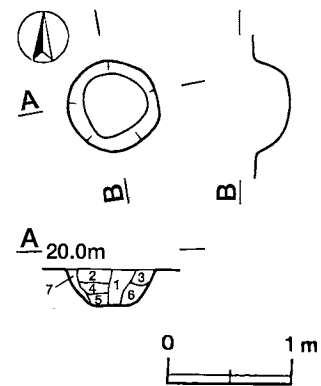
壁面 深さは25cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



第406図 第1408号土坑実測図

遺物 土師器片8点が覆土上層から出土している。出土している土師器片は, 坏の口縁部小片1点と甕の細片7点である。図示はできなかった。

所見 本跡の時期は, 6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる第748号住居跡を掘り込んでいることから, それ以降と考えられる。出土した土師器坏の口縁部小片は6世紀後葉と考えられることから, 第748号住居跡から混入したものと思われる。

第1409号土坑 (第407図)

位置 調査5区の北東部, H13i2区。

重複関係 第748号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径0.73m, 短径0.67mの円形である。

長径方向 N-89°-W

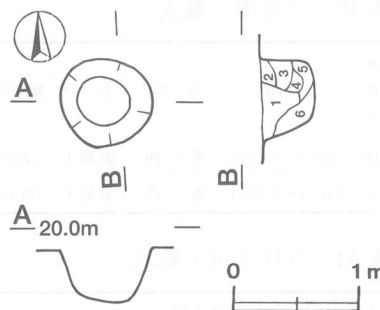
壁面 深さは30~41cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量

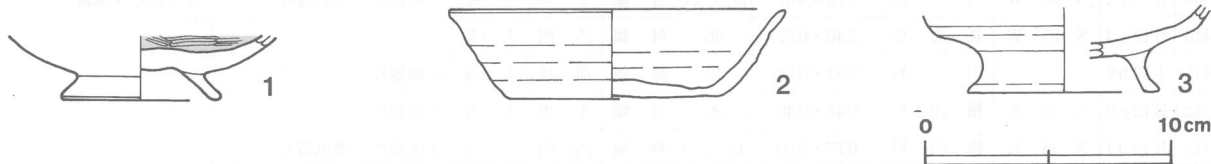


第407図 第1409号土坑実測図

遺物 土師器片13点, 須恵器片1点が覆土中から出土している。土師器片は甕体部の細片であり, いずれの土器も図示はできなかった。

所見 本跡の時期は, 重複している第748号住居跡が6世紀後葉から7世紀前葉と考えられ, それより新しい。性格は不明である。

(5) 遺構外出土遺物



第408図 5区遺構外出土遺物実測図

5区遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付 土師器	B (2.5) D 6.2 E 1.0	高台部から体部下端にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面丁寧なヘラ磨き。外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に多い黄橙色 普通	P 5323 25%
	坏 須恵器	A [13.3] B 3.5 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は軽く外反する。端部は丸く収めている。	口縁部, 体部内・外面口ロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	P 5324 65%
	高台付 須恵器	B (3.4) D [7.6] E 1.7	高台部から体部にかけての破片。高台は底部外周に付けられ, 「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。体部は下に稜を有し, 外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P 5325 15%

表9 5区住居跡一覧表

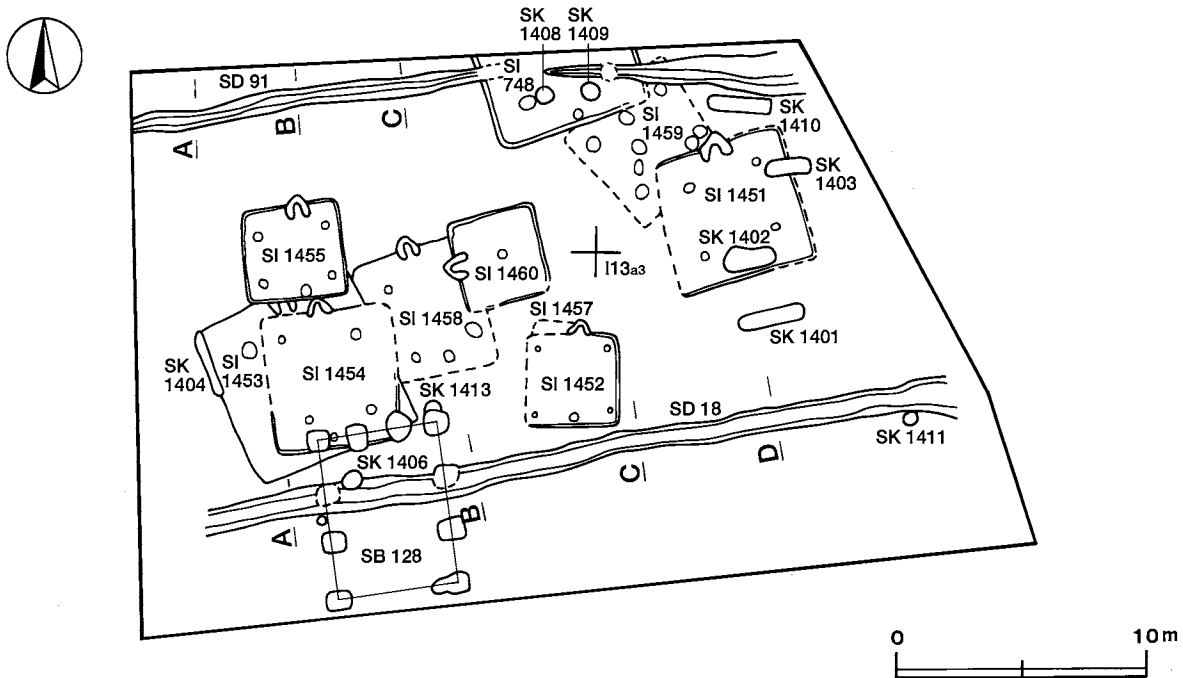
住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
748	H13 i 2	N - 23° - W	方形	6.60 × 6.30	6~8	平坦	一部	-	2	1	竈	1	人為	土師器 (坏), 須恵器 (甕)	S I 1450→本跡→S D91・S K1408・1409
1451	H13 j 4	N - 18° - W	[方形]	5.50 × [5.30]	4~8	平坦	-	-	4	1	竈	-	人為	土師器 (坏), 支脚	S I 1450→本跡→S K1402・1403
1452	I 13 b 2	N - 7° - E	[方形]	3.65 × [3.60]	5~9	平坦	-	-	-	-	竈	-	自然	須恵器 (坏)	S I 1457→本跡
1453	I 12 b 9	N - 18° - W	方形	6.80 × 6.60	6~20	平坦	全周	-	4	1	竈	-	人為	土師器 (坏・甕), 支脚	S I 1454・1455・S K1404・SB128→本跡
1454	I 12 b 0	N - 7° - W	[方形]	5.35 × 5.00	5	平坦	-	-	4	1	竈	-	-	土師器 (甕)	S I 1453→S I 1458→本跡→S B128
1455	I 12 a 9	N - 6° - W	方形	4.00 × 3.80	5~12	平坦	一部	-	4	1	竈	-	人為	土師器 (坏)	本跡→S I 1453
1457	I 13 b 2	-	不明	-	-	平坦	-	-	-	-	炉	-	-	土師器 (坏)	本跡→S I 1452
1458	I 13 a 1	N - 23° - W	[長方形]	[5.30] × [4.65]	0~4	平坦	-	-	4	1	竈	-	人為	土師器 (坏・甕), 支脚	本跡→S I 1453・1454・1460
1459	H13 j 9	N - 45° - W	[方形]	[5.00] × [4.95]	0	平坦	-	4	4	1	炉	-	-	土師器 (高坏)	本跡→S I 748・S I 1451・S D91
1460	I 12 a 0	N - 106° - W	[方形]	3.60 × 3.50	2~7	平坦	一部	1	-	-	竈	-	人為	土師器 (坏・甕), 須恵器 (坏・甕)	S I 1458→本跡

表10 5区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模 (m)				壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係
				確認長	上幅	下幅	深さ (cm)					
18	I12c9~I13b6	東~西	直線上	(30.2)	0.92~1.44	0.35~1.12	5~17	外傾	U	自然	土師器(高台付坏・皿)	S B128・S K1406→本跡
91	H12i8~H13i4	東~西	直線上	(26.6)	0.60~1.66	0.14~0.50	9~20	緩斜	U	自然	土師器片, 陶器片	S I748・1459→本跡

表11 5区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長径(軸) 短径(軸) (m)	深さ (cm)					
1401	I13a4	N-78°-E	長楕円形	2.67×0.71	9	外傾緩斜	平坦	-	土師器片, 陶器片	
1402	I13a4	N-77°-E	長楕円形	2.04×0.76	14	外傾	平坦	-	土師器片	
1403	H13j4	N-84°-E	長楕円形	1.97×0.64	18~23	外傾	凸凹	人為	土師器片, 陶器片	
1404	I12b9	N-21°-W	長方形	2.57×0.30	9	外傾	平坦	-		
1406	I12c0	N-46°-E	楕円形	0.81×0.64	0~15	緩斜	凸凹	人為	土師器片	
1408	H13i2	N-22°-W	円形	0.73×0.70	25	外傾	平坦	人為	土師器片	S I748→本跡
1409	H13i2	N-89°-W	円形	0.73×0.67	30~41	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I748→本跡
1410	H13i4	N-87°-W	長方形	2.46×0.57	26	外傾	凸凹	人為		
1411	I13b6	-	円形	0.54×0.54	10	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1412	H12c0	N-47°-E	楕円形	0.48×0.40	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
1413	H13b1	N-24°-E	楕円形	0.77×0.69	11~33	外傾	凸凹	人為	土師器片, 須恵器片	



第409図 熊の山遺跡5区遺構全体図